

愛知学院大学

教養部紀要

第62巻 第4号

論文

- 堀田 敏 幸：ベケット、夜のねぐら…………… (1)
- 清水 義 和：名古屋のメディア・アーツ…………… (19)
- 青山 健 太：日本におけるサッカー審判員育成システムに関する研究
——関東大学サッカー連盟の学生審判員育成に着目して——…………… (43)
- 北田 豊 治・辻内 智 樹：NCAA Division I におけるバレーボールゲームに関する研究…………… (63)

資料

- 川口 高 風：「禅宗」における仏骨奉迎の記事について(上)…………… (152)
- 川口 高 風：明治期以降曹洞宗人物誌(六)…………… (114)

公開講座記録

- 田中 泰 賢：現代社会に生きる道元禅師（1200年-1253年）の教え…………… (69)

- 研究業績（2014年1月～12月）…………… (153)
- 第62巻総目次…………… (165)

2015

愛知学院大学教養部

ベケット、夜のねぐら

堀 田 敏 幸

一、夜のねぐら

ベケットの『ゴドーを待ちながら』はその中心人物がついに現れないことで、この戯曲に謎をもたらしている。ゴドーとは本当に人間であるのか、救世主キリストであるのか、それとも人間には絶対にその姿を見せない神であるのか。そして、この人物はウラジミールとエストラゴンの二人の浮浪者に、救いをもたらすことが出来るのか。今日、この人物は来なかった。しかし、明日には必ずや来訪する。そう信じる以上、明日の約束を二人の方から放棄することは許されない。ゴドーが二人に救済の道を開くはずの人物であるなら、それを自分たちから裏切るとすれば、反対に罰を受けることになるかもしれない。一体、ゴドーは二人の前に^{しゅつらい}出来するのか。その者はどういう人物なのか。待つことに救済への、そして真実への望みが確かに宿っているのか。

ゴドーの来訪、これが第一の謎とするなら、もう一つの隠された秘密が存在する。それはウラジミールとエストラゴンが同じ浮浪者でありながら、夜のねぐらを別々の場所で取り、しかもエストラゴンはそれを相手に秘密にしようとしている点である。なぜ彼は自分の昨晚泊まった場所を明言できないのか。そもそも、なぜ二人は宿無しの放浪の身でありながら、昼間には一緒に行動を共にしたにも係わらず、夜には別れて過ごそうとするのか。劇が開始されてすぐ、二人がその日再会する。また会えたことを喜び合うのもつかの間、ウラジミールはエストラゴンに「昨夜、寝泊まりした場所を尋ねる。エストラゴンは「堀の中だ¹⁾」と答えるが、その場所を明確にすることには拒否を示す。そして、翌日も同様に二人が出会って、ウラジミールが寝場所を尋ねると、エストラゴンは「聞かないでくれ²⁾」と返事を拒む。なぜエストラ

ラゴンは、相棒であるはずのウラジミールと夜のねぐらを一緒にしないのか。

ウラジミールとエストラゴンが、今日初めて出会った仲ではないことは確かである。彼らは始終行動を共にするようになってから、すでに「五十年」余りになることを語り合っている。その間には、エストラゴンが川への投身自殺を図ったことが二人の話題にのぼる。そのような二人連れと呼んでも良いような親密な仲間であるにも係わらず、彼らは夜のねぐらを別にすることを選ぶ。独り身であれば、浮浪者であればなおのこと、昼だけといわず夜も共同生活をしていた方が、お互いに生活が便利になることは確かであろう。食事の準備をするにも一緒にした方が時間が掛からないはずなのに、それも行わない。もっともどのような食事を取っているかは作中で語られるわけではなく、エストラゴンが空腹感を覚えると、ウラジミールは持ち合わせのニンジンとカブを提供する程度の粗食である。また裕福なポゾーが食べた鶏の骨を地面に捨てたのを見たエストラゴンは、それをもらおうと必死になる。彼らはこのように劇中で語られる限りにおいては、自分で調理した料理を摂取しているようには見受けられない。だから、この二人がことさら食事に関して、共同生活をするには及ばないとも考えられる。

食事の用意をするために、夜まで行動を共にする必要はない。それでは、夜の寝場所はどうか。ウラジミールとエストラゴンは共に浮浪者ながら、夜の宿に関しては二人の好みは相違している。どちらも自分の住居を所有しないことは当然だが、一方は屋根なしの露天で眠るような遣り方では体質に合わない。今日のところはゴドーがやって来ないことを使いの少年から聞かされた二人は、明日まで夜をどうやって過ごすか考えたとき、二人の意見は食い違う。

ウラジミール：あの子は、ゴドーが明日はきっと来るって言っていた。(間) どう思う？

エストラゴン：じゃあ、ここで待つしかない。

ウラジミール：馬鹿なこと言っちゃいけない。夜露をしのがなくちゃ。³⁾

ウラジミールは何の建物もない野原で眠ることを嫌っている。一方、エストラゴンの方は夜露に濡れるような路上の宿泊にも耐えられる。ウラジミールがゴドーの出現を期待する理由の一つとして、彼がやって来たなら、自分たちを彼の家に招待してくれて、食事も満腹になるほど食べ、そして暖かい藁わらの上で寝られることがある。ウラジミールは精神的な救済をゴドーに求める以上に、まず生活上の援助を求めている。別の箇所ではゴドーからの伝言を言い付かってきた少年に向かって、彼は少年がゴドーの家のどこで寝るのか尋ねる。少年が案の定「物置」と答えると、続けて「藁わらの中で？」⁴⁾と念を押す。ウラジミールは屋根のある暖かい場所で、夜の宿を取ることを切望している。

エストラゴンは夜を過ごすのに、夜露に濡れることもいとわない。しかし、もし屋根のある建物の下で夜の睡眠を取ることが可能であるとすれば、彼にこれを拒む理由はないであろう。しかしながら、エストラゴンが一人になって夜を過ごす場所は、彼がウラジミールに告げたように「堀の中」なのである。彼はその日の夜のねぐらを決めるのに、まず最初の条件として風雨をしのげる場所を求めないのであろうか。どうも彼はそのような条件を考慮しないでも、十分にやってゆけるだけの精神力と体力を保持しているらしい。それ以上にエストラゴンにとっては、屋根の下に眠るよりも「堀の中」に睡眠を取る方が、彼の生き方に相応しいと考えているようにも受け取れる。

ウラジミールとエストラゴンは二人とも浮浪者の生活をしている。なぜそのような境遇に陥らなければならなかったのか、作者のベケットは説明を与えようとはしない。不遇となった理由を故意に隠蔽するのは、ベケットの他の作品についても少なからず該当する。ワットはなぜこの二人と同様、浮浪者なのか。そして、ノット氏とは一体どういう理由で隠者の生活を送っているのか。モロイもマロウンも、なぜ松葉杖に頼らないと歩けないほど足が弱っているのか。こうした主人公の陥った不遇の説明を、ベケットは語ろうとしない。彼は逆境の中に置かれた人間の本质を、抽象化して捉えようとしている。『ゴドーを待ちながら』においても、ウラジミールとエストラゴンが浮浪者の生活をしている理由は問わないとしても、五十年も前から仲間として生活している二人の人物が、昼間は偶然にもどこかで出会い、そして夜には別々のねぐらを選ぶ。そのねぐらが屋根付きの場所がいいのか、露天の野原がいいのかという好みはあるにしろ、昼間は仲間として、夜は個別に生きるというのは、一般的に言って不可解の念を与えるであろう。

浮浪者であるということは、ベケットにおいて仲間を作らないことであるのか。登場人物が浮浪者になった理由を作者が秘密にするのは、その人物がそれまでの境遇から解放された自由な存在として生きる為であるのか。過去の条件を問題にすれば、人はその条件を克服すべく行動を起こすであろう。今陥っている逆境から如何にして脱出できるのか、その手段について思考を巡らすであろう。そうであれば、その人物は不遇の原因となった人間関係や経済状況、社会的条件や道徳的規範について批判の矢を向けることになる。しかし、ベケットはそうした現実の条件を部分的に捨象して、人間の根本的な問題を問い直そうとする。そして、その問いに対し作者が全面的に解答を与えてしまうのではなく、その答えは小説の読者や劇の観衆が自ら導き出すことを期待する。これがベケットの方法なのである。

ベケットは二人の人物が昼間は仲間として、夜は個別に過ごすことに謎解きを強要している訳ではない。二人が別々に過ごすことに関して、彼は劇中で何度も同じような反省を言わせている。

エストラゴン：お互い別々に、自分一人でいた方がよかったんじゃないかと思うんだ。

(間) 同じ道のりを進むようには出来てなかったんだ。

ウラジミール：(怒らず) どうかな、そうとも言えない。

エストラゴン：そうじゃないといえば、何だって分からない。

ウラジミール：その方がいいと思うんなら、いつだって別れられるってことだ。

エストラゴン：今じゃ、もう無理というものだろう。⁵⁾

この部分だけを読めば、二人は夜だけを別々に過ごそうとしているようには理解できない。彼らはすでに五十年來の仲間として人生を送ってきた。一日中、そして毎日が毎日、常に行動を共にした訳ではないことは、劇の始まりのところで再会できたのを喜んでいるところからしても察せられる。彼らは家族のように共同生活を目的としているのではなく、ある場所に二人が放浪の末にやって来ると、そこで互いのテレパシーが働いて、うまく落ち合うことが出来たということであろう。そうであれば、二人は別々の放浪生活を送っていると見なすことも可能であるにも係わらず、気持ちの上では、この二人はいつも一緒に励まし合って行動していると感じとっている。

ウラジミールとエストラゴンは仲間であり友人ではあるが、またホームレスの浮浪者でもあるのだから、自分たちの自由や気楽さを重んじて、付かず離れずの関係を維持しているのだろう。二人はこの距離をよく理解している。

ウラジミール：気分というものは思い通りにいかないよ。一日中、すばらしい気分ではなかったんだ。(間) 夜中には、一度も起きなかったからね。

エストラゴン：(悲しげに) そうだろう。俺がいない方が、お前は便通がいいんだ。

ウラジミール：お前がいないと寂しかった——それでいてよかった。奇妙だろう？

エストラゴン：(気を悪くして) よかった？

ウラジミール：(よく考えて) そう言うてはいけないのかも。⁶⁾

この会話で、エストラゴンが「俺がいない方が、お前は便通がいいんだ」と言っているところを見ると、二人は夜のねぐらを共にすることもあると理解できる。だから、常に夜は別々ということではなく、その時々状況次第ということになる。そうすると、この二人が常に二人一緒に居ることはない訳だから、何もことさら「お互い別々に、自分一人でいた方がよかったんじゃないか」と言うほど、二人は互いに拘束しあっているとは思えない。しかし、二人の心理上では互いに束縛しあっているように感じているのであろう。ウラジミールは言う、「お前

がないと寂しかった——それでいてよかった。奇妙だろう？」寂しいというのは理解できる。では、なぜ同時に「それでいてよかった」という反対の気持ちを表明するのであろうか。これについて、二人は解答を見出していない。

二人は一緒に居ることが多い。だから、別れた方がいいと思っている。ところが、別れて過ごすとなると寂しくなる。しかし、普段別れたいと思っているのだから、別れて過ごせたことに「よかった」と思う。こういう論理が一般的に成立するところであろうが、もう少し深く考察してみるなら、別れていた方が好ましい理由がある。それは、二人は一緒に居ると退屈を紛らす為に、取り留めのない話について興じてしまうという性向を持っていることに起因している。話の内容が日常的な些事についてなら、二人はおかしく笑って会話を楽しめる。ところが二人は浮浪者であって、どうしてこのような状況になったのか理由が説明されないとはいえ、この生活方法は二人に不安を与える。家庭を持ち、住居を持ち、食事に事欠かないのが人間の一般的な願望である。ところが二人はそれを拒否して、ホームレスの生活に甘んじている。彼らがこの生活方法を好み、自ら選択したものであるとはいえ、そもそも彼らはこの世に生まれついたこと自体に疑念を抱いている。そして、エストラゴンには自殺を凶った経験を持つ。なぜ彼らはこの現世で生存していなければならないのか、絶えずこの疑問へと立ち返る。そして、この生存の価値を未知のゴドーに見出そうとして、虚しい待機の中に置かれる。彼らはこの待機の空虚を取り除くために、時間を二人の会話で満たそうとする。

エストラゴン：待っている間、興奮しないでしゃべることにして。俺たちは黙ることが出来ないんだからな。

ウラジミール：本当だ、きりがいな。

エストラゴン：それというのも考えないためだ。⁷⁾

ここで二人が行っている会話は、物事を深く「考えないためだ」となる。考えるという行為を馬鹿げた会話で追い払えと、彼らは信じている。ところが、しばらく後では正反対への結論へと導かれる。

ウラジミール：もう考える危険はない。

エストラゴン：それなら、何も不平を言うことはないだろう？

ウラジミール：考えるというのは、最悪の事態というわけじゃない。

エストラゴン：そりゃ、そうだ、その通りだ。だが、事はそうになってしまう。⁸⁾

退屈を紛らすために行った些細な会話が、何かの切っ掛けで思いもよらぬ深刻なことへと飛躍することがある。喜ばしいことへ向かえばよいが、「最悪の事態」へと直行する場合の方が多いた方が普通であろう。過去のよい記憶はすぐ忘れてしまうのに対し、悪い記憶はいつまでも脳のどこかに潜んでいる。ちょっとした言葉のあやからこの悪い記憶が呼び戻されて、人の思考は最悪の状況へと落ち込んでいく。なぜこの不安な状態でなおも生きているのか。そもそもこの世に生まれついたこと自体が悪かったのじゃないか。人は自分の責任でないことにまで、生存理由を悪化させていく。だから、ウラジミールが「お前がいなくて寂しかった——それでいてよかった」という気持ちに至ったのは、一人であれば他人と会話をすることもなく、従って悪い状況に思いを巡らすこともなく、静穏な生活を持てると思ったのであろう。たとえ一人であっても最悪の事態を考えることは大いにあり得るが、二人の時ほどには不幸の思いに対し、刺激を与えることは少ない。

二人でいつも一緒に居る方がいいのか、それとも別れて一人の生活がいいのか。二人でいた方が人生の不幸に対して耐えていけると考えられる場合もあれば、不幸の実情によっては、一人でいた方が気が楽だと思える場合もある。人の性格や境遇によっても、この判断は分かれる。ウラジミールとエストラゴンとは昼間の行動は共にし、夜の休息は別々の場所で取るという中間の生き方を採用している。しかも、完全に昼は共同生活、夜は一人の生活と分離している訳ではなく、昼間出会うのも偶然に任せたところがあるし、夜のねぐらも同じ場所を取る場合もあるというように融通をきかしている。これなら、二人が行動を共にするかどうかは二人の意志に依存していて、一見理想的であるように見える。しかし、状況によってはこの意志決定が自由になされない場合が起きる。ゴドーを待つという待機の状況に置かれた二人にとって、二人の目的が同一であるのだから、その行動も同一でなければならないという緊張関係の中に、彼らは今や拘束されているのである。

二、夜の悪

エストラゴンは夜のねぐらを「堀の中」に取ると言う。彼がそうするのは、単に夜露に濡れても平気だというだけの理由とは考えられない。なぜなら、もしその時に居る場所が回りに建物の全くない原野というのなら、それもやむを得ぬと納得がいくが、もし風雨のしのげる場所があるなら、そこに寝泊まりした方が体が休まるというものであろう。相棒のウラジミールは屋根のある所に宿を取っているのであろうから、エストラゴンも望めばそう出来るであろう。ところが、彼は何の覆いもない「堀の中」で寝ると言う。なぜ彼はそのような野生の生活を好むのか。単に彼がそのような原野の生活に、魅力を感じているというだけに留まらないだろ

う。

二人が一日目に出会って、ウラジミールがエストラゴンに昨晚の宿泊場所を尋ねたとき、エストラゴンは「堀の中だ」と返答した。そして、その場所がどこにあるのか更に問われると、彼は「あっちの方さ」と曖昧にしか答えない。ウラジミールは問いを続ける。

ウラジミール：それで、殴られなかったかい？

エストラゴン：殴られたさ……でも、それほどでもない。

ウラジミール：またしても同じ奴らだな？

エストラゴン：同じ奴ら？ どうかな。⁹⁾

エストラゴンは堀で泊まったとき、見知らぬ男たちから「殴られた」。しかも、これが最初の暴力ではなく、すでに何回か続いていて、相棒のウラジミールはそれを知っている。なぜエストラゴンは堀の中で寝泊まりをするのに、殴られなければならないのか。しかも、すでに暴行を受けたにも係わらず、なぜまた同じような野宿をするのか。普通の人間であるなら、たとえ浮浪者とはいえ、一度暴力を受けたのなら、そこを避けようとするであろう。浮浪者のエストラゴンにとって、他の寝場所がまったく存在しない訳ではなかろう。なぜなら、仲間がいて、その者は暴力を受けない他の安全な場所に寝泊まりしている訳だから。どうしてエストラゴンは相棒に助けを求めて、一緒に所に泊まらないのか。仲間の援助を請うて、迷惑をかけるのを好まない性格であるのか。それなら、ウラジミールの方からエストラゴンの暴行被害に対し、救助を申し出た時はどうか。二日目になって、二人はまたゴドーを待つべく落ち合う。ウラジミールは昨日と同じくエストラゴンに、夜殴られたかどうか尋ねる。エストラゴンは沈黙を守って、「聞かないでくれ」と返答するのみである。そして会話は進み、次のような話となる。

ウラジミール：お前は自分を守ることが出来ないんだ。俺がいたら、お前を殴らせるようなことはさせなかった。

エストラゴン：それは出来なかつただろうな。

ウラジミール：なぜだい？

エストラゴン：あいつらは十人だったからね。

ウラジミール：そういうことじゃない。お前に、殴られるようなことをさせなかつたと言っているんだ。

エストラゴン：俺は何もしやしなかつた。

ウラジミール：それじゃ、なぜ奴らは殴ったんだい？

エストラゴン：分からない。¹⁰⁾

エストラゴンは十人もの連中から殴られたと言う。よく窮地にあって悪い連中が正確に十人と数えられたものだと不思議にも思えるが、恐らく彼はウラジミールの追求に対し、言葉任せに数字を言ったのであろう。それにしても老人の浮浪者に対し、十人近い悪者が寄ってたかって殴りつけるというのも、真実味がないように思える。もしこれほどの悪者に暴行を受けたなら、エストラゴンはもっと重傷を負っていたのではないかと推測されるからである。とにかく、エストラゴンが他人から暴力を受けたというのは確かなのであろう。そこで、相棒のウラジミールはこの連中からエストラゴンを守ろうというわけだが、彼が意味するところは相手の暴力を力で封じるということではなく、仲間のエストラゴンに、相手を怒らすようなことは制止できたであろうと助言する。しかし、エストラゴンは「何もしやしなかった」と応じる。

なぜ、先に何も悪いことをしていないエストラゴンが殴られるのか。これが一回限りのことで、何かの偶発的なことから暴力が始まるというのは考えられることである。ところがエストラゴンの場合、今回だけのことでなく、昨晚も殴られているのである。続けて二日も理由もなく殴られる。一体なぜと、仲間でなくても思うであろう。堀の中に無断で寝泊まりすることが、何か違法行為だったのだろうか。その地区は暴徒の溜まり場で、エストラゴンはそれを知らずに彼らの聖域を荒らしたのだろうか。それは本人も言うように「分からない」ことだ。

堀の中で寝ようとする、誰か悪者によって暴力を加えられる。その悪者は一人だけでなく大勢だ。自分の方から、相手を怒らすような悪いことは何もしていない。これだけの流れを読めば、エストラゴンは暴徒に襲われた夢でも見ているのではないかと推測が働く。彼はウラジミールに、昨晚見た夢を語っているだけなのだろうか。その夢は二晩続けて見るような、エストラゴンの潜在意識の中に刷り込まれてしまったような、強迫観念なのだろうか。強迫観念であれば、彼がその理由となった直接的な出来事を見出すことは難しい。なぜなら、その原因となるものは、すでに過去のものとして忘れ去られてしまっているはずの出来事だからである。忘却の中に沈められてしまった事件は、本人の意志的な思考の中では決して表面に表れることはなく、ただ夢の中で密かに浮上してくるものであるだろう。たとえ思考によって思いついたとしても、それは即座に否定されてしまい、それが真の原因として認識されることはない。

『ゴドーを待ちながら』の中で理由もなく暴力を受けるという場面は、このエストラゴンの事件の他にももう一つある。それはゴドーが今晩は二人のところへやって来れないことを、伝言に来る少年の兄の場合である。ウラジミールはゴドーの来ないことを聞くと、少年に仕事は何をしているのか尋ねたあと、更に質問を続ける。

ウラジミール：ゴドーさんは君に優しいかい？

男の子　　：ええ。

ウラジミール：殴らないかい？

男の子　　：いいえ、僕は。

ウラジミール：じゃ、誰を殴るんだね？

男の子　　：僕の兄さんです。¹¹⁾

ゴドーは使いの少年を殴ることはしないが、その兄を殴る。なぜ兄の方だけ暴力を受けるのだろうか。ウラジミールは少年自身が殴られない理由を次に尋ねるが、少年の返事は「分かりません」という言葉に収まる。ここで如何に質問好きなウラジミールといえども、兄の方が殴られるのはなぜかという質問を発することは躊躇する。兄がゴドーから暴力を受けるのはなぜか、作者のベケットはこの理由を告げることを意識的に拒んでいると考えられる。ゴドーがどういう人物なのかを知りたくて、ウラジミールが彼のもとで働いている少年に状況を尋ねるのは自然なことであろう。そして、この少年に兄がいることを、劇の観衆に知らせることも必要であろう。なぜなら、二日目の夕方、ゴドーがまたも来れないことを告げに来るのは、一日目の少年とは別の人物だという設定になるからである。だから、少年に対しゴドーが優しいか聞いたついでに、作者がその兄の存在を表明しておくのは当然と考えられる。しかし、使いの少年にはゴドーが優しく、その兄には暴力をふるうという設定は、その暴力の理由が明確でない以上、この暴力は劇内の別の状況に暗示をもたらしていると理解した方が適当であろう。そうでなければ、少年の兄に対しゴドーが暴力を加えるという人間関係の設定が、劇中で何の意味もなさないことになる。

理由の隠蔽された一つの暴力は、もう一つの隠された暴力と連係している。それは少年の兄がゴドーによって殴られるということと、エストラゴンが夜、堀の中で寝泊まりしようとする時、見知らぬ男たちから暴力を受けるという二つの暴力である。なぜこの二つの暴力は理由が示されないのだろうか。ウラジミールがエストラゴンに、自分がその場にいたなら、エストラゴンが殴られるようなことはさせなかったと言ったように、原因はエストラゴン自身にあるのだろうか。それとも、エストラゴンが殴られるような悪いことは何もしていないと言うように、原因は見知らぬ悪者にあるのだろうか。どちらが直接的な原因であるにしろ、エストラゴンが暴徒に殴られたことに関して、他にも不可解な点がある。まず一つとして、もしエストラゴンが暴行を実際に受けたとすれば、彼の顔や体には暴力による傷跡が残っているであろう。十人もの悪者から殴られたとすれば、多少の血は流れたであろうし、打撲傷によるあざや痛みが残るであろう。ところが、エストラゴンは翌日ウラジミールと会ったとき、何の痛みを訴え

ることもなければ、服装に関しても破れたり汚れたりした形跡がない。ウラジミールもこれに気づく気配さえないのである。一体暴力とはいっても、どの程度のものであったのか。そして、本当に暴力が行われたのか。

もう一つの不可解な点は、エストラゴンが悪者に殴られたことを、相棒のウラジミールに積極的に話そうとしないことである。エストラゴンはこの暴力事件だけでなく、夜に寝泊まりした場所をも相手に告げるのを躊躇している。なぜ彼は暴徒たちの悪事をもっと積極的に訴えようとしませんか。エストラゴンは浮浪者であって、社会的に強い立場にある人間ではない。しかも彼は老人であって、社会の悪事を他人に訴えるだけの気力ももはや喪失し、自分の殴られるのはどうしようもないという諦めの境地に入り込んでいるのか。そういう気持ちも多少はあるだろう。しかし、すでに彼が他人から暴力をふるわれていることがウラジミールにも知れているならば、これ以上に隠したところで何の得策もない。しかも夜、暴力を受けることがあらかじめ察知できるというのに、なぜ彼は相棒と別れて、一人で堀の中に夜のねぐらを持つとするのか。まるで自ら望んで暴力を受けに行くようなものではないのか。

エストラゴンが暴行を受けることには理由がない。しかも、彼はこれを相棒に隠そうとしている。使いの少年の兄はゴドーから殴られるが、その理由を少年は知らない。二つの暴力事件が理由もなく、一つの劇作品の中で表明されている。この二つは一体関連性があるのか、ないのか。少年の兄が殴られる話は、詳細な筋道があるわけではない。少年とウラジミールの会話の流れから、こぼれ出た話に過ぎない。いわば言われなくてもよい会話であるが、作者のペケットはそれを敢えて書いている。そうであれば、この意味のあまりない挿話を別のよく似た話と関連づけてみるのも、興味をそそるであろう。少年の兄はゴドーによって殴られる。ゴドーはエストラゴンとウラジミールにとって見知らぬ人物である。エストラゴンは夜、見知らぬ男たちによって殴られる。この見知らぬゴドーと男たちとは、同一人物ではないのかと推測が働く。

エストラゴンが夜男たちから殴られるのが事実であるかどうかは、怪しいところである。単に彼が被害妄想にあっているだけではないのか。過去においては暴力を加えられたことがあったのかもしれない。しかし、今回も実際に暴力が行われたと判断することは、エストラゴンの挙動からして難しい。そうすると、彼が暴力を受けた男たちというのは、実はゴドーのことではないかと考えるのである。

エストラゴンが暴力を加えられる理由を知らないのは、実はその暴力が実際にはまだ起こっていないことだからである。彼はただ単に何かを恐れているのであって、その何かを彼は明確に気付いていない。しかし、明確には意識していないが、彼はそれを感じとっている。彼は過去において川への投身自殺を図った。なぜそのような命を絶つ行為をしたのか。エストラゴン

はウラジミールと、聖書の中で泥棒二人のうち一人だけが救われたという話をしたあと、ウラジミールが「悔い改めることにしたら、どうかな？」と言ったところ、エストラゴンは「生まれたことをか？¹²⁾」と応じている。エストラゴンは生存していること自体に対して、不安を抱いていると理解するしかないであろう。自分の誕生を悔いる人間であれば、彼が劇中で何度も自殺への誘惑に駆られるのも納得がいく。自殺願望に取り付かされている人間は、自分が生存していることを不安に思っている。彼が自殺を忘れていた時でも、無意識の中では生存の恐怖が支配している。彼が昼間の行動から解放されて夜の孤独な時間に入るとき、無意識の中に閉じ込められていた不安は夢となって姿を表す。彼が生存していることには価値がない。命を捨てることに無意識が始動するとき、彼は見知らぬ人物によって暴力による罰を受け、命を危険にさらすのである。エストラゴンが坂の上に見た人物をゴドーだと思ったとき、彼は「俺は呪われてるんだ！¹³⁾」ととっさに叫んで罰を恐れた。

救世主として待ち望んでいるはずのゴドーをなぜ恐れるのか。ゴドーは使いの少年の兄を殴ろうとした、処罰を科するところの神であるのか。神はどんな人間に対しても優しいわけではあるまい。悪徳に走り神に冒瀆をはく人間に対しては、その罪を暴くであろう。授けられた命を勝手に無用なものとしげすむ者に対しては、怒りを示すであろう。マーティン・エスリンは『不条理の演劇』の中で、「私たちと意志を通わせることのない神は、私たちに同情心を寄せることはできず、理由も告げずに私たちを罰するのである¹⁴⁾」と語った。神の恩寵を信じることの出来ない人間は心に不安を覚え、いずれ罰せられるのではないかと恐れる。しかし、見知らぬ人間によって暴力を加えられる者は、その暴力の発信者が神であることを容易には気付かない。エストラゴンはただ見知らぬ者の暴力を、夜一人になって堀の中で耐え忍ぶだけである。彼は仲間のエストラゴンと共に屋根のある所で身を守ることも出来るであろうのに、彼が選ぶのは一人の孤独な受難の道である。

三、別の所

見知らぬ人間から理由もなく暴力を加えられる。何か自分の方に落ち度があったのだろうかとか考える。そうかもしれない。なぜなら、公共の場所とはいえ、自分の所有地でない所に寝泊まりしたのだから。それとも相手がやくざな人間で、自分の威光を見せつける為に暴力をふるってみただけであるのか。そうかもしれない。世の中には自分の不遇から抜け出すのに、正当な手段を持ち合わせない人間もいるのだから。エストラゴンは堀で寝泊まりしようとして暴行を受けた。しかし、この暴行は本当に起こったことであるのか。多分、一度は起こったのであろう。しかし、同じように二日目の夜も暴行が行われるであろうか。悪者はその地域を縄張

りとして、闊歩しているのかもしれない。そうであれば、なぜエストラゴンはその場所を避けて、他の場所にねぐらを求めないのか。彼が敢えてその場所を選ぶのは、彼の潜在的な不安がそこへと彼を誘導するからであろう。不安はそれを避けようと意識するほど、その対象となるところへと本人を導く。トラウマとなった意識は不安を切り離そうとするほど、その現場へと本人を舞い戻らせる、ちょうど殺人や放火の現場へと犯人が舞い戻ろうとするように。

エストラゴンはゴドーを待つ二日目の夜も、前夜と同じ堀へと行く。そこでまたも見知らぬ男たちから殴られたと言うが、果たして本当に事件はあったのか。それとも、彼の無意識が引き起こす夢であったのか。彼の体に傷害の跡は何も残っていないし、彼はこの事件を仲間のウラジミールに隠そうとする。堀での暴行は、夢の出来事である可能性が高いであろう。実際、エストラゴンが夢を見る場面は他の所でも起こる。二日目に二人が出会って、昨日と同じ場所にいと、その場にあった一本の木が昨日は葉をまったく落とした姿であったのに、今日は葉で覆われている。不思議に思った二人は互いに意見を言い合うが、苛立ったエストラゴンは結論をこう出す。

エストラゴン：昨日の夕方は、俺たちここにいやしなかったって言ってるんだ。お前は悪い夢でも見たのさ。

ウラジミール：すると、夕べはどこにいたんだ、お前のつもりでは？

エストラゴン：知らない。別の所さ。どこか他の場所だよ。空き地はどこにでもあるからな。¹⁵⁾

ここで、ウラジミールは実際に夢を見たわけではない。エストラゴンが「悪い夢を見た」と言ったのは、相手の主張に根拠がないことをこう表現したまでである。しかし、昨日この場所に実際にいたにも係わらず、「いやしなかった」と間違った主張をしているのはエストラゴンの方であるのだから、夢を見たのが相応しいのはエストラゴンの方であるだろう。彼はウラジミールの追求に、またしても正しく返事することが出来ない。昨日ここに居たのでなければ、一体どこなのか。エストラゴンは「別の場所さ。どこか他の場所だよ」と答える。彼は昨日居たところを本当に忘れてしまったのだろうか。彼はこの後のウラジミールの誘導によって、昨日この場所に居たことを思い出していくが、なぜ前日のことまで忘れてしまうようなことが起こるのか。彼は健忘症を通りこして認知症の程度にまで、物忘れが進んでいるのであろうか。もし物忘れが激しく、何事も夢のせいにしてしまうとしても、ただし全く無関係のてならめを言っている訳ではなかろう。ここに居なかったという主張はエストラゴンの間違いである。ところが、「別の所」だという答えには、彼の行動範囲の中で幾分かの関連性を持っている。

「別の所」、つまりすでに見てきたように、エストラゴンが夜のねぐらを尋ねられて、堀のある場所を明確に答えようとしなかった。彼にとっては寝場所が堀であろうと、野原であろうと、木の下であろうと、とにかく一人になって放浪の身であることが重要なのである。だから、他人に自分の夜過ごした正確な場所を知られたくないというのが、彼の真意なのであろう。浮浪者として夜のねぐらが秘密であるなら、昼間に過ごした場所も、彼にとっては事実通りである必要性はないであろう。木が一本立っているだけの場所で夕方、仲間と過ごした。その目的はゴドーという人物を待つためである。しかしながら、その人物は現れなかった。この徒労と化した行為の場所を正しく認知したところで、どれだけの価値が生じるというのであろう。無価値な昨日の場所など、忘れてしまって困ることはない。彼が居たのは放浪者に似つかわしい不定の場所であり、「別の所」なのである。

昨日のことを忘れてしまうのはエストラゴンだけではない。召使いを連れた通行人のポゾーも同様のことを口にする。ただし、彼は忘れることに対していたって理性的である。昨日の事実と今日の忘却の間に、心の動揺は起こらない。

ポゾー：昨日は誰にも会わなかったと覚えとる。だが明日になれば、今日誰かに会ったことなど忘れてしまっているだろう。従って、あなた方に言うことで、わしを当てにしてもらわない方がいい。それに、そんなことはもう沢山だ。¹⁶⁾

忘却の中であって、ゴドーの話は実際に起こっていることなのであろうか。起こることといえば、ゴドーの出現を二人の浮浪者が待ち望むというだけで、後は二人の語ることで成立している。劇の場面にしても、一本立っている木は昨日は葉のない丸裸だったが、今日は葉も青々と生い茂っている。一日の経過でポゾーは盲人になり、ラッキーは唾者になる。使いの少年は昨日と今日で別人だ。一体これだけの様変わりに対して、観衆はリアリティを持てるのであろうか。劇という時間と場所の制約された虚構性が、この虚の枠組みを支えているのは確かだ。ポゾーが昨日会った人物を忘れ、エストラゴンが昨日居た場所を忘れてしまう。この真実性を保証しているのは、劇全体が虚の枠組みの中に構成されているということに因るのであろう。ウラジミールもエストラゴンも宿なしの浮浪者であり、一方は堀の中で眠る。食べるものといったら、カブやニンジン、それに他人が捨てた鶏の骨である。二人の全体が虚構の中に置かれ、その反転としての現実における真実が問われているのである。

昨日の夕方いた場所をエストラゴンが忘れてしまう、そして何をしたかも。彼は相棒のウラジミールに教えられてそのことを思い出すが、その場所で居眠りしたことも忘れてる。

ウラジミール：夕べ、お前が座っていたのも、そこだ。

エストラゴン：せめて、眠れたらなあ。

ウラジミール：夕べは眠ったぜ。

エストラゴン：やってみよう。¹⁷⁾

エストラゴンは夕方になって眠くなった。彼は恐らく暴漢によって殴られたために、よく眠れなかったのであろう。しかし、眠りに入ると夢を見たのか、「俺は倒れ落ちた¹⁸⁾」というめき声を上げて目を覚ます。どこか深い穴へでも落ちたのだろうか。地獄へ落ちた夢なのかもしれない。何しろ彼は昨晚、暴漢によって襲われたのだから、その原因は彼自身の不品行にあるのかもしれない。彼はその理由は分からないながら、罰せられる立場にある。それにしても、エストラゴンはちょっと居眠りしただけで、容易に夢を見るほど眠り込むとは、彼の悪夢の原因はよほど根深いのもかもしれない。これがベケットの他の主人公、特にモロイであるなら、夜に眠るよりも陽が昇ってから眠りにつくと言う。

私の習慣というのは、眠るときには朝になってから眠るというものだった。というのも、私は少しも困らないで、数日間まったく眠らないでいることが出来たからだ。なぜなら、私の徹夜の不眠は一種の眠りだったから。そして、私はいつも同じ場所で眠るのではなく、時には庭の中で眠ったのだった。¹⁹⁾

モロイとは年老いた母を探して旅をしてきた人物で、再会した時には、彼は松葉杖を使わなければならないほど足を悪くしている。しかも、自分の名前さえ忘れる程の健忘症に陥っている。そうした人物が旅の途中で過ごす生活の仕方は、一般人の方法とは大きく隔たっている。彼は「朝になってから眠る」と言う。しかも、一日の不眠であるなら、誰にでも起こることであろうが、彼の不眠は「数日間」続くこともあると言う。数日間も眠らなければ、頭脳も肉体も朦朧^{もうろう}としてしまうところであらうが、モロイは「徹夜の不眠は一種の眠り」だと、不眠が苦痛ではない理由付けをする。数日間の不眠が睡眠に匹敵するとは、奇妙な理屈のようにしか思えないが、彼は夜に眠らないとしても、彼の言うように「朝になってから眠る」ことで、睡眠が確保されているのであろうか。それとも、彼は朝寝をしなくても、数日間の不眠に耐えられる強健な人物であるのか。そして、夜に眠らないとすれば、その長い時間を彼は何をして過ごすのか。床に横になって一応、目は閉じているのか。それとも起き上がって、椅子に座りこんでいるのか。そうではなくて、モロイは「昼間や夜の大部分を庭で過ごす²⁰⁾」と言う。

夜を庭で過ごす。そこでは何か体を使って活動するのであろうか。思考や空想にひたるので

あろうか。それとも、ただぼんやりと放心しているだけなのか。夜の長い時間のうちには、時に眠くなることもあるだろう。モロイは不眠が苦痛になることはないのか。目を閉じた不眠の中では時に妄想に捕らわれ、時に悪夢に襲われることが生じるであろう。哲学者のジル・ドゥルーズは、「カフカとベケットはあまり似ているところがないとはいえ、二人には不眠症の夢という共通したものがある。不眠の夢においては不可能を実現することではなく、可能なことを消尽することが問題となる²¹⁾」と言う。「可能なことを消尽する」とは、あらゆる欲求や目的や意味を放棄することによって、状況の総体を組み合わせることであると彼は主張する。不眠において人は様々な状況を思い浮かべてはその映像を脳裏に映し出していくのであるが、果たしてドゥルーズが言うように、「可能なこと」の総体を得られるかどうかは疑問であろう。ただ不眠において、人は様々な事態を想起しては、また次の事態へと夢のイメージを展開させる。不眠の夢を見る人は多大な映像の中に投げ込まれて、終わりのない時間の重圧を生きることになる。ベケットのモロイの場合、不眠の夢に苦しめられることはあまりないが、見知らぬ人間を殺害するというような悪夢を、事実のように語ることが起こりうる。悪夢なのか事実なのか、その真偽は不眠の本人にも理解しかねることになる。

エストラゴンなら堀の中で一人になって就寝しようとするとき、見知らぬ人間から殴られると言う。それもあ一日限りのことではなく、また次の日も同様なことが起こる。これは一体事実なのか、それとも彼の悪夢なのか。事実であれば、そのような暴力の行われる場所に二度と近づかないのが、普通の人間であるだろう。エストラゴンが二日目もその暴力の場所をねぐらとして選ぶとすれば、その暴力を彼自身が受ける必要があると、無意識のうちに思っていることの表れであろう。彼がこの無意識の誘導から逃れることは難しい。エストラゴンは暴力の行われる場所を堀の中だと言う。なぜ堀なのか。恐らく他の場所、野原とか、川辺とか、大木の生えている下とかでも良いのであろうが、堀であれば、そこが回りの地面より低い位置にあるために、人目に付きにくいということがあろう。堀の隠れた場所であれば、彼の孤独は他よりも安全に守られるはずである。

エストラゴンは夜露に濡れることをいとわない。一方相棒のウラジミールは、風雨の避けられる屋根の下をねぐらに選ぶとする。夜を徹夜で過ごすというモロイなら、睡眠を取るときには、家の中よりも「庭」の方を好むと言う。なぜエストラゴンとモロイは、露天の方を優先するのであろうか。エストラゴンは転んだウラジミールを手を引いて起こそうとしたとき、反対に自分の方が転んでしまう。彼はそこで、「いい気持ちだ、地面は！²²⁾」と言う。普通なら転んだのであるから、痛いとも言うところを、地面に体を落ち着かせる状態を好ましいものと判断する。彼は大地に対して愛着を抱いている。地面に転ぶことと堀をねぐらに選ぶことは共通している。大地は浮浪者の彼に安心感を与えるのであろう。モロイも不眠の夜を過ごす

のに、家の中よりも庭にいる方を好む。彼らにとって自然の中の放浪生活こそが、本来的な生き方と思えるのであろうか。

堀のような窪んだ所を好む人物にもう一人、ワットがいる。彼はノット氏という隠者のような生活をしている人物の家で、召使いとして住み込みの仕事をするようになった。そこでは使用人にさえ姿を見せようとしない主人の、無の体現者とも言えるような生活を体験する。そんな彼はある時、洞穴に身を置く姿を空想してこう言う。「あらゆる山の麓^{ふもと}に、上る坂道、下る坂道の洞穴の奥深くに身を置く。そして自由に、ついに自由に、一瞬の間だけでも自由になり、ついには無となる²³⁾」。洞穴に身を横たえることがまるで死の床に着くかのように、ワットは自分自身からも解放されて、自由の身、さらには無の存在へと化そうとする。大地に開けられた洞穴は、そこに身を置く者を現実生活から切り離された孤独の境地、そして人間世界の何ものからも拘束されない自由の世界へと、誘^{いざな}うことが可能であるのか。ワットは人間の欲望から自分を解放しようとするとき、自然の中の住み処を選ぶのである。

ベケットの主人公は人家を避けて路上生活を優先する。これこそが浮浪者の生活に相応しいとも言えようが、エストラゴンの相棒のウラジミールは出来ることなら、屋根のある建物の中で睡眠を取ることを願っている。なぜエストラゴンの方は仲間と別れて、それも五十年來連れ立ってきた仲間と別れて、他の場所にねぐらを確認しようとするのか。それは単に、彼が夜露に耐えられるという条件だけではないだろう。エストラゴンは堀をねぐらと定めたとき、暴漢に襲われる。一日だけのことなら、不運として片付けられるであろうが、彼は二日目も同じ場所をねぐらとし、またしても暴行を受ける。彼には暴行を受けるだけの隠された理由がある。それは彼がこの世に生まれついたこと自体に不安を覚え、自分の存在が呪われていると感じとっていることである。そこには原罪にも等しい自分の存在を何とかして改^{かいしゆん}悛したいと、心の奥底で願っているエストラゴンがいるのである。

自分の存在を悔い改めたい。しかし、エストラゴンが具体的にどんな悪徳を犯したというのであろうか。泥棒をしたのだろうか。それとも、殺人を犯したというのであろうか。彼は殺人などしてはいない。しかし、彼の回りを見渡してみれば、「死骸」があり、「死体の山²⁴⁾」があると言う。この殺害は誰によって行われたのか。これはベケットの経歴から見ると、彼が外国人としてパリに住んでいたとき、ヒトラーに占領されるや、南仏への疎開を余儀なくされた第二次世界大戦の惨状を語っていることになる。エストラゴン自身が殺人を犯した訳ではないが、人類の悪がベケットの思念には焼き付いている。彼はこの残虐を問い、償わなければならない。ただし、作者のベケットはこの戦禍をあからさまに描こうとはしない。エストラゴンは自分の呪われた苦悩の原因を明白に知るよしもなく、彼は原罪のような漠然とした罪の意識を背負わされている。

夜一人になって堀の中に宿を取ろうとすると、見知らぬ暴漢に襲われる。これを知った仲間のウラジミールが救助の手を差し伸べようとする、彼は暴漢の多いことを理由にして断る。なぜエストラゴンは暴力を受けた場所に、二日目も寝泊まりしようとするのか。それは彼の罪の意識が無意識のうちにも、彼を断罪の場に立たせようとするからである。彼は罰を受ける必要がある。しかし、その罪は明白でなく、彼は夢の中でそれを受容する。夢の中の話を、彼は仲間のウラジミールに正しく告白することが出来ない。エストラゴンはそれを秘密にしようとして、堀のある場所を曖昧にしか答えられない。それはゴドーを待つことになるその場ではなく、どこか「別の所」であって、暴力の加えられる断罪の場なのである。ウラジミールとエストラゴンはゴドーを待っている。しかし、ゴドーは二人の前に出現することはない。なぜなら、エストラゴンにとってまだ彼の罪は、十分に悔い改められたとは言えないからである。彼はどこか知られざる別の地にあって、密かに彼の試練を受容する必要がある。

注

- 1) サミュエル・ベケット、『ゴドーを待ちながら』、Samuel Beckett, *En attendant Godot*, Les Éditions de Minuit, 1952, p. 10
- 2) 前掲書、p. 81
- 3) 前掲書、p. 74
- 4) 前掲書、p. 72
- 5) 前掲書、p. 75
- 6) 前掲書、p. 82
- 7) 前掲書、p. 87
- 8) 前掲書、p. 89
- 9) 前掲書、p. 10
- 10) 前掲書、p. 83
- 11) 前掲書、p. 71
- 12) 前掲書、p. 13
- 13) 前掲書、p. 103
- 14) マーティン・エスリン、『不条理の演劇』、Martin Esslin, *The Theatre of the Absurd*, Penguin Books, 1961, p. 56
- 15) 『ゴドーを待ちながら』、*En attendant Godot*, p. 92
- 16) 前掲書、p. 125
- 17) 前掲書、p. 98

- 18) 前掲書、p. 99
- 19) 『モロイ』、Beckett, *Molloy*, Les Éditions de Minuit, 1951, pp. 79–80
- 20) 前掲書、p. 78
- 21) ジル・ドゥルーズ、『消尽したもの』、Gilles Deleuze, *L'ÉPUISE*, Samuel Beckett, *Quad et autres pièces pour la télévision* suivi de *L'ÉPUISE* par Gilles Deleuze, Les Éditions de Minuit, 1992, pp. 100–101
- 22) 『ゴドーを待ちながら』、*En attendant Godot*, p. 115
- 23) 『ワット』、Beckett, *Watt*, Les Éditions de Minuit, 1968, p. 209
- 24) 『ゴドーを待ちながら』、*En attendant Godot*, p. 90

名古屋のメディア・アーツ

清水 義和

01. はじめに

英国を一年に亘って、全国各地の劇場をあちこちと巡ると、ロンドンのコベントガーデン界隈に犇めく商業演劇の影になり見えなかったイングリッシュ・パントマイムが、夕陽のあとに現れる一番星のように燦然と光輝いて眼にとまるようになる。イングリッシュ・パントマイムは毎年十月初めから翌年の三月頃までおよそ半年に亘って英国各地で上演されている。

名古屋においても同じ状況がある。名古屋中心街にある商業演劇に隠れて見えなかった市井の舞踊劇ハラ・プロジェクトや木村繁氏の人形劇のパフォーマンスが、永年住み慣れた観客の眼に、暮れなずむ夕陽の中に眩い街灯のように光りを増してくる。原智彦氏の暗黒舞踏は、磨赤児氏の絶賛を浴びた舞踏家であり、古くは出雲の阿国の歌舞伎踊りに起源を辿ることが可能である。また、木村繁氏の人形劇も日本全国にある民間伝承の人形芝居に起源を遡ることが出来る。

谷口幸代氏が、著書『名古屋の観光力』のなかで書いた論文「名古屋の文学—俳人・馬場駿吉の見た名古屋」は、馬場氏を通して名古屋の芸能の裾の拡がりや浮き彫りにして見せてくれる。同著で、名古屋が松尾芭蕉の蕉風発祥の地からはじまり、荒川修作の『棺桶シリーズ』に展開し、天野天街の野外劇『高岡親王航海記』を経て、愛知トリエンナーレへと収斂していく。¹⁾谷口氏が指摘するところによれば、蕉風は江戸時代のモダンアートの勃興を意味し、今日風にいえば、荒川修作のコンテンポラリーアーツがマルセル・デュシャンの『大ガラス』の衣鉢を汲む現代アートの革命と同じ意味を有する。とりもなおさず、愛知トリエンナーレがアートの先端を先駆的に疾走していることになり、名古屋踊りで賑わう商業劇場の中からで

は、眼の届かない場所に愛知トリエンナーレが燦然と強烈なアートの光を放って輝いているのだ。

ジャン・ジュネの研究者であったデヴィッド・ブラッドビー教授は1995年ロンドン大学で「ダダイズムとシュルレアリスムはモダンドラマを考える上で尚も未開の分野であり続ける」と述べた。ダダイズムやシュルレアリスムがモダンドラマに与えた影響は衝撃的であったが、絶えず、未踏の分野を開拓する使命がある。一方、ナチュラリズム演劇はちょうど顕微鏡を通してミクロの世界を開示したように未知の世界を浮き彫りにした。けれども、医学や心理学の分析方法を借りて、演劇を観察するナチュラリズムメソッドは、舞台人が高度な科学技術を兼ね備えた分析家にならざるをえない。また、科学は船舶や飛行機やコンピューターの著しい発展により人類を世界の果てまで連れて行き地理的にも歴史的にも自在に未開文化を提示した。ブラッドビー教授にとって「アルトーのバリ島、ブレヒトの中国・アフリカ、イエイツの日本がヨーロッパ演劇に対して触発した要因は重要であった」という。だが、ダダイズムやシュルレアリスムは、医学や心理学の跳躍的な進歩がなければ生まれなかったものであり、近代科学を超えた想像力と芸術性を要求することは言うまでもない。

アヴァンギャルド演劇は、科学の進歩と同時に退行が始まった。ロシアやドイツにおいても表現主義やフォルマリズムが共産主義リアリズムやナチスとの軋轢の中で推移した経緯は、メイエルホリドやブレヒトらの演劇活動の受難に見られた。

日本でも、村山知義がヨーロッパでドイツ表現主義美術運動に参加し、意識的に構成主義やダダイズムを展開し、村山のモダニズムと共に吉行エイスケの新興芸術や辻潤のニヒリズムが勃興した。それでも村山がプロレタリア文学運動に退行していったのは、アヴァンギャルド演劇が一回性の芸術で物語性や歴史的発展のような時間軸を排除していたことにも関係があった。

本稿では名古屋における近代の演劇が如何なる経緯で現代のメディア・アートの様相を呈するに至ったかを解析する。

02. 名古屋の小劇場運動

名古屋は芸所といわれる。坪内逍遙は日本の新劇の黎明期に文芸協会を作り活躍したが、幼年期に名古屋で演劇の素養を育んだ。逍遙は名古屋に立ち寄り『マクダ』を上演した。また養子の坪内士行は名古屋にしばしば訪れ、職場演劇の審査委員を務め、故郷の名古屋の演劇に愛着を示した。名古屋女子大学の狂言研究家・林和利教授は、逍遙フォーラムを主催しその研究活動が全国的に注目を浴びている。

1. 松原英治は戦前から名古屋の新劇活動の中心的な演出家であった。戦後、松原は演劇集団（演集）を結成して、名古屋における新劇活動の拠点を創った。

戦後は新劇とアングラの関係から演劇の発展と展開を見ることができる。唐十郎氏は「アングラの源流を探る」で、「アングラを自分で名乗ったことはないんですが、そのように命名されたんですね²⁾と明言する。いっぽう、寺山修司は雑誌『地下演劇』（1969）を発行しアングラのシンボリック的存在であった。演出家・丸子礼二は1960年代、小演劇運動の勃興と共に『『新劇』という言葉自体が死語になりかかっているという状況等々³⁾と論じた。少なくとも、名古屋の新劇は戦後隆盛したが、1960年代以降アングラの勃興と共に先細りになった。

松原英治の『名古屋新劇史』（1960）によると、先ず、愛山会が、1911年9月発足した。⁴⁾愛山会は趣味的な文化団体であったが、150名の会員を目指し、名古屋新劇の出発となる。この中に、亀山六次が在籍していたが、新聞記者が多かった。愛山会演劇試演会は、1911年9月に3日間山本有三の『穴』を上演し、同人誌「印象」を発行したが、白樺派の影響を受けた。1924年、脚本朗読研究会が開催され、久能豊彦の実兄、久能竜太郎が参加したけれども、名古屋出身の新劇研究者であった。また秋田雨雀が名古屋に現れ、エスペラントの講習を開催した。場所は、矢場町にあった長野浪山経営の市民食堂で、1階は一般勤労者向き簡易食堂で、2階は文化的集会場であった。牧師の金子白夢も常連であった。その後、長野浪山は、南鍛冶屋町で「番茶の家」という名前の喫茶店を開いた。寺下辰夫が、1929年10月27日、名古屋小劇場を結成した。

1930年3月23日、松原英治は新美術座を結成した。松原が演出し、装置は亀山巖が手がけた。松原は、1935年10月、東宝劇場に入社し、新設の名古屋宝塚劇場に勤務した。松原は、戦後直後に名古屋の文化に、観衆5万人を提唱した。そして「良き演劇は良き劇団と良き劇場と良き観衆との三位一体にしてはじめて生まれると確信する」（85頁）と述べた。当時、演劇雑誌「映画サークル誌」「名演」「中京演劇」「ペン」「演劇なごや」等が発行された。

名古屋青年劇団は、代表の小林正明らが1946年に組織化して、1953年10月、小谷剛作『彼を笑う者』を上演した。1954年2月、松原演劇研究所が設立された。更に、1955年4月、アンデルセン百五十年祭の際、バレエ『マッチ売りの少女』の美術を宇野亜喜良氏が担当した。

1946年12月名古屋演劇クラブが結成されたが、1948年4月新演劇人協会名古屋となった。1946年頃、名宝会館に「いとう書店」があったが、伊藤太一は名古屋演劇クラブの一員であった。

1956年、名古屋放送劇団で、山田昌氏が活躍した。いっぽう劇団かもめで、天野鎮雄氏が活躍し脚光を浴び始めた。1957年、劇団演集で、坂田佳代が活躍した。劇団名古屋では、船木淳が活躍していた。劇団しげみでは、木下信三が活躍したが、近代文学研究家で、名古屋市

史を編纂した。劇団新生座では、小谷剛が中心であった。当時名古屋劇作家協会が演劇活動に積極的に協力した。

松原英治は当初、東京で秋田雨雀の勧めで新劇協会に所属し、その後、名古屋に移り新美術座で演劇活動を行った。松原の名古屋への移住は、坪内士行の宝塚への移住を思い出させる。士行は養父の逍遙と同様名古屋育ちの演劇人で、英米両国で5年間役者修行をして帰国し帝国劇場でハムレットを演じた。

松原英治が東宝を辞めて自立演劇を始めたのは、坪内士行が劇界を退き早稲田大学教授となったのと異なる。また、士行が宝塚国民座を創設しながら、やがて解散したのに比べ、松原は生涯演集の活動を発展させ、やがて、若尾正也に運営を任せ、更に、丸子礼二へと受け継がれていく土台を作った。

木崎祐次氏は俳優出身の演出家である。木崎氏は松原の薫陶を受け『ロミオとジュリエット』『桜の園』等を上演したが、演集を経てアマチュアからプロの劇団を目指し演劇人冒険舎を結成、次いで、名演小劇場付属シアター・アカデミーで後進の指導に当たっている。木崎氏は「日本の不条理演劇が外国製のコピーなのは自然主義演劇よりも上演しやすいからだ」と語った。また、栗木英章氏は松原の指導を受けた後、演集を経て劇団名芸に参加、劇作家・演出家として活躍している。

天野鎮雄氏は、名古屋放送劇団を経て、文学座に参加、新劇のドラマメソッドを身につけた。その後大島渚主催の「創造社」に参加し、山本安英の会に参加した後、1985年に劇座を創設した。殊に木村光一演出の下で地元劇団として大きな成果をあげた。

鈴木林蔵氏は、民芸で新劇のドラマメソッドを身につけ、1972年ゲルドロデ作『ハロウィン』公演でベルギー、ハンガリー、ルーマニアの演劇祭に参加した。

2. 岩田信市氏は大須のロック歌舞伎スーパー一座の主催者として活躍している。岩田氏がアヴァンギャルドの画家としてゼロ次元で活躍したこととスーパー歌舞伎との接点は、大須大道町民祭と関わりがある。

鈴木忠志の『劇的なるものをめぐって』の中で、「吉本隆明は新劇にもアングラにも余り興味を持たず専らテレビ番組に関心があった」と述べているが、テレビは演劇にとって手強い相手であった。⁵⁾寺山修司が「書を捨てよ、町へ出よう」と言ってアングラを始めたとき、ある意味で、演劇がテレビに勝つことを挑発したのだ。

岩田氏がアヴァンギャルドの画家から、動く動画、歌舞伎に転換した原点は大須大道町人祭にある。岩田氏の盟友原智彦氏が歌舞伎の役者絵風のいでたちで現れた。やがて二人は山車の上でのパフォーマンスでは飽き足らず歌舞伎へと傾斜する。元々、岩田氏の歌舞伎には、かつて、大須にあった新歌舞伎座で見た芝居に原点がある。戦後の1940年代、岩田氏は生家の隣

の新歌舞伎座に足繁く通い、役者たちの素朴な発声に惹かれた。300人の客席は歌舞伎を見るには格好な空間であった。ところで、岩田氏の頭の中で、シュルレアリスムと歌舞伎が結びつくのは、ロック歌舞伎の海外公演であった。また寺山と岩田氏の演劇を比べると、寺山の『邪宗門』は歌舞伎的であるが、寺山は歌舞伎を自作劇『邪宗門』の中で破壊した。岩田氏は岸田劉生の『歌舞伎美論』に触発され歌舞伎を大衆劇に脱構築した。岩田氏は海外公演で歌舞伎を言葉の意味でなくリズムや音の響きで伝えた。岩田氏が構築した音の響きは地元名古屋の発声法にあった。

岩田氏は外国の楽曲を地元名古屋のリズムに乗せた。岩田氏は歌舞伎に次いで大須オペラを始めた。そのコンセプトは、浅草オペラの『ボッカチオ』にある「ベアトリねいちゃん」や「恋はやさし」のような原曲のリズムでなく日本語にあったリズムに編曲する事であった。

名古屋でのアングラの開始は、今井良實が未来座で公演した前衛劇であった。次いで今井は1966年、自前の小屋を持った。場所は城山町にあり、ルロイ・ジョーンズ作『ダッチマン』を上演した。舞台の背景は岩田氏が描いた。⁶⁾

1967年に西区の浄心にあった丹羽正孝の家を改造して、シアター36を作った。シアター36を、今井が始め、丹羽との間で構築した。やがて、今井は、映画へ傾斜した。その後、丹羽は東京へ出たがスキャンダルを起こし無理心中して果てた。

岩田氏の『現代美術終焉の予兆』(1995)によると、⁷⁾ゼロ次元で「これが8ミリジェネレーションだ」を撮ったとある。川中信弘がイメージフォーラムを開催し、8ミリで、前衛作家たちが、パフォーマンスを披露した。8ミリを写しながら、加藤好弘がブランコに乗り、水上旬は呪文を唱えた。

1958年頃より活動を開始したゼロ次元は日本のハプニング集団であった。ドナルド・リチーが、映画『シベール』で、ゼロ次元のパフォーマンスを撮った。東映の中島貞雄がゼロ次元を撮ったセックス描写の『日本猟奇地帯』は面白い作品であった。しかし、1970年に加藤が「猥褻物公然陳列罪」で逮捕されると、活動は急速に衰えた。

岩田氏はゼロ次元で行き詰まるとやがて歌舞伎に転換し、海外公演を6度果たした。ヨーロッパツアーではヒッピーでアメリカとオランダを旅した寺山修司の同級生、九慈が同行し、ナンシー演劇祭で世話をした。ナンシー演劇祭では、寺山の代わりに、岩田氏がパフォーマンスを担当することになった。ナンシー演劇祭は規模が並外れ、鯨を作り、運河を渡って、鯨を送るプランであった。少女が先頭に立ち、ロック歌舞伎スーパー一座が行進する計画であった。企画は市長が行ったが、中止になった。

萩原朔美氏は天井桟敷で寺山の『奴婢訓』を演出して活躍したが、『思い出のなかの寺山修司』で、名古屋公演について証言をしている。⁸⁾当時、名古屋の新幹線のガード下で、百円寄

席があった。高橋鎮夫は香具師の親分で、寺山を世話した。また高橋はてきやの親分で、大須の大道町人祭りを取り仕切った。ステージの第一回で、イントロとして町人祭りのときに、寺山は『奴婢訓』を上演した。高橋正樹は父親の回想記『他人になれない』（2001）でその経緯を触れている。

3. 春日井健は詩人であった。荒川晃氏は、「青春の日々に」で春日井との交遊を述べている。⁹⁾春日井健の劇を、荒川氏が演出し二村睦子が演じた。春日井は浅井慎平、須藤三男らと小説同人誌『旗手』を創刊したが、春日井は短歌1篇（26首）、短編小説3篇、戯曲1篇、テレビドラマ3篇を発表した。30代半ばで、演劇集団「グループ鳥人」を組織し、今池にあった演劇喫茶「ターキー」で自作『わが友ジミー』の旗揚げ公演をした。春日井の思いには寺山修司を意識した功名心があったばかりでなく自分好みの世界にただ熱く没頭して遊ぶためだけであったに違いない。寺山修司は早稲田時代に詩劇グループ『鳥』を結成したが、「鳥人」と「鳥」との符号をどう考えるか興味深い。春日井は1962年NHK テレビドラマ「遙かな歌・遙かな里」（小中陽太郎演出）を執筆し、後に創作オペラとして脚色されCBC ラジオ録音構成「愛の世界」で芸術祭奨励賞を受賞した。1984年11月現代短歌シンポジウムで寺山修司の「新・病草子」を構成し、演劇時代の友人松本喜臣のシアター・ウィークエンド座で上演した。なお上演ノートは「中の会」会報12号に掲載された。

4. 神宮寺啓（本名：高須啓一）は劇団クセック act の主催者である。神宮寺氏は学生時代、毎年東京へ度々観劇に行った。卒業後、1976-1977年の2年間スペインに遊学して、1970年後半のスペイン演劇に触れ、1970年代のヨーロッパの演劇を直に見た。

神宮寺氏は1960年から1970年代に寺山修司、鈴木忠志、唐十郎の芝居を見た。早稲田小劇場、新宿の花園神社、夢の島へ赴き、新劇に対するアンチテーゼとして新しい演劇に触れた。

神宮寺氏は舞踏家の鷹赤児氏が演じる身体の演技に感銘を受けた。鷹氏が南山大学で、1969年、掘っ立て小屋で舞踏を披露した際、神宮寺氏は舞踏のショックを受けた。鷹氏は巨大な人で、スペイン、ゴヤ、特に、ロルカについて語ったとき神宮寺氏は強烈な衝撃を受けたのである。

神宮寺氏は、鷹や土方巽の表現する身体を見ながら、舞踏のあり方、身体論とは何かを考えた。新劇は、物まねであり、翻訳して、西洋演劇を移入しただけだと思った。従って、神宮寺氏は西洋の演劇をアンチとして捉え、日本人の身体、日本の言葉、生のものを表現する人、そして、背景や小道具として、畳、炬燵、障子を考えドラマを構築した。

唐十郎氏が、宮沢賢治の『風の又三郎』を脚色し、野外のテント公演を行い、生の川、水、鶏を見せる演出に、神宮寺氏は感銘した。

また、寺山修司が、『大山デブコの犯罪』で、裸、化け物、大山デブ子の身体、仕掛け、大

道具を駆使し、同時に、ポエティックで、しかも、演劇に対してアンチであり続け、隠蔽されたものを掘り出し、それを観客にリアルに見せ、詩的な世界にまで高めてみせたのが神宮寺氏には強烈な印象となった。

更に、神宮寺氏は、鷹赤児氏や土方巽は舞踏によって、小道具+肉体を使い、舞台をオブジェ化した。舞台は言葉だけでなく、意味を伝える場所だと神宮寺氏は知った。つまり「それが感動をもたらす要因を劇として作り上げたのだ」と。

神宮寺氏は、「ヨーロッパで、アルゼンチン出身のバリエ・インクライン (Valle-Inclan, 1866-1936) がスペインのガリシアに移住した経緯を探求し、隠蔽されたもの、言葉とは何かを追及した。ヨーロッパでは、1960年代から1970年代の前衛演劇は、身体と共通である事が分かり、刺激を受けた。神宮寺氏はサラマンカ大学の文学部で、演劇論を学んだ。現代演劇を専攻したが、教授はスチル写真を使って、遺物ではなく、ものを見せた。神宮寺氏はものを通して、言葉を超えることを会得した。そして、何をしたいかを考え、結論として、インクラインを取り上げることに決めた。インクラインは、詩人で、劇作家で、スペイン市民であったが、ロルカが銃殺された同じ年に病死した。インクラインの作品は解読できないし、分からなかった。母音+…の言葉の解釈が難しかったという。神宮寺氏はインクラインの3部作を翻訳した。ガリシアは、ポルトガルの上であり大西洋側の一部で、ガリシア語が話された。ガリシアは風土を愛する。ガリシアには、インクラインの姪がいた。生家は、小高い丘の上であり、魔術的で、寺山修司の世界に繋がるものがあったという。神宮寺氏はインクラインの作品を、帰国してから上演する決意をした。

神宮寺氏は、名古屋池下にあるシアター・ウィークエンド座の松本喜臣氏に頼んで「舞台空間を使って演出したい」と申し出た。松本氏はOKし、承諾してくれた。神宮寺氏は、榊原忠美、服部公、吉田憲司氏らと共に、インクラインを二本上演することに決めた。神宮寺氏は、「観客の前でリアルなものを見せようとした。伝えるものは言葉ではない。例えば〈食べる〉一語にしても、きちんと〈食べたい〉と言う。というのは、〈食べたい〉という一言は、状況によって違ってくるからだ。〈食べたい〉は、〈飢え〉や異性と相対したときに変わる」とみなした。

神宮寺氏は身体を、飢えたもの、死と貪欲(金)と淫乱(セクシャル)として考えた。1978年インクライン作『神の言葉』では、男は、お金を使い、妻以外の女のところへ行く。そこで、母と子は飢える。遂に女は男を殺す。舞台化するときに「欲しい」、「食べる」を綺麗に言うのはつまらない。足がなくて、「食べたい」と言ったり、犬が「食べたい」と言ったりする場合がある。言葉は表面的ではないのだ。裏に意味がある。手がかりとしてグロトフスキの『実験演劇論—持たざる演劇をめざして』(Towards A Poor Theatre, Holstebro)を解読した。

神宮寺氏によると、「麿は、言葉を持っていて、言葉を立たせる。麿のタレントが、言葉を立たせた。身体でもって立たせた。しかも、麿は観客を切る。そしてドキッとさせた」という。最初、俳優は舞台を這う。あるとき、舞台稽古で、たかべしげこ氏が「高須、何やってんのよ」と言ったと述べた。次いで「彼女は、母役で、神宮寺氏は彼女に〈席を立たなくて良い〉と〈金くれ〉と言うように指示をだした」と語った。続けて「『神の言葉』には餓鬼と母が出てくる。二人はわめき、動く。衣装は、ドングロスを身につけ、顔の化粧は白塗りにして、表情を消した。他の俳優たちは、茶と黒塗りにし表情を消した。こうして公演をやり遂げた。次いで、『バプテストの頭』の稽古に入った」と語る。

神宮寺氏は若林彰とヨーロッパで出会った。若林と松本が知人であったおかげで、神宮寺氏は松本の舞台を使うことができた。その結果『バプテストの頭』をシアター・ウィークエンド座で公演した。だが、観客の90%が否定的だった。演出家の本島薫氏は「俳優が涎を垂らして演技したが何を言いたいのか全く分からなかった」と回想する。中には、アンケートで椅子の使い方に関心を持ち「こういう点を探求すべきだ」と、激励した。舞踏に関しては「寺山修司を真似している」と批判があった。

神宮寺氏は寺山、唐、鈴木を見続けた。神宮寺氏によると「彼らの傾向は、日本的で、能の世界、新しい能、現代能、歌舞伎の様式を取り入れたことだ。だが、やがて1989年早稲田小劇場から白石加代子が脱退すると、鈴木舞台を見ているもあくびが出るようになった。身体に関しては、別役実が理論武装し、殊に演出論に関して、1966年『マッチ売りの少女』で詳細に論じた。別役は1967年早稲田小劇場を離れた。論理的な別役に比べると、鈴木は演出論がいい加減だ。かつての鈴木演出には、動きがあったが、今はない」という。

つづけて、神宮寺氏は、「個人の視点でセルバンテス原作『ドン・キホーテ』を見ていくと、ペイソス、ユーモア、パロドックスを捕らえる事ができる」と語った。いっぽう、「インクランは、呪術的で、土俗を感じる。結局、日本語で上演したが『神の言葉』は、呪術的である事が分かり、舞台の状況の中で、どろどろしたものを表現した」という。「舞台の小道具が、芝居が進むに従って変わる。瓶が変わり、板が変わった。異形と呪術的なものを造形し、日本語のリズムと音声で表現した」と述べた。また神宮寺氏は「スペイン語だと、日本の観客には分からない。そこで、ビジュアル化して、音楽のジャズを取り入れた。また、狂言を使い、ビジュアル化を試みた。麿赤児や寺山修司の舞台化に見られるオブジェ化を掘り下げた。衣装と役者の動きを駆使し、更に、オーディオ・ビジュアル化した。しかも身体と舞踏で表現しながらも、言葉が入ってきて欲しいと考えた」という。

神宮寺氏が語ったことには、「1983年新栄にある芸創センターの柿落としとしてエウリピデス作『女王メディア』を演出した」という。そして「劇団クセック act と久保則夫とがプロデュ-

スし、磨赤児とたかべしげこが共演した。たかべは黄色い帯で身をまとい、照明と戸板を駆使して演じる演出プランを立てた」と述べた。

1988年神宮寺氏は水城雄作『エロイヒムの声』の踊りを上演し、1990年ニューヨークへ行き第3回I・A・T・I国際演劇フェスティバルの招待公演でゲルドロード作『死につばくれの舞踏会』を上演した。フラメンコと台詞「お金をくれ」をオーディオ・ビジュアル化した。

神宮寺氏は、ロルカ作『ドン・ペルリンプリンの恋』を1992年に公演したが、2004年の再演では分かりやすくした。迷宮の世界や物語を、オーディオ・ビジュアル化した。このようにして、神宮寺氏は寺山修司を整理し、やがて海上宏美や寺山から脱却した。海上は、寺山を脱却し、否定し、ビジュアル化し、しかも、役者を否定した。けれども、神宮寺氏はコンセプト的に、芝居を作っている。

神宮寺氏は「お金に関しては、演劇では食べていけない。シアター・ウィークエンド座で2本芝居を上演した。その後で、吉田憲司、服部公、榊原忠美らと、七つ寺共同スタジオで上演した。4人で20万円出資して、20万円×4人＝80万円、しかも客は30から40人位なので、公演関係者に給料を支払うことができない。劇団彗星'86の北村想は「食べていく」と言っているが、『寿歌』に出演した火田栓子は「食べていけない」と公言した」という。

神宮寺氏によると「演出家が現れたのは、1960年代から1970年代にかけてであり、演出家の時代と言われた頃だ。神宮寺氏は演出の基本にガリシアがあり、個人として、役者を考えている。演出は、野球でいえば、監督の仕事のパラレルとしてみている。監督は、試合を考えて、作戦を立てる。演劇と野球はプランの立て方に類似性がある。演劇では生ものを扱っている。だから、「嘘だろう」と分かる。榊原忠美が、そのつもりで演技をしてみても、観客が、感動しないとき、嘘だと分かってしまう。喜多千秋が、成功するとき、身体が感激を予想する。その感動を、足や手から、ビジュアル化して欲しいと思っている。演出家は、舞台全体を見、空間を捉えて、濃密にしていく。役者の動きを、客観的に捉えるために、役者の動きを見て動く。というのは、役者と自分とが動かないと駄目だからである。演出家は芝居をコンセプト化し、ムーブメントを組み立て、ビジュアル化して、役者にぼんと入る。演出時間はその間、僅か3秒である」という。

神宮寺氏は「名古屋の演劇を殆ど見ていない」という。「ともかく駄目な演劇を見極めることが肝心だと考えている」と語った。神宮寺氏にとって「役者と演出の関係では、役者が息を吐いているところから、分かっていくことが大切である。つまり、生理的に把握する事が大切である」という。

神宮寺氏は、「演劇と舞台の関係でいうと、『ドン・キホーテ』は、夢と現実の関係があり、その夢と現実とのコミュニケーションを構築することだ」と主張する。サンチョ・パンザとド

ン・キホーテとセルバンテスに関わることによって、複眼的に、ドラマを、成長させていく。演出家は、役者たちの関係性を、吹き飛ばし、他のエリアを犯し、増殖していかねばならない。異物に触れ、死に触れて、日常性を壊すのだ。演出する際には、グロトフスキが『実験演劇論』で論じているように作品には手を入れなしい付け加えない。そして、演出上の作家として脚色しない。¹⁰⁾神宮寺氏は、原作に忠実である。但し台詞の言葉を入れ変えたり、間を置いたり、群読したりするので、その点では、演出は、「原作と違っている」と考えている。

神宮寺氏によると、「1997年カルデロン・デ・ラ・バルカ作『人生は夢』の上演で、観客は、本には書かれていないシーソーを的確に捉えたという。オルテガ (Ortega) の『演劇論』(イデア・デル・テアトロ) を、サラマンカ大学で学んだが、オルテガは、「アートとは、劇場、建物、家の空間から、外へ出ることだ」と語り、演劇は、スポーツやサーカスと関わりがあり、「ピカソのキュビズムの空間を取り込む」と述べた。

また、神宮氏によると、「鈴木忠志は観客が、家を出て、遠い利賀村へ出かける事が演劇だ」と語る。さらに、「鈴木のコネクトはオルテガのコネクトと重なっていて、劇場空間は、モァーとした得体の知れない領域で、言葉によって、異物を現出させる場だ」と述べた。つまり、「何も動かないものから立ち上がってくるものを見てもらいたい。それには、等身大の役者が見える300人収容の劇場演劇空間が大切である。リアルといってもただ単に写実では駄目だ。新劇の舞台は、芝居前と後で変わらない。また、絵は演劇である。舞台から一枚の絵が浮かびあがってくるのだ」と主張した。

神宮寺氏の考える演劇『人生は夢』は、正統派の演劇であり、デフォルメして美学を見せる。神宮氏によると、『『ドン・キホーテ』は、『ナボコフのドン・キホーテ講義』にあるように、ピカレスクである。『ドン・キホーテ』の演劇は、寺山の演劇と共通して、民衆的であり、的確に言うべきことを表現している。ビジュアルに、ダリの異物、怪物、美術を構築し、日本のものとしては、三島由紀夫を、美学者として、アートの視点を入れ込んで書いているところに注目している」という。

また、神宮寺氏の考えでは「声については、その音質で、悲しいとかうれしさを表現しなければならないから、耳が良くないといけない。タカベシゲコは、耳がいい女優だ。演出の際、生理的に、役者の声を捕らえ、手を抜いているかどうか見極め、声の音質を身につけているかどうかを見極めねばならない。俳優に「ひらひら」と言えと指示する。役者はその言葉の行動を映像化し、更に、その言葉と格闘して、日本語の持つ「ひらひら」の音感を表現する」という。かつて神宮寺氏は、「大田省吾が『舞台の水』で説く言葉に関する完成度に躊躇した」と語った。つまり、「血で水に、言葉を「ひらひら」と書くのだという。役者は血で水に書いて言葉を表すのだ」と述べた。

神宮寺氏には演出プランはあるが、時々役者に引っ張られる事がある。つまり「悲劇を最初から悲劇として造形しては駄目である。デフォルマシオンによって、とんでもないところへいくからだ。常にスペインとは何ぞやと、神宮寺氏は考えている。フラメンコには歌が要である。しかも、歌手が歌うのを聞いてから足を出し「アー」と言いながら魂に触れアクションに入るのだ」と神宮寺氏はいう。

また、神宮寺氏は「スペインのニヒリズムは、スペインに支配的で、アナーキーでニヒルな国民性にある。スペインは情熱的で、むちゃくちゃである。ストの間は、ゴミが、山積みになるが、ストが解除するとゴミがなくなる。ゴミは、捨て去られるが、身近なものだ。ゴミは民衆の生き方とまる。民衆の生き方がスペイン人のニヒリズムに現れる」と語った。また、「フランツ・カフカや『ドン・キホーテ』に共通するものは、コミュニケーションであり、共生の美学である」と述べた。更に「2005年の愛知万博では、スペイン政府が、万博委員会で、イベントとして、クセック act が、芝居を、3時間上演する企画を立て、芸術文化小劇場で『ドン・キホーテ』を上演することになった」という。「2005年は1605年に生まれたセルバンテスの生誕400年にあたるので、英文の『ドン・キホーテ』を用意し、シンポジウムを行った」と述べた。

神宮寺氏は、田尻陽一氏とは、スペインのアラバールの劇を七つ寺共同スタジオに観に来たときに知り合いになった。10年後、田尻氏に翻訳を頼み、以後田尻訳を使うことになった。

神宮寺氏は「スペイン風に、三島由紀夫の劇を、クセック act で上演したい」という。また「名古屋は、横の関係で仲良しであり、横並びになって、組んでやる傾向がある」と語る。だが、神宮寺氏は、「彼らと組めない」と断言する。どうやら神宮寺氏は自分の演劇を直接世界に発信しているようだ。

03. 新劇の浮き沈み

1. 劇団名芸が2004年4月9日創立40周年を迎え、清水邦夫作『楽屋』を名芸平針小劇場で上演した。栗木英章氏が『楽屋』を演出し、次いで韓国のマサン国際演劇祭に参加した。『楽屋』はシェイクスピアの『ハムレット』『マクベス』やアントン・チェーホフの『かもめ』『三人姉妹』のパロディである。かつて清水の作品を演出した蜷川幸雄が三島由紀夫の『卒塔婆小町』を上演し幽玄の世界を見せたが、名芸は『楽屋』で独自の幽玄の世界を引出した。

名芸が1992年に上演したチェーホフの『かもめ』を見たが、ロンドンのナショナル・シアターで観たジュディ・デンチ (Dench, Judi) が演じる女優イリーナの演技には及ばず失望したものだ。ところで、『楽屋』は、名芸が飛躍的に変身して良い芝居を作り上げて見せた。2003

年栗木氏は『ほたる追想』『ほうせん花』『風に紡ぐ』『みどりの唄』で日本人の言霊を重要なマチエールとして使ったが、劇全体が説明的で霊の存在が希薄であった。『楽屋』では幽霊役が味のある演技を見せたので見物であった。

さて、1962年「でくのぼうの会」として産声をあげた「名芸」（1970年に改名）であったが2014年、創立50周年を迎え、11月3日、4日の両日には天白文化小劇場で「二人の長い影」（山田太一作）を上演した。

2. 劇団うりんこは、2003年8月22日、名古屋の東文化小劇場でジリアン ルビンスタイン作、ピーター・ウィルソン演出で『ムーンプレイ』を公演した。ルビンスタインの言葉をウィルソンがパフォーマンスに変える作業ばかりでなく、言葉を光や音楽に変えた演出をした。劇団うりんこは、2004年ゲアリー・ブラックウッド（Blackwood, Gary）の小説『シェイクスピアを盗め！』（*The Shakespeare Stealer*）を安達まみが翻訳し、山崎清介が脚色し演出した。前評判では初演の劇構造をかなり手直したと聞いていたが、先ず再演を見終わって感じたことは「これは改作ではなくて新作ではないか」という印象であった。

初演では、児童劇団うりんこらしく、少年ウイッジと青年ニックが中心となり『ハムレット』の原稿を盗もうと躍起になり大立ち回りを演じスピーディに物語を発展した。その結果、二人の若者が劇を動かし、周りの役者たちは二人を支えた。再演では、うりんこの俳優たちは、実在人物のバーベッジ、ヘミングス、アーミンらを細かく調べて演じていたが、その成果はうりんこが大人の劇も上演できる劇団であることを示した。

3. 劇座は20周年公演『やっとかめ探偵団』を清水義範原作、麻創けいこ脚色、小田精幸演出で、2004年4月名鉄ホールで上演した。忘れ去られていく名古屋弁を聞きたければ『やっとかめ探偵団』を観に行けば耳にする事が出来る。そんな郷愁にも似た感情を提供する劇場は、地元の名古屋でも、珍しくなりつつある。天野鎮雄氏の回顧録「Aの話」によると1989年『フィガロの結婚』の「本読みをしたのですが、何度読んでも演出の気に入らず、とうとう名古屋弁で読んでみようという事になって、やってみたらこれが意外とエネルギーがあった」とある。つまり記念公演のメインは、スター俳優や舞台装置でなくて、実は、「チャッチャとまわしせなかんよ」という台詞だった。幕が降りた後、観客の心に残るのは心に優しく響く下町言葉だ。だから、名古屋弁で劇を上演する劇団として創立した劇座が、今後も、地元の観客に名古屋弁を聞かせ続けて欲しいのである。

近年、劇座は、シェイクスピア・リーディング・シアターを企画し『ジュリアス・シーザー』『ヴェニスの商人』で劇座スタジオ・俳優館スタジオ共同企画公演を展開している。

04. 名古屋のアングラの趨勢

現在活躍している劇作家たちは不条理劇が多い。本島薫氏が椋山女学園と愛知淑徳大学の講義で学生たちに劇評を書かせたところ殆ど不条理劇だったという。この傾向は10年前とは明らかに変わったという。

二村利之氏は「北村想の演劇は七十年代の社会現象ともなった」¹¹⁾と述べている。北村想と宮沢賢治との関係は吉本隆明の『悲劇の解説・宮沢賢治』『死の位相学』を通して解説できるが、安住恭子氏は『青空と迷宮』（2003）で、北村の鬱病と宮沢賢治の病との関わりを解き明かしている。

1. 北村想の『寿歌』（1980）が核戦争後の世界を現した近未来的な不条理劇である。だが、『処女水』（2001年）や『青いインクとトランクと』（2003）も近未来を予測しているが、むしろ、現実とは過去と強く繋がっている。しかも過去は亡霊の装いをしているが現実の人間の心と繋がりがあがる。北山とはせひろいち、重いテーマを軽やかに扱っている。けれども、北村の描く人物は霊をものともしないふてぶてしさがある。だが、はせの描く人物は霊に対して幾分感傷的である。北村は、自らテキヤと呼んでいる。『寿歌』のゲサクは行商人である。荷車は劇場がなかった時代の演劇を表している。北村は、旅芸人の苦勞を、七ツ寺共同スタジオで具に見て身につけた。北村は七ツ寺の旅公演を通して自分のドラマツルギーを会得したのだ。ゲサクの話し相手はキョウコで、道中一緒になるのは、ヤスオである。北村は坂口安吾と太宰治の愛読者であったから、哲学とフランス語の関心は強かった。また「酒と女と病気」¹²⁾のコンテキストから、北村の戯曲は病氣と女と借金の三重苦から生まれた作品である。北村が神聖な世界を面白おかしく描くのは、彼が劇を病の癒しとして見ているからであろうか。また北村の戯曲にはテキヤの裏表から虚実を見る視点がある。「虚、虚構、虚無、虚空、空中楼阁」を論じる北村の論理にはアルベール・カミュの壁とつながりがあり、名古屋にしながら異邦人的感性を看取したのではないか。更に北村はギルバート・キース・チェスタトン（Gilbert Keith Chesterton）の『正統とは何か』を解説し、舞台の嘘と観客が神であると見抜いた。だが、北村は「演劇は正統に優れたオモチャ」（98頁）と解釈し「芝居はオモシロイかオモシロクナイかのふたつに一つである」（99頁）と峻別する。北村の語り口は実際聞いていて面白い。殊にテキヤの物真似を聞いていると、北村の劇の核になっているのはテキヤの呼吸ではないかと思ってしまう。また、北村が吉本隆明の『マチュー試論』に傾倒した態度から、北村のキリスト教観が浮かび上がってくる。北村は「男は護身のために少年であろうとする」（48頁）と書いているが、芸術文化小劇場での吉本との対談で、北村は少年のようであった。或いは北村は、寺山修司とて「観客が役者に指示して芝居の流れを変えてしまうなんてことはない」（74

頁)と書いている。つまり、寺山は『邪宗門』を観客の手によって書かれる芝居に構築しているが、北村は観客には芝居に手が出せない筈だと言っているのだ。更に北村は「唐さんところの芝居を見た時にね、好きだったです」(40頁)と述べている。北村が、唐を通して宮沢賢治へ傾倒していく手掛かりをここに見て取る事ができる。更に北村が磨赤児の暗黒舞踏よりも磨の人柄、「あの人はオヤジなのだ」(207頁)に関心があったというが、そこには両者の資質の違いが現れている。北村は、唐、寺山、鈴木の影響を受けた筈だが彼らのエピゴーネンにならなかった。

2. はせひろいち は『高野の七福神』を2004年8月、民芸で上演した。はせ氏は市民の日常生活を丹念に描く。その平板な日常生活者の語り口は、霊が登場する時に効果を高めるための装置である。はせの近未来劇はノエル・カワードの『陽気な幽霊』よりも北村想から光源を得ている。但し、北村氏ほどの軽さはない。また、はせ氏の会話は日常と霊とのコントラストがなければ極めて写実的な会話である。はせ氏は2004年5月港文化小劇場で『動物ダウト ver. 04』を公演した。動物園の檻の前で働く人たちが、動物を監視する立場から、動物に監視される状況への逆転を、登場人物と観客を巻き込んでみせた。人間が、現代の管理社会のからくり気づかないおかしさを、どうにもならない日常の苛立ちと共に暴露する。人間と動物の立場を真逆にするのは、檻の中の動物が霊として出入りを自在にする瞬間である。檻は人間たちの心を閉じ込めるシンボルとして使われているが、人間たちは檻に閉じ込められていることに気づいていない。はせ氏は、檻を揺すぶらず、あくまでも、人間には見えない壁として使っている。だが、アントン・チェーホフが劇で描いたロシアの崩壊を悲喜劇的に見せた衝撃は伝わってこない。だから、檻はいったい何のためにあるのか、いっそ、終幕で、檻を崩壊したほうが『桜の園』のように劇の本質が明らかになったのではなかったかと思われた。チェーホフの『桜の園』の終幕では、以下のト書きで示されたように不気味な音が鳴り響く。

*There is a far-off sound, as though out of the sky, the sound of falls, and there is heard only, far away in the orchard, the thud of axes striking on the trees.*¹³⁾

バーナード・ショーは、『傷心の家』の結末で、チェーホフの『桜の園』を大英帝国の崩壊に変えて描き、ドイツのツェッペリンの空爆で終わっている。けれども、近年、ブラックホールや銀河系宇宙の死滅によって地球の崩壊が予知されるようになった。だから、むしろ、チェーホフが『桜の園』の結末で崩壊を象徴的に暗示したイメージの方が今尚劇的な力を持ち続けているように見える。

3. 天野天街は映画や漫画の手法を、舞台上に画面として定着させようとしている。映画や漫画のように役者や舞台装置を素早く転換することによって、観客は、映画や漫画を見ているように舞台を見る。天野氏はパブロ・ピカソが舞台を絵画化したように演劇を根本的に変えよ

うとする革命家だ。台本は設計図である。文字をプラカードや映写幕で写したりして、漫画を読むような仕掛けで劇が出来ている。また天野氏の漫画的な言葉遊びは、北村想氏にも見られるが、ストイックな表現が特徴である。

天野氏は2003年七ツ寺で『それいゆ』を上演したが、幕開きで仕掛けた眩しい光線は、原爆を象徴している。廃墟と思しき舞台で、観客は物語を探し始める。だが役者は自動速記のように語り観客を寄せ付けないのでいつの間にか言葉の迷宮に紛れ込んでしまう。仕掛けは役者が話す早口言葉を群読コーラスの中に埋没させてしまうからくりにある。なかには大声で自己主張するキャラクターがいるが同じ台詞を繰り返すという罫に嵌まり込み迷子になっている。また言葉の意味を掴もうとすれば同音異議語や擬音で否定される。書かれた文字や映写幕で写した文字を多用するが、四次元の舞台を否定する装置として使っている。殊に台詞の文字化は役者から言霊を奪い舞台を虚無化している。俳優は作者に踊らされるロボットにすぎないのだ。役者を徹底的に人形化する方法はゴードン・グレイグの超人形を思わせるが、劇の狙いは不条理な笑いにある。確かに天野氏の舞台は思想が渦巻く映像のようで、サミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』を思わせるが、ベケット固有の遊びが見られない。ベケットは『ゴドーを待ちながら』の冒頭でウラジミールとエストラゴンの不条理な会話を交わす場面を現しているが、アイルランド人固有のおかしさにあふれ観客は不意をつかれたように思わず笑い出してしまう。

VLADIMIR: I'm glad to see you back. I thought you were gone for ever.

ESTRGONE: Me too.

VLADIMIR: Together again at last! We'll have to celebrate this. But how? (*He reflects.*) Get up till I embrace you.

ESTRGONE: (*Irritably.*) Not now, not now.

VLADIMIR: (*Hurt, coldly.*) May one inquire where His Highness spent the night?

ESTRGONE: In a ditch.¹⁴⁾

結局、天野氏の舞台は模倣を退けベケットのユーモアさえ認めず瞥えるならグリの絵を四次元の舞台に再現した作品として輝いている。つまり天野氏のストイックな舞台はオブジェとしての硬質で詩的な言葉しか必要ない。だが辛うじて甘い音楽が舞台に鳴り響き観客に妥協の手を差し伸べている。

ITO プロジェクト 糸あやつり人形芝居「平太郎化物日記」が七ツ寺共同スタジオで2004年7月16日から18日迄上演された。天野氏は『平太郎化物日記』でとうとう舞台から俳優を排除してしまった。今度は、役者の代わりに糸操り人形が登場した。天野氏が人形劇に挑戦したというよりも、むしろ劇の既成の観念を破壊した挙句に人形劇に到達したと考えてみたくなっ

た。グロトフスキは『実験演劇論』で「演劇はテクノロジーの面では依然として映画やテレビに劣ったままであろう」(93頁)と述べた。天野氏はこれまで舞台の既成概念を打ち破ろうとして舞台転換をより複雑でより迅速にこなして視覚的効果を造形してきた。台詞をプラカードで見せたりモニターで表示したりして映画や漫画を見ているような錯覚を産み出した。そして、とうとう言葉を発することの出来ない人形に到達した。おまけに、人形は人間と違って変幻自在で大きくもなり小さくもなる。天野氏は舞台を、映画や漫画のように面白くする方法を考えて人形劇に至りついたので。天野氏の新しさは漫画を舞台化したのではなくて、舞台をアニメーション化して見せたことだ。

『平太郎化物日記』は人形劇であるからナレーションが復活し、天野氏の象徴詩的な劇風は影を潜めた。時代は江戸中期の1749年7月のこと、備後の国の稲生家に化物騒動がもちあがるが、平太郎が16歳という設定のおかげで少年が異界の世界へと旅立つ気配を感じさせた。平太郎は禁じられた古塚に触り、毎夜妖怪が平太郎の家を襲う。妖怪が次々と現れるが、物語を追いかけることは控えめである。むしろ鉄のお化けや芋虫の踊りを見せてシュルレアリスムを純な子供の心に置換してみせた。過剰なお化けの洪水は見ているうちに眼底が痛くなるほど舞台にあふれ、リフレインの多いマンレイのフィルムを見ているような錯覚を呼び起こした。カーテンコールで終幕まで隠れていた人形遣いの黒子たちが一斉に舞台に現れたとき、小さな人形の顔と人間の顔とのサイズの違いによって、見慣れた人間の顔が異様な怪物のように見えた。人間はもっと怖い存在だというパラドクスなのか。劇場は異界空間だ。子供の頃、芝居小屋そのものが妖怪の住処のように思えたものだ。天野氏は『平太郎化物日記』で、七ツ寺の小屋そのものを化物小屋にして見せた。

天野氏は『真夜中の弥次さん喜多さん』(2006)以降の活動は、流山児事務所と共同公演で寺山の『田園に死す』『地球空洞説』『レミング』の脚色演出を手掛けている。

4. 佃典彦は『消しゴム』(2003)『人間の証明』(1997)『ある朝、10時ごろ』(1999)『Sの背骨』(2004)でベケットやカフカをコピーした不条理の世界を劇化している。だが別役実ほどの毒や鋭い笑いはない。本島薫氏によれば、「別役から佃まで総じて日本製の不条理劇はウェットでベケットやエドワード・オールビーやウジェーヌ・イヨネスコやルイジ・ピアンデルロ程のドライさが無い」という。佃氏のB級遊撃隊が姫池052スタジオで2004年4月『Sの背骨』を公演した舞台はペットショップである。檻の中には「S」という名の珍獣がいる。そこに集まった女性は人生を踏み外した敗残者ばかりである。まず、女性のピエロが舞台中央にいて、突然、「宝石を泥棒してきた」といって、舞台奥へと立ち去る。舞台は、バブル崩壊後の日本を、鳥獣戯画風のアニメーション仕立てで諷刺している。仮装行列から帰ってきた女主人や鬼に扮した女性がわめきたてる。実は「S」はペット屋の主人である。だが、この亭主が

商品となったところに、この作品が持つ諷刺がある。しかし、この怪物を買って子種にしようという雌アザラシが逞しい。このアザラシは檻の中の「S」と交尾して妊婦となる。すると、今度は、女家主は産科病院の看護婦に転身する。彼女は社会を泡のように漂いながら生きているが、奇妙に明るい。だが、この明るさは、怖い。

佃典彦氏の『ぬけがら』(2006)は蟬の抜け殻のように脱皮して生命を更新してゆく。ホルヘ・ルイス・ボルヘスの『不死の人』やバーナード・ショーの『メトセラに還る』にある生の更新を思わせた。

5. 愛知人形劇センター主催『オブジェクトパフォーマンスカレッジ』が舞台美術展公演として2004年04月、演出・木村繁氏による『裸海—LAKAI—』を、千種文化小劇場で上演した。巨大な紙と俳優とのコラボレーションによって劇が誕生する。進行するに従って巨大な紙と黒子達とのバランスが微妙に変化する。実際には、人間は黒子なので、巨大な紙が重要な働きを果たす。やがて静止した巨大な紙が動き始め、巨人の形となる。パンフレットの詩によると、巨大な紙は「無言の顔達」である。巨大な紙が「無言の顔達」と分るのは、巨大な紙が巨大なペン先にひっかかり散り散りに破れて、遂には、細かい人間の形をした紙切れとなり舞台上に撒かれるときである。

舞台は役者が作る芸術だけではなく、照明がオブジェを変化させて生み出す現象芸術でもある。2回の公演をモニターと観客席で見比べると、イメージを舞台化する仕事は舞台装置家の手中にあることが分かる。グレイグの舞台では俳優は超人形に過ぎない。だから、最上の観客は舞台を見守る展示品のマネキン人形たちであり、観客は排除されモニターで舞台を見るしかない。本公演の後、利賀フェスティバル2004に参加した。舞台装置家の島崎隆は、展示品のマネキンのない舞台効果は半減したという。

木村繁氏が井上ひさし原作の『父と暮らせば』(2014)を演出したが、人形と声優が俳優として共演する人形劇であった。ロンドンでストリンドベリの『幽霊ソナタ』がマリオネット公演されたことがあった。同公演で、声優が舞台上に現れ俳優として人形と共演するファンタスティックな人形劇を上演した。木村氏の『父と暮らせば』はロンドンでのストリンドベリの『幽霊ソナタ』と同等の美を四次元空間を越えて五次元空間の舞台上で現して見せた。

6. 俳優館の『アル・ハムレット・サミット』(*The Al-Hamlet Summit*)が俳優館スタジオで2004年7月15日に上演された。名古屋伏見にある俳優館スタジオは息が詰まる狭い取調室のようだった。舞台には椅子とパイプと幕以外何もない。ただ戦争という狂気だけが極限状態から滲み出てくる。耳を打ち抜く言葉の弾丸が未だ聴いたこともない現代音楽のように頭を裂く。

クウェートの作家アルバッサム (*Al-Bassam, Sulayman*) はシェイクスピアの『ハムレット』

を翻案してイラク戦争を描いた。デンマークはクウェートに変貌しフセインに攻撃される。ハムレットは父王の急死を知り英国留学から帰国する。だがクローディアスが王座を奪いオイルを独占した後だった。ハムレットは人民解放軍に接近するが武器商人に操られ分別を失う。

演出家の宮崎真子氏は『アル・ハムレット・サミット』をどんな素人の劇団であれ、上演すると聞いたら、世界の果てでも出かけて行って演出する」と語った。殊に、『アル・ハムレット・サミット』は名古屋では殆ど見ることのできない鮮烈なエネルギーの迸りを感じさせた。宮崎氏の魔術によって、『ハムレット』の宮廷物語は『アル・ハムレット・サミット』の中で古ぼけて見えた。

宮崎氏は渡英してアラン・エイクボーンに師事し、『ロミオとジュリエット』やオペラ『マクベス』を演出した。彼女の師匠が千田是也であったから、プレヒト風のシェイクスピア劇を造るのに奇を衒う必要はなかった。彼女の思いには「この戯曲の根底にある、人間が傲慢になることへの批判と現実を直視する厳しさを伝えたい」という意気込みがあった。宮崎氏のコンセプトには「舞台には役者を見つめる神性がある」という視点があるから舞台を誤解しかねない。終演後のアフタートークで俳優たちの顔から緊張感の剥落を見た時、宮崎マジックに触れたと感じた。東京国際芸術祭でイラク人による同じ劇を見た小林かおり氏は「俳優館の演技力は比べようがないほど貧弱であった」という。だが俳優館といえば児童劇の劇団を連想するが、戦争未体験の俳優たちが、現実のイラク戦争から想を得た劇を上演したのだから衝撃的であった。

ミドルセクス大学演出科のレオン・ルビン教授はベルファストで演出した体験から「戦時下の演劇の重要性を今日の演出家は忘れている」と述べた。2003年、同教授は文学座で『リチャード三世』をベトナム戦争に移して演出した。いっぽう、アルバッサムはクウェート人の父とイギリス人の母とのハーフであり、異質な世界を漂わせ、容易に解釈を寄せ付けず、辺境を拡大して見せる劇作家だ。アルバッサムの劇は吉本隆明の『マチュー試論』を読んだクリスチャンを激怒させた新しい地平の広がり、今まで全く存在しなかったシェイクスピアの政治劇を見たという眩惑を目覚めさせた。宮崎氏は異界のアルバッサムを解読し、名古屋の俳優を使ってハムレットの真髓を劇化してのけた。

俳優館は2013年『新劇百年』を連続講演した。中でも、太宰治原作、木村繁演出の『冬の花火』は俳優から所作を奪い、生の俳優を人形化してしまった。簡素化したステージは歌舞伎から人形浄瑠璃に逆戻りするような不安を惹き起すが、俳優から生命を奪い人形化するので斬新なアヴァンギャルド劇を観ているような不思議な感覚に襲われた。

05. まとめ

名古屋の演劇の未来について、元名古屋演劇ペンクラブ会長・河野光雄氏は、「名古屋文化情報」の2004年の6月号で、栗木英章氏が、「名古屋の劇団が300以上ある」と指摘した点に触れ、劇団の旗揚げ数は計算できるが、解散数は計算出来ないという。アクテノンが纏めた練習記録を見ると、277の劇団が利用した事が分かった。各劇団の評価は県と市の受賞者を獲得する事が評価の基準となる筈だ。演劇は東京のコピーは駄目で、その繰り返しは良くない。現在、名古屋で著しく活躍しているのはロック歌舞伎スーパー一座、名古屋むすめ歌舞伎、クセック act、少年王者館などだ。劇団は、作家や演出家を持ってないと駄目で、俳優に関して、例えば、女性劇団には、強さと弱さが共存している。江崎順子は、劇団夏蝶は2回の公演活動で名古屋市民芸術祭賞したが、現在は一人舞台を行っている。また、劇団演集は、50年の歴史があるが、芯の人、松原英治を失うと翳りが出る。かつて宇野重吉は劇団一代論を唱えた。実は日本には、国立演劇大学がない。劇団形態は、名俳（1965設立）の岡部雅郎や俳優の若尾隆子や小林ひろしらによれば、「ロシアとは違う」と主張する。つまり、「国立演劇大学がないのは日本固有である」という。名古屋には、劇団の養成も、演劇論も、実技もないし、批評史や批評家の不在、制作者もないところに問題点がある。坂手洋二は、彼の劇団「燐光群」では制作者が、企画を立案し、客観的視点から劇団を運営しているという。二村利之氏は、七つ寺共同スタジオ経営に当たり、赤字の解消を挙げた。劇団は、公演で、観劇料を100人分×5回と換算し、100万円を用意しなければならない。また脚本料や出演料を加えると、200万円かかる。従って、マイナス100万円の赤字をどのように解決するかという金銭的問題がある。演集は、アマチュア精神で劇団を運営し、芸術至上主義であるが、木崎祐次氏は、生活できる劇団を目指した。演劇人は、殊に、女性は、行政に期待する傾向が強い。だが先ず自分達の努力を優先し、劇団の運営方法と芝居作りを考えることであろう。名古屋学生劇団協会は、大阪合同作品で8回公演し7千人動員したという。先ずワークショップで、技術をレベルアップし、上演していくことだ。今後の問題提起として、以上のことを考えてゆきたいという。

元名演会長の故宇都宮吉輝は30年前名演会館ができた後になって、次々と小劇場ができたという。当時1万人会員を目標に、1万円会費によって、名鉄ホールで上演を行った。その後1988年に市民会館設立運動を起こした。松原英治も指摘したように、名古屋には独特の後進性がある。エポックとして、天野鎮雄氏の劇座の公演を、地元例会として組み入れた事がある。木村光一の演出によって、一種の木村学校の環境を作り、たかべしげこや山田昌が成長した。支援する組織が大切で、名演がその仕事を担っている。木村光一の後継者として、文学座の西川信廣に期待している。西川に各劇団の研究所の卒演で演出してもらおうのはどうか。ま

た、演劇学校を作るべきであるが、行政の遅れや文化的な遅れなどで実現できない。しかし、名古屋は、芸事が盛んで、日舞やバレエが目覚ましい活躍をしている。従って民の力はある筈である。現在名古屋には3百近くの劇団があるが、政治の支援が望ましい。例えば、ひまわり支援などがあるが、デザイン博に力を入れるほどではない。名古屋は産業都市であり、メセナなど潜在力があるわけだから、都市としての文化を育てる事が望ましい。また水野鉄男の演劇活動や舞芸の仕事や松原英治の実務を見習い、劇作家、小林ひろしと宇都宮吉輝が、名演で、その仕事を築いてゆくのが望ましいという時代があった。

名古屋で活躍中のスーパー歌舞伎とクセック act と鈴木林蔵氏らは、海外での公演から得た経験を名古屋で花開かせた。小山内薫や坪内士行が海外で得た体験を東京や宝塚で花開かせたように、鈴木氏や岩田氏や神宮寺氏が海外公演で得た活力を地元の名古屋で活かしている。殊に、寺山修司の海外公演と鈴木氏や岩田氏や神宮寺氏らの海外公演とは関連性がある。また、佐久間広一郎氏は海外の演劇と交流しリアルタイムで名古屋の演劇を世界に発信している。

本島薫氏がかつてアメリカでエドワード・オールビーに会い、不条理演劇を学び、その成果を名古屋のαの会で公演して纏めた『コトバ、ことば、言葉』に、耳を傾けるべきときだ。本島氏はハロルド・ピンターの『昔の日々』『背信』『かすかな痛み』などのアヴァンギャル劇を連続上演し薄明の名古屋の宵に孤高の光を灯し続けている。

本島氏はピンターの『昔の日々』でアナの台詞は不条理であるが、あくまでもリアルな現実の視点から以下のように話す。

ANNA: There are some things one remembers even though they may never have happened.¹⁵⁾

本島氏は、『昔の日々』(2010)や『背信』(2011)の演出・上演で新劇出身の女優内藤美佐子氏や近藤未緒子氏を使い、ピンターの不条理な世界を演じさせた。内藤美佐子氏や近藤未緒子氏は『昔の日々』(2010)や『背信』(2011)で不条理な世界に転身出来た。だが、その後、他の芝居では彼らは元の新劇風のドラマツルギーに戻ってしまった。本島氏の演出を乗り越えて独自の演技が出来るように期待されている。だが、両人は、新機軸を示す演技に到達したと思われず、技術的にも上手く演技が出来るようになったとは思われない。やはり、ピンターのドラマは綿密な訓練を受けて身につけなければ、特殊な不条理劇の世界は容易には身につかず、直ぐ忘れてしまうようだ。近年、佃典彦氏は『朝顔』(2014)で『昔の日々』の戦前の英国文化を現代の日本化することに成功した。つまり佃氏の『朝顔』はピンターの模倣とは思わせない現代日本の日常を完璧にドラマ化した見事な実例である。

劇団あおきりみかんは鹿目由紀氏が演出家、劇作家、俳優を務める理想的な劇団である。近年、鹿目氏自身が円熟期に入ってきたせいか、荒削りで若者特有の勢いが影をひそめてきた。英国のウェルメイド式のドラマは鹿目氏にも見られてきたが、しばしばよくできた芝居だがち

んまりとしていると批判される。

鹿目氏は『身辺生理』（2014）でファンタジーを発展させた極致な芝居を示した。『身辺生理』はサン＝テグジュペリの『星の王子様』を、もしも観客が意識しなければ気付かないほど日本化している。さて鹿目氏はかつて寺山修司の『ある男、ある夏』を演出した。それは「演劇大学2009 in 愛知」のドラマリーディング実践講座『寺山修司』のイベントであり、鹿目氏は『ある男、ある夏』のリーディング公演と、青井陽治監修・宮谷達也演出による『ある男、ある夏』の連続公演があった。日程は11月6日（金）から8日（日）で、主催は日本演出者協会であった。

寺山は『ある男、ある夏』に『星の王子様』から実に多く引用をしている。しかも、寺山は『星の王子様』から影響を受けて『星の王子様』を劇化したばかりでなく、次々とその変奏曲の『毛皮のマリー』『青ひげ公の城』『中国の不死愚な役人』などを書き続けた。鹿目氏は『星の王子様』から影響を受けて『身辺生理』を劇化していることは確かだ。しかも鹿目氏は『ある男、ある夏』を経由して無意識に『星の王子様』から影響を受けて『身辺生理』をドラマ化したようだ。

また『身辺生理』のラストシーンでは遺影が何枚も並べられ、しかも遺影の本人である役者が舞台を動き回っている。このラストの場面は寺山の遺作『さらば箱舟』のラストシーンで、百年後の村人が記念撮影で写真を撮ってスクリーンに写る姿がある。実は、その写真は百年後ではなくて百年前の祖先の若き姿が写っていた。鹿目氏の『身辺生理』では役者は今まさに死に備えて身辺整理している。だが、舞台上に用意された遺影写真は既に永遠の死を生きていることを観客に見せた。鹿目氏にして見れば、身辺整理して遺影を用意しただけのことだと思うが、一枚でなくて何枚も遺影を舞台に並べられると、生の人間は束の間の生しかないが、写真は永遠の死を、ちょうど人形が永遠の死を生き続けているように、死を生きているように思われたのである。

劇団あおきりみかんの鹿目由紀氏が若者特有の勢いがあるが荒削りであると批評された時代を彷彿とさせる劇団星の女子さんや刈馬演劇設計社が盛んに新作品を舞台化している。劇団星の女子さんの『ハトビト』（2014）はルイス・キャロルが『アリスの不思議な冒険』で動物と人間をセットにしたメルヘンの世界を名古屋の大須観音境内の鳩と人を一体化して、ルイス・キャロルの亜流ではなくてオリジナルのあることを日本人のリアルな生活空間にドラマを舞台化して見せた。劇団星の女子さんや刈馬演劇設計社が成熟して劇団あおきりみかんの再来を実現してくれるのを期待されている。

演劇組織 KIMYO は『リトルモアプーキッシュ』（2014）の上演で、悲劇『ハムレット』の「ゴンザーゴ殺し」の場面を、パワフルな歌と踊りで喜劇にリメイクしてのけた。というより

か、むしろ『リトルモアプーキッシュ』はむしろよくできたウエルメイドでありエンターテイメントなミュージカル・パロディに仕上がっていた。

俳人の馬場駿吉氏は、「たとえ新しい切り口でアートを発見しても、次の瞬間全く未知のアートを切り拓かねば元の本阿弥になる。芭蕉さえ、たとえその句が新結合を紡いだ直後であっても、次の瞬間には全く新しい発想で俳句を産まねば、その句自体も古くなる」と語る。つまり名古屋のアーティストは常に芭蕉の「不易流行」を求められているのであり、そのわけは、名古屋は蕉風が吹いた由緒ある土地であるからである。¹⁶⁾

注

- 1) 谷口幸代「名古屋の文学—俳人・馬場駿吉の見た名古屋」(『名古屋の観光力』、風媒社、2013) 60-82頁参照。
- 2) 唐十郎「アングラの源流を探る①」(第二次シアターアーツ、2004、夏号) 13頁。
- 3) 丸子礼二『劇団演集との50年 思い出ばなし名古屋の新劇』(愛知書房、1997) 297頁。
- 4) 松原英治『名古屋新劇史』(門書店、1960) 1-8頁参照。
- 5) 『劇的なるものをめぐって鈴木忠志とその世界』(早稲田小劇場+工作舎、1997) 214-21頁参照。
- 6) 『空間の祝杯 七ツ寺共同スタジオとその同時代史』(七ツ寺演劇情報センター、1998) 20-2頁参照。
- 7) 岩田信市『現代美術終焉の予兆—1970・80年代の名古屋美術界』(スーパー企画、1995) 215-7頁参照。
- 8) 萩原朔美『思い出のなかの寺山修司』(筑摩書房、1992) 110-3頁参照。
- 9) 「春日井建の世界」(現代詩手帖特集版)(思潮社、2004) 参照。
- 10) グロトフスキ、イェジュイ『実験演劇論』大島勉訳(テアトロ、1971) 93頁参照。
- 11) 『空間の祝杯 七ツ寺共同スタジオとその同時代史』25頁。
- 12) 北村想『北村想大全★刺激』(而立書房、1983) 159頁。以下同書からの引用は頁数のみを記す。
- 13) Tchekhov, Anton, *The Cherry Orchard* Translated by S. S. Koteliansky (*Anton Tchekhov Plays and Stories*, Everyman's Library, 1967) p. 52.
- 14) Becket, Samuel, *Waiting Godot* (*Samuel Becket The Complete Dramatic Works*, faber and faber, 1990) p. 11.
- 15) Pinter, Harold, *Complete Works: Four* (Grove Press, 1981) pp. 27-28.
- 16) 馬場駿吉「俳句は俳句に学べない」(『点』2号、1966) 14頁。「現代俳句の前衛には、日本人の美意識を創造する強靱な精神と、これを短詩型に結晶せしめる魔力に満ちた錬金の才能の出現こそがのぞまれるのではないだろうか」

参考文献

- Goodman, David G, *Angura* (Princeton Arcitectural Press, 1999)
- Alternative Japanese Drama* ed. Rolf, Robert T. & Gillespie, John K. (Hawaii U.P., 1992)
- Braun, Edward, *The Director and The Stage from Naturalism to Grotowsk i* (Methuen, 1994)
- Beckett, Samuel, *En attendant Godot* (Les Editions de Minuit, 1952)
- Beckett, Samuel, *Waiting for Godot* (Faber and Faber, 1965)

- Samuel Beckett The Complete Dramatic Works* (Faber and Faber, 1990)
- Three Novels Samuel by Beckett Molloy Malone Dies The Unnamable* Translated by Patrick Bowles (Grove Press, Inc. 1965)
- Cronin, Anthony, *Samuel Beckett The Last Modernist* (Harper Collins Publishers, 1997)
- Zurbrugg, Nicholas, *Beckett and Proust* (Colin Smythe Barnes and Noble Books, 1988)
- Samuel Beckett Now* Edited by Melvin J. Friedman (Chicago U.P., 1975)
- James Knowlson & John Pilling, *Frescoes of the Skull: The Later Prose & Drama of Samuel Beckett* (Grove Press, Inc. 1980)
- Kalb, Jonathan, *Beckett in Performance* (Cambridge U.P., 1991)
- Doherty, Francis, *Samuel Beckett* (Hutchinson University Library, 1971)
- Alvarez, A., *Beckett* (Fontana Collins, 1973)
- Josephine Jacobsen & William R. Mueller, *The Testament of Samuel Beckett* (A Dramabook, 1964)
- Core, Richard, N., *Beckett* (Oliver & Boyd, 1964)
- A Samuel Beckett Reader* Edited by John Calder (The New English Library Limited, 1967)
- Modern Critical Interpretations Samuel Beckett's Waiting for Godot* Edited by Harold Bloom (Chelsea House Publishers, 1987)
- File on Beckett* Compiled by Virginia Cooke (A Methuen Paperback, 1985)
- Matsuo, Bashô, *On Love and Barley* Translated from the Japanese with an introduction by Lucien (Stryk University of Hawaii Press, 1985)
- The Monkey's straw raincoat and other poetry of the Basho school* Introduced and translated by Earl Miner and Hiroko Odagiri (Princeton University Press, 1981)
- A haiku journey, Basho's The narrow road to the far north and selected haiku* Translated and introduced by Dorothy Britton (Kodansha International, 1974)
- 松原英治 『続・名古屋新劇史』 (愛知書房、1993)
- 『輝け60年代草月アートセンターの全記録』 (フィルムアート社、2002)
- 別役実 『言葉への戦術』 (烏書房、1980)
- 太田省吾 『舞台の水』 (五柳書院、1994)
- 木村光一 『劇場では対話は可能か—演出家のノート—』 (いかに社、1985)
- 北村想・他 『空想と化学 北村想の宇宙』 (白水社、1987)
- 堀真理子 『ベケット巡礼』 (三省堂、2007)
- 新芭蕉講座 第1巻-9巻 (三省堂、1995)
- 立石巖 『西行・世阿弥・芭蕉—自殺者の系譜』 (ぼんブックス26、1991)
- 馬場駿吉 『点』 創刊号 (1965)、2号 (1966)、3号 (1967)
- 馬場駿吉 「特集—荒川修作」 (アールヴィヴァン1号、1980)
- 馬場駿吉 「幾何学的抽象の極北から吹く風の中で—ヴァザリ展に寄せて—」 (『GALERIE VALEUR』、1976)
- 馬場駿吉 「愛知曼荼羅から東松照明曼荼羅へ」 (『愛知曼荼羅—東松照明の原風景』、2006)
- 馬場駿吉 『時の諸相』 (水声社、2004)
- 馬場駿吉 『海馬の夢』 (深夜叢書刊、1999)
- 馬場駿吉 『液晶の虹彩』 (書肆山田、1984)

- 馬場駿吉『耳海岸』(書肆山田、2006)
- 馬場駿吉『句集 夢中夢』(星雲社、1984)
- 馬場駿吉『星形の言葉を求めて』(風媒社、2010)
- 馬場駿吉『澁澤龍彦西洋芸術論集成』下、解説(河出文庫、2010)
- 馬場駿吉『感染症21世紀耳鼻咽喉科領域の臨床』19(中山書店、2000)
- 馬場駿吉『駒井哲郎展 第17回オマージュの瀧口修造』(佐谷画廊、1997)
- 馬場駿吉「世界をからめとるものとしての色彩—加納光於に」(『加納光於胸壁にて—1980』、アキライケダギャラリー、1980)
- 馬場駿吉「プーメランの獲物たちのために」(『加納光於—油彩』アキライケダ、1982)
- 馬場駿吉「万物の海としての補遺—岡崎和郎の作品に触れて」(『岡崎和郎展』倉敷市立美術館、1997)
- 馬場駿吉『サイクロラマの木霊 名古屋発・芸術時評1994~1998』(小沢書店、1998)
- 馬場駿吉「コレクターとしての二つの原則—私の蒐集40年の歩みをふり返って—」(『版画芸術』、2003)
- 馬場駿吉「集積燦惨アルマン Accumulation 論」『Accumulation Arman』(GALERIE VALEUR、1978)
- 馬場駿吉「翼あるいは熱狂の色彩—加納光於展に—」(『加納光於 GALERIE VALEUR、1978』)
- 馬場駿吉「見えるものから観念への逆探知—ジャスパー・ジョーンズ・レッド・レリーフ展に—」(『Lead Reliefs Jasper Johns』GALERIE VALEUR、1978)
- 馬場駿吉『薔薇色地獄』(湯川書房、1976)

日本における サッカー審判員育成システムに関する研究

——関東大学サッカー連盟の学生審判員育成に着目して——

青 山 健 太

1. はじめに

近年、特にJリーグが発足した1993年以降、日本におけるサッカーの競技力は目覚ましい発展を遂げてきた。それはサッカー男女日本代表チーム（以下日本代表）の成績から把握することができる。

男子日本代表は、サッカー世界 No. 1を競う FIFA¹⁾ワールドカップ（以下W杯）において1998年フランス大会の初出場を皮切りに2014年ブラジル大会まで5大会連続でアジア予選を突破し、本大会に出場し続けている。2010年南アフリカ大会では、国内外における大半の予想を覆し予選リーグを突破し世界ベスト16にまで登り詰めた²⁾。

また、育成年代の23歳以下で構成されるオリンピック代表チームも2012年のロンドンオリンピックにおいて4位入賞という好成績を収めている。

女子日本代表に着目してみると、2011年W杯ドイツ大会で優勝、2012年ロンドンオリンピックでは銀メダルを獲得し文字通り世界1、2位を争うまでの競技力を有している。

W杯やオリンピックのように世界中の人々が注目するサッカーの試合を影で支え大きな役割を担う者がサッカー審判員（以下審判員）である。日本サッカーの競技力向上と呼応するように日本人審判員も日本代表が出場したW杯すべてにおいて審判員として招聘されている³⁾。まさに選手の競技力向上と優秀な審判員の存在はスピーディーかつスペクタクルなサッカーの試合を保障する上で車の両輪といっても過言ではない。

W杯における選手の競技力向上と審判員に着目したとき、大きく注目される機会となったのが、2002年日韓大会である。強豪国といわれるヨーロッパの国々が相次いで敗退した一つの

要因として、審判員の誤審が大きく取り上げられた。

サッカーの審判員は通常、主審、副審、第4の審判員の4人で構成され、選手同様にレフェリーチームとしてゲームをコントロールしている⁴⁾。

世界トップクラスの審判員4人がチームとして臨むW杯でも誤審が生じた背景には、選手の競技力向上に伴うサッカー競技全体のスピード化が原因として考えられる。一言にスピード化といっても多岐にわたるが、大きな事例が新開発のボールによる選手のキック力、精度の向上や⁵⁾、有効な攻撃を行う攻撃時間の短縮化などが上げられる⁶⁾。

事態を重く受け止めたFIFAはそれまで各地域からの推薦のみで審判員を選出していた方法を一新し、審判援助プログラム(Referee Assistance Program = RAP、以下RAP)の実施を決定した。RAPは総額33億円をかけて、FIFAの管轄のもと選出したエリート審判員を、4年間かけて育成し、最終候補者の中から優秀な審判員を選抜していく方法である⁷⁾。

またFIFAはW杯を担当するトップの審判員の育成だけでなく、年代別W杯⁸⁾や様々な国際大会において若手の審判員を招聘し、4年後、8年後のW杯で活躍する審判員の育成、いわゆる裾野の拡大にも尽力している。FIFAが選手の競技力向上に対応する為に投じた審判員の育成に対する取り組みは、その傘下の組織である日本をはじめとする各国のサッカー協会やリーグにおいても採用される動きが見られる。

日本においては、常時W杯審判員が誕生しているように、トップの審判員の育成には順調な成果をおさめているといえよう。

しかし現在の日本のサッカーにおいては、競技力向上を推進していく過程でリーグ戦を導入したことにより、審判員の数が不足するなどの審判員を育成するうえで新たな課題が生じている。

そこで、本稿では、まずこれまで日本サッカー界において着目されていた「育成」＝「選手の競技力向上」という発想のみでなく、今後も日本サッカーの競技力向上の一躍を担うであろう審判員の育成システムを明らかにしていく。特に、日本における若手審判員とされる学生審判員の育成に関わる関東大学サッカー連盟の取り組みに着目し、その活動が日本のサッカー審判員育成にどのような形で効果を上げているのかを明らかにするものである。

2. 日本におけるサッカー審判員

1) 審判員の任務とライセンスについて

①試合中における審判員の任務

日本サッカー協会(Japan Football Association = JFA、以下JFA)審判委員会は審判員の目標

と重点項目において審判員の目標を以下のように設定している⁹⁾。

目標：サッカーの魅力を最大限に引き出すよう、試合環境を整備し、円滑な運営をする。

この目標を達成するために、審判員はそれぞれの級（カテゴリー）において様々な努力をすることになる。

サッカーの審判員の任務は、選手が安全でプレーに集中できる環境を整備することである。選手がプレーに集中することによって素晴らしいプレーが生まれ、結果として観客が惹きつけられる魅力的なサッカーが行われることになる。

選手が安全にプレーできる環境を整備する為に、試合中における審判員の役割は、主審、副審、第4の審判員が各自の任務を担当している。各審判員の任務は以下の通りである。

主審は、主にフィールドの中で選手同士の接触に伴うファウルをはじめ、その他競技規則のあらゆる違反の有無を判定する最も重要な任務を担当している。任務を遂行する際に重要となってくる要素が対角線式審判法といわれる主審のポジショニングである。対角線式審判法はサー・スタンリーラウス¹⁰⁾が1938年に発明した試合中における主審及び副審のポジショニングである。

対角線式審判法とは図1のように主審Rが、フィールド中央矢印で示した対角線を基本に動

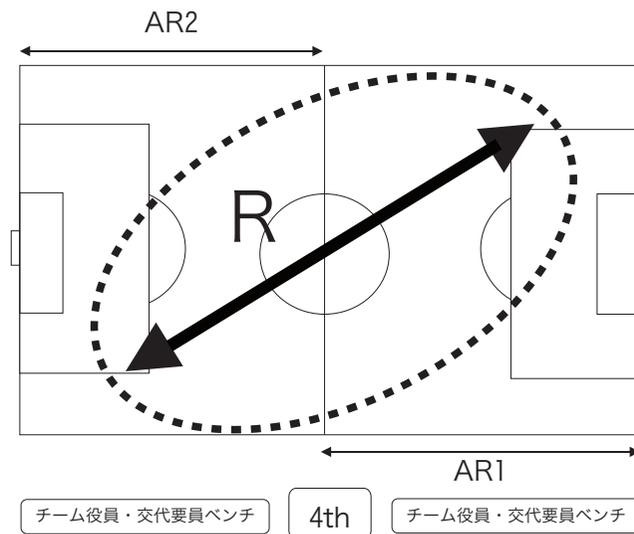


図1 対角線式審判法における主審と副審のポジショニング

く。しかし矢印で示した対角線はあくまでも基本であり、点線で示したエリア内で流動的なボールや選手の動きに対応しながら近くて良い角度のポジションで判定を行っていく。副審 AR1、AR2 と争点¹¹⁾ に対し挟んで監視することからファウルの見落としも少なく、無駄な運動量も減り 1 試合を通して体力、集中力が確保できる審判法として今日まで採用され続けている。サッカーの 1 試合の試合時間である 90 分間において、主審の移動距離は約 10~12km であるというデータも報告されている¹²⁾。この移動距離は選手ならば試合の中で攻守における重要なポジションのミッドフィルダーに匹敵すると言われている。このことから主審は選手と同等、ポジションによっては選手以上の体力を要することがわかる¹³⁾。

副審は、主にボールがフィールドの外に出たか否かの判断や、得点に関わるオフサイドの監視を担当している。オフサイドの判定は、選手同士がトップスピードで入れ替わる状況が多いため正に一瞬の判断が要求される。図 1 に示す通り副審 AR1、AR2 は主審の動きとは異なりタッチラインに沿った直線的な動きに限られる。常にオフサイドラインをキープするスピードや俊敏性が求められている。また、副審の任務はオフサイドの判定も含めて主審を援助することであり、主審が見えにくいファウルに対してフラッグを振って主審にファウルを知らせることもある。

図 1 に示す通り第 4 の審判員 (4th) は、フィールドの外中央で、両ベンチのチーム役員、交代要員の監視、交代手続きを援助する。また、主審、副審が見落としている重要な誤りを援助できるように常に広い視野で試合を監視する能力が重要である。W杯などの世界規模の大会やヨーロッパリーグでは試合中常に審判員同士が会話できる無線通信システムが導入されている為、第 4 の審判員はこれまで以上に主審を援助しやすい環境が整ってきている¹⁴⁾。

②ライセンスの昇級

サッカー審判員の資格は FIFA に加盟している国や地域のサッカー協会によって多少の違いが認められる。日本のサッカー審判員の資格はすべて JFA が統括している。JFA では図 2 の示す通り審判員の保有する資格に応じて担当できる試合や役割を定めている。

図 2 の通り審判員の資格は 1 級を頂点に 4 級までピラミッド型を形成している。各都道府県サッカー協会が認定する 4、3 級審判員にはじまり、各地域サッカー協会が認定する 2 級審判員、JFA が認定する 1、女子 1 級審判員と昇級していくシステムになっている。1 級審判員は日本サッカーにおけるトップの審判員資格であり日本サッカー協会が主催する全国大会規模の試合で主審を担当することが認められている。1 級審判員は実績に応じて Jリーグ担当審判員や国際審判員に推薦されプロリーグや国際試合を担当することとなる。

4 級審判員の資格取得後は、審判員としての経験を積み重ねながらより上級の資格取得を目

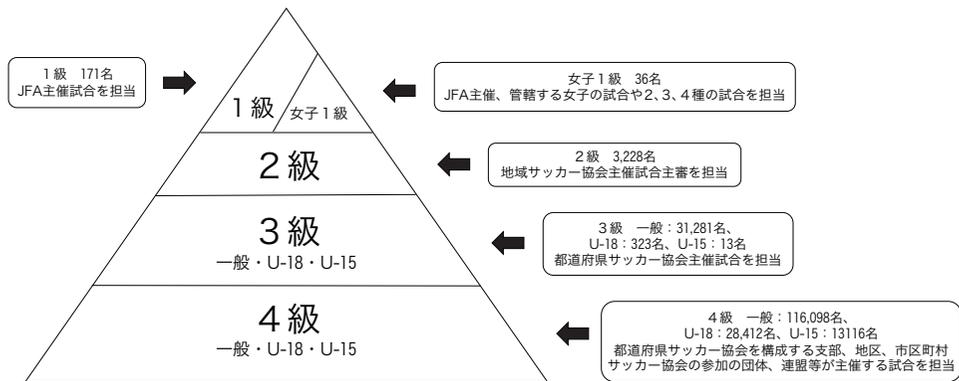


図2 日本における審判員の登録者数及び担当試合
(JFA HP <http://www.jfa.jp/referee/system/> 審判制度概要より作成)

指すわけだが、その登竜門となるのが2、1級試験となる。表1に示すように受験資格を満たす審判員は多数存在するが実際は試合における実技の評価が重視されるため、受験資格を得られる審判員は限られてくる。

特に、2級審判員は、年間を通して1級審判員よりも多くの試合を担当し、各都道府県や各地域の公式戦を支える立場にある審判員である。また全国大会では、主に副審としての役割を果たし、主審と副審の両方の任務を数多く経験する¹⁵⁾。

2級審判員になるためには、都道府県サッカー協会が主催する試合の中でも、各カテゴリーの1部リーグの試合や決勝戦など重要な試合を担当する3級審判員が推薦を受けてはじめて2級審判員への昇級試験を受けられる。

1級への昇級試験は、約1年をかけて慎重に実施される。第1次～第3次試験まであり、合格点に満たない審判員はその時点で不合格となる。表1から分析すると2級審判員と同様に各地域協会から推薦された審判員を対象に実技、競技規則、体力テストが実施される。しかし、現状は競技規則、体力テストに関して十分な能力を備えた審判員が推薦されてくるため、主な

表1 審判員認定試験受験資格[※]

級	受験資格	窓口協会
1	2級審判員または女子1級審判員資格を有する者	日本サッカー協会
女子1	2級審判員資格を有する者	日本サッカー協会
2	3級審判員資格を有する者	地域サッカー協会
3	4級審判員資格を有する者で一定の実績のある満15歳以上の者	都道府県サッカー協会
4	満12歳以上で心身ともに健康な者	都道府県サッカー協会

※石井隆憲、田里千代編著：『知るスポーツ事始め』、明和出版、2010年6月1日、p.168より作成

選考基準は実技試験となる。

実技試験では、実際の公式戦においてゲームをコントロールする力量が評価される。

試験官には1級インストラクターが配属され、レフェリングに関する評価と指導が行われる。その観点は大きく、判定的確さと一貫性40点、ゲームコントロール力30点、体力、動き、ポジショニング20点、副審との協力10点という4項目の合計点を10で割った点数が評価点となる¹⁶⁾。これらの試験に合格した審判員が1級審判員としてJFAに登録される。

2) リーグ戦の導入による審判員の不足

①公式戦試合数の増加

JFAは、選手の育成と普及を軸に今後の日本サッカーの進むべき道として、「JFA2005年宣言」を発表した。その主な内容は2015年までに日本代表が世界のトップ10に入ること、2050年までに再び日本でW杯を開催しその大会で日本代表が優勝するという目標である。具体的な施策として「競技環境：リーグ戦文化の定着」、「拠点整備」、「U-12年代の重要性の認識、浸透」、「キッズ年代の充実」、「トレーニング環境：指導者の質の向上」をあげている¹⁷⁾。

審判員の育成の視点から分析したときに注目すべき箇所は、「競技環境：リーグ戦文化の定着」という提言である。この提言は、これまで日本のトップリーグであるJリーグや社会人、大学などのいわゆる大人のカテゴリで採用されているリーグ戦方式の大会を、育成年代である子供のカテゴリにも導入していくことを示唆している。

これまでの育成年代の試合では、全国高校サッカー選手権大会に代表されるようにトーナメント方式の大会が多く見られた。その弊害として、勝ち残ったチームは多くの試合を通して選手として貴重なスキルアップを得られる環境を与えられる事になるが、1回戦で敗退したチームは1試合のみしか全国大会などのレベルの高い試合を経験することができなかった。

そこで、JFAは、実力が拮抗した競技環境を整備する為に、育成年代である子供のカテゴリにもリーグ戦方式の大会を採用していくことを示した。図3は18歳以下の高校生を対象としたリーグ戦の構造を表したものである。

18歳以下の高校生においては既に47都道府県においてリーグ戦が整備されている状況である。リーグの上位チームは次年度から地域リーグに昇格し、地域リーグの下位チームは都道府県リーグに降格するシステムになっている。その為、トーナメント方式と違い、実力が拮抗したリーグに所属するため毎年必ず一定の公式戦をこなすことができるメリットがある。また15歳以下の中学生を対象としたリーグの整備も18歳以下のリーグをモデルに整備が進んでいる。しかし、リーグ戦方式が採用され各地域における若年層の質の高い試合が急増する結果となった反面、過密日程や運営面での課題が取り上げられている。その中の一つが審判員に関する

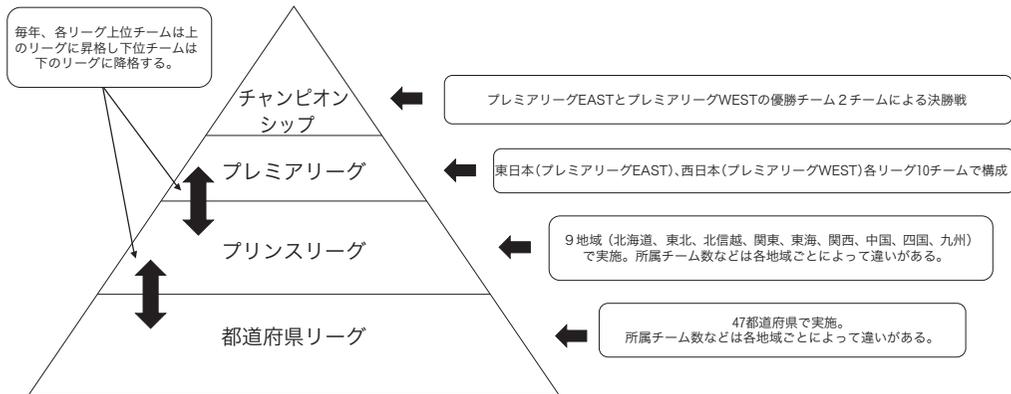


図3 U-18年代におけるリーグ戦の構造
 (JFA HP <http://www.jfa.or.jp/match/league/2013/takamadonomiya18/prince/>
 プレミアリーグ連携図より作成)

る課題である。

②審判員の不足

現状では、各年代でのリーグ戦実施に伴い、審判員数が不足している¹⁸⁾。シーズン中における審判員の活動状況に着目してみると、JリーグやJFLといったプロや全国リーグを担当する1級審判員の実働はほぼ100%に近い実働率である。しかし、リーグ戦が導入された18歳以下の地域や県リーグを主に担当する2級審判員の実働率は31%と極めて低い状況である¹⁹⁾。1級審判員はJリーグやJFLでの活動が優先される為、なかなか地域や県での実働は困難である。そこで、JFAは選手の育成である技術の部分だけでなく、審判と技術の協調が日本サッカーの競技力向上には不可欠なことから審判員の育成に対して組織的に改革していくことを目指した。

3. JFAの審判員育成

1) JFA 審判トレーニングセンター制度

① JFA 審判トレーニングセンター制度の開設

JFA 審判トレーニングセンター制度（以下審判トレセン）とは、JFAが日本の北海道、東北、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州（沖縄含む）の9地域を対象に開設した制度である。

審判トレセンを立ち上げた理由としてJFAは審判に関わる現在の課題として、①審判員不

足、②審判インストラクター不足、③ JFA 審判指導要領の未浸透を取り上げている。

審判トレセンの参加者は2級審判員と審判員の指導者である2級審判インストラクターである。

従来の審判員の指導は各都道府県、各地域サッカー協会の独自の指導体制に頼っていた。しかし、1級審査を合格できる審判員が少なく日本のトップレベルの試合を担当する1級審判員が不足するという課題が生じていた²⁰⁾。

図4のとおり審判インストラクターも審判員の資格と同様にS級インストラクターを頂点に3級インストラクターまでピラミッド型のシステムを形成している。

JFA は審判トレセンを介して、1級審判インストラクターを育成して審判員の指導にあたらせると共に、JFA の考える指導要領を日本全国に漏らすことなく浸透させて、各地域で充実した審判育成を行う環境を整備したのである。

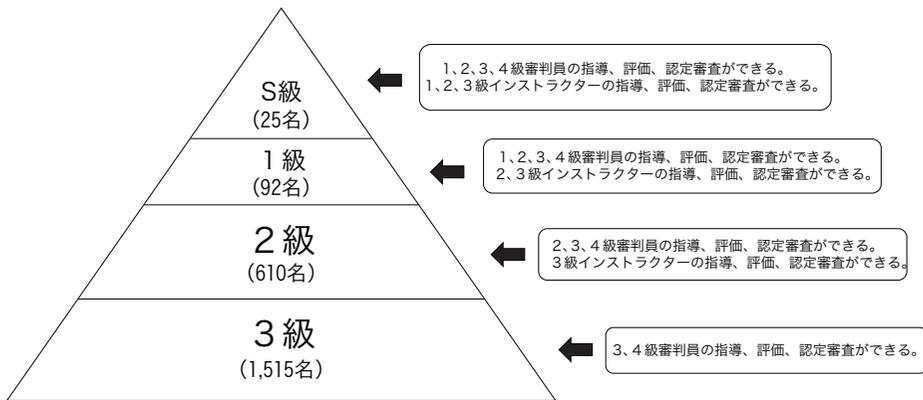


図4 日本におけるサッカー審判インストラクターライセンスと登録者数
(JFA HP <http://www.jfa.jp/referee/system/> 審判指導者(インストラクター)資格より作成)

② JFA 審判トレーニングセンター制度の活動

審判トレセンは、各月1回(1泊2日)の講習会を前期(4～7月)、後期(9～12月)計8回実施するプログラムである。表2は九州審判トレセン活動予定表である。

この表から九州トレセンの詳細な活動内容を分析することができる。活動内容は主に実技と講義に分かれている。実技では試合、プラクティカルトレーニング、フィットネストレーニングを行う。講義はゲーム分析、競技規則の理解を重点においたプログラムが設定されている。審判トレセンが開催される地域や時期によって担当する試合のリーグやカテゴリーの違いは認められるが、JFA の指導要領の浸透を一つの目的としている為全国で統一されたプログラムが

日本におけるサッカー審判員育成システムに関する研究

表2 九州審判トレセン活動予定表*

開催場所		期間	3月22日(土)～23日(日)	3月7日
熊本県熊本市		大会	熊本県総合選手権	
会場/環境	■会議室	会議室、うまかなよかなスタジアム会議室		
	■試合会場	熊本県運動公園スポーツ広場		
	■プラクティカル会場	大津運動公園クレークコート		
	■フィジカル会場	大津運動公園クレークコート		
備品	ビブス(2色×人数)、マーカー(2色×10枚)、ボール(5個) ホワイトボード、プロジェクター、ビデオ、PC			
参加者名	インストラクター			
	審判員			
オブザーバー				
日程の概要		3月23日(日)		打ち合せ 12:00～
時間	3月22日(土)		ホテル会議室	終了予定 16:00
8		8:00～	前日の振り返り	宿 舎
		8:30～	INSプレゼン 資質向上	
9		9:00～	DIR、INSはコミュニケーション 審判員は準備 ・9:30 MCミーティング 熊本県運動公園スポーツ広場	内 容
10	ホテル会議室			
11	REF 競技規則テスト	11:00～	ゲーム(80分-PK) 熊本県総合選手権 vs スタジアム会議室	★インストラクターによるプレゼン ・資質向上(15分) テーマ:「()」() ・競技規則(20分) 「第12条ファウル」(発表者は当日指名) ★ブラクティカルトレーニング (仕込10分、TR 20分、ディスカッション10分、 再TR 10分、まとめ10分) 「手の不正使用」() デモンストレーター ・高校サッカー部11名 ★フィジカルトレーニング 「YOYOテスト」() ※九州 FT 指導 ★審判員によるプレゼン 「サッカーはなぜ手をつかえないのか」 (発表者は当日指名) ★ビデオ判定テスト(ダイレクター) ★ビデオクリップディスカッション(ダイレク ター) 「中央からの展開」 ★ダイレクターレクチャー 「審判トレセンについて」、「対角線審判法」
12	打ち合わせ			
	12:30～ 開講式			
13	13:00～ ビデオ判定テスト	13:00～	更衣・昼食	
	13:30～ INSプレゼン 競技規則			
14	14:00～ 更衣・移動 大津運動公園	14:00～	DIRとINS試合分析打合せ	
	14:30～ プラクティカルトレーニング	14:30～	審判員による試合分析 インストラクターによる分析評価	
15	15:30～	15:30～	まとめ	
16	フィジカルトレーニング (YO-YOテスト)	16:00	終了	
17	17:00～ 更衣・移動			
				備 考
18	18:00～ 夕食 ホテル会議室			■JFADir旅程 3/21 : 熊本空港着 3/23 : 熊本空港発
19	19:00～ Dirレクチャー			
20	20:00～ 審判員プレゼン/INS分析評価			
	20:40～ ビデオクリップディスカッション			
21	21:40 終了			

* JFA ダイレクターより資料提供

採用されている。

実技、講義ともに JFA から派遣されるダイレクターの指導を受けた 2 級審判インストラクターが審判員の指導を担当する。1 年間で規定のプログラムを修了した 2 級審判インストラクターはテストに合格すると 1 級審判インストラクターに認定される。同じくプログラムを修了した審判員の中には 1 級審査に推薦される審判員も誕生することとなる。

また地域トレセンとは別に 1 年間に 2 回中央トレセンが実施される。中央トレセンは各地域審判トレセン参加者の中から評価の高い審判員と審判インストラクターが選抜されて召集される研修会である。

表 3 審判インストラクター数の年度別推移*

				単位 (人)
年度	1 級	2 級	3 級	合計
2006	18	450	732	1,200
2007	25	456	862	1,343
2008	84	457	964	1,505
2009	94	486	1,155	1,735
2010	96	532	1,298	1,926
2011	104	551	1,357	2,012
2012	115	578	1,440	2,133
2013	117	610	1,515	2,242

* JHF HP http://www.jfa.jp/about_jfa/organization/databox/football_instructor.html 年度別登録数より作成

表 3 は審判インストラクターの年度別登録者数推移を表したものである。2007 年の審判トレセンの実施以降、着実に審判インストラクターの数が増加していることがわかる。現在では都道府県審判トレセンも実施されるようになり、審判トレセンが審判員の育成や審判インストラクターの育成に対して一定の成果を成し遂げていると言えよう。

2) JFA レフェリーカレッジ

① JFA レフェリーカレッジの開設

JFA は、世界で通用する審判員を育成する為に「21 世紀のレフェリー改革アクションプラン」を打ち立てた。この中にはレフェリーの環境整備として FIFA、AFC²¹⁾ が推奨する審判員のプロ化や、「JFA レフェリーアカデミー」設置などがうたわれている。JFA レフェリーカレッジ (以下レフェリーカレッジ) はその一環として開設された。

レフェリーカレッジのターゲットは、2 年間という短期間での集中的な指導、技術や知識の

習得、人間性の育成、30歳未満で将来の日本のトップレフェリー候補者を育成することである。

レフェリーカレッジ生は、各地域から推薦された若手2級審判員を対象に選考試験が実施される。選考試験は第1次～第4次審査まで実施される。その主な内容は表4の通りである。

表4 JFA レフェリーカレッジ選考方法 (予定)*

1次審査	書類審査 (一般的な履歴書に加えて、審判歴や選手としての競技歴なども記載)
2次審査	筆記 (一般教養、競技規則など)
3次審査	実技 (大学交流戦)
4次審査	面接、ディスカッション

* JFH HP <http://www.jfa.jp/referee/college/application.html>

JFA レフェリーカレッジ [主審] 養成コース2015募集要項より作成

第1次審査の書類選考では審判員としての経歴だけでなく、選手としての競技歴を記載する欄が認められる。これは、選手の経験を活かした戦術の理解やゲームの流れの把握など審判員として必要な資質の有無が問われているからである。また、第2次審査の筆記テストではサッカーの競技規則テストとは別に一般教養のテストも実施されている。フィールド上で審判員として活動する上でなぜ一般教養が問われるかということ、その理由は主審養成コース2015募集要項から確認することができる。主審養成コース2015募集要項には求める人材としていかの様に記載されている²²⁾。

- ・サッカーを愛し、レフェリー活動に情熱をもっている人
- ・日頃から高い目標を設定し、常に意欲的に自己改革を図る人
- ・レフェリーとして活動する環境を自ら能動的に構築する人
- ・仲間と力を合わせて、レフェリーの社会的地位を高める人

レフェリーカレッジ生には、情熱、向上心を持って審判活動に取り組める人物や、協調性を持った人物を求めていることがわかる。これは審判員として必要な技術だけでなく、競技者や審判員とのコミュニケーションに必要な人間性も問われることから選考試験に一般教養が取り入れられていると考えられる。

レフェリーカレッジ生はその年により多少の人数の上限は見られるが概ね1学年4～6人程度の徹底した少人数のクラス編成が採用されている。スクールマスターと言われる元国際審判員から実践的な指導を中心に、海外研修など早くから世界のトップ審判員を意識した指導を受講するのである。

② JFA レフェリーカレッジの活動

レフェリーカレッジは原則として土日を中心に年15回開催される定期講習会、オープンカレッジとして年3回開催される地域での講習会、全国大会などを利用した年4回開催される集中講習会で構成されている。

表5はレフェリーカレッジのカリキュラムの概要である。

まず審判員として必要な知識として「競技規則の知識と適用の習得」という項目が認められる。

審判員はただルールを覚えるだけではなく、実際の試合において競技規則を正しく適用していく必要がある。競技規則の適用とは試合において審判員が競技規則に基づいて試合を運営していくことである。レフェリーカレッジ修了後、即戦力としてトップのリーグで活躍できる審判員を育成していく為であることがわかる。

また、審判員に求められる体力、精神力というところでは、「フィットネスの向上」、「知覚面のトレーニング」、「メンタルトレーニング」、「運動医学・栄養学・生理学・社会学などの科学的知識の習得と実践」という項目が設定されている。

近年のサッカーはスピード化が進み、審判員もサッカーのスピード化に対応するため体方面での強化が求められている。しかし、チームに所属する選手と違いトレーニングや日々の食事をはじめとする栄養管理などは審判員各自の取り組みに依る部分が多いことが現状である。したがって、レフェリーカレッジでは審判員として、各自が心身共に良い準備ができるような知識を身に付ける目的でカリキュラムが設定されているといえよう。

「技術指導者による戦術・システム・プレーヤーの技術などの指導」では、選手を育成する指導者からの情報を習得する機会である。JFA 技術委員会では、日本代表や育成年代における各年代別の日本代表チームの試合を詳細に分析している。分析結果から日本の課題を見つけ出し、育成年代から日本代表まで一貫した指導指針を掲げている。最新の戦術の理解や、日本がどういった選手を育成していくのかを理解して、審判員という立場から日本のサッカーの強化へ貢献していくことも求められている。

最後に特筆すべき項目は、英会話能力の習得である。レフェリーカレッジ修了後は、Jリーグ担当審判員、国際審判員を目指す事が各審判員の目標となる。

審判員は試合中に選手やチームスタッフと適切なコミュニケーションをとることによって試合をスムーズに運営していく能力が要求される。従って、国際審判員として認定されると試合中のみならず、各種の研修会でも英語によるコミュニケーションスキルが不可欠である。その為、レフェリーカレッジにおいても英会話のスキルを身に付けることを意識づけさせて、審判員としてのスキルアップを促していることが理解できよう。

表5 JFA レフェリーカレッジカリキュラム概要*

No.	項目	内容詳細
1	オリエンテーション	
2	競技規則の知識と適用の習得	変遷の歴史的背景
		競技の精神
		フェアプレー
		第1条～第17条
		実践的審判法（ポジショニング、アドバンテージ、オフサイドなど）
		理解度の確認と報告書の記載方法 スタンダード
3	フィットネスの向上	形態、機能など個人データの測定
		体力測定
		ランニング（ニッポンランナーズ）
		各種トレーニングの実践（UEFA、FA、AFCなど）
4	知覚面のトレーニング	動体視力、視野の拡大
5	メンタルトレーニング	心理テスト、測定と分析
		メンタルトレーニングの実際、予防法と対処法
		カウンセリング、臨床心理
6	運動医学・栄養学・生理学・社会学など科学的知識の習得と実践	運動医学（障害、傷害、脱水状態、リハビリテーション、テーピングなど）
		栄養学（トレーニングと接種栄養素、体脂肪など）
		運動生理学（体力、体組成、筋力、持久力、環境対策など）
		スポーツ社会学（集団・群衆の心理、リーダーシップ、人間学など）
		動作表現学（表情、態度、姿勢など）
		社会常識（テーブルマナー等）
7	技術指導者による戦術・システム・プレイヤーの技術などの指導	技術委員会による提案
		技術指導者からの提言
8	ゲームを活用した実技指導	ゲームによる実技指導
		VTRによる自己分析、レフェリング分析
		試合観戦および研修
9	JFA・Jリーグのメンバーによる組織・業務などに関する講義	JFAメンバーによる
		Jリーグメンバーによる
10	税務の知識	
11	レフェリーマインド養成	レフェリーマインド講座
		ボランティア活動、インターンシップ活動
		外部講師による講演、講義
		ウォークラリー
12	英会話の能力の習得とTOEICのテスト（年3回）	

* JFA HP <http://www.jfa.jp/referee/college/schedule.html> JFA レフェリーカレッジ日程／カリキュラム例より作成

4. 関東大学サッカー連盟における審判員育成について

1) 学生の審判員資格取得

①関東大学サッカーリーグ大会方式の変更

大学におけるサッカーを統括する団体は全日本大学サッカー連盟である。全日本大学サッカー連盟の傘下に全国9地域の大学サッカー連盟が形成されている。関東大学サッカー連盟は関東地域における大学サッカーを統括する団体であり主に関東大学サッカーリーグの運営を行っている。

関東大学サッカーリーグの始まりは、1924年にまで遡り、ア式蹴球東京コレヂリーグという名称で開幕した。初年度における参加チームは1部リーグ6校、2部リーグ6校合計12校で構成され1回戦総当たりのリーグ戦が実施された²³⁾。その後も加盟校は33校まで増え、1935年には関東学生蹴球連盟という現在の連盟組織の基礎がつけられた。

戦後1946年にリーグは復興し、年を追う毎にリーグの整備がすすめられていった。1989年には現在のリーグの名称であるJR東日本カップ関東大学サッカーリーグ戦となり、大学スポーツ界で初めての冠大会化が実現された²⁴⁾。これは、関東大学サッカーリーグがサッカーのみならず大学スポーツ界をリードしてきたことと捉えることができる。

近年の関東大学サッカーリーグの大会方式に着目してみると、大きなポイントが二点見受けられる。

一点目は2001年の大会方式の変更である。前年の2000年まで1部リーグ8校、2部リーグ8校による1回戦総当たり（各校7試合実施）方式が採用されていたが、2001年以降前期・後期に分けた2期制（各校14試合実施）が導入され試合数は倍に増えた。

二点目として2005年の参加チーム数の増加があげられる。2005年のシーズンから1部、2部リーグともに12校で構成する大会方式が採用された。これにより各チームの試合数は前年までの1シーズン14試合から22試合となり8試合増加することとなった。

このような大会方式の変更は意図的に試合数を増やす事を目的としている。これは、U-18年代のリーグ戦の導入の目的と同じく、質の高いレベルの拮抗した試合数を増やす事により大学リーグをより良い選手育成の環境に変えていく為の施策であることがわかる。

関東大学サッカーリーグは、純粋なアマチュアのリーグとしては国内でもトップレベルのリーグである。それは、関東大学サッカーリーグから、長友佑都選手²⁵⁾や武藤嘉紀選手²⁶⁾をはじめ日本代表やJリーグで活躍する多くの選手を輩出していることから理解できよう。

選手を育成する目的で試合数が増加することにより、関東大学サッカーリーグにおいても他のリーグと同じ課題として審判員の確保がとりあげられるようになった。

2000年まで関東大学サッカーリーグに派遣される審判員は主審、副審の3人がサッカー協会から派遣される審判員であり、第4の審判員は関東大学サッカーリーグに所属しているチームから学生の審判員が派遣されてレフェリーチームを構成していた。

その為、関東大学サッカー連盟では、第4の審判員を担当できる3級審判員を毎年試合数に見合った人数（各校4名程度）育成する事を目的として年に1回3級審判員資格取得講習会を開催していた。

しかし、2001年、2005年の大会方式の変更を受け、学生審判員が副審も担当することとなり、より多くの学生に対して審判員資格を取得させる必要が生じることとなったのである。

②インデペンデンスリーグの開設

大学サッカーの特徴に着目してみると、レギュラーとして出場している選手の大半は3、4年生が中心である。2014年関東大学サッカーリーグ1部リーグ前期第1節のスターティングイレブンを分析してみると、スターティングイレブン132人の内1、2年生で出場した選手は37人であり、全体のわずか28%である²⁷⁾。

また関東大学サッカーリーグ1部リーグに登録されている選手の数はおよそ1,400人いるが1試合に各チームに登録できる選手の数は18人である。このメンバー登録数の規定の為1部リーグ全体では1節にメンバー登録される選手の総数は216人となる。このことから関東大学サッカーリーグ1部リーグにおいては毎節、登録している選手の総数およそ1,400人の内15%の選手にしか出場できる可能性が与えられていないことがわかる。

このように、大学のサッカー部に所属はしているが、大半の学生は在学中に公式戦に出場することなく卒業を迎えていた。また、1、2年生からレギュラーとして試合に出場できる選手は少数であるため、選手によっては3、4年生の間の実質二年間のみのお出場に限られていたと言えよう。

選手に試合出場の機会を増やす為に、1、2年生が出場する新人戦の実施、各大学では高校生などとの練習試合の実施、一部の大学同士で二軍の選手を中心としたリーグ戦を実施するなどの対策もとられていた²⁸⁾。

関東大学サッカー連盟は、2003年に各大学に所属する選手の公式戦への出場機会を増やす為にインデペンデンスリーグ（Independence League、以下Iリーグ）を開設した。

Iリーグは学生が主体となって運営されるリーグである。その特徴として、関東大学サッカーリーグに出場していない選手がプレーする環境であること²⁹⁾。一つの大学において3チームまでチームを編成して出場することができること。正規の部活動以外の同好会などのチームにも出場の機会を提供していることなどがあげられる。Iリーグが開設されたことにより、公

式戦の試合数は著しく増加し、出場できる選手の数も増加したことは明らかである。

Iリーグにおける審判員はすべて学生が担当することとなり、公式戦であることから審判員はJFAの審判員資格を取得する必要性が生じた。結果、有資格者の学生審判員が増えることとなり、審判員の育成という面において日本サッカー界に貢献していると言えよう。

また、学生審判員の特徴として年齢が18歳～22歳であり、審判員としてJリーグなどのトップリーグを目指す上で年齢的に若手である事は、育成対象として注目すべき事である。

2) 学生審判員の育成について

①審判実技研修会

関東大学サッカー連盟審判部では、大学の夏休み期間を利用して、審判実技研修会を実施している。例年、3月に4級、11月に3級審判員の資格取得講習会を実施し有資格者の学生審判員を育成している。しかし、資格取得講習会は、講義形式の講習会である為、競技規則の理解を目的とした知識重視であることが課題である。

審判員は実際の試合において、競技規則を正しく適用していく能力が求められる。その為に実際の試合を利用した実技研修会が設けられる事となった。

実技研修会の始まりは、1998年、数名の審判員を対象に大学生の交流戦や新人戦を用いて実施されていた。3級を取得した審判員を対象に行われていたが、全員を対象に実施することは、各大学における実情を踏まえ時間的にも困難であったといえる。

そこで、それらの課題を踏まえて現在では、各大学から必ず1人以上の参加を義務付けている。各大学から必ず参加者を募る事によって、実技研修会で習得した審判員のスキルや最新の情報を各大学に浸透させることが可能となった。

実技研修会は、4泊5日の期間で実施される。実技研修の対象試合は高校生の交流戦である。試合のレベルとしては大学生の交流戦に比べ劣る部分はあるが、参加審判員のほとんどが審判員としての経験が少ない為、審判員として入門レベルの試合には適しているといえる。

交流戦は4つのグラウンドで実施され、各グラウンドに審判員数名と、審判インストラクターを配置する。この配置は試合終了後グラウンドでインストラクターによる試合の振り返りを行い、以後の試合に反映させていく狙いがある。

夜に実施する講義では、各グラウンドで問題となった状況を取り上げて、競技規則と照合し、審判員として正しい対応を確認していく。

昼間試合を担当し、夜は講義というルーティンは、実際の試合における各自の課題を抽出し、次の試合で課題にチャレンジし、克服していくという課題解決型の良い流れを形成していることがわかる。

学生審判員の審判員に対するイメージは必ずしもポジティブなイメージばかりではない。それは、参加審判員に対して研修会参加への経緯を聞いてみると、チームによっては、希望者がいなく抽選で参加者を決定している大学もある為である。

しかし、研修会の最終日を迎えるころには、他大学の審判員との交流も深まり、審判員として意欲的に試合に臨む姿勢が見えてくる。このことは、関東大学サッカー連盟だけの問題ではなく、審判員としての活動にネガティブなイメージが多い日本のサッカーにおいて地道な活動の成果を達成していると言える。

②エリートコースの開設

関東大学サッカー連盟審判部では、2、1級という上級審判員資格取得を目指す学生審判員を対象としたエリートコースを設けている。

エリートコースは2007年に開設され、指導者は1級審判インストラクターや現役の1級審判員が担当している。

エリートコースの内容は、講義を中心としたセミナーと、実際の試合を用いた実技研修をメインに実施している。

セミナーは、年間10回開催され³⁰⁾、内容は競技規則テスト、映像を使用したゲーム分析などである。競技規則テストは競技規則の理解という目的もあるが将来受験することになる2、1級昇級テストへの対策も兼ねている。映像を使用したゲーム分析では、レフェリーカレッジでも実施されている自分が担当した試合に対する自己分析ができるスキルの習得を目的としている。

分析に使用される映像は受講生が担当したIリーグの試合を中心に使用している。実際に試合中に審判員として下した判定について、正しい判定、間違えた判定を抽出し、一環した判定基準の確立を目指しているのである。

実技研修では普段担当するIリーグの試合の他に、夏休みの期間に大学生の交流戦を利用した研修会を実施している。

エリートコースの受講生の中から毎年確実に2級審判員が誕生していることから、エリートコースが審判員の育成機関として充実したシステムを構築していることが理解できよう。

また、エリートコース開設以前を踏まえ関東大学サッカーリーグに所属していた学生審判員の中から現在のJリーグを担当する審判員が誕生している³¹⁾。この事から、関東大学サッカーリーグにおける若い年代の審判員育成が重要であることが明らかであると言えよう。

5. まとめ及び今後の課題

本稿で、これまで論じてきたものを整理すると以下の通りである。

①日本におけるサッカー審判員は能力に応じたライセンスをJFA、地域、都道府県サッカー協会より認定されている。ライセンスは審判員が1級～4級、審判インストラクターがS級～3級というようにピラミッド型を形成している。

審判員は能力に応じた試合を担当し、審判インストラクターは能力に応じた審判員及び審判インストラクターの評価、指導を担当している。

②JFAは選手を育成する上で実力が拮抗した質の高い試合を多く経験させるために、各年代別のカテゴリーにおいてリーグ戦方式の大会を実施する改革を推進した。

この改革によって、各年代別のカテゴリーにおいてリーグ戦が導入され、試合数が増加し、選手の育成においては成功をおさめている。

反面、新たな課題として、公式戦の試合数が増加したことにより、審判員の数が不足する課題も生じている。

③JFAは審判員の育成の一つとしてとして審判トレーニングセンター制度を各地域において施行し、審判員と審判インストラクターの育成を行っている。審判トレンセン発足の背景にはJFAの指導要領を各地域に漏らすことなく伝達する要素も含まれている。

また、JFAレフェリーカレッジを開設し、将来、Jリーグや世界の舞台で活躍する審判員の育成も行っている。レフェリーカレッジは少人数、2年間という短期間で集中的に審判員を育成していくという指導上の特徴がある。

④関東大学サッカー連盟における審判員育成に着目してみると、関東大学サッカーリーグの試合数が増えたことや、Iリーグが開設されたことによって多くの学生審判員を育成していくことが課題となった。

3級審判員の資格取得講習会の他に、実技研修会を実施することによって、審判員として必要な試合における実践的なスキルの習得を実施している。さらに、各大学から1人ずつ義務的に参加者を募ることによって、関東大学サッカーリーグに所属するすべての大学に対して審判員として必要な情報を伝達していくシステムを構築している。

2007年からエリートコースを開設し、将来2、1級審判員資格の取得を目指している学生を対象に育成を行っている。エリートコースでは、定期的なセミナーを実施して、各自が担当した試合の映像を使った振り返りを行うほか、実技研修も実施している。エリートコース受講生から毎年確実に2級審判員が育成されている。

⑤関東大学サッカーリーグに所属していた学生審判員の中から、エリートコース開設以前も踏

まえ J リーグなど日本におけるトップレベルの試合を担当する 1 級審判員が多く輩出されている。

以上のことから、JFA の審判員育成、とりわけ関東大学サッカー連盟の取り組みは、審判員を育成する上で確実な成果を残しているといえる。

また、関東大学サッカーリーグに所属している学生を育成していくことは日本における審判員の育成を考える上で重要であると言えよう。

今後の課題として、関東以外の 8 地域の大学サッカー連盟の審判員育成にも着目し、日本におけるサッカー審判員の育成に繋がる課題を紐解いていきたいと考える。

注及び引用・参考文献

- 1) Fédération Internationale de Football Association の略。日本語では国際サッカー連盟。世界のサッカーを統括する唯一の団体。
- 2) ラウンド 16 での PK 戦での敗退は FIFA 公式記録上では引き分け扱いの為、総合順位では 32 チーム中 9 位という好成績であった。
- 3) 1998 年フランス大会、岡田正義が選出。
2002 年日韓大会、上川徹が選出。
2006 年ドイツ大会、上川徹、廣嶋禎数が選出。
2010 年南アフリカ大会、西村雄一、相楽亨が選出。
2014 年ブラジル大会、西村雄一、相楽亨、名木利幸が選出。
- 4) 現在海外のリーグや W 杯などの国際試合では追加副審や、リザーブ副審を任命し 6 人または 7 人の審判員で試合を担当することもある。
- 5) 浅井武、瀬尾和哉、小林修：サッカーボールの空力特性に関する研究、「体育学研究」第 52 巻第 1 号、2007 年、pp. 29-39
- 6) 吉村雅文：サッカーにおける攻撃の戦術について—有効な攻撃のためのトレーニング—、「順天堂大学スポーツ健康科学研究」第 7 号、2003 年、pp. 28-61
- 7) RAP は「テクニカル」→審判技術の指導と強化、「フィジカル」→体力、走力などのパフォーマンス面の向上、「メディカル」→ケガの予防やケア、「メンタル」→心理面のサポート、「エナジーパフォーマンス」→立ち振る舞いやマネジメント能力、などの 5 部門からなる専門スタッフが審判員をサポートしている。
- 8) FIFA は選手の育成を目的に 23 歳以下で構成されるオリンピックの他にも 20 歳以下、17 歳以下で構成されるチームによる W 杯を各年で開催している。
- 9) 『サッカー競技規則 2014/2015』、公益財団法人日本サッカー協会、2014 年 8 月 1 日、p. 146
- 10) 第 6 代 FIFA 会長。元国際審判員。1938 年サッカー競技規則の改訂に尽力した。
- 11) サッカーの試合中におけるボールを保持している攻撃側の競技者と守備側競技者の攻防が起こる場所。
- 12) 松崎康弘：『審判目線、面白くてクセになるサッカー観戦術』、講談社、2011 年 1 月 21 日、p. 183
- 13) 石原美彦：日本人サッカー審判員のフィジカルガイドライン作成に向けた基礎的研究、「順天堂大学スポーツ健康科学研究」第 5 巻第 2 号、2014 年 3 月、p. 6

- 14) 2014年7月無線局免許が交付されたのを受けJリーグにも導入。
- 15) 『サッカー競技規則2012/2013』公益財団法人日本サッカー協会、2011年8月1日
- 16) 審判員の評価の合格点は8.0点以上が合格である。
- 17) 「JFA2005年宣言実現に向けたロードマップ」：財団法人日本サッカー協会
- 18) 「2009年度JFA-47都道府県協会訪問会議報告」JFA協議資料No.5
- 19) 審判トレーニングセンター制度（審判トレセン）立ち上げについて（案）、JFA協議資料No.1①、2006年12月11日
- 20) JFAは必要な審判レベルの審判員が十分に提供できていないと考えている。1級審判員の必要数は180人。2006年の時点での1級審判員は119人。
- 21) Asian Football Confederationの略。日本語ではアジアサッカー連盟。アジアのサッカーを統括する唯一の団体。
- 22) JFA HP <http://www.jfa.jp/referee/college/application.html>、[主審]養成コース2015募集要項より作成。
- 23) 『日本サッカーのあゆみ』、日本蹴球協会編、1974年2月4日、p.73
- 24) 岸野雄三、成田十次郎、大場一義、稲垣正浩編：『近代体育スポーツ年表1800→1997三訂版』、大修館書店、1999年4月1日、p.271
- 25) 長友佑都（明治大学→FC東京→イタリアチェゼーナ→イタリアインテル）、AFCアジアカップオーストラリア2015日本代表選出。
- 26) 武藤嘉紀（慶応義塾大学→FC東京）、AFCアジアカップオーストラリア2015日本代表選出。
- 27) 2014年関東大学サッカーリーグ1部リーグ第1節公式記録より分析。
- 28) 体育会系リーグ（東海大学、国土館大学、筑波大学、日本体育大学、順天堂大学、国際武道大学の6校が参加）といわれる2軍の選手が参加するリーグ戦が大学の夏休み期間を利用して開催されていた。
- 29) 関東大学サッカーリーグに出場したことのある選手は関東大学サッカーリーグにおける出場時間によって1リーグ出場の可否を決定する規定がある。
- 30) 2014年度は4、5、6、7、9、10、11、12、1、2月に開催予定。
- 31) 佐藤隆治（筑波大学卒）、岡部拓人（流通経済大学卒）、山内宏志（東京学芸大学卒）、竹田明弘（日本体育大学卒）以上J1リーグ担当審判員。J2、J3、JFLを担当する者を含めると更に多数である。

NCAA Division I における バレーボールゲームに関する研究

北 田 豊 治・辻 内 智 樹

I. はじめに

バレーボールは1895年、William G. Morgan によりアメリカで考案された¹⁻³⁾。コンセプトはテニスを参考に、バスケットボールのような相手チームとの接触のない、大勢の人で老若男女問わずに室内で行えるというものであった。

アメリカにはバレーボール競技のプロリーグが存在しないために、その多くは National Collegiate Athletic Association (以下「NCAA」とする) がアメリカのカレッジスポーツを統括している⁴⁾。NCAA は100年以上の歴史を誇る団体であり、バレーボール以外にもアメリカンフットボール、バスケットボールなどのリーグ戦をテレビやラジオ等で中継するなど人気が高いものになっている。NCAA はメジャーな競技からマイナーな競技まで20を超える競技を統括しており、大会には全米中の1200校以上の大学生が参加している。

University of Hawaii は、1907年創立のアメリカ合衆国ハワイ州の州立大学であり、オアフ島に本部があり、3つの四年制大学、7つの二年制短期大学で構成されている。ハワイ大学女子バレーボールチームは、Rainbow Wahine (ハワイ語で「女性」の意味) というチーム名で地元の人たちから絶大な人気を誇っている。

Dave Shoji⁵⁾がヘッドコーチでチームを率いており、就任以来チームの勝利数は1137回(2014年8月時点)と現在も全米記録を更新中である。2009年にはNCAA Division Iで通算1000勝を達成した2人目のコーチとして表彰されており、チームも過去に4度全米チャンピオンになっている。現在同チームのアシスタントコーチである Robyn Ahmow-Santos をはじめとするアメリカ代表のオリンピック選手も輩出している。

チームはアメリカの大学リーグ NCAA Division I に属し、1996年～2011年は Western Athletic Conference (WAC) リーグ、2012年からは Big West Conference (BWC) リーグに参戦している。

日本におけるバレーボール競技の先行研究では大学女子1部リーグを対象とした調査で都沢ら⁶⁾が、平均サイドアウト率（以下「SO率」とする）は59.5%であること、45%以下では負けにつながることを報告している。また、箕輪⁷⁾はSO率を上げることは、連続失点を防ぐことであり、ゲームに負けられないために非常に重要であると指摘している。

都澤ら⁸⁻¹¹⁾や米沢¹²⁾は、レセプションからの攻撃によってサーブ権を獲得する能力が、バレーボールゲームの勝敗に最も影響を及ぼしていると報告しており、吉田ら^{13,14)}も「相手と接戦するための負けられない能力」と述べている。いずれもレセプションからの決定力をいかに上げるかが課題であることを指摘している。

そこで本研究ではアメリカ NCAA Division I の女子バレーボールチームを対象に、公式記録から獲得セットの有無とSO率、スパイク効果率（以下「HIT率」とする）との関係を分析することを試みた。

II. 方法

2014年度の NCAA Division I の University of Hawaii Rainbow Wahine Volleyball Team（以下「UH」とする）における公式戦全29試合で、第5セット目を除く合計101セットを対象とした。資料の収集に関しては、University of Hawaii Athletic Department の公式記録を用いた。出現するSO率、HIT率については得セット群（以下「W-set」とする）と失セット群（以下「L-set」とする）に分けて分析を行った。統計処理にはt検定を用いた。統計プログラムパッケージ PASW-Statistics 17.0を使用し、5%を有意水準とした。

III. 結果

1. UH と対戦相手との SO 率の比較

図1はUHと対戦相手のSO率を表したものである。UHのセット当たりの平均SO率は $64.5 \pm 11.5\%$ 、対戦相手は $56.3 \pm 12.4\%$ であった。UHはセット当たりの平均20.8回のサイドアウトの機会があり、13.2回を得点することができた。対戦相手は1セット当たり23.4回のうち13.0回を得点することができた。サイドアウトの機会は対戦相手の方が多く、サイドアウトに

よる決定率はUHの方が高いことが示された ($p < .001$)。またUHのレセプション受数については表1に示した。W-setが 19.1 ± 3.3 、L-setが 24.9 ± 1.0 であり、有意にW-setの方が少ないことが示された ($p < .001$)。

図2はUHと対戦相手のHIT率を表したものである。HIT率はスパイクの決定数からエラー(被ブロック、スパイクミス)回数を除いて、算出したものである。UHの1セット当たりのスパイクエラーは4.8本であるのに対し、対戦相手のセット平均は6.0本であり、対戦相手が有意に高いことが示された(表1)。UHのセット当たりの平均HIT率は $25.4 \pm 11.5\%$ 、対戦相手は $16.1 \pm 11.5\%$ であった。HIT率はUHが有意に高いことが示された ($p < .001$)。

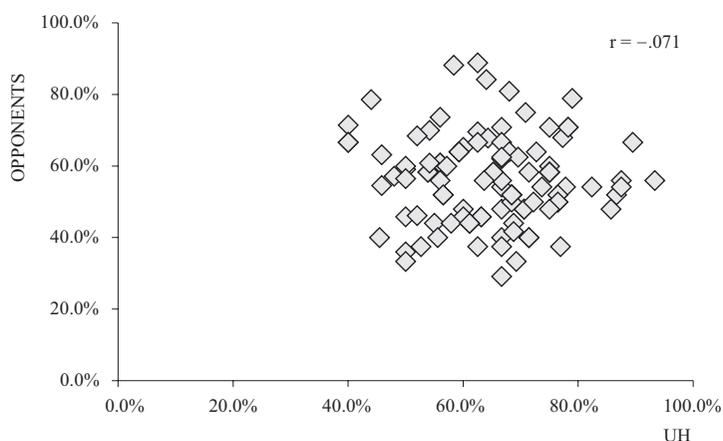


図1. 対戦相手とのSO率

表1. W-set, L-set による比較

項目	W-set (n=70)	L-set (n=31)	Total
Kills per set*	14.4 ± 2.4	12.0 ± 2.5	13.6 ± 2.6
Kill Error per set*	4.2 ± 1.8	6.1 ± 1.9	4.8 ± 2.0
Kill Attempts per set	35.6 ± 7.5	37.1 ± 6.9	36.0 ± 7.3
Hitting Percentage per set*	29.4 ± 10.3	15.9 ± 8.2	25.4 ± 11.5
SO Attempts per set*	19.1 ± 3.3	24.9 ± 1.0	20.8 ± 3.9
SO point per set	13.0 ± 2.4	13.7 ± 2.2	13.2 ± 2.4
SO percentage per set*	65.3 ± 14.0	49.6 ± 12.6	57.4 ± 15.4
UH score*	25.1 ± 0.5	20.5 ± 3.4	23.7 ± 2.8

* $p < .05$

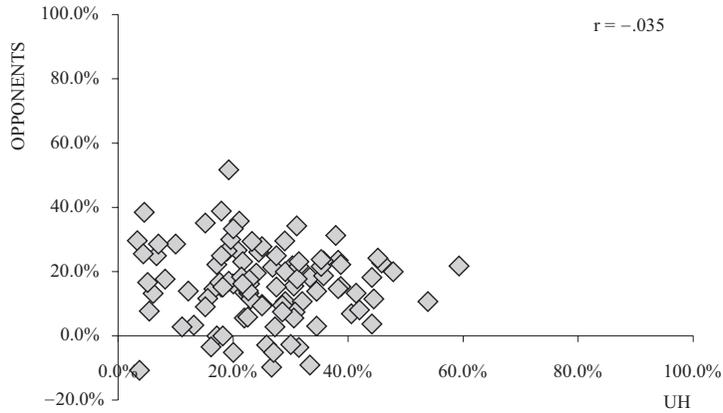


図2. 対戦相手との HIT 率

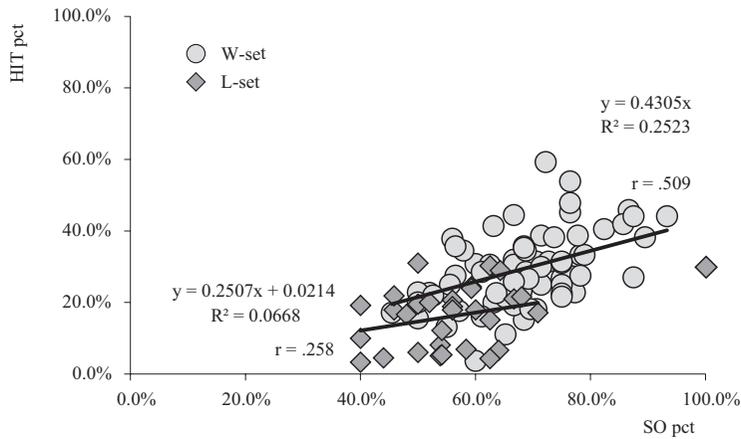


図3. SO 率と HIT 率

図3はUHのSO率とHIT率を比較したものである。SO率とHIT率の間には非常に高い相関がみられた。

セット獲得の有無(W/L)と比べたところ、セット獲得の有無に関わらず高い正の相関があった。

SO率が高い方がHIT率も高くなることが示された。この傾向はセット獲得の有無に関わらず、同じ傾向であることが示された。この結果からはSO率を高めるためのトレーニングの一環として、レセプションアタックの決定率を上げることに加え、被ブロックやスパイクミスを減らすための状況設定の必要性が示された。

IV. 考察

サイドアウト制のゲームにおいては、レセプションからの攻撃により得権を取るファーストサイドアウト (FSO) 能力が重要であったが、ラリーポイント制のゲームにおいては相手レセプションからの攻撃をブレイクするファーストトランジション (FT) 能力が最も重要であると指摘されている^{13,15,16)}。この FSO 能力と FT 能力は、それぞれがまったく独立した能力であることが明らかにされている¹⁷⁾。

米沢¹⁸⁾は大学女子チームの試合を対象にゲームの勝敗の予測を行い、FSO 率が34.9%以上で、FT 率が16.7%以上であれば、勝率が74%以上になることを明らかにしている。そして、FSO 率が34.9%以上であれば、FT 率が16.7%以下であってもゲームの勝率は58.3%以上となり、バレーボールゲームで安定したチーム力を発揮することができるので、まず FSO 能力を高めることが必要であると述べている。

バレーボール競技においては、レセプションからの攻撃でサイドアウトを獲得するファーストサイドアウト (以下「FSO」という) 能力が、勝敗に大きく影響を及ぼし、FSO 能力は大学生女子においては50%以上であれば勝利する確率が高いことが報告されている^{10,11,19)}。

これまでの研究では、自チームの FSO 能力および FT 能力を高めることが重要であるとしばしば指摘されてきた。

アメリカ NCAA Division I においても W-set は L-set よりも有意に高かったことから、SO 率を高めるためのトレーニングの一環として、レセプションアタック (レセプションからのスパイク) の決定率を上げることの必要性が示された。

米沢²⁰⁾は日本の大学トップレベルでは、FSO 能力と FT 能力が、それぞれ36.7%、17.5%以上になるように目標値を設定することを提案しており、FSO 能力が平均値よりも劣っている場合には、まず FSO 能力を高めるトレーニングを行い、FSO 能力が高まってから、FT 能力を高めるトレーニングを行うことが重要であると指摘している。

但し、競技特性からしてゲームにおける多くの局面は、対戦チームとの相対的な関係になるので、対戦相手の強弱により、これらの能力は低かったり、高かったり評価されることになる。したがって、大会のレベル、戦う相手を常に想定したうえで、SO 能力をはじめとする練習の目標値を設定しなければならないといえよう。

本研究の一部は愛知学院大学在外研究員規定に基づく助成を受けたものである。

文献

- 1) 前田 豊, 松平康隆, 豊田 博, バレーボールのあゆみ. 図説バレーボール辞典, 東京: 講談社, 1967; 10-11.
- 2) 小鹿野友平, 枋堀申二, 編. バレーボールの誕生と発展. バレーボールの学習指導, 東京: 不昧堂, 1987; 18-19.
- 3) 松平康隆, 編. バレーボールの歴史と特性. バレーボールのコーチング, 東京: 大修館1989; 1-3.
- 4) 井上功一, 入口 豊, 太田順康, 吉田雅行. 大学競技スポーツ組織の現状と今後の展望. 大阪教育大学紀要 第IV部門, 2001; 50: 193-210.
- 5) Dave Shoji, Ann Miller. 40 Years Coaching Hawaii's Team. Wahine Volleyball. HI: University of Hawaii Press, 2014.
- 6) 都澤凡夫, 黒後 洋, 中西康巳, 枋堀申二, 福原祐三, 苗大培, 亀ヶ谷純一, 小川 宏, 森 光雄. バレーボールのサイドアウトに関する研究 (3). 筑波大学運動学研究 1991; 7: 97-104.
- 7) 箕輪憲吾. 大学女子バレーボールリーグの成績に影響を与える要因に関する研究. 長崎国際大学論叢 2009; 9: 33-43.
- 8) 都澤凡夫, 大沢清二, 米沢利広, 他. サーブレシーブからの攻撃におけるサイドアウト率に関する理論的研究. 筑波大学体育科学系運動学研究 1988; 4: 41-47.
- 9) 都澤凡夫, 小川 宏, 黒後 洋, 他. サーブレシーブからの攻撃におけるサイドアウト率に関する研究 (2). 筑波大学体育科学系運動学研究 1989; 5: 105-108.
- 10) 都澤凡夫, 黒後 洋, 中西康巳, 他. サーブレシーブからの攻撃におけるサイドアウト率に関する研究 (3). 筑波大学体育科学系運動学研究 1991; 7: 97-104.
- 11) 都澤凡夫, 黒後 洋, 中西康巳, 他. サーブレシーブからの攻撃におけるサイドアウト率に関する研究 (4). 筑波大学体育科学系運動学研究 1992; 8: 81-90.
- 12) 米沢利広. バレーボールのゲーム分析—ゲームの勝敗に影響を及ぼす決定パターンの貢献度. 福岡大学体育学研究 1987; 17: 45-53.
- 13) 吉田敏明, 箕輪憲吾. 25点ラリーポイント制のバレーボールゲームにおけるゲーム結果と得点に直接関連する技術との関係. スポーツ方法学研究 2001; 14: 13-21.
- 14) 吉田敏明, 箕輪憲吾. バレーボールの攻撃組立能力に関する研究. 東京体育学研究 1988; 15: 55-60.
- 15) 米沢利広. バレーボールゲームのトランジション (Transition) に関する研究. 福岡大学スポーツ科学研究 2003; 33: 27-34.
- 16) 米沢利広. バレーボールゲームの First Transition に関する研究. 福岡大学スポーツ科学研究 2004; 35: 1-9.
- 17) 西嶋尚彦, 松浦義行. バレーボールゲームにおけるチームパフォーマンスの決定因子とその勝敗との関連. 体育学研究 1985; 30: 161-171.
- 18) 米沢利広. バレーボールのチーム力評価に関する研究. 福岡大学スポーツ科学研究 2005; 36: 1-10.
- 19) 都澤凡夫, 枋堀申二, 福原祐三, 他. サーブレシーブからの攻撃におけるサイドアウト率に関する研究 (5). 筑波大学体育科学系運動学研究 1995; 11: 63-78.
- 20) 米沢利広, 大隈節子. バレーボールゲームのチーム力評価に関する研究 II. 福岡大学スポーツ科学研究 2006; 36: 15-25.

現代社会に生きる道元禅師（1200年-1253年）の教え*

田 中 泰 賢

- (1) 川端康成氏（ノーベル文学賞受賞者）の道元禅師
- (2) ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」と道元禅師
- (3) 故スティーヴ・ジョブズ氏（米国、アップル創業者）の道元禅師
- (4) ゲイリー・スナイダー氏（米国、元大学教授、詩人）の道元禅師
- (5) 故ジュー・ケネット老師（英国、禅仏教尼僧）の道元禅師
- (6) ポール・ハラール師（北アイルランド出身、禅僧）及びマイケル・オキーフ師（アイルランド系米国人、俳優、禅僧、）の道元禅師

皆様おはようございます。行楽日和にもかかわらず愛知学院大学の公開講座においでくださいましてありがとうございます。道元禅師は本来の面目をめざす皆さまの様な方にあまねく坐禅をすすめておられます。最初に10分あまり一緒に坐禅をいたしましょう。

皆さまは椅子に座っておられますので足はそのままの状態です。

次に手の形と位置についてです。左の手の甲を右の手のひらの上に重ねます。左右の手の親指の先をそっと付けますと円相形になります。これを法界定印（ほっかいじょういん）と言います。親指の先がおへそあたりにきます。両手はゆったりと両足の上に置きます。

左に傾かず、右に傾かず、前に体を丸めず、後ろに反りかえらず正身端坐します。耳と肩、鼻とおへそが並びます。力まず、あごをひき、舌は上あごにつけ、口は閉じます。目は開きます。目は自然に開けています。呼吸は鼻で静かにします。

身体の姿勢が整いました。口を大きく開けて息をゆっくりと吐き出します。吸う時は口を閉じて鼻から吸います。次に体を左右に揺すります。背骨をリラックスさせます。7, 8回左右

に揺すったら坐禅に入ります。

坐禅が終わりました。まず両手の掌を上に向けて、両ひざの上に置きます。最初小さく、徐々に大きく体を左右に揺すります。道元禅師は坐禅を「ただこれ安楽の法門なり」と述べておられます。小倉玄照老師はこの安楽を「我欲を否定したところに生ずる安楽」と説明しています。（『新普勧坐禅儀講話』186頁）橋本恵光老師は「坐禅をしても戒が具わらないというのは、坐禅が坐禅でないからである。」と提唱されて、安楽の意味を誤解しないように注意をうながしています。（『普勧坐禅儀の話』200頁）内山興正老師は「われわれが生きてゆくうえで、すべてのシコリは、ただこの自分の小さいアタマのなかの、モノタリヨウの思いのなかで捲きおこされるだけのことです。しかしいま現在の生命が、現在の生命に成り切った姿（現成）のときには、あらゆる思いのシコリが結ばれる以前です。これが坐禅というものであり、ここにどっかり坐るのです。それゆえ坐禅は安楽の法門であり、」と述べています。（『宗教としての道元禅 普勧坐禅儀意解』60頁）

私が今掛けておりますのは、絡子（らくす）と言います。お袈裟（けさ）の一種です。「けさ」とはインドのサンスクリット語の音写です。壊色、赤褐色、柿渋色の意味です。もとインドの獵師などが着ていたぼろの衣をカシャーヤと呼んでいましたが、仏教はそれを取り入れたのであります。道元禅師はお袈裟が正伝の仏法の証であることを『正法眼蔵』の中で書き著しています。中国の唐の時代、即天武后が禅寺の修行僧が参禅聞法のため、諸方に師を求めて旅をしたり、また寺院において便所等の掃除、洗濯、燃料に使用する薪作りなどの仕事をする際、使用しやすいお袈裟として改善された「らくす」を与えてから普及したといわれています。

この絡子（らくす）は40年ほど前、お世話になった大樹寺（鳥取県）で指導を仰ぎながら手縫いで作ったものです。当時の大樹寺のご住職は鎌谷仙龍老師でありました。大樹寺は専門僧堂（曹洞宗で認可された雲水僧の修道の根本道場、当時）を開単（開創）しておりました。鎌谷老師はまた大本山永平寺の後堂（ごどう、修行僧を教育指導する役職）もつとめておられました。さらに愛知県津島市の海善寺尼僧堂（当時）や愛媛県新居浜市瑞応寺僧堂の眼蔵会等においての摂心会（せっしんえ、心をおさめて、散乱させないこと。一定の期間、集中的に坐禅を行う会）に出かけておられました。

鎌谷老師は私の絡子（らくす）の内側に「声色之外威儀」と書いて下さいました。これを「声色（しょうしき）の外（ほか）の威儀（いゐぎ）によるべし」と橋本恵光老師（鎌谷老師のお師匠）は読んでいます。橋本老師は「声色の外の威儀」は「仏祖正伝の坐禅の代名詞に用いられたもの、略。この坐禅の威徳には何物もおそれよりつかぬ」ものであると述べておられます。（276-277頁）

この「声色の外の威儀」という言葉は道元禅師の撰述された『普勸坐禅儀』の中にあります。道元禅師が『普勸坐禅儀』を書いたのは、「それまで日本において正しい坐禅の仕方を著した書物がなく、また参学者から坐禅儀を著してほしいとの要請があり、如浄禅師から受けた仏法を伝えるためにこの『普勸坐禅儀』を著す。」（伊藤秀憲他訳『道元禅師全集』第14巻、3-4頁）と述べています。

橋本老師及び小倉老師によれば、この言葉「声色の外の威儀」は中国の香巖智閑（きょうげんしかん、?-898、鄧州香巖寺襲燈大師）の言葉に由来しています。香巖は滄山靈祐禅師（771-853）の下で修行しておりました。博学であったといえます。ある日、滄山は香巖に「あなたが生れて幼児であった頃に戻って私に何か言ってほしい」と問われましたが、香巖は答えることができませんでした。香巖は悲しみ、涙をながして、今まで書き記した書物を全て焼き捨てて均州（湖北省）武当山に入り、慧忠国師（?-775）の旧庵のあとに庵住まいをしました。そして、ある日、道の掃除をしていた時、小石が竹にあたり、その響く音を聞いて香巖は大悟したといえます。その時の境地を香巖は次の詩に表現しました。

一撃忘所知 更不自修治
動搖楊古路 不墮梢然機
處處無蹤跡 聲色外威儀（下線は筆者）
諸方達道者 咸言上上機（大久保道舟編『道元禅師全集 下巻』、204頁）

この現代語訳は次の通りです。

「一撃の音で虚妄分別が消え去り、さらに修め求めるものはなくなった。
これからの行いはすべて古人の道に契い、しかも悟りに滞ることはない。
どこにも悟りの跡をとどめず、虚妄分別を離れた仏の行いとなる。（下線は筆者）
これをこそ、諸方にいる達道の人たちは、ことごとく無上の悟りと言っている。」
（粟谷良道編著『禅語録傍訳全書〔七〕正法眼蔵三百則Ⅰ』、70頁）

そのような歴史的に深い意味のある一句を鎌谷老師は私の絡子に書いて下さいました。ありがたいことです。当時のノートを見ますと、大樹寺僧堂で修行していた僧侶の中に鈴木聖道さんと言う方の名前があります。鈴木老師は現在、岡山県の洞松寺のご住職をしておられます。また僧堂（曹洞宗の僧侶を養成するために、修行僧を教育指導する学校）も開いています。鈴木老師を慕って、海外からも修行に励んでいる方々がいると聞いています。鈴木老師のあつい求道心にうたれます。

道元禪師は「弁道話」巻で「もし人が、たとえほんの一時でも体・口・ころの上に仏のしるしを体験して、仏の姿になりきって正身端坐（坐禪）をするならば、全宇宙の一切のものが仏の悟りの相となる。その故に諸仏諸祖は本来の面目を現成し、仏法の楽しみと喜びを増し、仏土を新たに莊嚴浄化するのである」（中村宗一他訳『全訳 正法眼蔵』「辨道話」巻四、286-287頁）と述べています。

今皆さまと坐禪をしました。これはお釈迦様のなされた坐禪でありますから、坐禪をした時、お釈迦様は過去の人ではなく、お釈迦様と共に坐禪をしたこととなります。道元禪師も同じです。道元禪師の伝えられた坐禪をしましたので、道元禪師と共に坐禪をしたこととなります。それを道元禪師は本来の面目と述べています。

鎌谷仙龍老師は「世の中全体を浄め向上させることが出来るのだというすばらしい大理想が確信されたとしたら、一座の坐禪も読経も、礼拝一つも合掌一つも、決してぐうたらな気の抜けた、いいころかげんなやり方はできないということになるわけです。」（『正法眼蔵身心学道』165頁）と述べています。

道元禪師が影響を与えている内外の人々についてその一端を紹介します。

- (1) 川端康成氏はノーベル文学賞受賞記念スピーチ「美しい日本の私」（於スウェーデン、1968年12月1日）の冒頭に道元禪師の和歌（「本来ノ面目」と題する歌）を掲げ、スピーチの最後に再び、道元禪師の「本来の面目」を述べています。道元禪師の「本来ノ面目」とは何でしょうか。

川端康成氏は1968（昭和43）年10月17日、日本人として初めてを受賞しています。因みにアジアではインドの詩人、タゴール氏に次いで二人目でした。しかしタゴール氏が受賞したのは1913（大正2）年ですので、アジアからノーベル文学賞が出たのは実に久々でありました。川端康成氏のスピーチをその時通訳したのはアメリカの日本文学研究者のエドワード・G・サイデンステッカー氏でありました。

サイデンステッカー氏も取り上げている川端康成の『文学自叙傳』の一節を引用します。

私は東方の古典、とりわけ佛典を、世界最大の文學と信じてゐる。私は經典を宗教的教訓としてでなく、文學的幻想としても尊んでいる。「東方の歌」と題する作品の構想を、私は15年も前から心に抱いてゐて、これを白鳥の歌としたいと思つてゐる。東方の古典の幻を私流に歌ふのである。書けずに死にゆくかもしれないが、書きたがつてゐるといふこ

とだけは、知ってもらひたいと思ふ。西洋の近代文學の洗禮を受け、自分でも真似ごとを試みたが、根が東洋人である私は、十五年も前から自分の行方を見失った時はなかったのである。(33：87-88) (下線は筆者)

仏典の定義は、中村元氏の『仏教語大辞典』では「仏教の聖典」、となっています。『日本国語大辞典』第11巻では『仏典』を『仏書』と同じと定義して、「仏教に関する書籍」としています。『学研漢和大辞典』では「1. 仏教の經典。2. 仏の教えを記した書物。3. 仏教に関することを記した書物」となっています。もちろん仏典は仏教の聖典です。と同時にあらゆる分野の宝庫でもあります。

川端康成氏は作家の立場から、仏典を人類の生んだ最高の文学と位置付けています。道元禪師の父、「久我通親（みちちか）の一族というのは、すべて風流歌人で、道元禪師が育ててもらった久我通具（みちとも）という人は「新古今集」の撰者であり、なかなかの文人でありました。道元禪師自身も古今集、新古今集、源氏物語を読んでいた。」(有福孝岳、108頁)と言います。川端氏が800年前の道元禪師の著した作品の中に素晴らしい文学性を見たのもうなずけます。

川端康成氏は1歳の時に父親が亡くなり、2歳の時に母親が亡くなっています。「この悲劇的な両親の死は、日本人は肉親の結合が強い点から見まして、二重の重要な意味があります。この事実は疑いもなく川端氏の人生観全体に影響を与えましたし、氏が後に仏教哲学の研究をする理由の一つにもなりました。」とスウェーデンアカデミー常任幹事アンダーシュ・エステルリング氏は川端康成氏に対するノーベル文学賞授与に際しての歓迎演説で述べています。(『武田勝彦記 日本文学研究資料双書川端康成』、293頁) 道元禪師は3歳の時に父が亡くなり、8歳の時に母が亡くなっています。川端康成氏も道元禪師も共に幼い時に親を失っています。そういうことが両者を仏教の世界へと導く一つの縁になったのではないのでしょうか。

川端康成氏はその「美しい日本の私」のスピーチの冒頭に道元禪師の次の和歌をとりあげています。

春は花夏ほととぎす秋は月

冬雪さえて冷し(すずし)かりけり

道元禪師(1200年-53年)の「本来ノ面目」と題する歌

(『美しい日本の私』6頁)

川端康成氏はこのスピーチを次のように述べて閉じております。

道元の四季の歌も「本来ノ面目」と題されてをりますが、四季の美を歌ひながら、実は強く禅に通じたものでせう。(同書、36頁)

川端氏はこのスピーチの最初と最後に道元禅師の本来の面目という言葉を使っております。いかに道元禅師がこのスピーチにおいて重要であるかがうかがわれます。川端氏はこの道元禅師の歌をスピーチの中でも再度詠んでいます。道元禅師は48歳(1247年)の時、執権北条時頼(ときより)の招きを受けて鎌倉で法を説いています。そのおり、時頼の北の方から求められて詠んだ歌と言われています。道元禅師が亡くなる6年前です。

成河智明師¹⁾は「時間は過去から未来へと続いているが、ある時、ある時と取り上げない限り、時間はただの暗い次元でしかない。時間に名前を付けない限り時間をとらえることができない。個々人がある時、ある時の事物をとりだせば、その人にとって、ある時が光り輝く。」(『正法眼蔵 有時、14-15頁)と述べています。そうしますと、お釈迦様が人々に法を説かれたのもある時であり、お釈迦様が亡くなられたのもある時であり、達磨様が面壁9年の坐禅をされたのもある時であり、道元禅師が如浄禅師から法を継いだのもある時であります。そのある時を思い、供養し、修行する時、みなさまも全て光り輝くのであります。

皆さまもご先祖様がある時生れて、ある時亡くなられたことを記念して、お坊さんをおうちにお呼びして法事をする時、皆さまも輝き、全てが輝きます。花まつり、お盆、施食会、お彼岸、成道会、お涅槃会、等のお寺の行事にお参りされまして御本尊様を拝み、またご住職様のお話を聞く時、皆さまも輝き、全てが輝くのです。またお墓参りをしてお墓を清掃して、ご先祖様に手を合わせる時、皆さまも輝き、全てが輝くのです。お家のお仏壇にお仏飯や、お茶を供えて供養する時、皆さまも輝き、全てが輝くのです。

それは「私の一念(おもい)が諸仏如来(みほとけたち)の智慧と相応(おなじ)であれば、すなわち時間的には、過去・現在・未来の三世が、現在の一瞬の心の中にあることを究めつくすことができるのです。空間的には十方のすべてが、いま現在の自分の一念(おもい)の中にあることを知ることができるのです。」(大野榮人『随嬉稱名成佛決義抄釋』50頁)²⁾ということになります。これが修行です。その時、ご先祖様のお陰で生かされていることに気がつきます。あらゆるもの全ての中で生かされていることを学びます。これが修行です。これが本来の面目ではないでしょうか。

成河智明老師は「時を考える場合、時は過ぎ去るものとすれば、過去に起きたことを現在から見ると、遠く離れてしまっていることになる。しかし、時は別の面がある。その事象の時々に自分がいたのであり、自分がおり時もあるとすればある時はそのまま現在のしゅんかんである。」(『正法眼蔵』有時、25頁)と興味深い視点から時について語っています。

「春は花、夏ほととぎす、秋は月、冬雪さえてすずしかりけり」という歌は道元禪師が800年前に歌ったものです。しかし成河智明老師の論点に立てば、今私達がこの歌を読む時にはそれは過去の歌ではなく、今この現在のことを歌っていることになります。春というある時には花がいっぱい咲き、夏というある時には鳥を始めとするあらゆる生き物が活動し、秋というある時には美しい月が輝き、冬というある時には雪が降る。そのある時、ある時すべてが輝いております。

ここでも時間に春、夏、秋、冬という名前があります。春にはたくさんの花が咲きそろいます。夏には様々な生き物が活動します。秋には月が示すように私達のいる太陽系、その太陽系がある銀河、さらにたくさんの銀河があり、この宇宙の広大さを知ります。冬には雪も降り、大自然の営みを感じます。私達がそう思う時、私達が輝き、全てが輝きます。そしてその時、それら全てがつながっており、私達がそのつながりの中で生かされていることを学びます。

道元禪師は「(本来の) 面目とは、たとえば、春は春のまま、春ながらの心の動きがあり、秋は秋のまま、秋ながらの心の動きがある。春は美しく、秋は淋しさを心に感ずるのである。」(中村他訳「唯仏与仏」巻四、401頁)と述べておられます。さらに「老梅樹は、冬であるのにたちまち一華二華を開き、三華四華五華と無数に開いてゆく。その清らかさを誇ることもなく、香りたかさを誇ることもない。」(中村他訳「梅花」巻三、22頁)と説いておられます。

成河智明老師は「各自が時間の中で関連する事物を並べて各自がこれらを見るのである。だから時間というのはそれぞれの人の時間ということになる。地上に多くの事物現象があり、たくさんの生物がおり、また一本の草、一個の事物もそれぞれこの地上にあることを学ぶべきである。このように考えるのが修行である。」(『正法眼蔵』有時、20頁)と論じておられます。

鎌谷仙龍老師は「本来の面目、ということを言いますが、何もかもそれ相応に本からちゃんと具わっている徳、それが道なのです。眼はよこ、鼻はたて、それが万物の道理であります。その解り切った道理にもかかわらず、道理が腹に入らないため、不足をいったり、恨んだり、ねたんだりします。坐禅がほんのちょっぴりの間でも出来たら、道を道にまかせたので、本来の面目がそのまま現れます。」(『正法眼蔵菩薩埵四攝法』36-37頁)と提唱しています。

さらに道元禪師は「自分というものをもって、事物事象の働きを習い究めようとするのが迷いであり、逆に、自然の働きがまさっていて、その中で自己が自己を習い究めるのが悟りである。」(成河智明、現成、7頁)と述べています。私達は大自然の中で、或いは大宇宙の無常の法則の中で生かされています。それを自分の思い通りにしようとする歪みが生じてしまいます。自分の思いを中心にする、大自然の摂理を見失ってしまいます。自分の思惑、自分の都合を中心にして考えることに道元禪師は注意をうながしています。春、夏、秋、冬という大自然の摂理を見失うことなく生きることの大切さを述べています。現代は情報化社会で便利です

が、大自然の実体とかけ離れた、私たちの自我が作り上げた妄想の世界に落ち込んでしまいかねない時代です。だからこそ、言葉の世界とは違う坐禅が重要になってきます。

自我とは周りの人にいろいろな役割を割りあてて、その通りに演じることを求めます。相手が自分の期待した通りに演じないと怒ったりします。自分が監督で世界は自分の思った通りに動いてほしいと思うのです。しかし世界というものはけっしてそのとおりに動いてくれません。ものごとすべてにおいて、自分勝手をせず、相手を生かす。そうすれば自分にも満足のいく世界が開けてきます。

私達が新幹線に乗っている時、一瞬目の前の風景が流れている錯覚を覚えることがあります。それは常に自分が動かないという誤解によります。実際は私達の乗っている新幹線が動いています。朝、太陽が出て、夜、太陽が沈みますが、しかし実際は地球が回転しながら太陽の周りを回っています。地球自体が自転の軸が少し傾いています。傾いているために、ある時期には太陽の光をよく受け、またある時期には太陽の光をあまり受けないという現象が起きます。太陽の光と熱を十分に受け取っている時を夏といい、反対に光も熱も少ししか受け取っていない時期を冬といいます。この夏と冬の間にあるのが春と秋です。夏が暑く、冬が寒いといった季節の変化は地球が傾いて太陽の周りを回っていることが原因です。

「薪が灰となった後、また薪とならないと同様に、人が死んで後、また生とはならない。このようであることを、生が死になると言わないのは、仏法で定められている決まりである。このことから不生というのである。また死が生にならないことも、お釈迦様の教えに定められている仏の説法である。このことから不滅というのである。生も一時の位置である。死も一時の位置である。例えば、冬と春のようなものである。冬そのものが春そのものになると思わないし、春が夏になるとはいわないのである。」(成河智明、現成、15頁) そうしますと春³⁾も夏も秋も冬も大地自然はあるがままに存在していることに気がつきます。

(2) 何故道元禅師の『典座教訓(てんぞきょうくん)』は現代においても大切でありましょうか。

「和食文化」が平成25年12月、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。長年にわたる日本人の創意工夫のたまものでありましょう。登録実現に努力された多くの方々に敬意を表したい。多くの仏教寺院の努力もまた和食の確立に貢献しており、その一つが精進料理という形に発展してきました。800年前、道元禅師が著した『典座教訓』もまた、日本の食文化に大きく貢献しています。この書で道元禅師は食事を担当する人の重要性を強調し、食事をつかさどる典座の役割が如何に大切な役職であるかについてまたその心構えについて懇切丁寧に述べてい

ます。「典座は人の命を預かり、「菩薩行」と呼ばれる大役であります。」（『精進 京の四季の味わいと禅の心』184頁）当時は食事を作ることや食事の心得が必ずしも修行において重視されていませんでした。つまり道元禅師の著したこの典座教訓は日本の食文化に於いて全く新しい世界観を展開したものといえましょう。

典座とは修行寺において食事をつかさどる非常に大切な役職であります。修行僧はみな典座を尊敬し、典座から学んでいきます。道元禅師は1237年、春、京都の深草、興聖寺で『典座教訓（てんぞきょうくん）』と呼ばれる書物を書いています。この興聖寺は道元禅師からすれば日本初の本格的な禅の修行道場として出発したのであります。道元禅師は『正法眼蔵』という今日、国内外でよく知られている書物を著しておられます。『正法眼蔵』は宗教的、哲学的に深遠な教えが説かれています。それに対して道元禅師の著した『永平清規』は修行僧達が修行の生活を実践できるように具体的に書いた書物です。その『永平清規』の最初におかれているのが『典座教訓』です。道元禅師は『典座教訓』の中で次の様に書いておられます。

大心とは、その心を大きな山のようにさせ、またその心を大きな海のようにさせる。一方にかたよったり、何ものにもくみしない心である。約40グラムほどの軽いものでも軽々しく扱わず、約19キロの重いものにも特別に大げさに取り扱ったりしない。春の風に誘われても、浮かれることなく、秋の景色を見てもことさらに物寂しい心を起こさない。春夏秋冬の四季の移り変わりも、これを自然のあるべき姿として、大きな眼で一つの景色の中に一緒にとらえる。（中村璋八・石川力山・中村信幸134-137頁、上田祖峯212-216頁、中根環堂192-196頁、内山興正232-233頁、藤井宗哲159-164頁参照）

この大心は最初に紹介しました、道元禅師の和歌「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえて涼しかりけり」のことであることがわかります。京都に以前曹洞宗の安泰寺というお寺がありました。このお寺は1977年ごろに兵庫県に移転しております。移転前のご住職は内山興正（1912-1998）老師でありました。内山老師は早稲田大学大学院修士修了後、宮崎カトリック神学校教師をしていました。1941年に沢木興道老師に就いて出家しています。その後、沢木興道老師と弟子の内山興正老師が安泰寺を再興しています。

その移転する前の1974年ごろ、私は安泰寺の摂心会に参加したことがあります。当時私は広島に住んでおりました、市内の禅昌寺という曹洞宗の土曜参禅会にかよっておりました。その参禅会に熱心に通っておられた瀬戸原行信という方がおられました。この方は安泰寺にも摂心に時々参加しておられました。私も一度行ってみたいと思い参加した次第です。それで広島から自分の坐蒲を持って京都の安泰寺に行きました。その摂心会ではセーターを着ていたこと

を思い出します。本堂に僧侶や一般の方、外国からの方々、合わせて四、五十人の参加者が五日間摂心を行いました。朝四時に起床して夜九時に開枕（就寝）するまで、坐禅と経行（きんひん）〔坐禅の合間に本堂内をゆっくり歩くこと〕を繰り返します。今思うと、その参加者の人数分の食事を朝、昼、晩と作ってくださった典座の方々に改めて感謝したい気持です。摂心ができましたのは食事を作って下さった典座和尚の方々のお陰です。因みに一週間の摂心会が終わった時、若い外国の人達が抱き合って喜んでいた姿を思い出します。

内山興正老師のお弟子さんたちは海外布教をしておられます。例えば奥村正博老師はアメリカのインディアナ州に三心寺を建立され、またサンフランシスコの曹洞宗北アメリカ開教センター長も務められております。また内山興正老師のお弟子さんに渡部耕法老師と言う方がおられ、その人のお弟子さんに藤田一照さんという方がおられます。藤田老師はアメリカのマサチューセッツ州ヴァレー禅堂に赴任され、曹洞宗国際センター長も務めておられます。

このように海外で布教するお弟子さんたちを育成した内山興正老師には典座教訓について一冊の本があります。これは宗務庁から毎月刊行されている「禅の友」に連載したものをまとめて1970（昭和45年）に出版されています。その題名がちょっと変わっていて『人生料理の本典座教訓に学ぶ』となっています。その書物で内山興正老師は次のように述べておられます。

『典座教訓』は料理をする役の本であり、一口にいえば料理の本だということができます。しかしそれはどこまでも宗教書です。いや、わたしの考えでは、古今無比の最高の宗教書だと信じています。というのはそれにはたしかに食事そのものの料理の仕方もかいてありますが、同時にあらゆるもの、あらゆる事柄、あらゆる人間を料理する態度が書いてあり、もっと根本的にいえば「自己自身の人生をいかに料理するか」を、具体的にかいたところの料理の本だからです。略。ではこの人生をわれわれは一体何によって料理するか—道元禅師の場合、それは坐禅です。道元禅師の坐禅の背後に仏教という宗教があり、仏教という宗教の背後には自己の人生が有るべき（24-25頁）

愛知専門尼僧堂堂長、青山俊董老師は国内の布教はもとより海外の各地を巡回布教されて、禅の海外展開に尽力されています。以前、カナダで禅の修行をしている女性のお坊さんが名古屋に来た時、ぜひ青山老師に会いたいという希望があり、忙しい日程のなかで青山老師のお寺に拝登して会っていただいたことがありました。このように青山老師は海外でもよく知られた僧侶であることがわかります。青山老師はこの典座教訓についてのご提唱の中で次のように語っています。

尼僧堂の改築に写経で協力して下さった方に、Hさんという六十歳を少しすぎたお婆ちゃんがいた。このお婆ちゃんは写経のご縁に会えたことの喜びを、一人胸にしまっておかず、その勤め先である競馬場で、馬券を売りながら、競馬に来る人ごとに、「お写経をしてごらんになりませんか。お写経のご縁にあずかせていただきますよね」と写経を勧め、たくさんの写経を尼僧堂に納めて下さった。私は深い感動と共にこのお婆ちゃんのお話を聞き、ひそかに私の思い違いを懺悔した。私は何となく先入観として、競馬や競輪などというところは、世間の吹きだまり、人々のひんしゆくを買うような人々の集まる場所、いわば泥田のような所と思い込んでいた。どこもお浄土、泥田の真ただ中にもみごとな大百連は咲くのであり、浄土、穢土は、場所ではなくて、住む人々がみずからつくり出してゆく世界なんだと、気づかせていただき、私の思い違いを懺悔したことであった。」（『道元禅師・典座教訓 すずやかに生きる』44頁）

青山老師の典座の職を説明する仕方はとてもわかりやすいですね。因みに青山老師の説明の中に大百連という言葉がありました。愛知学院大学の正門のすぐ近くにバス乗り場がありますね。そのバス乗り場にお手洗いの建物があります。その近くに蓮が大きな鉢に植わっております。中根環堂老師（『典座教訓現代講話』107-109頁）によりますと、東佐與子（ひがしきよこ 1892-1973）氏は道元禅師の『典座教訓』を大変推賞していたといえます。東佐與子氏は元日本女子大学の教授でありました。1925（大正14）年から日本政府留学生としてフランス、パリの料理学校、コルドン・ブルーに留学しています。東氏は次のように述べています。

私は長い間の実験によって、人類の食べ方が物質面に偏し、精神面を全然閑却している事を知った。（『世界人は如何に食べつつあるか』3頁）

この言葉は道元禅師の『典座教訓』の次の言葉に相当するでありましょう。

よく考えてみると、雑念を離れ、真心を打ち込んで食事を調える典座の仕事が、人格完成への仏道修行に他ならないからである。（上田祖峯訳、4頁）

また東氏の「心と手とで料理を作り」（3頁）は、道元禅師の「典座職にある者は、調理材料や調理器具などに絶えず心を注ぎ、心と物との区別なく、心と物と一体となって、調理の仕事に精魂真心をこめて精進し、修行しなければならない」（上田祖峯訳、51頁）に相当するでありましょう。更に東氏は「食物は宇宙霊の人類に對する愛の表現物である。略。道元禅師

が、草木如何でか眞如佛性ならざらむ」（草木は物質でなく佛であるの意）と申された所以である。」（『愛の料理集』24頁）と述べています。ここでは東氏は道元禅師の『正法眼蔵』「発無上心」巻から引用しています。

中村璋八氏達は元日本栄養士学会会長森川規矩氏（1906-1980）から依頼を受けて栄養士を対象として『給食倫理』（1977年）、続いて『作る心 食べる心』（1080年）出版しています。森川氏は「人間の生存は、生物界の共通する生きる権利を無視し、生命ある動植物を容赦なく殺戮し、彼らの保有する栄養素を人間の栄養に供するばかりでなく、更に大量に食物を廃棄している現今の日本の食習慣を省みるとき、食事を作る心、食べる心のある人間として許容できるものだろうか？「いただきます」「ごちそうさま」の清らかな心は、一切の罪状から栄養の感謝まで含めた、精神上の美しいものに受け取れるといえるかもしれないが、給食管理の日本の始祖、道元禅師は、給食の倫理を典座教訓等にまとめている。この道元の心を、私は日本栄養士の魂に新風を送るために、50余年一貫して説いてきた。」と述べています。（『作る心食べる心』推薦の言葉）

森川氏は『給食管理者たるわれわれ栄養士は、給食の倫理観に立って学理を背景とした給食経営学、給食経済学、給食工学を学び、さらに給食調理の科学的解明を目指して努力しなければならぬと思う。』（『給食倫理』編さんのことば）と述べています。また中村氏は「現代の人々は、ややもすると、「食」を単なる生理的欲求を満たす「物」と見做すのみで、その本質を見失い、また、それを調理する人に対しても、真の理解を示さず、調理する側も、自己の作業に対して矜持（きょうじ）することをしない。果してこれで良いのであろうか。このような考え方が、現代社会の種々の病根となっているのではなからうか。」（『給食倫理』序）と力説しています。服部敏良（としろう）氏は「現代人の感覚からみれば、飽食が健康に有害であり、いろいろな肉体的障害を起こすことをだれでもが知っている。しかし、二千年余の昔に説かれたとなると、われわれも驚かざるを得ない。お釈迦様はお経の随所にこうした飽食戒を説き、飽食の恐ろしさを、弟子に教えている。」（『釈迦の医学』81頁）と指摘しています。

(3) 何故スティーブ・ジョブズ氏（1955-2011）は道元禅師の教えに魅かれたのでしょうか。

ジョブズ氏は1974年（19歳）ゲーム・メーカーのアタリ社に夜勤エンジニアとして勤めています。インドへ探究の旅をする為に退社しています。旅費を捻出するためチーフ・エンジニアのアルコーンと交渉します。アルコーンは旅費を援助する条件としてヨーロッパで起きているアタリ社の規格のトラブルを解決することを条件にします。ジョブズ氏は見事に、その問題を解決します。インドで7カ月の旅を終えて帰国した時の印象は次の通りです。

僕にとっては、インドへ行った時より米国に戻ったときのほうが文化的ショックが大きかった。インドの田舎にいる人々は僕らのように知力で生きているのではなく、直観でいきている。そして彼らの直観は、ダントツで世界一というほどに発達している。直観はとってもパワフルなんだ。僕は、知力よりもパワフルだと思う。この認識は、僕の仕事に大きな影響を与えてきた。略。インドの田舎で7カ月を過ごしたおかげで、僕は、西洋世界と合理的思考の親和性も、そして西洋世界のおかしなところも見えるようになった。じっと座って観察すると、自分の心に落ち着きがないことがよくわかる。静めようとするともっと落ち着かなくなるんだけど、じっくりと時間をかければ落ち着かせ、とらえにくいものの声が聞けるようになる。このとき、直観が開く。物事がクリアに見え、現状が把握できるんだ。ゆったりした心で、いまこの瞬間が隅々まで知覚できるようになる。いままで見えなかったものが見えるようになる。これが修養であり、そのためには修行が必要だ。あのときから、僕は禅に大きな影響を受けるようになった。（ウォルター・アイザックソン『スティーブ・ジョブズ I』井口耕二訳、93-94頁）

アメリカに帰ったジョブズ達は鈴木俊隆老師から紹介を受けた千野弘文（乙川弘文）老師（1938-2002）から禅の指導を受けます。雨が降っていた日には、そういう環境音を利用して坐禅に集中する方法を学んでいます。ジョブズ氏は毎日のように弘文老師の元へ通い、2～3カ月に一回はこもって坐禅する摂心会をおこなっていたようです。二人の信頼関係は厚く、17年後に弘文老師がジョブズ氏の結婚式を執り行っています。

鈴木俊隆老師が1967年にカリフォルニア州タサハラに建設した禅心寺（Zen Mountain Center Zenshinji）は、北米で初めての「叢林」、つまり集団で生活しながら坐禅修行を続けることの出来る修行道場として、今なお多くの修行者を集め、全米の参禅者達の拠り所となっていますし、タサハラ禅心寺の活動が軌道に乗り始めた1970年に著された「Zen Mind, Beginner's Mind」は、禅の実践に関する入門書として大きな反響を呼び、ベストセラーとなりました。その後、45か国語に翻訳され、世界的に禅の実践の捉え方を紹介する書として広まっているのです。（石井清純監修『禅と林檎 スティーブ・ジョブズという生き方』192-193頁）

鈴木老師は1959年、サンフランシスコの桑港寺の住持になっています。1961年近隣のユダヤ教の寺院を買い取り、発心寺（Beginner's Mind Temple）を創設しています。1970年から80年代、前角博雄老師がロサンゼルスとニューヨークに、片桐大忍老師がミネソタに禅センターを開設していきます。乙川弘文老師は鈴木俊隆師の依頼を受け、タサハラ禅心寺で修行者の指導にあたるためアメリカに来たのです。

スティーブ・ジョブズ氏は1986年に起こしたネクスト社では宗教指導者として乙川弘文老

師を招へいしています。乙川弘文老師は1938年、新潟県加茂市の曹洞宗、定光寺住職、乙川文竜の三男として生まれています。8歳の時、病気で師匠である父が亡くなります。耕泰寺の住職で加茂高校の英語教師をしていた知野孝英先生の養子になります。弘文老師はさきほどふれました沢木興道老師のもとで坐禅をしています。沢木老師が亡くなる1965年まで折にふれて沢木老師のもとを訪ねて坐禅の指導を受けています。

駒澤大学から京都大学大学院に進学した際には内山興正住職の安泰寺にも参禅していました。さらに永平寺で修行をしています。鈴木老師からロスアルトスのハイク禅堂の住職をまかされています。鈴木老師の亡きあと、その後を継いだリチャード・ベイカー師の要請を受け、サンフランシスコ禅センターを助けます。また新たに設立したサンタクルズ禅センターでの指導、スタンフォード大学での講義、ハイク禅堂近くのユースホテルでの坐禅会を行っています。1981年、ロスアルトス近くに観音堂、サンタクルズの山麓に慈光寺を建立します。ジョブズ氏はリード大学時代から仲間達とハイク禅堂、タサハラ禅センターにかよって乙川弘文老師から禅の指導を受けます。そういった過程においてジョブズ氏は道元禅師の禅を学んでいったと思われます。

- (4) アメリカのゲイリー・スナイダー氏は道元禅師の教えをどのようにとらえていったのでしょうか。ゲイリー・スナイダー氏は次の様に述べています。

「ある人は、例えばボブキャットの仏の領域においては「アヒンサー」の実践とは何を意味するのかと疑問に思うかもしれない。道元禅師は「龍は水を宮殿と見る」（『正法眼蔵』「山水経」）と言ったが、ボブキャットにとって森はエレガントな食堂（じぎどう）であり、そこではウズラに対し静かに感謝の偈を唱えながら、心の中で悪鬼や飢えた亡霊たちとウズラを分かち合っているかもしれないのだ。道元禅師は「仏とともに学ぶ者は、水を観察するときは人間の視点に縛れてはいけない」（『正法眼蔵』「山水経」巻）とのべている。それではウズラにとっては、それはどんな世界であろうか。私が私自身について知ることと言えば、次のことだけである一死に際し、私の死と苦悩は私自身のものであり、私の苦しみが私を倒した虎（または癌、あるいはなんであれ）のせいにするのを望まない。虎に対してはただ「私の肉体を無駄にしないでください」と頼みたい。そして彼女（虎）と一緒に唸り声をあげてみたいと思う。」（『惑星の未来を想像するものたちへ』97頁）

ここでゲイリー・スナイダー氏は道元禅師の「山水経」の言葉を引用しながら、私達が陥り

やすい一つの見方に偏する危険性に注意を促しています。これは道元禅師の世界観が現代社会の中で非常に重要であることを示しています。スナイダー氏は「青山は常に歩いている」という道元禅師の言葉を引用して、語り続けます。

道元禅師のいう山水とは、この地球の生成過程であり、存在そのもの、過程、本質、行為、不足であって、存在も非存在も、ともに含んだものである。山水は我々そのものであり、我々は山水そのものだ。階級もなく、平等もない。秘儀的でもなく、開放的でもない。天才もいなければ、のろまもない。野性もなければ、栽培もない。束縛されもしなければ、自由でもない。自然でもなければ、人工的でもない。それぞれが、まったく独自の、つかのまの個である。そして、すべての存在は、あらゆる形で関わりあっており、あらゆる形で相互に関わっているからこそ、独自の個なのだ。だから「青山」は台所へ歩いてゆき、店にも行く。」（『野性の実践』140-141頁）

スナイダー氏は早くから道元禅師を氏の著書等で取り上げています。一つは詩集 *Regarding Wave* (1967) において、次は重松宗育氏著 *A ZEN FOREST Saying of the Masters* (1981) におけるスナイダー氏による前書きの中で、三つ目はスナイダー氏のエッセー集 *The Practice of the Wild* (1990) で論じています。（田中泰賢『アメリカ現代詩の愛語』6-9頁）そして四つ目は彼の詩集 *Mountains and Rivers Without End* において道元禅師の『正法眼蔵』から引用しています。この詩集の“Canyon Wren”の中で「Dōgen, writing at midnight, / “mountains flow / water is the palace of the dragon / it does not flow away.”」（山は流れる。水は龍の宮殿であり、水は流れない）と書いています。これは「山水経」巻をスナイダー氏がまとめたものと思われます。スナイダー氏のまとめを補足するために道元禅師の『正法眼蔵』から抜粋引用してみました。「山は山になりきっており、水は水になりきっており、そのほかのなにものでもない。世界全体の立場から、青山の歩み、即ち自己の歩みを調べてみる必要がある。それがあらゆる時を超えて前へ進むばかりでなく、後へ退き歩み、歩み退くことを調べてみる必要がある。進歩も休まず、退歩もやすまない。進歩は退歩にそむかず、退歩は進歩にそむかない。このことを、山が流れるといい、流れるのは山であるというのである。われわれはしばらく、諸方の水をありのままに見ることを学ぶべきである。龍魚は水を宮殿とみる。人間はそれを水とみる。水はこのように、それぞれの立場によって、生かしたり殺したりされるのである。龍魚が水を宮殿と見るときには、ちょうど、人がこの世の宮殿を見るときのように、宮殿が流れるとは思わないであろう。われわれは、このようにして、対立した見方を超えることを学ばねばならない。自分が水と考えているものを、どの類もみな水として用いているに違いないと、愚かにひとりぎめして

はならない。」(中村宗一他訳「山水経」巻二、53-65頁抜粋)

スナイダー氏は1930年にアメリカのサンフランシスコで生まれています。1939年、9歳の時、シアトル美術館で中国絵画のコレクションを見て感銘を受けています。1953年、23歳の時、カリフォルニア大学バークレー校大学院で中国語、日本語を学んでいます。1956年、26歳の時、5月アメリカ第一禅協会から奨学金を得て、貨物船で神戸に来て、京都の相国寺で三浦一舟老師のもとで禅の修行を始めます。1957年、27歳の時、オイルタンカーの機関室の掃除係として働きながら、イタリア、トルコ、セイロン、ハワイなどをめぐる旅をします。29歳の時、1959年には、京都に戻り、大徳寺で小田雪窓老師のもとで禅の修行を再開します。1968年、38歳を迎え、アメリカに帰ります。1975年に詩集『亀の島』でピューリッツアー賞を受賞します。1982年、52歳の時、坐禅堂「骨輪禅堂」を建設します。1986年、56歳の時、カリフォルニア大学デーヴィス校教授になり学問の分野でも高い評価を得ていきます。1998年、68歳の時、仏教伝道協会から「仏教伝道文化賞」を受賞しています。

(5) ジュー・ケネット老師(法雲慈友ケネット、1924-1996)は道元禅師から何を学び得たのでしょうか。

その一つは道元禅師の男女平等の教えでありましょう。道元禅師は『正法眼蔵』『礼拝得髓』巻で次のように語っておられます。

道を得ることは、男女の区別はない。男女ともに道を得るのである。ただ仏道の体験を重大視することだ。男女の性の違いを論じてはならない。これが仏道の最も根本的な法則である。(中村他訳、巻二、39頁)

道元禅師は更にこう述べています。

ただなすべきは、主人と客人の礼ばかりである。仏道を修行し、仏道を悟ったものは、たとえ7歳の女性であろうとも、釈尊の四種の弟子達(僧、尼、信士、信女)の指導者であり、衆生の慈父である。(中村他訳、巻二、40頁)

又この坐禅の行は、僧侶の外の男女も修行することができるでしょうかという質問に道元禅師は「辦道話」の巻で「仏法を会得するには、男女、貴賤の選別、身分の差別はしてはならない。」(中村他訳、巻四、308頁)と説いています。

更に坐禅辦道などの面倒なことをする必要があるのでしょかという質問に道元禅師は「仏道というものは自己他己との対立を越え、自分を無にして参学し修証するものである。」（中村他訳、巻四、312頁）と述べておられます。

ジュー・ケネット老師は英国、サセックス（イングランド南東部、イギリス海峡に面する地域）で生まれています。洗礼名は Peggy Teresa Nancy でした。仏教との出会いは父の書齋にあったエドウィン・アーノルドの詩作品『アジアの光』⁴⁾であったといます。その後上座仏教を学んでいます。1954年、彼女はロンドン仏教協会の会員になり、仏教の世界に入っていきます。1960年、曹洞宗大本山総持寺貫首であった孤峰智璨禅師（1879-1967）が欧米を巡錫された時、ロンドンで彼女は孤峰禅師に巡り合うというご縁に恵まれました。1961年秋、マレーシアで仏教を学んだ後、来日します。1962年4月14日、孤峰智璨禅師の弟子になっています。孤峰禅師の遷化後、彼女はアメリカにシャスタ仏教僧院を創立し、英国に戻り、スロッセル仏教僧院を創設しています。

ジュー・ケネット老師の弟子の一人であった故ダイズイ・マックフィラミー師は論文「カルマ（業）とは何か」の中で道元禅師の『修証義』から引用しています。『修証義』は1890（明治23）年、道元禅師の『正法眼蔵』の中の語句をつづって編集された曹洞宗の安心の標準と在家教化のための新纂聖典です。

仏道と関係なく無駄に百歳までも生きているのは実に残念な日月である。悲しむべき肉体である。その中のたった一日でも、仏としての修行の生活を行ったならば、百歳の全生涯を修行によってとりかえすばかりでなく、生まれ変わる次の生の百歳をも悟りの生涯とすることができるのである。このように一日の命は尊い命であり、大切な体である。（田中泰賢訳「故ダイズイ・マックフィラミー師著「カルマ（業）とは何か」『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第2号（2013）57-58頁」

このところは『正法眼蔵』「行持」上巻に述べられています。

- (6) ポール・ハラール師とマイケル・オキーフ老師は道元禅師の法を継ぐ僧侶として何をめざしているでしょうか。

道元禅師は「辨道話」の巻で「仏家には、教の殊劣を対論することなく、法の浅深をえらばず、ただし修行の真偽をしるべし。（真実の仏教は、その教えの優劣を論ずることではない。

したがってその浅深を差別比較することをしない。ただ修行が真実であるか否やを見究めることである)」(中村他訳、巻四、294頁)と述べています。セクトという狭い枠を超えて共に坐禅をすることです。

また道元禅師は「仏道」の巻で「仏正伝の大道を、ことさら禅宗と称するともがら、仏道は未夢間在なり(仏正伝の仏道を、ことさら禅宗と称している人々らは、真の仏道は夢にも見ることも聞くことも伝えることもない)」(中村訳、巻二、295-296頁)と述べています。このような道元禅師の大きな心にポール・ハラール師やマイケル・オキーフ師達は帰依しています。そしてそのような精神が現代社会の対立を鎮めるのに役立つと信じて活動しています。

ポール・ハラール師は1980年、鈴木俊隆老師の後を継いだ第2代サンフランシスコ禅センターの住職でありましたリチャード・ベイカー老師によって曹洞宗の僧侶になる儀式を行っています。ベイカー老師から龍心禅道という名前をもらっています。1993年には同じ法の流れをくむメル・ワイツマン師から嗣法(しほう、法統を嗣続すること)しています。サンフランシスコ禅センターに福祉活動を取り入れています。住職もしていました。2000年から北アイルランド、ベルファーストのブラック・マウンテン禅センターの指導者も務めています。

マイケル・オキーフ師は1986年、禅を学び始めています。仏教に入って行った動機の一つはアメリカのビート・ジェネレーションを代表する、作家・詩人でありましたジャック・ケルアック(1922-1969)⁵⁾や詩人のアレン・ギンズバーグ(1926-1997)⁶⁾の影響によるものがあります。音楽奏者であった友人のジョン・ミラーに連れられてニュー・ヨークの禅コミュニティで坐禅を行っています。31歳の時でした。その禅コミュニティの住職はバーニー・グラスマン老師でした。グラスマン老師は前角博雄老師の法を継いでいます。その後ピーター・マシセン(1927-2014)⁷⁾の導きによって摂心を行っています。

映画俳優のマイケル・オキーフ師は長年の親友であり、共に禅の修行をしているハラール師にこう言いました。「曹洞禅は何十年も派閥抗争が続いている社会に何か大切なことを提示するかもしれない。」

北アイルランドは日本では主として激しい、宗教的な衝突の場所として知られていますが、小さな曹洞禅グループが形成され、活躍しています。彼らは二つの闘争グループ、アイルランドのカトリック地域社会と英国プロテスタント地域社会から以前は戦闘員であった人々を呼び集め、二つのグループの違いの克服を促進するために道元禅師の教えを用いることから始めています。

ポール・ハラール師、マイケル・オキーフ師達は二つのグループの人達がどのように苦しんだのかを尋ねました。なぜならば仏教の基本的な教えは苦しみを扱う(処理する)ことにあるからです。お互いに殺さずにはすまないほど敵対した(している)彼らの多くは依然として同じ

部屋に一緒にいたくありませんでした。その彼らを同じ部屋に招いたのです。

ハラー師達は二つのグループのお互いの意見を聞きました。お互いがどのように苦しんだかを話して、お互いが共感するようになりました。そこに本当の進展があることがわかったのです。そこで禅グループが形成されました。このグループはお互いに戦いあった両方のグループの人々が集まって構成され、ベルファーストの中心に永久的な建物が確保されました。この新しいブラック・マウンティン・禅センターは北アイルランドの最初の曹洞禅グループになっています。

今、会員数も増え、スケジュールも忙しくなっています。心の傷やストレスを減らしていくための定期的な平和構築ワークショップを開いています。地域の労働者もこの活動に積極的に参加しています。年2回の禅の撰心会はアイルランド地方で開かれます。50人ほどの人々が参加しています。ベルファースト郊外の幾つかの町に新しい5つの禅グループが生まれています。

道元禅師が1227年中国から日本に帰国して曹洞禅を開きました。およそ800年後に世界の反対側で社会に深く根ざした衝突を克服するために道元禅師の教えが活用されると道元禅師は想像できたであらうでしょうか。しかしそのことは着実に起きています。北アイルランドのこれらのグループは強くそして簡素にお互いに曹洞禅グループと提携しています。なぜなら彼らはそれを一つの宗教としてより、瞑想の一方法と見ています。それはまさに道元禅師の教えです。

道元禅師の教えの心はどんな社会にも、どんな時にもつながり、価値を持っています。そして今、彼らが北アイルランドにもたらそうとしたのはこのことです。道元禅師の坐禅法を通して、自覚を実践し、瞬間を生きることは釈迦牟尼仏が教えていたことに気づくことであり、仏陀が教えられた生き方を自分で見出すことにほかなりません。(The Japan Times Saturday, June 27, 2009)

注

- 1) 成河智明（なりかわ ちみょう 1935（昭和10）年-2006（平成18）年）師は愛知県西尾市、曹洞宗長圓寺に生れています。北海道大学農学部修士課程修了。農水省に勤務されて 野菜、茶、米、麦の育種に従事され、1995（平成7）年定年退官される。1997（平成9）年 両本山に瑞世、長圓寺住職（三十二世）に任ぜられています。著書は『長圓寺双書 一 道元を求めて 一 正法眼蔵 二十 有時について』2003（平成15）年、『道元を求めて 二 正法眼蔵 三 佛性』2005（平成17）年、『道元を求めて 三 正法眼蔵 第一現成公案・二・七 第二摩訶般若波羅蜜 付 摩訶般若波羅蜜多心經 第七 一顆明珠』2006（平成18）年があります。2006（平成18）年に遷化されました。成河智明老師の弟、成河峰雄先生は名古屋工業大学を卒業後、本学の大学院で宗教学を学び、本学に勤めておられました。長圓寺住職（三十一世）でしたが、1995（平成7）年7月17日遷化されました。論文は「禅林における僧堂・寝堂出入法と賓礼」『佐藤匡

玄博士頌壽記念東洋学論集』(京都: 朋友書店、1990、平成2年)等があります。

- 2) 『随喜稱名成佛決義三昧儀』 栖川興嚴大和尚 (1822、文政5-1889、明治22) は1876 (明治9) 年にこの書物を著しています。明治の激動の時代、曹洞宗自体の反省が促され、お釈迦様、お祖師様への報恩感謝こそ宗門のあり方であるということ为先哲方が自覚され、展開されていきました。そのなかでこの書が生れております。大野榮人教授がこの書物に和訳解説をしております。これは『曹洞宗日課聖典』(87-96頁) の中に収められている重要なお経です。
- 3) 愛知学院大学のこのキャンパスにはたくさんの桜が見られます。どの桜もすばらしいです。その中でも比較的早く咲くのが薄墨桜です。愛知学院には1992年に岐阜県の旧根尾村 (現在本巢市) から国の天然記念物に指定されている薄墨桜の苗木を二本寄贈していただいております。この根尾村の薄墨桜は樹齢1500年といわれ、1922年に国の天然記念物に指定されています。この薄墨桜は百周年記念講堂の正面の図書館側に一本と、その反対側に一本あります。木の根元に、白い札に根尾村と書いてありますが、22年たちますので字がうすくなっています。
- 4) エドウィン・アーノルド (Edwin Arnold, 1832-1904) はイギリスの詩人、ジャーナリストでした。ロンドン大学とオックスフォード大学に学び、大学を卒業後、インドのプーナにある官立サンスクリット語学校の校長として赴任しています。彼の代表作は『アジアの光』で大きな反響を呼びました。この作品は詩の形でお釈迦様の生涯を描いています。山本晃紹氏は日本語に翻訳しています。因みにアーノルド氏は1897年に日本人女性と結婚しています。(田中泰賢「エドウィン・アーノルド (Edwin Arnold, 1832-1904) の試作品『アジアの光り』(The light of Asia) について」『愛知学院大学 教養部紀要』第48巻第1号、2000 (平成12): 13-30 参照)
- 5) ジャック・ケルアック (Jack Kerouac) は「仏教に改宗したのは混乱と不安を引き起こす未解決の葛藤によって駆り立てられたことによっています。」(Ben Giomo: p. 89) と述べています。
- 6) アレン・ギンズバーグ (Allen Ginsberg) は1970年の夏、ニューヨークにおいて仏教僧、チョグヤム・トゥルンパに出会い、深い印象を受けて師と仰ぐようになりました。(Barry Miles: pp. 440-442)
- 7) ピーター・マシセン (Peter Mathiessen, 1927-2014) は2014年4月5日(土) ニューヨークに自宅で亡くなっています。作家、自然主義者、活動家であり、禅僧でもありました。坐禅を始めたきっかけは1969年、妻の紹介によるものでした。前角博雄老師 (1931-1995) とバーニー・グラスマン老師 (Bernie Glassman, 1939-) の下で坐禅を続けています。1989年嗣法しています。代表的な作品に『雪豹』(芹沢高志訳、ハヤカワ文庫) があります。

引用及び参考文献

青山俊重『道元禅師・典座教訓 すずやかに生きる』東京: 大蔵出版、2001 (平成13) 年。

有福孝岳『道元の世界』大阪: 大阪書籍、1985 (昭和60) 年。

粟谷良道編著『禅語録傍訳全書〔七〕正法眼蔵三百則』東京: 四季社、2001 (平成13) 年。

“An Memoriam Rev. Master Jiyu-Kennett 1924-1996” *The Journal of the Order of Buddhist Contemplatives Special Memorial Issue* Volume 11, No. 4 & Volume 12, No. 1 Winter 1996/Spring 1997.

飯田利行『良寛詩集』東京: 大法輪閣、1981 (昭和56) 年。

石井恭二『正法眼蔵の世界』東京: 河出書房新社、2001 (平成13) 年。

石井清純監修・角田泰隆編『禅と林檎 スティーブ・ジョブズという生き方』京都: 宮帯出版社、2012 (平成

24) 年。

伊藤秀憲『道元禪研究』東京：大蔵出版、1998（平成10）年。

伊藤秀憲・角田泰隆・石井修道〔訳注〕『原文対照現代語訳 道元禪師全集【第十四巻】語録』東京：春秋社、2007（平成19）年。

岩田慶治『道元との対話』東京：講談社、2000（平成12）年。

上田祖峯『新釈典座教訓 調理と禪の心』東京：圭文社、1983（昭和58）年。

ウォルター・アイザックソン『スティーブ・ジョブズ I・II』井口耕二訳、東京：講談社、2011（平成23）年。

内山興正『人生料理の本 典座教訓にまなぶ』東京：曹洞宗宗務庁、1975（昭和55）年。

大久保道舟『道元禪師全集』上・下巻、京都：臨川書店、1989（平成元）年。

大野栄人『随喜稱名成佛決義抄釋』大阪市：妙寿寺、1985（昭和60）年。

大場南北『道元禪師和歌集新釈』東京：中山書房、2005（平成17）年。

大場南北『道元禪師 傘松道詠の研究』東京：中山書房仏書林、2005（平成17）年。

大山興隆『草の葉 道元禪師和歌集』東京：曹洞宗宗務庁、1971（昭和46）年。

小倉玄照『新普勸坐禅儀講話』誠信書房、1991（平成3）年。

小倉玄照『修証義のことば』東京：誠信書房、2003（平成15）年。

鏡島元隆〔訳注〕『原文対照現代語訳 道元禪師全集【第十三巻】永平広録4 永平語録』東京：春秋社、2000（平成12）年。

加藤宗厚編『正法眼蔵要語索引』上・下巻、東京：理想社、1962（昭和37）年。

鎌谷仙龍『正法眼蔵身心学道』鳥取：大樹寺 山水経閣、1977（昭和52）年。

鎌谷仙龍『正法眼蔵袈裟功德』愛知：津島市、海善寺・吉田恵俊、1976（昭和51）年。

川端康成『美しい日本の私 その序説 サイデンステッカー＝英訳』東京：講談社、1969（昭和44）年。

川端康成『川端康成全集』第28巻、東京：新潮社、1982（昭和57）年。

川端康成『川端康成全集』第33巻、東京：新潮社、1982（昭和57）年。

Giampo, Ben. Kerouac, *The Word and The Way Prose Artist as Spiritual Quester*. Carbondale and Edwardsville: Southern Illinois University Press, 2000.

小坂機融・晴山俊英・岩永正晴・角田泰隆・伊藤秀憲〔訳注〕『原文対照現代語訳 道元禪師全集【第十五巻】清規・戒法・嗣書』東京：春秋社、2013（平成25）年。

駒澤大学内禅学大辞典編纂所編『禅学大辞典上巻・下巻』大修館書店、1978（昭和53）年。

“30th Anniversary Celebrations” Throssel Hole Buddhist Abbey, 10th August 2002.

“Zen Buddhist monk aids peace efforts in native Belfast” *The Japan Times*, Saturday, June 27, 2009.

『佐藤匡玄博士頌壽記念東洋学論集』京都：朋友書店、1990（平成2）年。

佐藤亨『北アイルランドのインターフェイス』東京：水声社、2014（平成26）年。

佐橋法龍『改訂増補 禅語小辞典』長野市：長国寺、1997（平成9）年。

菅原研州『道元禪師伝』曹洞宗宗務庁、2011（平成23）年。

Snyder, Gary. *Mountains and Rivers Without End*. Washington, D.C.: Counterpoint, 1996.

スナイダー、ゲイリー『野性の実践』重松宗育・原成吉訳、東京：東京書籍、1994（平成6）年。

スナイダー、ゲイリー『惑星の未来を想像する者達へ』山里勝巳・田中泰賢・赤嶺玲子訳、東京：山と溪谷社、2000（平成12）年。

- 『曹洞宗日課聖典』東京：鴻盟社、1996（平成8）年。
- 『曹洞宗報』6月号（921号）2012（平成24）年。
- 多田稔『仏教東漸—太平洋を渡った仏教』京都：禅文化研究所、1990（平成2）年。
- 辻口雄一郎『正法眼蔵の思想的研究』東京：北樹出版、2012（平成24）年。
- 高橋文二・角田泰隆・石井清純〔訳註〕『原文対照現代語訳 道元禅師全集【第十七巻】法語・歌頌等』東京：春秋社、2010（平成22）年。
- 田島毓堂『正法眼蔵の國語學的研究』東京：笠間書院、1977（昭和52）年。
- 立松和平『道元の月』東京：祥伝社、2002（平成14）年。
- 田中泰賢『ゲイリー・スナイダーの愛語』東京：英潮社、1992（平成4）年。
- 田中泰賢『アメリカ現代詩の愛語—スナイダー／ギンズバーグ／ステイーヴンズ—』東京：英宝社、1998（平成10）年。
- 田中泰賢「エドウィン・アーノルド（Edwin Arnold, 1832-1904）の詩作品『アジアの光』（The Light of Asia）について」『愛知学院大学教養部紀要』第48巻第1号（2000）：13-30。
- Tanaka, Hiroyoshi Taiken（田中泰賢）『Buddhism in Some American Poets—Dickinson, Williams, Stevens and Snyder』東京：Yushodo（雄松堂）、2008。
- 田中泰賢訳「故ダイズイ・マックフィラミー師（英国、前禅仏教会会長）著「カルマ（業）とは何か」」『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第2号（2013）：45-64。
- “Tenth Anniversary of the Death of Our Founder Reverend Master Jiyu—Kennett” *The Journal of the Order of Buddhist Contemplatives* Volume 21, No. 3 Autumn 2006.
- 東郷豊治『良寛歌集』大阪：創元社、1963（昭和61）年。
- 藤堂明保編『学研漢和大辞典』東京：学習研究社、1980（昭和55）年。
- 中根環堂『典座教訓現代講話』東京：鴻盟社、1956（昭和31）年。
- 中本環『良寛の心』名古屋：KTC中央出版、1997（平成9）年。
- 中村璋八編『給食倫理』東京：第一出版、1977（昭和52）年。
- 中村璋八・石川力山・中村信幸『作る心食べる心 典座教訓・赴粥飯法・正法眼蔵示庫院文』東京：第一出版、1980（昭和55）年。
- 中村璋八・石川力山・中村信幸『典座教訓・赴粥飯法』東京：講談社、2009（平成24）年。
- 中村宗一他訳『全訳 正法眼蔵』巻一、東京：誠信書房、1971（昭和54）年。
- 中村宗一他訳『全訳 正法眼蔵』巻二、東京：誠信書房、1978（昭和53）年。
- 中村宗一他訳『全訳 正法眼蔵』巻三、東京：誠信書房、1975（昭和50）年。
- 中村宗一他訳『全訳 正法眼蔵』巻四、東京：誠信書房、1977（昭和52）年。
- 中村元『仏教語大辞典 上巻・下巻』東京：東京書籍、1975（昭和50）年。
- 成河智明『道元を求めて 正法眼蔵二十 有時について』愛知、西尾市：長圓寺、2003（平成15）年。
- 成河智明『道元を求めて 正法眼蔵 現成公案二つについて』愛知、西尾市：長圓寺。
- 新本豊三『道元禅の研究』東京：山喜房仏書林、1986（昭和61）年。
- 『日本国語大辞典 第二版』東京：小学館、2006（平成18）年。
- 『日本文学研究資料双書 川端康成』東京：有精堂、1986（昭和61）年。
- 橋本恵光『普勧坐禅儀の話』鳥取：大樹寺山水経閣、1977（昭和52）年。
- 服部敏良『仏教經典を中心とした釈迦の医学』名古屋：黎明書房、1982（昭和57）年。

東佐與子『愛の料理集』東京：厚徳社、1949（昭和24）年。

東佐與子『世界人は如何に食べつつあるか—各国比較調理術』東京：柏書房、1975（昭和50）年。

藤井宗哲『道元「典座教訓」 禪の食事と心』東京：角川学芸出版、2009（平成24）年。

船岡誠『道元—道は無窮なり—』京都：ミネルヴァ書房、2014（平成26）年。

Feldman, Burton. *The Nobel Prize A History of Genius, Controversy, and Prestige*. New York: Arcade Publishing, 2000.

Miles, Barry. *Ginsberg A Biography*. New York: Simon and Schuster, 1989.

松本章男『道元の和歌 春は花 夏ホトトギス』東京：中央公論社、2005（平成17）年。

『精進 京の四季の味わいと禪の心』京都：朝日新聞京都支局、1981（昭和56）年。

横井雄峯『日英禪語辞典』東京：山喜房仏書林、1991（平成3）年。

吉田道興『道元禪師伝記資料集成』名古屋：あるむ、2014（平成26）年。

読売新聞編集局 編『ノーベル賞10人の日本人 創造の瞬間』東京：中央公論社、2001（平成13）年。

頼住光子『道元』東京：日本放送出版協会、2005（平成17）年。

*これは平成26年度（2014年）愛知学院大学秋季公開講座で「道元禪師—グローバルの視点から」（10月18日）と題してお話したものを加筆修正したものです。

明治期以降曹洞宗人物誌（六）

川口 高風

はじめに

本稿は「愛知学院大学教養部紀要」第六十一巻第四号（平成二十六年三月）に所収の拙稿「明治期以降曹洞宗人物誌（五）」の続編である。全項の人物誌が完成した時は『近代曹洞宗人名辞典』と題して刊行する予定で、一日も早い完成をめざし精進している。

凡例

〔見出し項目〕

- 一、収録人物は明治期以降の顕著な業績を残した人物で、その出典は「明教新誌」「宗報」「曹洞宗報」を中心に、明治期に刊行された各種雑誌や著作などから採取した。
- 二、見出しの人名は当時用いた旧漢字とした。事歴の本文は新字体を用いたが、旧字体を使用したものもある。
- 三、見出しの項目はかな見出しを太字で示し、次に漢字を掲げた。

- 四、かな見出し項目は姓と名の間にダッシュを挿入して読みやすくした。

〔見出し項目の配列〕

- 一、配列は五十音順の予定であったが、「い」以降は完成した原稿の順序とした。そのため本稿では「せ」「つ」「も」の項をとりあげた。
- 二、同音同字の漢字項目は時代順（没年順）に配列した。
- 三、同音異字の漢字項目は第一字目の画数の少ないものからの順とした。また、第一字目が同画数の時は第二字以降の画数の少ないものから配列した。

〔本文の記述とその順序〕

- 一、本文の記述は敬語、敬称の使用を避けた。
- 二、収録にあたっては居住地、号、字、生年月日、父母、誕生地、受業師、本師、学歴、僧堂安居歴、宗門役職歴、社会的職歴、著作類、示寂（没）年月日、行年、参考文献の順とした。不明な場合は記していない。
- 三、本文は基本的に、編著者が直接、居住地へ問い合わせを行った返書（調査用紙）にもとづいて執筆した。それ以外に参考とした文献は末尾に掲げた。
- 四、伝記中の元号の一番最初（初出）に西暦を入れた。ただし、伝記中の生没年には西暦を入れない。
- 五、寺院の所在地が郡の場合は県を入れ、市の場合は県を省略した。なお、平成の大合併による新市町村名への変更を行っていないものもある。
- 六、居住地は歴住の順序通りでないものもあり、何世か不明な場合は記していない。

せ

せおーせいかん 瀬尾清閑

文久二年(一八六二)ー昭和二十年(一九四五)

庄原市千手寺二十四世、庄原市正安寺十四世、庄原市太山寺法地開闢開山。号は大心。文久二年に広島県芦品郡府中町の瀬尾國太郎の子に生まれる。受業師、本師は國枝太雲。東京駒込の吉祥寺梅檀林に学び、瑞応寺僧堂に安居する。尾道市天寧寺曹洞宗専門支校講師、広島県第二曹洞宗務所長を務め、昭和二十年十月一日に八十四歳で示寂した。(『千手寺誌』)

せがわーがんゆう 瀬川岩雄

明治四十二年(一九〇九)ー平成二年(一九九〇)

岩手県紫波郡長岩寺。明治四十二年二月二十一日に岩手県紫波郡紫波町に生まれる。曹洞宗専門僧堂本科研究科六ヶ年を修了し、曹洞宗専門僧堂講師を二十年間務め

る。管内布教師三十一年、教区長十三年、岩手県宗務所長二十年、東北福祉大学評議員十六年、その他、東北管区長、岩手県布教委員長、みちのく緑陰禅の集い会長などを歴任する。古館村議会議長、村長、紫波町建設課長、同町議会議員、同観光協会長、同町史編纂委員長、奥羽史談会理事、紫波郡支部長などを歴任し、五十年にわたり現職研修会、寺族研修会、布教協議会などの各講師、授戒会説教及説戒師を務めた。平成二年一月十三日に示寂した。(『昭和名僧録』)

せがわーこほう 瀬川古峰

明治六年(一八七三)ー大正十五年(一九二六)

花巻市松山寺二十二世、花巻市瑞興寺三十四世、花巻市宝昌寺十八世、花巻市地藏寺。号は南涯。明治六年十二月六日に岩手県稗貫郡湯本村に生まれる。受業師は四戸久天、本師は岡田吾竈。西有穆山に参随する。明治十九年(一八八六)二月十五日に瑞興寺の四戸久天の弟子となり、二十年に

は曹洞宗岩手県専門支校に掛錫し、後に曹洞宗大学林を卒業する。二十五年に總持寺に掛錫し、西有穆山に随侍した。三十三年三月に岩手県寺院總代、その後、組長、本山勸募布教師、岩手県保護院地方教誨師、管内布教師などを務めた。四十一年には松山寺を再建する。大正元年(一九一二)には両本山布教師、三年より宗会議員を務め、十五年七月二十九日に四十九歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

せがわーごろう 瀬川午朗

明治二十八年(二八九五)ー昭和三十九年(一九六四)

釜石市石応禅寺十六世。号は雲山。明治二十八年五月六日に岩手県紫波郡紫波町の瀬川大忍の長男に生まれる。受業師、本師は菊池智賢。曹洞宗大学、東京帝国大学を卒業し、駒澤大学助教、大正大学教授を務め、昭和二年(一九二七)に明峰幼稚園を創立した。石応禅寺重興を免牘される。三十九年十一月二十日に七十歳で示寂した。

せきーがんぎゆう 関頑牛

明治二十三年(一八九〇)ー昭和十九年

(一九四四)

富山市光厳寺四十四世。福井県吉田郡吉峯寺。号は大心。明治二十三年に福井県織田町に生まれる。本師は田中仏心。駒澤大学を卒業し、昭和三年(一九二八)四月八日に光厳寺住職となり、七月には永平寺単頭となる。光厳寺に住持してからは幼稚園、僧堂、講堂を造立。後に三年ほど伊深正眼寺僧堂に安居する。昭和十八年五月に吉峰寺住持となり、永平寺後堂を務める。十九年八月十三日に五十四歳で示寂した。

せきーたいげん 関碓元

明治四十年(一九〇七)ー昭和五十六年

(一九八一)

東京都海雲寺二十九世。号は徹應。明治四十年四月五日に富山県中新川郡弓庄村大字辻村に生まれる。本師は関碓翁。昭和六年(一九三一)に日本大学文学部国文科を卒業。教区长、永平寺地方副監院、同寺別院参与、方面委員、民生委員、杉並区議会議

員、杉並仏教連合会理事などを務める。五

十六年九月二十一日に七十四歳で示寂した。

せきーだいてつ 関大徹

明治三十六年(一九〇三)ー昭和六十年

(一九八五)

富山市宝洞寺、福井県吉田郡吉峰寺、盛岡市報恩寺三十七世。号は真量。明治三十六年六月十五日に福井県丹生郡織田村の関庄次郎の二男に生まれる。受業師、本師は関頑牛。大正十四年(一九二五)に名古屋の曹洞宗第三中学林を卒業し、同年夏より小浜市の発心寺僧堂に入り原田祖岳に参禅。

昭和五年(一九三〇)に富山の光厳寺僧堂

で関頑牛の補佐を行う。その後、臨済宗の正眼寺僧堂に十年安居した。十一年に宝洞寺に首先住職、三十一年に吉峰寺に転住し、五十一年に報恩寺へ昇住した。光厳寺幼稚園長、五百石保育園長、保護司、人権擁護員、検察審査員なども務めており、六十年八月七日に八十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『報恩寺概史』)

せきーとうこう 関透孝

明治二十一年(二八八八)ー昭和四十年

(一九六五)

甲斐市正授院十八世。号は祖鼎。明治二十一年九月十一日に山梨県中巨摩郡敷島町に生まれる。本師は関歌参。四十四年に曹洞宗第三中学林卒業。管内布教委員、宗務所会計、教区长、所会議員、宗務所長、山梨県仏教会評議員、同県仏教会郡支部理事、民生委員、司法保護委員、成人保護司、敷島町長などを務めた。昭和四十年二月十二日に七十八歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』)

せきーはくどう 関博道

明治二十二年(二八八九)ー昭和五十二年

(一九七七)

八千代市観音寺二十四世。号は靈峰。明治二十二年一月二十三日に千葉県千葉郡大和田町高津の牧原島心の長男に生まれる。俗姓を初め牧原といったが、明治四十年に関と改姓した。受業師は松岡培壽、本師は関融禪。大正十四年三月に立教大学商学部経

済学科を卒業し、總持寺に安居して石川素童に参随する。昭和二年（一九二七）三月に千葉県立千葉中学校教諭、七年には私立明倫中学校教諭、十年に大和田青年学校指導員、二十四年から三十八年まで私立昭和学院高等部教諭を務めた。五十二年六月三十日に示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』）

せきおかーけんいつ 関岡賢一

明治三十五年（一九〇二）ー昭和五十七年（一九八二）

東京都竜沢寺三十世、東京都円沢寺。号は喝道。明治三十五年十二月二十日に福井県大野郡大野町に生まれる。受業師、本師は大迫希雄。大正九年（一九二〇）に曹洞宗第一中学校卒業、十四年に曹洞宗大学卒業。十五年五月、曹洞宗社会事業布教師に任命され、昭和二十二年（一九四七）四月には曹洞宗社会教化研究会委員、二十九年四月に曹洞宗寺院共済組合設立準備委員会委員、三十三年四月に麻布仏教会副会長、三十四年五月に布教審議会委員、三十八年八月に全日本仏教会組織専門委員に任ぜら

れた。その他に、東京都児童保護委員、茨城県社会事業主事、東京府社会事業主事、東京都事務官、東京都荒川区長、東京都民生局保護部長、児童部長、児童婦人部長、東京都選挙管理事務局長、世田谷学園評議員、日本赤十字社東京都本部次長、同社評議員、同社代議員、世田谷学園理事などにも就任し宗内外職において活躍した。五十七年五月一日に満七十九歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』）

せきかわーせきちゅう 関川石柱

戸田市妙嚴寺十九世、佐久市守芳院十七世。号は素（祖）門。長岡市桂町の関川利夫の子として誕生した。本師は鈴木正光。明治十二年（一八七九）に萱葺庫裡再建、十五年に神明宮再建、さらに「寺籍財産明細帳」を二十九年五月に作成している。

せきぐちーじぜん 関口慈禅

ー昭和二年（一九二七）
熊谷市文殊寺三十四世、川口市正眼寺三十

一世、熊谷市見性院十八世。号は関網。埼玉県大里郡小原村大字野原の茂木家に生まれる。昭和二年七月三十日に五十七歳で示寂した。

せきどーげんぼう 関戸元峰

万延元年（一八六〇）ー昭和十二年（一九三七）

愛西市竜音寺九世、京都府船井郡宇津木寺十一世、茨木市高雲寺十二世、大坂市法華寺十九世。号は大亨。万延元年一月二十二日に愛知県西春日井郡小牧町の船橋家に生まれる。受業師、本師は村瀬慈元。愛知専門支校を卒業後、原田良禅、久我環溪に隨身する。臨済宗の南禅寺、圓福寺、浄土宗の勝尾寺に安居して参禅、俱舍、唯識を学ぶ。著書に『法服格正』『珍牛禅師』『仏祖衣法』などがあり、昭和十二年二月二十二日に七十八歳で示寂した。

せきもとーたいせん 関本大仙

ー昭和十八年（一九四三）
三木市竜恩寺十八世、丹波市宗蓮寺七世。

号は法雲。本師は関本道林。昭和十八年四月十九日に示寂した。

せきりゅうーぶんどう 石龍文堂

ー昭和三十二年(一九五七)

仙台市峻林寺二十三世。号は玉鳳。本師は莊司泰應。昭和十三年十二月に永平寺単頭に就任し、十九年には東京麻布の長谷寺専門僧堂の後堂に就いた。戦後、自坊での参禅会に力を注いだ。三十二年七月八日に七十四歳で示寂した。

せやまーいっとう 瀬山一透

ー明治四十二年(一九〇九)

富山市巒昌寺二十二世、富山市無常庵開山。号は一透、字は祖關。富山市に生まれる。本師は觀山祖梁。明治四十二年四月七日に八十三歳で示寂した。

せんだーじつどう 仙田實道

明治十八年(二八八五)ー昭和四十五年

(二九七〇)

豊橋市満光寺二十四世、豊川市龍徳院八

世。号は大運。明治十八年十月四日に愛知県丹羽郡扶桑村の仙田常三郎の三男に生まれる。本師は前田大峰。明治四十五年七月に曹洞宗大学を卒業、大正二年(一九一三)四月から三年八月まで永平寺に安居する。三年より一年間、金沢市天徳院認可僧堂にて教育に従事。六年、曹洞宗宗務所管内布教師となり、十二年四月に愛知県第十曹洞宗務所管内布教部委員長、十三年一月より愛知県第十一曹洞宗務所長、昭和十年(一九三五)九月より愛知県第四曹洞宗務所長、十五年五月に豊橋地区司法保護委員、十七年七月より二十年三月まで曹洞宗宗会議員を、その他、豊橋市仏教会副会長も務めている。四十五年七月十二日に満八十六歳で示寂した。(『満光寺誌』)

せんだーほぜん 仙田保禪

明治二十八年(二八九五)ー昭和五十四

年(二九七九)

あまし直心寺十四世。号は鐵岳。明治二十八年四月十四日愛知県丹羽郡扶桑村の仙田常三郎の六男として生まれる。受業師、本

師は葛谷泥牛。旧制愛知学院、三重県立師範学校本科第二部を卒業し、両本山並びに札幌市中央寺に安居する。熊野市木本中学教諭を三年間、七宝尋常高等小学校教諭を十七年間務め、小学校教頭、村社会教育委員長、郡視聴覚委員長となった。管内市教師も務めた。昭和五十四年十二月六日に八十四歳で示寂した。

ぜんとうーりょうかん 善塔良關

明治七年(一八七四)ー昭和二十年(一

九四五)

龜岡市積善寺、豊中市東光院十世。号は一透。明治七年五月二十七日に大阪府三島郡見山村下音羽の原田林三郎の子として生まれた。俗姓を初め片岡といい、後に原田、明治十八年(一八八五)六月に善塔家の養子となる。受業師、本師は善塔一毛。明治十九年一月より二十五年八月まで永平寺に掛錫し、その間の二十二年十二月に大阪綜芸種智院本科に修学し、二十四年十二月には曹洞専門学校を修業、三十年九月三十日に大阪府師範学校講習科を修業した。大正

三年（一九一四）六月に大阪市北区中津の旧地より現在の豊中市曾根に寺基を移し、常恒会を開き、小本寺干与者削除期成同盟会を首唱し、宗門の封建主義打破に尽力した。日華親善に努め、大谷光瑞と親交、孫文の辛亥革命に頭山滿、宮崎稲天とともに協力し、後に輩東自治政府の殷汝耕総統の帰依を受ける。両本山を互敬、護持し、森田悟由、新井石禪と親交を持った。高祖大師六百五十回大遠忌には、紀州に永平寺の植林事業として五十町歩の山林を購入寄進した。昭和十六年（一九四一）三月より特選曹洞宗宗会議員、五月に永平寺監院、曹洞宗宗制特審議会委員、十七年七月より十九年六月まで、大阪府曹洞宗宗務所長、十七年九月に永平寺顧問に就任した。二十年十月二十九日に七十一歳で示寂した。（林春隆『偲び草』（昭和二十年）、「大阪時事新報」（昭和十年十一月十五日記事）、「傘松」五〇六号）

せんのうちゆうしやう 先納雄嘯

明治二十四年（一八九二）―昭和四十三

年（一九六八）

豊後高田市金宗院、井原市法泉寺二十八世。号は庠岳。明治二十四年十一月十三日に広島県深安郡広瀬村の先納喜太郎の六男に生まれる。受業師は水永全之、本師は谷碩童。大正三年（一九一四）總持寺に安居。昭和四十三年十月二十九日に七十七歳で示寂した。

つ

つかだーとくほう 塚田得法

安政六年（一八五九）―昭和十七年（一九四二）

佐久市大昌寺十八世、佐久市正安寺三十二世。号は大成。安政六年五月七日に長野県埴科郡坂域町に生まれる。受業師は山本千榮、本師は長谷川得祐、明治二十四年（一九一〇）に七級試験了畢、大正九年（一九二〇）四月より十三年三月まで長野県第六宗務所長を務める。昭和十七年一月二十日

に示寂した。

つかはらーかくかい 塚原寛介

大正五年（一九一六）―平成十一年（一九九九）

高岡市宗泉寺。大正五年一月五日に氷見市北大町に生まれる。本師は塚原真禪。昭和八年（一九三三）に永平寺に安居、富山県宗務所長、富山県祖門会会長を務め、五十六年六月に宗議会議員に初当選し、平成元年（一九八九）六月より三年六月まで宗議会議長を務めた。十一年四月八日に八十三歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』、「宗報」七六四号、「傘松」六六八号）

つかもとーかくどう 塚本格道

明治十六年（一八八三）―昭和四十九年（一九七四）

新潟県三島郡全久院、北海道古宇郡法輪寺七世。号は玄量。明治十六年九月十六日に新潟県北蒲原郡笹岡村に生まれる。本師は桑山月窓。駒澤大学書記や宗務所会議員、昭和六年（一九三一）には永平寺大遠忌、

十一年の總持寺大遠忌の北海道での各專使、寺院級階査定委員、七年には茅沼教会の設立認可、宗務所長事務取扱、宗務所長、永平寺大遠忌庶務副部長を務める。村学務委員、村選挙管理委員、民生委員、推選委員なども務めた。四十九年十月二十九日に九十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』)

つきおかーまんしゅう 月岡正舟

一 昭和八年(一九三三)

松浦市慈光寺三十八世、松浦市永光寺十八世、平戸市長泉寺二十世。号は道彦。昭和八年一月二十三日に示寂した。

つきぢーしゅんりゅう 築地俊竜

明治三十七年(一九〇四)一 昭和四十七

年(一九七二)

秋田県南秋田郡自性院二十九世。明治三十七年十一月七日に秋田県南秋田郡富津内馬川に生まれる。本師は築地竜明。立教大学経済学部を卒業し、発心寺僧堂に安居、宗務庁主事、教区長、宗務所賛事、宗会議

員、永平寺参与を務め、町会議員、町助役、民生委員、PTA会長なども務めている。昭和四十七年十一月十三日に六十八歳で示寂した。

つくいーとくりん 出井得鱗

嘉永六年(一八五三)一 大正六年(一九

一七)

栃木県河内郡見性寺二十三世。号は龍童。嘉永六年三月二十三日に栃木県下都賀郡藤岡町藤岡の出井佐太郎の次男に生まれた。本師は大宗正海。大正六年七月四日に六十三歳で示寂した。

つぐながーけんりゅう 嗣永賢龍

天保五年(一八三四)一 大正四年(一九

一五)

東京都西照寺十七世。号は昇雲。天保五年に新潟県蒲原郡菱潟の高地家に生まれる。本師は祥山靈瑞。明治三十六、七年(一九〇三、四)の東京市改正道路計画の実施により、四十三年に桜田通りが着工された。その時、白金台町にあった西照寺が現在地

に移転することとなり、大八車で墓石や多くの古材などを運び移築した。白金時代に明治学院の教師であった島崎藤村が寄宿している。大正四年十二月二十日に八十二歳で示寂した。(『西照寺過去帳』、『西照寺小史』)

つぐながーほうしょう 嗣永芳照

昭和十一年(一九三六)一 平成十一年

(一九九九)

東京都西照寺二十世。号は昇龍。昭和十一年一月三十日に東京都杉並区の嗣永芳雄の長男に生まれる。受業師、本師は嗣永芳雄。昭和三十八年(一九六三)に早稲田大学大学院文学研究科を卒業。宮内庁書陵部図書課に勤務し、主任研究官などを歴任し、両大本山の禪師号申請の助言、世話役を務めた。早稲田大学文学部及び大学院講師、昭和女子大学文学部の講師も務めた。著作には『図説宮中行事』『京都御所』などがある。平成十一年十一月二十四日に享年六十四歳で示寂した。(『傘松』六七六号)

つぐながーほうゆう 嗣永芳雄

明治三十年(二八九七)ー昭和五十六年

(二九八一)

東京都西照寺十九世、東京都福寿院二十七世。号は昇山。明治三十年五月三十日に、東京都港区の嗣永賢龍の三男に生まれる。受業師は嗣永賢龍、本師は嗣永龍雄。大正元年(一九一三)に日本大学宗教科を卒業し永平寺に安居する。教区長、布教委員、宗務所所長、教護委員、区仏教連合会理事、方面委員長、社会事業協会支部長、司法保護委員、仏連会長、民生委員、東京都西部身体障害者福祉協会理事、児童福祉協会理事などを務めた。昭和五十六年十月八日に八十四歳で示寂した。

つじーえつじゅん 辻悦淳

明治二十一年(一八八八)ー昭和三十一年

年(一九五六)

伊達市興国寺二十六世。号は温嶽。明治二十一年二月十二日に三重県志摩郡鳥羽町に生まれる。本師は嶽尾泰忍。大正十三年(一九二四)慶應大学文学部を卒業した。

明治四十四年(一九一一)に伊達市徳本寺

に首先住職した。大正七年には布哇駐在布

教師補、昭和九年(一九三四)十月には興

国寺に住職して十年三月より十八年八月ま

で興国寺専門僧堂堂長を務めた。管内布教

師、二十四年(一九四九)七月に宗会議

員、参事会員となり、二十六年一月には伊

達市仙林寺を兼務した。大遠忌奉讃社会教

化運動本部参与も務めており、宗外では福

島県立福島中学校教諭、岩手県立一関中学

校教諭、岩手県立福岡中学校長、岩手県立

遠野中学校長などを務めた。昭和三十二年

五月六日に六十八歳で示寂した。

つじーぎんりゅう 辻吟龍

舞鶴市善通寺五世、舞鶴市東林寺三世。号

は丹海。本師は亀飼慧鏡。明治二十一年

(二八八八)に善通寺に晋山以来、寺門興

隆に尽して二十二年春に江湖会を修行し

た。(「明教新誌」第二四五四号)

つだーげんどう 津田源道

ー明治三十二年(二八九九)

田辺市法性寺十六世、和歌山県東牟婁郡高

松寺。号は良悟。本師は梵外良中。明治三

十二年七月一日に高松寺にて示寂した。

つちだーぜんおう 土田禪翁

慶應三年(一八六七)ー昭和十八年(一

九四三)

新発田市養福寺、五泉市萬福寺、号は雲

外。慶応三年十月十二日に新潟県北蒲原郡

新発田町の土田清七の二男として生まれ

る。受業師は小菅梅翁、本師は出雲碧峰。

明治十七年(一八八四)、北蒲原郡専門支

校に入り学科七級を卒業する、二十年三月

に出雲碧峰の室に入り嗣法、二十一年に萬

福寺へ住職し、二十三年に永平寺で転衣、

三十六年の夏初会結制を修行する。三十九

年には師席を継ぐ。二十九年には支局會議

員に当選し、県下教学の振興及び檀家の化

導に尽力した。昭和十八年十一月八日に七

十六歳で示寂した。(「曹洞宗名鑑」)

つちばしーかいおん 土橋海音

明治十四年(一八八二)ー昭和二十七年(一九五二)

沓崎市太平寺、沓崎市長栄寺十八世、沓崎市華光寺二十九世。号は覚法。明治十四年一月二十四日に佐賀県杵島郡江北村の土橋栄四郎の四男に生まれる。受業師は青木真亮。本師は市山暎亮。明治三十九年(一九〇六)に曹洞宗大学を卒業し、四十一年より四十三年まで曹洞宗大学副寮監を務めた。沓岐を代表する宗侶で、寺門興隆に努め村青年会や郡内各宗協和会に関係した。昭和二十七年九月九日に七十四歳で示寂している。(『曹洞宗名鑑』)

つついーかくみよう 筒井覚明

明治三十九年(一九〇六)ー平成十四年(二〇〇二)

北杜市長清寺、宮津市智源寺四十世。号は泰雲。明治三十九年十二月十日に徳島市国府町字栄町に生まれる。受業師、本師は今成覚禪。昭和七年(一九三二)三月に駒澤大学文学部仏教学科を卒業し、四月より十

明治期以降曹洞宗人物誌(一六)

二年三月まで小浜市発心寺専門僧堂に安居した。その間の一ケ年、岐阜県伊深村の臨

濟宗正眼寺僧堂にも掛錫している。十六年二月八日に總持寺へ特別安居した。十二年十一月七日に長清寺に住職し、四十年四月十九日に宮津市智源寺住職となった。二十二年六月に總持寺の単頭に就いており、準師家に任命されている。二十六年七月十七日には總持寺祖院後堂に、三十五年三月十九日には總持寺祖院監院に命ぜられ、四十七年十一月一日には總持寺後堂に、五十年十一月には總持寺顧問に就いた。五十五年二月十八日には智源寺専門僧堂の師家に就き、六十年十月二十八日には師家養成所講師を委嘱された。智源寺の坐禅堂改修や位牌堂、山門(赤門)、妙光台などの新築造営事業を行っており、平成十四年九月五日に九十七歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

つつかわーほうがい 筒川方外

弘化四年(一八四七)ー明治三十七年(一九〇四)

倉吉市吉祥院、養父市宗恩寺十五世、伊豆

市修善寺。号は超然。弘化四年に江州彦根

の土族の子として生まれた。受業師、本師は逸山仙秀。鳥取市の景福寺で修行し、明治十年(一八七七)に吉祥院住職となる。その後、宗恩寺に転住し、池田草庵のもとで朱子学を学ぶ。二十二年二月二十五日、曹洞宗大学林教頭を務め、宗門子弟教育にあたった。三十三年に修善寺に転住し、三十四年には宗議会特選議員に任命された。三十七年五月二十八日に五十八歳で示寂した。(『洞上高僧月旦』『但馬の禅僧』)

つづくーれいげん 都竹靈源

ー昭和二年(一九二七)

高山市正宗寺十四世、高山市善久寺十七世。号は鷲峰。岐阜県大野郡丹生川村坊方の都竹又太郎の次男に生まれる。受業師、本師は牧友玩牛。明治中期に永平寺の森田悟由を請して、高山市神明町の正雲寺を建立した陰の功勞者である。正宗寺の伽藍新築を弟子の原田靈昌と二代で完成させた。当時の永平寺法堂の施餓鬼柵を寄進している。昭和二年十一月二十八日に示寂した。

〔正宗寺過去帳〕

つの一えじょう 都野恵定

弘化元年(一八四四)―大正三年(一九

一四)

大田市城福寺十五世、江津市普濟寺十七世。号は禪林。島根県那賀郡井野村の川本氏の出身で、後に開基家の都野姓に改める。本師は雷如黙笑。大正三年十一月二十三日に七十歳で示寂した。

つのだーしゅうどう 角田宗道

大正十三年(一九二四)―平成十五年(二〇〇三)

伊那市常輪寺二十世、伊那市常円寺二十七世。号は佛山。大正十三年三月二十二日に長野県上伊那郡辰野町北大出の角田賢道の次男に生まれる。受業師、本師は角田賢道。昭和二十二年(一九四七)九月に駒澤大学仏教学科を卒業し、沢木興道や山田霊林に参随した。總持寺布教師、特派布教師、管区布教師、長野県第二宗務所長、北信越管区長、總持寺授戒会引請師などを務

め、保護師、民事調停委員にも任命された。寺誌の「常円寺」を発行し、『伊那谷の仏事歳時記』『鎮魂の手記』を著わした。平成十五年一月十八日に八十歳で示寂した。

つばいーしゅんげん 坪井俊彦

明治二十二年(一八八九)―昭和三十三年(一九五八)

鴨川市神宮寺、神奈川県足柄下郡英潮院二十一世。号は啓迪。明治二十二年十二月三日に名古屋市に生まれる。受業師、本師は坪井千尋。大正六年(一九一七)七月一日に曹洞宗大学大学院を卒業し、六年九月十四日より七年七月十五日まで永平寺に安居した。十五年三月八日に司法省より東京少年審判所少年保護司事務を嘱託され、昭和四年(一九二九)十一月一日に神奈川県知事より社会委員を任命された。四年十一月三十日に曹洞宗布教師に任命され、四年三月一日に司法保護委員に嘱託され、九月十四日には司法保護委員に任命された。十五年四月十日に神奈川県教会講師

に嘱託され、十六年一月十五日には神奈川県より方面委員、十七年七月二十七日には少年保護司として多年にわたって尽した功により奏任官の待遇となった。二十一年六月十五日に少年保護司として多年の功により、従七位に叙せられる。三十二年一月二十八日に六十八歳で示寂した。

つばいーせつてい 坪井雪庭

明治元年(一八六八)―大正十三年(一九二四)

奈良市三松寺十世、奈良県吉野郡普門寺二十三世、奈良県吉野郡滝川寺三十七世。号は得髓。明治元年十一月十日に岐阜県揖斐郡揖斐町脛永の坪井重吉、母ビデヨの三男として生まれる。受業師、本師は朝生天栄。渡辺實雄や日置黙仙、上田祥山などに随侍する。十八年に三丹聯合専門支校に入り学課四級を修め、さらに、奈良県支校に転学して全科を卒業する。二十年九月には三松寺に首先任職し、二十二年十月に永平寺で転衣し、二十三年十一月には普門寺へ転じ、大正三年(一九一四)には、滝川寺

に昇住した。奈良三八聯隊に毎月布教に行き、下北山村大瀬分教場の教師を務めていたとの話もある。明治四十五年（一九一〇）一月に、単身で北朝鮮に渡り、朝鮮人及び居留民等に布教の途次、第八師団長小泉中将、五十二聯隊長加藤大佐に邂逅し、軍隊布教の依頼を受けて十ヶ月間、その布教に従事した。大正四年一月には軍人布教師に任命されている。十三年五月二十四日に滝川寺で五十七歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

つばいーふまい 坪井不昧

明治十六年（一八八三）ー昭和三十五年（一九六〇）

千葉県香取郡福泉寺、八戸市光龍寺、前橋市源英寺十九世、桐生市鳳仙寺三十三世。号は百丈。明治十六年六月七日に名古屋市下日置町の坪井健栄の二男に生まれる。受業師は西有穆山、本師は石川未逢。三十年五月から三十三年二月まで島田市の天徳寺に安居、三十四年三月から四十二年二月まで總持寺に安居する。宗務所弁務、宗務所

布教委員、教育興隆会勸募委員、教区長、宗務所長（二回）、曹洞宗青年会聯盟顧問、永平寺二祖禪師大遠忌寄附勸募委員、同督励員、總持寺後醍醐天皇御遠忌香資勸募委員長、總持寺副監院を務めた。宗外においては司法保護事業団体摂法会保護主任、前橋積善会理事、県仏教連合会常務理事、方面委員、前橋各宗協会長、同司法保護主任、県社会教育委員、県仏教会理事長、県選挙粛正実行委員、前橋保護観察審査予備委員、司法保護委員、各種調停委員、県仏教会会長、県仏教会保護会理事長、大日本宗教報国会県支部副支部長、県社会教育協会理事、保護司などを務めた。昭和三十五年八月三日に示寂している。（『曹洞宗現勢要覧』）

つぼくらーかいてん 坪倉回天

明治九年（一八七六）ー大正十五年（一九二六）

柳井市良照寺十七世。号は麗泉。明治九年七月六日に山口県熊毛郡田布施町松尾の坪倉家に生まれる。受業師は松垣良天、本師

は野坂篤應。地方中学林を経て三十六年に東京哲学館を卒業。三十七年に教導講習院を卒業する。三十一年より山口中学林教師を務め、両本山布教師も務めた。大正五年四月二日に広島県呉市で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

つるおかーがくほう 敦岡学鳳

明治二十五年（一九一〇）ー昭和三十五年（一九六〇）

高島市覚伝寺三十世、長野市長国寺三十七世。号は乾外。明治二十五年一月二日に石川県羽咋郡西富来町酒見に生まれる。受業師、本師は久我絶学。大正十年（一九二一）七月に曹洞宗大学林を卒業し、十二年に第三宗務所布教部委員長、十三年には總持寺祖院講師、典座となる。昭和七年（一九三二）に總持寺典座に就いて以来、副寺、副監院となり、二十年間在住して二十六年六月に送行した。その後、国東市の泉福寺の常在師家となり、岐阜県不破郡の妙応寺師家も兼職した。その後、長野市の長国寺に昇住し地方寺院の復興にも尽くし

た。三十五年八月一日に六十九歳で示叙した。(「跳龍」第三三九号)

つるおかーはくほう 敦岡白鳳

大正六年(一九一七)ー平成七年(一九九五)

高島市梅長院、相模原市功雲寺三十七世、相模原市増珠寺。号は雲外。大正六年十月二十六日に石川県鳳至郡門前町の池田家に生まれる。受業師、本師は敦岡学鳳。昭和二十二年(一九四七)四月に津久井郡仏教会長並びに神奈川県仏教会理事に就任し、二十三年十一月に白字会書道会を設立した。二十四年五月に津久井町選挙管理委員、十一月に司法保護委員に就任する。三十年二月には神奈川県宗教教師に任命され、三十三年四月に津久井町議会議員に当選し、地域開発などで町政に寄与した。四十年三月に總持寺二祖国師六百回大遠忌副都管に、七月には曹洞宗布教師、四十四年八月には總持寺副監院に、四十七年二月に太祖常済大師六百五十回大遠忌法要部長を拝命される。五十三年五月には神奈川県宗

教教師理事に、同年十一月には神奈川第二宗務所長を拝命される。五十七年十一月には法式声明研修のための「白雲会」を設立し指導に当たり、各地現職研修会などにおいても指導に当たった。平成七年三月十八日に七十七歳で示叙した。

つるたーけいどう 鶴田岡道

慶応二年(一八六六)ー昭和二年(一九二七)

十日町市相国寺十八世、本庄市光福寺二十四世。号は至山。慶応二年十一月十三日に新潟県長岡市に生まれる。受業師は明鏡觀明。本師は松林禅山。南木国定に随侍する。明治二十六年(一八九三)曹洞宗大学林を卒業し、三十二年には永平寺出張所知客補となり、三月に曹洞宗務院書記、三十五年には高祖大師六百五十回遠忌録事を任命される。昭和二年九月四日に六十三歳で示叙した。(「相国寺過去帳世代記」『曹洞宗名鑑』)

つるなりーたくえい 鶴成澤英

明治十一年(一八七八)ー昭和二十五年(一九五〇)

宇佐市地藏院十六世、杵築市浄土寺十三世、杵築市東光寺十三世。号は俊機。他に嵐雪とも号す。明治十一年六月十四日に大分県速見郡山香町に生まれる。受業師、本師は鶴成祐法。永平寺に安居し、両本山巡回布教師を務めた。昭和二十五年二月二十六日に七十二歳で示叙した。

つるはらーけんぼう 鶴原憲鳳

大正十三年(一九二四)ー平成六年(一九九四)

北海道樺戸郡北漸寺六世。号は鐵貫。大正十三年二月五日に北海道樺戸郡月形町に生まれる。本師は松本玉鳳。駒澤大学予科を修了し、特殊布教師教師、月形刑務所教師、北海道第二宗務所長、北海道管区長、全国宗務所長会副会長を務めた。平成六年二月十日に七十一歳で示叙した。(「傘松」六〇六号)

つるはらーどうは 鶴原道波

天保三年(一八三二)ー明治二十七年

(二九〇四)

出雲市延命寺十一世、出雲市常福寺十四世、北海道樺戸郡北漸寺二世。北海道樺戸郡大正寺開山。号は鐵船。天保三年一月十一日に島根県神門郡大津町の鶴原源助の長男に生まれる。受業師、本師は天瑞来道。

弘化二年(一八四五)春より大垣市全昌寺の鴻雪爪に八年間参学した。明治初年に島根県宗務副取締に就任したが、宗門制度についての争論があり、私見が宗制違反になつて懲戒をうけた。常福寺在任時には産業振興を目的として出資している。明治二十七年一月七日に示寂した。(自筆「履歴書」『開道北海道宗教教誨小史』)

つるみーみつぜん 鶴見密禪

明治三十六年(一九〇三)ー昭和五十一年(一九七六)

浜松市普濟寺独住九世。号は大用。明治三十六年一月二十一日に愛知県海部郡大治村に生まれる。本師は福山白麟。高野山大学

を卒業し妙嚴寺認可僧堂に安居する。静岡

県第四宗務所長、浜松市仏教会副会長、都市区劃整理委員、浜松刑務支所教誨師、少年保護司、市積善会理事、市仏教養護院理事などを務めた。昭和五十一年一月十一日に七十二歳で示寂した。(「傘松」三九〇号)

も

もがみーえいき 最上顚璣

天保十二年(一八四一)ー大正元年(一九一三)

山形市光禪寺二十五世、山形市大昌院十五世、山形県東村山郡慶松寺十九世。号は道晁。天保十二年十二月十七日に山形県東村山郡山辺町大字大塚の會田弥右エ門の五男に生まれる。初め會田と称したが、後に最上と改姓した。受業師は道智顚山、本師は道合玄乘。明治維新の際、当寺朱印地二万五十石の内、畑地九反九畝二十七歩、田地

一町八反三畝六歩の不動産を無償下げさ

れ、寺門護持の基盤を作った。明治二十七年(一八九四)五月二十六日の山形市南の大火により本堂を始め建物を全焼したが、大正二年(一九一三)十月に本堂が再建された。しかし、前年に亡くなったが、本寺の向川寺より再中興の免牘を授与された。元年九月二十五日に七十二歳で示寂した。(『光禪寺誌』)

もぎーむもん 茂木無文

明治十二年(一八七九)ー昭和二十年(一九四五)

東松山市曹源寺、埼玉県比企郡松月寺二十四世、熊谷市観清寺二十三世。号は朴翁。明治十二年一月二十九日に埼玉県北埼玉郡高柳村に生まれる。受業師、本師は鈴木無三。明治三十年(一八九七)七月に曹洞宗大学を卒業し、内地留学生に選抜されて英文学を専攻した。三十五年七月に永平寺で轉衣し、三十六年八月に曹源寺へ初住した。三十八年四月に松月寺に転住するとともに曹洞宗大学図書係にも任命され、後に

曹洞宗第一中宗林学監を務めた。昭和二十一年一月三十一日に示寂する。(『曹洞宗名鑑』)

もくのーこううん 李野耕雲

明治四年(一八七二)ー昭和四年(一九

二九)

豊橋市玄超院、蒲郡市全保寺、蒲郡市本光寺三十一世、蒲郡市洞源院十二世、蒲郡市天桂院二十六世。号は法山。明治四年八月十五日に愛知県宝飯郡前芝村の李野岩松の三男として生まれる。受業師、本師は江坂法雲。明治二十一年(一八八八)九月には石川県曹洞宗専門支校へ入学、冬、金沢市浄住寺の長谷川天穎について立身、二十四年五月より豊川市妙嚴寺の福山黙堂に随侍し、傍ら柳沼翁に漢学を学び、小林翁に漢詩を学び、秋元良観や木谷魯宗らに宗乗の提唱を受ける。三十年七月に豊橋市下五井町の玄超院に首先住職し、三十五年六月には蒲郡市の全保寺に転住し、四十一年五月に天桂院に進住した。毎月一回自坊において説教会を催し、その他に少年教会を設立

し、日曜ごとに少年を集めて教授訓話をなし、在郷軍人会、青年団などにおいて、小学教師と提携して修養講話を行った。また、組長となり、組寺の宗務及び布教に活躍した。昭和四年九月二十日に示寂している。(『曹洞宗名鑑』)

もちだーえくん 持田慧訓

明治三十四年(一九〇二)ー昭和四十四年(一九六九)

三田市心月院二十四世。号は閑堂。明治三十四年十二月九日に島根県八束郡宍道町伊志見四一〇に生まれる。本師は衛藤即應。大正十五年(一九二六)四月に駒澤大学予科入学、昭和六年(一九三一)三月に文学部仏教科を卒業。四月より十七年三月まで神戸市の般若林専門僧堂に安居して常任講師を務め、宗乗、余乗、論理学、哲学などを担任した。十年四月より二十年三月まで満福寺禅林講師、二十七年には神戸市東灘区御影町上ノ山一六八二に甲南禅道場を建立し、在家信者のために禅道会、禅話会、禅学会、参禅会を開催した。著書に『座禅

の要諦』『般若心経は何を解くか』『禅の概説』『無字の参究』『般若心経要解』などがある。昭和四十四年十二月十一日に六十八歳で示寂した。

もちづぎーぎあん 望月義庵

明治四年(一八七二)ー昭和二十八年

(一九五三)

熊本市報恩寺十六世、熊本市大慈寺九十三世。号は桂臺。明治四年一月二十五日に熊本県阿蘇郡長陽村に生まれた。受業師、本師は本田義昌。明治二十九年(一八九六)に熊本鎮西中宗林を卒業し、三十四年に曹洞宗大学林を卒業した。永平寺、總持寺に安居した後、三十六年十二月より三十七年七月まで曹洞宗大学林学監に就任、昭和九年(一九三四)には曹洞宗特選議員に就き、十二年には曹洞宗軍人布教師に、十六年には熊本県宗務所長に就任した。十八年九月二十日に大慈寺で晋山祝国開堂を挙げ、この時、曹洞宗教化研究委員を委嘱される。また、曹洞宗戦力増強教化錬成動員特派教師にも就任する。俳人種田山頭火

(耕畝)は、師のもとで出家得度している。二十八年六月三十日に八十三歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『傘松』四五八号)

もはらーずいどう 茂原瑞堂

ー明治三十年(一八九七)

京都市慈眼寺十一世。号は祥雲。越前に生まれる。青少年の指導に尽力し、門前の子弟を集めて多くの人材の輩出に務めた。その中から国務大臣を始め立派な人物が輩出した。明治三十年十一月五日に示寂した。

ももせーろちゆう 百瀬魯忠

ー

鶴岡市永寂寺、鶴岡市東源寺、鶴岡市荒川寺、酒田市總光寺五十六世。号は大道。山形県東田川郡八色木新屋敷に生まれ、鶴岡市林泉寺の弟子となり、十八歳で雲水となり諸国を巡って修行した。明治十九年(一八八六)に總光寺の特選住職となり、一山の経営に専念し、特に總光寺開山以来の寺領五十余歩の山林が明治以来官山となった

ため、再び山林を寺有にもどすことに苦心し、ついに官林払下に成功した。町の財政の復興も考え、寺有林、町有林をおよそ四分六分の割合に分割し、それぞれの所有によつて後世の財政の基礎を確立した。(『洞瀧山總光寺史』)

ものいーえんずい 桃井圓瑞

天保三年(一八三二)ー明治三十八年

(二九〇五)

群馬県吾妻郡宗福寺十八世、高崎市常仙寺十五世、渋川市龍伝寺二十四世。号は秀光。本師は寛傳虎勇。常仙寺の記録には龍伝寺二十四世とあるが、二十四世は別人である。しかし龍伝寺に住持していたことは事実である。明治三十八年十二月十一日に七十三歳で示寂した。

もりーかくみよう 森覚明

明治三年(一八七〇)ー昭和二十八年

(二九五三)

福知山市昌宝寺、福知山市長円寺、丹波市瑞雲寺、福知山市久昌寺二十四世、綾部市

玄功寺開山。号は大晃。明治三年七月九日に京都府綾部市豊里中の中村政五郎の三男に生まれる。受業師、本師は森大応。興聖寺の不二門眉相、瑞泉寺の杉本道山らに参随した。明治十八年(一八八五)より桂林寺に安居、二十年九月に京都府第二専門支校を卒業し、二十一年九月より二十三年七月まで興聖寺に安居した。二十三年九月より二十六年七月まで瑞泉寺に安居。三十一年に東洋大学を卒業し、その後、三十三年まで二松学舎にて漢学を専攻し、三十七年より三十八年まで、教導講習院にて学ぶ。

四十一年九月から四十四年七月まで永平寺に安居した。明治三十二年四月、京都府第三号支局下巡廻布教師、四十四年から昭和十三年まで兵庫県及び京都府宗務所管内布教師、明治四十年より北海道特派布教師、四十二年、愛知県吉祥講布教師、四十三年永平寺副単頭、兵庫県第六曹洞宗宗務所長、大正九年五月より昭和十二年まで軍人布教師、昭和四年満州守備隊慰問布教師を務めた。大正十三年、宗会議員を拝命、十四年京都府天田郡仏教団長を二期務める。

また、宗務院参事会員、宗務院会計審査員、十五年には曹洞宗教法調査員、昭和十二年には福知山市仏教団長を務めた。宗外においては昭和五年に京都府方面委員、十三年には福知山市軍事援護相談所の相談委員を務めた。昭和二十八年七月二十五日に八十五歳で示寂した。〔曹洞宗名鑑〕

もりーけんぜん 森顯禪

弘化元年(一八四四)ー昭和八年(一九

三三)

和歌山県西牟婁郡三宝寺十六世、田辺市法輪寺二十五世、田辺市法性寺十三世、田辺市水泉寺開山。号は天外。弘化元年八月十五日に因幡国高草郡吉岡村の花谷新十郎の次男に生まれる。受業師は顯外、本師は二葉洞外。明治十三年(一八八〇)曹洞宗専門支校に入学し、十六年に内務省より権少講義を拝命、十九年十月に専門本校学課初級より三級までの試験を修了した。二十七年十一月より四十一年十一月まで和歌山県教導取締兼同県総教会議長に就き、二十九年より三十一年まで曹洞宗末派総代議員を

務めており、三十二年には和歌山県曹洞宗布教師となる。なお、二十八年五月より法輪寺の本堂再建に着手し、二十九年五月に落成式を修行した。三十九年夏、能登国の總持寺が横浜鶴見へ移転につき、咨問会で総代議員として上京する。大正三年七月に老衰のため法輪寺住職を辞し隠栖した。昭和八年三月十九日に九十歳で示寂した。〔明教新誌〕第六二二号、第八一一号、第三七六三号)

もりーじつゆう 森実雄

明治二十一年(一八八八)ー昭和四十七

年(一九七二)

津市西法寺十世。号は大機、雅号を六水という。明治二十一年十二月五日に金沢市の柿本家に生まれる。受業師、本師は朝日雄峰。大正元年に曹洞宗第三中学校林を卒業し、約四十年間、地元の小中学校教員を務め、西法寺の本堂を改築し再建した。三重県第一宗務所副所長を務め、昭和四十七年三月五日に八十四歳で示寂した。

もりーせいがん 森省頑

明治四年(一八七二)ー昭和十七年(一

九四二)

東京都圓福寺二十二世。号は實道。明治四年三月四日に岐阜県中島郡小藪村の森源十郎の二男に生まれる。本師は森海巖。曹洞宗大学を卒業後、同大学の僚監を務め、曹洞宗地方布教師や方面委員、西台青年団団長なども務めた。昭和十七年六月二十一日に七十二歳で示寂した。〔現代仏教家人名辞典〕

もりーだいき 森大器

明治三十年(一八九七)ー昭和三十五年

(一九六〇)

所沢市松林寺十五世、山梨県南巨摩郡南明寺四十九世、坂戸市宗福寺二十五世。号は徳充。明治三十年七月三十一日に福井県武生市の森丹秀の長男として生まれる。受業師は田中佛心、本師は平鳳瑞。大正十二年(一九二三)に駒澤大学仏教科を卒業。宗福寺時代に宗会議員に二選され、昭和十六年(一九四一)には教学部長を務めた。二

十九年四月一日に南明寺を永平寺特任地となした。その他に管内布教師、軍人布教師、教育審議会委員、審事院審事、司法保護委員、保護司、埼玉県仏教会主事、埼玉自彊会において司法保護事業に従事する。

全日本仏教会連絡部長、十八年七月に日本仏教親善使節随員として泰國に渡り、仏舍利を奉迎した。十九年より二十年まで日泰文化会館仏教部長に就任し、両国の文化交流親善事業に従事した。著書に『曹洞宗安心問題論纂』『曹洞宗在家日課諷經集』などがあり、三十五年一月七日に六十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』『傘松』二六八号)

もりーたつどう 森達堂

明治十一年(一八七八)ー昭和二十七年(一九五二)

市原市西福寺、新城市慈広寺三十一世、鳥羽市光岳寺二十一世。号は奥參。明治十一年一月一日に三重県桑名郡城南村大字安永に生まれる。受業師、本師は武田金牛。戸沢春堂に参随している。明治三十一年(一

八九八)に第七中学林を卒業し、四十二年四月より昭和三年(一九二八)三月まで新城市泉龍院僧堂に安居する。曹洞宗三重県宗務所所長も務めた。二十七年六月四日に七十五歳で示寂している。

もりーつりょう 森哲了

明治四十三年(一九一〇)ー昭和四十四年(一九六九)

綾部市玄功寺二世、福知山市久昌寺二十五世。号は寛山。明治四十三年五月五日に森覚明の長男として生まれる。受業師は森覚明、本師は渡辺賢明。駒澤大学文学部国文学科を卒業し、修善寺僧堂、總持寺僧堂に安居する。福知山市仏教会長、民生委員、管内布教師を務めた。昭和四十四年六月二十五日に六十歳で示寂した。

もりーとうおう 森洞翁

明治十七年(一八八四)ー昭和二十三年(一九四八)

高島市清原寺五世、大津市桂昌寺八世、高島市興聖寺三十世。号は壽山。明治十七年

一月二十日に滋賀県米原町米原の森留次郎の四男に生まれる。受業師は鶴翁台巖、本師は幽蘭千巖。西有穆山に参随している。

明治二十九年(一八九六)に盛岡市の報恩寺に、三十二年より三十五年まで横濱市西有寺に安居。大正六年(一九一七)夏安居、引続き報恩授戒会を修行。昭和八年五月より二年間、滋賀県曹洞宗第二宗務所長を務める。昭和二十三年九月十五日に六十四歳で示寂した。

もりーどうほん 森道本

明治三年(一八七〇)ー昭和十年(一九三五)

富山市西光寺三世、茨城県猿島郡東昌寺四十世。号は森羅。明治三年十二月十八日に石川県門前町峠に生まれる。受業師は實嚴真宗、本師は寂菴瑞光。慶応大学経済学部を卒業。明治四十年(一九〇七)より大正十五年(一九二六)まで宗議会公選議員に就き、總持寺本山再建部長も務めた。また、總持寺東京出張所にも出仕している。昭和十年十月二十一日に六十六歳で示寂し

た。〔『現代仏教家人名辞典』『宗教時報』
第一二一号〕

もりーどうゆう 森道雄

大正三年(一九一四)ー平成四年(一九

九二)

茨城県猿島郡東昌寺四十二世。号は虎山。

大正三年六月二十六日に茨城県猿島郡五霞
村の森道本の長男に生まれる。受業師は森

道本、本師は赤祖父順雷。昭和十三年(一
九三八)に駒澤大学仏教学部予科を卒業。

總持寺祖院に安居し、二十一年に東昌寺住
職となる。五十年から六十二年まで五霞村

議会議員を務め、五十六年から六十年まで
五霞村議会議育民生委員長を務める。ま

た、五十年から五十八年まで栗橋町外五箇
市町村水防事務組合議会議員を務め、六十

二年から平成元年まで曹洞宗宗議会議員も
務めた。その他、茨城県曹洞宗宗務所賛

事、副所長にも就いている。平成四年七月
八日に七十八歳で示寂した。〔『洞門龍象要

覧』『曹洞宗現勢要覧〕

もりーぶんえい 森文英

明治三十年(一八九七)ー昭和五十二年

(一九七七)

愛知県知多郡誓海寺六世、半田市海蔵寺十

九世。号は大哲。明治三十年二月二十日に
東京都文京区小日向台町の森清巖の七男に

生まれる。受業師、本師は石川文龍。曹洞
宗大学を卒業し、愛知県第三宗務所長や宗

議会議員を務める。その他、乙川本郷軍人
分会長、半田市市会議員、半田市選挙管理

委員も務めた。昭和五十二年二月五日に八
十歳で示寂した。〔『洞門龍象要覧〕

もりーいぶつかん 森井仏閑

文久三年(一八六三)ー昭和十年(一九

三五)

藤井寺市清円寺二十四世、池田市吉祥寺十

世、箕面市太春寺。号は大通。文久三年四
月二十日に攝津豊能郡萱野村に生まれた。

受業師、本師は森井泰翁。森田悟由、畔上
椋仙、北山純三などに参随する。明治二十

二年(一八九九)に曹洞宗大学を卒業し、
三十六年には準師家となり、陽松庵僧堂の

雲衲を接化した。昭和十年九月十五日に示
寂した。〔『曹洞宗名鑑〕

もりえーりようじゅん 森江良屯

ー昭和五十年(一九七五)

防府市天徳寺二十七世、庄原市正福寺十二

世。号は大詰。広島県庄原市高町の森江定
一の子に生まれる。受業師、本師は今井良

光。大正七年に曹洞宗大学林を卒業し、昭
和五十年七月十八日に八十四歳で示寂し

た。

もりかわーちはく 森川智白

ー大正十五年(一九二六)

小浜市松福寺十七世、福井県大飯郡海元寺

二十九世、福井県大飯郡性山寺五世、小浜
市空印寺三十六世、福井県大飯郡慈眼寺伝

法開山。号は東林。本師は禅外東隆。曹洞
宗地方布教部委員長を務めている。大正十

五年十一月二十六日に示寂した。〔『松福寺
過去帳』『現代仏教家人名辞典〕

もりぐちーえてつ 森口恵徹

安政四年(一八五七)ー昭和十二年(一九三七)

大田市浄光寺二十世、大田市龍昌寺二十九世、鳥羽市常安寺三十世。号は大悟。安政四年七月十日に鳥根県那賀郡川波村字波子の森口順孝の五男に生まれる。受業師、本師は宮脇月船、能仁柏巖や橋本玄了に参学する。満州布教師となり、大連に常安寺を創建した。満州布教監督を兼任し、永平寺顧問も務めた。昭和十二年十二月二十八日に八十一歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』『龍昌寺過去帳』『森口恵徹老師』)

もりしたーりゅうどう 森下隆道

明治二十七年(一八九四)ー昭和五十年(一九七五)

埼玉県比企郡宗心寺二十四世、静岡市金剛寺十世。号は佛天。明治二十七年二月二十日に岩手県遠野市上郷町の細越儀三郎の三男に生まれる。初め藤平といい、後に隆道と改名する。受業師は篠田大誠、本師は丹羽佛庵。秋野孝道と福山白麟に参随してい

明治期以降曹洞宗人物誌(一六)

る。明治四十年(一九〇七)三月、岩手県立遠野中学校を卒業し、大正二年(一九一三)から五年まで大洞院に安居、七年から九年まで妙巖寺に安居した。昭和二十六年(一九五二)に曹洞宗布教委員、曹洞宗青少年教化委員、宗外においては静岡市御用邸公会堂事務局長を務めるなど、十九年に静岡市政功労者として名誉市民賞を授与された。五十年一月二十五日に八十一歳で示寂した。

もりたーげんえい 森田彦英

明治四十三年(一九一〇)ー平成元年(一九八九)

千葉県満蔵寺十九世。号は大機。明治四十三年八月十九日に東京都西多摩郡日の出村に生まれる。本師は松本突英。昭和十年(一九三五)に駒澤大学仏教学部を卒業し、十年より十一年まで永平寺に安居。三十五年四月より曹洞宗保育連合会常任理事、三十九年四月より千葉県仏教保育連合会会長、四十一年四月より曹洞宗宗議会議員を三期十二年間務める。その間に、曹洞

宗宗務監査委員、曹洞宗社会教育審議会委員、曹洞宗視學員、曹洞宗総合特別審議会委員、曹洞宗教学部長などを務めた。また、保護司も務め、四十四年に千葉県知事教育功労で表彰された。駒澤大学理事長、東北福祉大学理事長、愛知学院大学理事長も務めている。平成元年二月四日に八十歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』「大機彦英大和尚小照」)

もりたーこうえつ 森田宏悦

大正二年(一九一三)ー平成九年(一九九七)

伊勢崎市宝珠寺三十世、ハワイ・オアフ島洞門院二世、ハワイ・モロカイ島弘誓寺四世、太田市正覚寺二十二世。号は禅山。大正二年十月二十三日に群馬県佐波郡赤堀村今井の松村以一の四男に生まれ、後に森田姓に改める。受業師、本師は松村以一。昭和十二年(一九三七)三月に駒澤大学仏教科を卒業し、九月より十四年七月まで永平寺に安居した。七月二十七日にハワイ・ホノルル別院開教師として赴任し、十五年八

月にオアフ島のワイアホレ洞門院に転任した。二十年ワイアホレ日本語学校校長、二十六年、モロカイ島の弘誓寺四世に赴任、ハワイ開教師として五十八年間務め、平成九年七月二十五日に八十三歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

もりたーごゆう 森田悟由

天保五年(一八三六)―大正四年(一九一五)

金沢市龍徳寺二十五世、金沢市玉竜寺、金沢市天徳院二十五世、永平寺六十四世。号は大休、別号は六湛。天保五年一月一日に尾張国知多郡大谷村の森田常吉の二男に生まれる。受業師は龍山泰門、本師は天瑞白龍。弘化四年(一八四七)夏より伊勢国飯高郡殿村の大福寺の月定愛光に二年間参侍し、安政元年(一八五四)には梅檀林に入り、碩学の東条一堂らに就いて内外諸典を研鑽した。三年正月、前橋の龍海院の奕堂に参随し、天徳院に転住した際にも随侍して天徳院に赴いた。慶応三年(一八六七)十月、龍徳寺に首先住職し、明治三年(一

八七〇)には、奕堂が總持寺独住一世に昇

住するや常随侍者となる。八年四月二日には天徳院に転住、十一年には總持寺西堂となり、二十一年二月には法式改正委員長に任ぜられ『洞上行持軌範』を編輯した。二十四年九月十二日に永平寺六十四世へ晋住し、二十八年一月より曹洞宗管長に就任した。それ以後、總持寺貫首と一年交代で管長職を務める。この頃、總持寺と永平寺の分離問題があつたが、分離せずに円満解決した。二十八年五月、明治天皇より性海慈船禪師号を賜わり、三十五年四月十八日より道元禪師六百五十回大遠忌を永平寺で行した。著書は『獅乳』『洞上化導要義』『禪戒法話』『禪戒落草談』『仏戒略義』『悟由禪師法話集』『大休悟由禪師広録』などがあり、大正四年二月九日に八十二歳で示寂した。(『洞上高僧月旦』『各宗高僧譚』『森田悟由禪師』『曹洞宗百年のあゆみ』『禅学大辞典』)

もりたーしんかい 森田眞海

明治十八年(一八八五)―昭和三十七年

(一九六二)

湯沢市最禪寺三十一世、佐倉市養昌寺十七世、千葉県長生郡大聖院、成田市養泉寺二十八世。号は道悟。明治十八年八月二十七日に千葉県市原郡鶴舞町鶴舞に生まれる。受業師、本師は松本道海、高橋竹迷に参随した。明治三十五年(一九〇二)より三十八年まで福島県の長禄寺認可僧堂、三十八年より四十年まで永平寺、四十二年より四十年まで及び大正三年(一九一四)から十三年まで總持寺に安居した。總持寺再建本部主事、總持寺慶弔式録事、秋田県第二宗務所長、曹洞宗布教師を始め曹洞宗事変対処局参務、曹洞宗報国会指導講師、僧侶勤労働員適格者修練会講師、特派布教師、曹洞宗振興会講師も務めた。宗外においては少年教護委員、成人保護司、山田公民館運営審議員なども務めた。昭和三十七年七月十九日に七十八歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』『最禪寺誌』)

もりたーゆうこう 盛田有孝

大正十年(一九二二)―平成四年(一九

九二

勢要覽

川越市千壽院、古河市正麟寺二十七世。号は義嶽。大正十年一月一日に生まれる。受

業師、本師は盛田孝岳。昭和十六年（一九

四一）三月十日に茨城師範専攻科を卒業。

安政五年（一八五八）―大正十二年（一

三十五年）に曹洞宗宗務庁主事、四十年に曹

九二三

洞宗宗務庁課長、六十一年三月に曹洞宗審

横浜市本覚寺二十三世、呉市神應院開山。

事院審事を拝命し、三期六年間務めた。平

号は大雲。安政五年四月八日に鹿児島県比

成四年六月八日に七十一歳で示寂した。

婆郡西城町に生まれる。本師は木下大統。

〔『曹洞宗現勢要覽』「宗報」第六八二号）

明治十九年（一八八六）に曹洞宗大学林を

もりたりようどう 盛田良道

卒業。二十年五月には本覚寺に任職して四

明治二十九年（一八九六）―昭和五十七

十五年に認可僧堂を開単し、師家として雲

年（一九八二）

衲を接化した。行持綿密にして祖道恢興を

東京都中央寺二十二世。号は大悟。明治二

以って一生の任とし、寺門興隆と僧堂経営

十九年三月二十九日に熊本県天草郡御領村

に尽した。大正十二年一月十八日に示寂し

に生まれる。早稲田大学専門部政治経済科

た。〔『曹洞宗名鑑』

を卒業し、昭和十八年には東京宗務所第九

もりやまーげんちよう 森山玄昶

教区長に、二十二年には管内布教師、その

明治七年（一八七四）―昭和十九年（一

後、東京都梅花流連合会長や城東仏教団常

九四四

任理事などを務めている。中央寺の本堂増

出雲市大円寺、出雲市福知寺、出雲市靈光

改築を行い、五十七年六月八日に八十六歳

寺、出雲市十楽寺二十五世。号は痴閑。明

で示寂した。〔『洞門龍象要覽』『曹洞宗現

治七年四月二十五日に島根県簸川郡国富村

の森山文重の四男に生まれる。受業師、本

師は痴絶清祀。井上円了に参学する。明治

二十九年（一八九六）七月十五日に東京哲

学館を卒業し、三十年に大円寺へ首先住職

した。三十一年には福知寺の本堂を建立、

元瑞。大正七年五月十六日に示寂する。

『那賀郡曹洞宗寺門史』

もりよしーりょうしゅう 守慶良宗

ー明治三十二年(一八九九)

川越市養寿院二十四世。号は祖田(伝)。

明治十八年(一八八五)八月二十五日より

開基川越太郎平重、平経重の六百回忌にあたり、畔上棟仙を戒師に請して戒会を開く。三十二年二月二十六日に示寂した。

〔明教新誌〕第一九一四号『仏教各宗高僧品評』『畔上棟仙禪師遺稿』

もろたけーえぎどう 諸嶽奕堂

文化二年(一八〇五)ー明治十二年(一

八七九)

京都市大宅寺、前橋市龍海院、金沢市天徳院二十四世、豊明市聖応寺十五世、總持寺独住第一世。号は梅崖、三界無頼、無似子。文化二年一月一日に名古屋市の平野甚右衛門の三男に生まれる。受業師、本師は雪堂晁林。證応道契や天外来応などに随侍し参禅した。天保九年(一八三八)には三

河足助の香積寺の風外本高の下で修行する

こと四年にして印可を受けた。その後、京

都の大悲山に隠れ、原坦山らとともに坐禪

辨道し、弘化四年(一八四七)に大宅寺

(現在、廃寺)の住持となり、嘉永二年

(二八四九)に前橋の竜海院に、安政四年

(二八五七)に金沢の天徳院へ昇住した。

明治初期の永平寺と總持寺の抗争で両山盟約の締結に力をつくし、明治三年(一八七

〇)に總持寺独住第一世に就き弘濟慈徳禪

師を賜号される。著書に「玄楼禪師略伝」

「風外禪師略伝」「良寛和尚詩集」「懶眠餘

稿」などがあり、十二年八月二十四日に鶴

岡市の善宝寺に巡化した時、七十五歳で示

寂した。『各宗高僧譚』『曹洞宗百年のあ

ゆみ』『禅学大辞典』

もんまーてんゆう 門間天祐

ー昭和十年(一九三五)

横手市永泉寺三十世、秋田県雄勝郡光正寺、秋田県仙北郡永泉寺二十七世。号は佛心。光正寺より永泉寺の特選住職になる。昭和十年五月十五日に示寂した。

「禅宗」における

仏骨奉迎の記事について（上）

川口 高風

明治仏教界において空前絶後の盛況で、大ニュースでもあった仏骨奉迎は、明治三十三年五月に暹羅国へ奉迎使及び随行員を派遣して奉迎されたものである。その報告書が政治家やジャーナリスト、海外事業家などによって刊行されているが、仏教界側では莫大な費用がかかり、奉迎の中心的人物が中傷誹謗されたり、負債償却の責任をとったり、宗門の公用金を流用したことからの罷免されて投獄されたり悲惨な結末であった。そのため後世では特にとりあげられることなく、奉迎の副使や随行員らの報告書を見ると、失敗であったとか事件であったとか、贅沢三昧の奉迎であったとか良いことは述べられていない。

そこで、当時の各宗の事情や意見などをながめ、各宗のといった対応を明らかにするため、各宗の機関誌から関連記事を取り出して考察してみたい。本稿では臨済宗各派と黄檗宗の機関誌である

「禅宗」からみてみよう。

「禅宗」は、明治二十七年十一月二十五日に京都府宇治郡宇治村大字五ヶ荘第六十一番戸の禅定窟より第一号が発行された。編輯人は黄檗宗の進藤端堂が主筆として担当しており、その後、上村観光（上村閑堂）に代わった。

第一号によれば、発刊の辞を始め祝詞や論説、講演、詞林、寄書などを所収している。以後、大内青巒や井上円了ら各宗の碩徳や諸師の高論、卓説を寄せて本誌に光彩を添え、禅学悟道の唯一の機関誌にすることを約束している。

第二号の告白によれば荻野独園、釈宗演も執筆を承諾しているといい、本誌が禅学の好指針となり、世人に歓迎されるものであると述べている。また、雑録によれば、「禅宗」第一号に対する各新聞や雑誌の批評を掲載しており、各宗の碩徳の協賛もあつたことをいう。なお、第五号からは京都市下京区建仁寺町通四條下ル四丁目二十六番戸の建仁寺内に禅定窟を移し、その後は京都市上京区木屋町二條西の貝葉書院から発行した。

「禅宗」には明治三十三年四月十五日発行の第六十一号に「仏骨の奉迎に就て」が出て以来、翌三十四年三月十五日には「覚王殿の建築に就て」、同三十五年には覚王殿建設地の問題で名古屋に確定したこと、翌三十六年には覚王殿の敷地や負債問題について、大菩提会の革新計画、日蓮寺の創立について、翌三十七年には妙心寺派本山の不始末事件について、翌三十八年には仏教各宗派の無責任さを述べており、妙心寺事件の判決やその後の様子も

述べている。同四十一年には日蓮寺住職の決定や大正二、三年には仏骨奉安塔の建設などが報告されている。

凡例

- 一、本稿は（上）として、明治三十三年四月十五日発行の第六十号より同三十五年十月十五日発行の第九十一号までの「禅宗」に掲載されている仏骨奉迎関係の記事を採録した。
- 一、翻刻にあたり仮名使いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、変体仮名はすべて平仮名に改め句読点を付した。なお、明らかな誤植は訂正した。

○仏骨の奉迎に就て〔明治33年4月15日 第六十一号〕

◎目下暹羅國盤谷府勅願所に留錫せる真宗僧侶近藤龍眠師は同國駐劄の日本公使稻垣滿次郎氏の尽力に依て、同勅願所に安置せる釈迦牟尼仏の舍利を分ちて日本に奉迎せむとし、目下頻りに檄を本邦の有志に伝へてその準備中なるが、今その事の因由を聞くに、西曆千八百九十七年英人ピツプなる者カピラバスト付近の地にて古を穿つこと二十尺余にして、一大石窟を發掘し、そが中より舍利及び寶石等を出せり。其内水晶に文字を彫刻す。其の文字は仏滅後其遺骸に仏の遺骨を分与せらる云々と明記せるなり。是に於てピツプ氏之を秘宝とすることを惜み、悉く英國政府へ上申して之を四分し、一部は發掘者に分与し、而して仏骨に属する部分は當時仏教國たるの故を以て暹羅王國へ送呈し、暹羅皇帝は乃ち昨年五月遠く勅使を印度に派して奉迎し、丁寧に供養を行ひ、後又緬甸、錫蘭の仏徒にも分与したり。然るに暹羅政府は今回又日本の仏教大乘國たるを喜び、同國に留錫せる日本僧侶に分与したるを以て、其歡喜喩へむ方なく、遂に日本各派の仏教徒を誘ひ、偉大なる儀式を具へて之を日本に奉迎し、又之を機として南北仏教各派の合同團結を為すの手段となさんとすといふ。

◎右につき盤谷駐劄全權公使稻垣滿次郎氏は、各宗管長に向け左の書面を贈りたりといふ。

（前文略す）小生熟ら世界宗教界の大勢を察するに、仏、回、

基所謂世界三大宗教の中に就て、仏教は前後兩印度より支那日

本に亘りて尚數億萬の信徒を擁す。若し夫れ一朝好機の乘ずべきあり此等南北兩仏教の一致を計り數億萬の信徒凝つて一塊石の如くなれば、其勢や真に計るべからざるものあり。仏教是に至て世界に雄飛するを得べく、仏教如斯にして二十世紀文化の上にて大光明を發輝すべし。仏教徒の天職亦實に之に存する事と信候、誠に之を小にして日本仏教徒を打つて一丸となし、大にしては世界仏教の一致を計り、茲に仏教の一新時期を劃し、暗中の大飛躍を試むる事今日仏教界の急務にして、諸氏等先進の責任亦是に在りと信候。

而して小生は今諸氏と共に仏教一新の好時機到來したるを祝せんと欲するものに御座候。夫は諸氏も御承知の如く昨春英領印度政府は、同國ピラハラに於てペツペ氏の發見したる釈尊の遺骨及遺灰其他の遺物（發見の記事別項御參照相成度候）をば、仏教國唯一の獨立國たる當國王陛下に贈呈し當國王陛下亦空前の盛事を以て之を迎ひ給ひしが、陛下には右聖物を各仏教國に頒ち世界仏教徒の一致を計らんとするの御聖旨あり。而して今一月には錫倫島及緬甸の兩地より委員を派遣し、盛大なる儀式を以て各々聖物の頒を得申候。然るに這回當國王陛下亦た聖物の一部を我國仏教界に贈るの聖旨あり。小生の指して以て仏界一新の好機となすは即ち此事に御座候。

抑も聖遺聖物なるもの、如何に教徒の熱信を昂かめ渴仰を加ふるかは、今更呶々を要せざる処に候。彼の露國莫斯科府の「カセドラル、オブ、アツサンプシヨン」に於ける黃金龕中基督磔

刑の古針が、常に巡拝の善男善女をして随喜の涙を墮さしむるが如き、或は「クリミヤ」の大戦亦其遠因を聖地「ゼルサレム」の事に発し、或は独帝「ゼルサレム」に巡拝し給ひしが如き、所謂聖地聖物なるもの、如何に欧米基督敎国の民に渴仰せられつゝあるを推知するに難からず候。

今回の事実に仏敎界空前の盛事たり。諸氏宜しく此好機に乗じて南北仏敎の一致を計り、以て世界仏敎徒の惰眠に鞭ち仏界一振の盛挙に出でられん事熱望に不堪候。

當国王陛下が我仏敎界に対し、聖物御贈与の聖旨に出でられたること既に當国外務大臣より通知有之。且つ我邦より派遣委員に対して御謁見等の御厚待をも賜はるべき旨は亦外務大臣の通知に接し申候。但し陛下の聖旨特に之を或る一宗派に贈るにあらずして、我邦仏敎徒全体に賜ふものに御座候。

右の次第に候へ共、我邦仏敎各派の中より可成高德博学にして英語を能くする仁数名を委員に御撰び相成、至急御派遣相成度候。

敬具

明治三十三年二月十二日

在暹羅國盤谷府日本帝國公使館 稲垣 満次郎

○**仏骨迎齋の協議**〔明治33年4月15日 第六十一号〕

稲垣暹羅公使より照会ありし仏骨分送の事に就き、大谷派本願寺よりは南條博士之を迎へん為近日西航せん筈なるが、他の各派に於ても右に關し此際協議すべき必要ありとて其事を先頃の宗敎法

案に対する各宗運動委員に一任すること、せしが、同委員は本月八日妙心寺に会合して協定する所あらん筈なり。尚此序に第十五議會に対する宗敎法案の運動方法をも協議するよし。

○**仏骨に就て**〔明治33年5月15日 第六十二号〕

仏骨奉迎のことは、現下敎界の一問題なるが、文学博士高楠順次郎氏は、**仏骨崇拜の起原**、**仏骨塔の変革**、**現下の問題たる仏骨の由来**を説いて曰く、

・仏骨崇拜の起原 仏敎の開祖たる釈迦牟尼の入滅に關しては、從來東洋の仏敎者間に於ては種々年代上の異説あれども、輒近欧米に於ける言語學者及比較宗敎學者等の史的考証によれば、**耶蘇紀元前第五世紀**を以て最も其正確なる年代を認定せり。偕て**釈尊**が印度俱尸那伽羅なる沙羅双樹の林間に於て入滅するや、當時の仏敎徒は孰れも敎祖追慕の哀情に沈みし中にも、摩揭陀國の阿闍世王、毘沙離國リツチビ種族の律昌王、迦毘羅城の釈迦王、阿羅割波のブリヤ王、羅摩邑の拘利耶王、吠率奴邑の波羅門、波々邑の摩羅王、俱尸那迦羅の摩羅王等の八人は各信敎上の由緒を具して**釈尊遺骨の分配**を請求に及びしが、其分配の方法に付き議論定まらざりしかば、遂に婆羅門の徒盧邦なるものに命じて、遺骨を右の八人に對し平等に分配せしめたり。而して彼等八人は其遺骨を恭しく受取りて各其地方に持ち帰り、壯麗なる塔を建て、之を納め、月を定めて盛大なる祝礼供養を営みたり。然るに徒盧那は遺骨分配の役目に當りしとは

第二項 奉迎使は、互選を以て正使一人を置く事を得。

第三項 各宗派暹羅国王陛下、同外務大臣、稲垣公使に宛て各宗管長の連名したる書面を寄送し、兼て奉迎使に関する信任状を呈すべき事。

第四項 各宗派は暹羅国王室及び其他に物品を送呈する事。但し物品の価格は合せて金一千元として、物品の選択は奉迎使の協定に一任すべし。

第五項 各宗派其宗派毎に奉迎員一名を選挙し奉迎に関する事件を取扱はしむべき事。但し其委員の姓名住所は、本日より五日以内に通知せらるべし。

第六項 積尊御遺形奉安所及び其事務所を設置する事。但し事務所は、京都市下京区妙法院前町妙法院とす。

第七項 奉迎事務に関する費用は委員に於て之を議定すべき事。前項の費用は一時借入金を用いて之を支弁し、償却方法は別途に之を定むべし。

第八項 奉迎使派遣の費用予算を定むること左の如し。
一金一万円 奉迎使派遣費

内金千円、奉呈物品購入費〇金七千円、奉迎使往復費〇金二千円、奉迎使予備費

第九項 御遺形仏事式典は大略左の如し。其法要の施行方法は奉迎委員に於て之を協定すべき事。

上陸会、長崎に於て之を行ふ。〇奉迎会、京都に於て之を行ふ。〇仮安置会、同上〇拝迎会、沿道各所に於て之を行

ふ。〇拝瞻会、仮安置の後期日を定め之を行ふ。

第十項 奉迎委員は御遺形奉安に付、左記各項の事業計画を為し宗派會議に提出し決定すべき事。

一、塗廟建設の件〇一、同上建設地協定の件〇一、右費用に関する件。

第十一項 奉迎使に推薦したる各宗派に対しては、當会より代表者を以て之れが請願を為すべき事。

また特別協議案として左の件を議決せり。

一 積尊御遺形を奉迎し及び之を奉安し、日本仏教者に於て永遠護持し奉らんが為め、帝国仏教会を設立し同会組織方法等は之を各宗派管長会に提出し議決を求むべし。

〇 仏骨奉迎使を出すことに就て前項の如く決したるが、各宗派の奉迎使は大谷派新門主大谷光演師を始め、臨濟宗前田誠節師、本願寺派藤島了穂師、曹洞宗日置黙仙師の諸師にして、真言宗よりも奉迎使を出すこと、なるべしといふ。

〇 妙満寺一派は仏骨奉迎に就て各宗派と協同一致の方針を採らざることなるが、こは敢て四個格言の頑夢に依りて然るにはあらず。法華經に「妙法蓮華經一部を安置して乃至舍利を安んずることとを須めず」とあるに由るものなりと同派の人は言ひ居れりと。

〇 仏骨奉迎使の出発〔明治33年6月15日 第六十三号〕

仏骨奉迎の事に就ては既にしばしば記載したるが、奉迎使一行は愈々去月二十二日京都出發、神戸常盤に一泊し、翌廿三日正午同

港出帆の博多丸にて暹羅に向へり。右につき神戸まで見送りし僧侶は九百名に及び、七条駅にて見送りし人々は九邇宮殿下、村雲尼公御使をはじめ九条公、近衛公の使、高崎知事、本派本願寺連枝大谷尊重師、大谷派本願寺総務大谷勝縁師、妙法院門跡村田寂順師、其他各宗管長及び管長代理者以下執事、役員、門末僧侶、信徒、各宗学校職員、生徒等無慮一万人余に達せりといふ。因に奉迎使が今回暹羅皇帝陛下をはじめ其他への土産物として持参せる品物は左の如し。

一、金地其山入花生 一对 (白斜子袋入茶色組にて結び桐筐に納め之を復柩櫃の函に入る)

一、平目蒔絵巻煙草函 (白縮緬帛紗に包み黒柿の函に納め之を復柩櫃の函に入る)

一、真美大観 (日本仏教真美協会発行)、(紙本絹表紙、上等桐文庫に納め之を又柩櫃の函に入る)

また同国大臣僧正等への贈品は左の如し。

一、七宝藤模様花生 一对

一、同古代摸様花生 一对

一、古銅象嵌花生 一对

一、古金欄廿五条袈裟 一肩 (右袈裟包は縮緬紅白昼夜仕立、

函は島桐外箱付)

一、真美大観 (日本仏教真美協会発行、紙本の分) 五部第一、

第二、共十冊

又大谷派新法主光演師は、暹羅皇帝陛下へ献上のため左の品々を

「禪宗」における仏骨奉迎の記事について (上)

携帯せし由。

一、刺繍四曲屏風 一对 (宇治平等院春景図代価二千七百円)

一、綴織壁掛 一枚 (蓮図代価六百四拾円)

一、刺繍の扁額 一面 (林中群鷺図代価六百六拾円)

一、刺繍結扁額 一面 (山桜の図代価参百貳拾円)

一、婦人用織物洋服地 一卷 (代価百五拾円)

○日本大菩提会 (明治33年6月15日 第六十三号)

本月八日より妙心寺龍泉菴に於て各宗派管長会議を開き、第一号議案として日本大菩提会々則を議し、可決確定したるもの左の如し。

日本大菩提会々則

第一条 本会は日本大菩提会と称し、本部を京都市に置き支部を各地方に設く。

第二条 本会は釈尊の遺形を奉安し、其聖徳を顕揚し国民の道義を涵養するを目的とす。

第三条 本会の目的を達せんが為め順次左の事業を起す。

起業方法は別に之を定む。

第一期 覚王殿建築

第二期 教育及慈善

第四条 本会の会員を分て左の四種とす。会員待遇方法は別に之を定む。

一名誉会員 (本会職員会の推撰による者
又は金百円已上を喜捨したる者)

一 特別会員 (本会職員会の推撰による者
又は金拾円已上を喜捨したる者)

一 正会員 金壹円已上を喜捨したる者

一 随喜会員 応分の金品を喜捨したる者

第五条 会員の徽章及証票は本部より之を交付す。

第六条 本会は各宗派管長を推戴して名誉会監とす。

第七条 本会は会務処理の爲め左の職員を置く。職員の仕事規
則は別に之を定む。

理事長 一人

理事 十人

第八条 理事は本会々議に於て委員中より之を互撰し、理事長
は理事の互撰を以て之を定む。

第九条 本会に監事三名を置く。其撰出法は前条に準ず。

第十条 本会々議は各宗派撰出の委員を以て之を組織す。

第十一条 会議は定期臨時の二種に分ち、定期会は毎年一回之
を開き、臨時会は緊急必要がある場合に之を開く。

第十二条 現金の出納は特約銀行をして之を取扱はしむ。

第十三条 経費の予算は本会々議に於て議定し、決算は毎年定
期会に報告す。

第十四条 支部に関する規則は別に之を定む。

また第二号議案として日本大菩提会施行細則、第三号議案として
同会起業順序を議し、いづれも左の如く可決せり。

日本大菩提会施行細則

第一条 本会々員募集の爲め、勧誘委員若干人を各宗派より撰

出す。其員数は従来の慣例に依る。

第二条 勧誘委員には本会より囑托状を交付し、其姓名を各宗
派に報告す。

第三条 勧誘委員は本会本部より一定の方針を示し派出せし
む。

第四条 各宗派は勧誘委員に便宜を与ふる爲め門末一般に対し
訓示するものとす。

第五条 勧誘委員派出期限は一方面約一ケ年とし、一組二人以
上を以て各府県を分担せしむ。

第六条 勧誘委員は其担任地に於て領取したる金員百円に達す
る毎に金員の姓名簿及金額を明記し本会へ郵送すべし。

第七条 本会の発会式は明治三十四年四月之を行ふ。

起業順序

第一期事業

覚王殿建築工事

一 入会者凡百万人に達するを待ち覚王殿並に付属物の建築に
着手すること。

二 建築物は壮大堅牢にして永遠に保存し得べき範囲内に於て
之を計画すること。

三 該工事の落成期は凡七ケ年間とす。

第二期事業

教育及慈善

第一期事業終了を告たるときは、更に会員中より喜捨金を募

集し、凡見込み立たる時を待ち起業に着手するものとす。

然るに起業方法に対し、本派本願寺委員は単に覺王殿建築に止むべしと爲し、教育及慈善事業には反対し、激論數時遂に本派委員は木辺派及び三元派等の委員と与に袖を聯ねて退場したる由なるが、こは本派にては既に単独を以て慈善財団を計画し、且つ仏教大学及び仏教中等の制をも設けたるに因るといふ。

又大菩提会の役員は左の如く推薦したり。

理事長村田寂順、理事土屋觀山、後藤善定、河野良心、三原俊榮、有沢香庵、小林榮連、園光轍、青井俊法、田村豊亮

斯くて同会の創立式は去十一日を以て、大仏法院に於て挙行せられたり。参列者は仏骨奉迎事務総理妙法院門跡村田寂順、天台宗座主中山玄航、建仁寺派管長竹田默雷、相国寺派管長中原東岳、南禅寺派管長豊田毒湛、興正寺派管長花園沢称、誠照寺派管長二條秀源の諸師を始め各宗管長代理者及び委員役僧、大菩提会理事等にして鳥尾小弥太氏も来会せり。鳥尾氏は仏骨奉迎につき日本大菩提会を起し、其創立式を挙行するに當り、招待を受けたれば聊か所感を述べんとて、左の趣旨を述べたり。

鳥尾子所感の大意

本会を日本大菩提会と名づけたるが、予の信ずる所によれば、各宗派一致するのみならず。大乘小乘南北仏教を通じ仏法を興隆する炯眼より起りし者ならん。夫が今回の一念なれば、大乘小乗ともに此一念の上において成就するものなり。斯の如く世上に現はれ成就を望むにおいては其一念において二念三念の相

続を必要とし、その間に種々煩惱を出すもあらんが、不退転にして、第一念によりて尽さざれば終に念願の不成就となるべし。本日の挙式を平易に見れば、是迄各宗の智識有志者等が仏のためには種々心配し居るも、仏法は日を追ひ衰へ来るにあり。今回仏骨を奉迎するに至り、仏の威徳光明を更に發揮するは疑を容れず。我国の仏教は我国の歴史に伴つて形造らるれば、明治維新陛下が都を東遷し賜ひしより、自然と天下の人心も変化したるより、此処をよく考へざる可らず。今回の仏骨奉迎を仏法の一大紀辰とし、各宗協力して京都へ仏骨を奉安すべき一大殿堂を建築し、一大道場を開き以て天下に普く仏法の利益の及ばんことを偏へに希望す。高きに声を発すれば低に及ぶの例あり。東京は皇居のある処日本の頭脳なれば、東京において仏功を輝して適當と思考す云々。

明暗双々〔明治33年7月15日 第六十四号〕

△ △ 生

◎ 仏骨の奉迎、是れ實に仏界の最大好事ならずや。仏教徒は宜しく此最大事実に対して歡天喜地せざるべからず。然るに或る一類の徒あり。之を難じて曰く、仏骨を迎ふる猶ほ馬骨を迎ふるが如し、骨を迎ふる何ぞ大法に於て益するあらんやと。

◎ 吾輩亦常に思惟す。釈迦何人ぞ、我れ何人ぞと。何ぞ況んや其死骨をや。之を頂戴し之を奉祀すること畢竟何の用ぞ。法は活人在りて死骨に存せず。然も吾輩は謹んで仏骨を奉迎せんとす。

何が故ぞ、南北仏教の聯絡疎通、日本各宗の協同一致は、たしかに此の一大事実によりて成功せらるべければ也。

◎日本大菩提会は、即ち此の事実によりて生み出されたる各宗合同の事業ならずや。回顧すれば従来各宗合同事業の唱道せられたること一再にあらず、而も未だ完全なる合同事業の計画せられたる功せられたるもの未だ半個も之れなき也。然るに大菩提会は、其計画頗る完全にして其規模亦小ならず、今日まで唱道せられたる各宗合同事業中、吾輩最も望を属し且つ其成功を祈る。

◎果然、仏骨を迎ふるは猶ほ馬骨を迎ふると等しからず。滅後三千年の死骨、漸く腐敗せる仏教国をして大に清涼ならしめ、萎微振はざるの大法をして再び興起せしめんとす。かの孔明の一屍骸尚ほ能く活ける仲達を走らす。何ぞ況んや釈尊の靈骨をや。何為れぞ敢て馬骨と同視すべけん。

◎屑々たる道理の巢窟に墮在し、理窟の外亦何事をも解せざるの徒、曷んぞ能く活方便を拈提し活事業を建立し得んや。彼等の多くを見よ。其平生言ふ所の理窟の一斑をだも能く遂行し得る者果して幾個かありや。

◎吾等は各宗が世の毀誉を意に介せず、進んで仏骨を奉迎するに躊躇せざりしを多とす。特に仏骨奉迎に伴ふに大菩提会組織を以てせるに至ては、吾輩双手を挙げて賛意を表せざるべからず。

◎日本大菩提会の事業は第一覚王殿の建築、第二教育及慈善の施設にあらずや。即ち先づ仏の遺形を安置し、而して且つ仏の大精神を挙揚せんとするもの、是れ仏の末流を汲む僧侶諸師の正當な

る行動にあらずや。

◎若し非難の眼を以て見れば、世人の云為何事か非難すべからざるものぞ。孔子の大聖を以てして尚ほ當時非難を免るゝ能はざりに非ずや。然れども是れ非難者の非なるのみ、仏者這回の行動を非難するもの、亦即ち非難者の非なるものにあらざる乎。

◎仏骨の奉迎、大菩提会の組織、是れ吾輩の賛して止まざる所、但た吾輩は當路諸師が熱誠真摯を以て茲に従事し、釈尊が大寂定中に眉を開いて満足し給はんことを期せざるべからず。

◎覚王殿の建築は容易に行はるべし。然れども大菩提会の主腦事業たる教育及慈善事業に至りては其完成決して易々たることにあらず、而も今日にして之を成さずんば、仏教は蓋し今後百年の存続を望むべからず。僧侶諸師が猛然として茲に従事せざるべからざる所以に此に在り。

◎印度は千古の大聖世尊が降誕し、宇宙無比の仏教が淵源したるの地、然も昊天何ぞ災を此地に下すの劇甚なる。今や印度は凶歉しきりに至り、飢餓にさげぶもの挙げて数ふべからずと。我仏教国民は慈悲の涙を揮つて急疾に彼等を災厄の中より救ふの策を講ぜざるべからず。

◎仏骨奉迎につきては固より随喜の涙に咽ぶべし、されど一面に於ては印度の飢民に同情の涙を吝むべからず。

◎明教誌客月末の紙上に『真美大観』の精評あり、名を署して田島志一といふ、乃ち田島志一のものせる精評なるに似たり。『真美大観』は余の編纂に係る、而も明教誌上一篇の精評は余の文に

あらず、固より余の名を署すべきものにあらず、故に訂正を求めぬ、同誌応ぜず、更らに署名の取消を申込みぬ、また同志之を裁せず、吾輩は記者が責任を重んぜざるの甚しきに驚ずんばあらず。

○本派本願寺と大菩提会

本派本願寺にては既記の如く、大菩提会の第二事業たる教育及慈善の起業に反対し、同会組織に同意せざることに決したれども、仏骨奉安の為め覚王殿を建設することには賛成し、乃ち同殿建設費中に金貳万円を寄付することに決定し、顧問利井明朗、注記名和溟海の二師を以て左の書面を同会に送りたる由。

今般各宗派管長会議に於て大菩提会を組織し、会員を募集し積尊の御遺形奉安の殿堂建設等の事業企図可相成段決議有之候処、本派に於ては殿堂建設の議は無論賛成に付、右費用の内へ本派より金貳万円寄付可致候、乍去大菩提会組織の儀者断然同意難致候条、此段申進候也

真宗本願寺派管長代理 近 松 尊 定

奉迎事務総理 村田叔順殿

而して末派に向つては、左の訓令を発したりといふ。

今般各宗派管長会議に於て、日本大菩提会を設立し、大聖世尊御遺形奉安の為め壮麗なる殿堂を建築し、併て教育慈善の大事業を起し、国民の道徳を培養せんとて全国各宗派に亘り広く会員を募り、莫大の勸財を為し、以て之が成功を期せんことを議決せり。然るに本派は不得已此れに賛同する能はざることとな

れり。

抑も自行を先きにして他に及ぶべきことは予て訓告する所に於て、本派に在ては百年此の精神を離るゝを得ず。依は今回の事業に於ける、僧侶先づ之を荷はんとするにありて、前頭三種の中初めに殿堂建築の業を起し、帝国七万の寺院に於て之を成功し（全国七万の寺院一ヶ寺貳円を醸出すれば、総額拾四万円を得以て殿堂を建築するに足る）各宗派協同一致の実を挙げ、進では世顕道徳の顕揚に努め、退ては各自僧侶の釐正に尽し、以て社会道徳の標準たらんことを期せん。而して他の事に到ては其成功を見たる後ち起業を残するの順序なることを信ず、本派の方針此の如くなるも審議交渉の結果竟に納れられずして止むたり。

然と雖も御遺形奉安の為め殿堂を建築するは素より、同意する所なれば、前項の理由に依り、本山は一派を代表して建築費金貳万円を寄付し、而して大菩提会加入の義は断然謝絶せり。門末一同此の旨趣を領し、心得違無之様深く注意すべし。

然れども本派が此挙に出たるは、予て計画せる慈善財団のあるが為めなること何人も首肯する所なるべし。また一方には、多少大谷派との軋轢の意味も存せざるを得ざらん。曩には宗教法案問題に於て東西両派互に相反目したり、其曲直の何れにあるかは暫く此に論ぜざるも、両派の軋轢は識者の鑿鑿する所、南條博士の如き其の大谷新法主に扈從して仏骨奉迎に暹羅に赴くの前、記者に語るらく、今回の事は各宗の齊しく手を携ふる所、仏骨奉迎によ

りて東西両派の軋轢も自然に調和するに至るを得んか。然も事実は予望と反し、大菩提会の組織は端なく此の結果を見るに至る、吾輩は仏界の爲めに之を悲む。

○日本大菩提会趣意書及会員待遇法

前号には会則を掲載したるが、今其趣意書を得たれば左に掲ぐ。

日本大菩提会趣意書

恭しく惟るに、大恩教主釈迦牟尼世尊八相成道の化儀は微妙不可思議にして、法身の理体には隠現なしといへども、大慈大悲の応用には仮に生滅を示し給へり。故に生を中天竺摩訶陀国浄飯王の妃摩耶夫人の胎に托し、四月八日無憂樹下に降誕し、身には三十二相八十種を具足し給ふと雖も、凡夫に似同して嬰兒行を示し、四門に遊觀して生老病死を厭ひ、夜半に王城を踰へ、袈裟の衣を脱して袈裟を着し、菩提樹の下に正覺を成し給ふ。是則十九世出家三十成道と称ふ。爾來華嚴阿含方等般若の四時を経て、如来出世の本懷たる妙法蓮華經一切衆生皆成仏道の旨を説き玉ふ。是を秋收冬藏更無所作と名く。化縁既に終り、俗に従ひ光を韜み、沙羅双樹の間に一切衆生悉有仏性如来常住無有變易と称へて大般涅槃に入り給ふ。嗚呼哀哉我等衆生宿福薄劣にして在世の利益に洩れ、金鍔木彫の仏像等住持の三宝を帰憑とし、青蓮満月の妙相を竟に瞻奉すること能はざるは常に悲嘆に堪へざる所なり。今や天運循環して此明治の聖代に會ひ、世尊の遺形を聖地より奉迎し、親しく瞻迎し奉ることを得るは優曇の萼浮木の龜も啻ならず。誠に空前の盛事にして、

仏法興隆の吉兆、何の歡喜か之れに若かんや。抑も我世尊は其在世の化導を以て自ら足れりとせず。其滅後に於ても骨身砂利を以て福を人天に被らしめんと誓ひ給ひけり。即ち円寂荼毘の後ち靈応極なく禅瑞荐りに臻れり。是に於て八国の王及諸天竜王骨身砂利を分ちて各宝塔を建て、闍維所亦高顯を築き、尊重恭敬し応驗最も著しかりき、這回暹王の頒たれし金軀の遺形は闍維宝塔の遺物なりと仏教博士保氏の考証せしは斯道名家の証するところにして、益々信念を堅くせり。夫れ世尊の遺形は即ち大日弥陀三身即一法界塔婆なれば、一瞻一礼するものは惑業水の如く消へ、福智雲の如く聚り、速生極樂即身成仏の功德を具し給ふこと言の尽すべきにあらざるなり。依之各宗協同して爰に日本大菩提会を設置し、協同贊襄の力に頼りて論矣たる大覺王殿を建立し、以て遺形を奉安し、且つ益々仏法を闡明し慧日を發揮し、以て公衆の信念を鞏結し道德を培養せんことを企てたり。夫れ菩提は性の真理、解脱の大本にして、仏道の極致なれば、之を以て本会の名とし、之を内にして各宗協同一致して本会を隆盛にし、之を外にしては世界仏教者を合同融和して相共に大乘の法雨に潤ひ、醍醐の真味に飽かしめんと欲するなり。夫れ我国仏教は各宗派に分れ、其所依を殊にするも、其源を窮るときは仏意に原かざるはなし。猶百川流を分つも同じく海に朝宗し、子孫家を異にするも俱に一祖に帰するが如し。苟くも教祖の源旨に歸し、仏法の余流を汲むもの、豈に協同一致して罔極の慈恩に酬はざるべけんや。仰ぎ願は帰依仏教の徒は

緇素に論なく、十方の善男善女皆趣旨を賛成し、続々同盟加入し、相俱に心を協ひ力を戮せ、以て本会の事業を完成ならしめんことを。

また、会員の待遇に関する規定は左の如しと。

日本大菩提会々員待遇規定

第一条 本会の趣旨を賛成し金員物品を喜捨し、会則第四条に依り会員たる者は左の区別に従ひ会員証章紀念品及謝状を贈るものとす。

一名譽会員

第一種会員章及紀念品金千円以上喜捨したるもの

第二種会員章及紀念品金五百円以上喜捨したるもの

第三種会員章及紀念品金參百円以上喜捨したるもの

第四種会員章及紀念品金百円以上喜捨したるもの

一特別会員

第一種会員章及紀念品金五拾円以上喜捨したるもの

第二種会員章及紀念品金參拾円以上喜捨したるもの

第三種会員章及紀念品金拾円以上喜捨したるもの

第二条 正会員には会員章及証票を贈与し、随喜会員には識票のみを贈るものとす。

第三条 紀念品には別には左記の謝状を添付す。

(謝状)

茲に日本大菩提会の主旨を賛成し、金何円を喜捨せらる。

依て本会規定の正条に拠り、第何種会員章及紀念品を贈り

「禪宗」における仏骨奉迎の記事について(上)

以て其芳志に酬ふ。

明治 年 月 日

大日本大菩提会理事長 姓

名

爵 姓 名 殿

第四条 会員は随意に覺王殿の参拝を為すことを得。

第五条 法会施行の節会員の参拝者には相當の待遇を為すものとす。但会員章携帯を要す。

第六条 会員には明治三十四年四月八日より同年五月十五日に至る期間拜瞻会及覺王殿起工式挙行の當時、汽車汽船賃の割引票并に各宗派本山の宝物拝観券を贈るものとす。

○仏骨奉迎彙報(明治33年7月15日 第六十四号)

◎仏骨奉迎の爲め先発したる岩本千綱氏の通信の一節に曰く、今回仏骨奉迎使来暹の儀に就ては當国政府各大臣は申すも更なり、国王殿下にも殊の外御満足にて歡感斜めならざる由。稲垣公使より屢々伝承仕候、孰れ使節着暹後は種々の佳報を伝へ可申様相成候事と存候、雲の上の事は測り兼候得共唯今にては実に望外の好結果に有之候。

◎仏骨奉迎の日割等は愈左の如く決定せられたりと。

七月十二日長崎港着船▲十三日十四日長崎に於て上陸会▲十五

日馬関一泊但し午前長崎発車午後三時二十三分門司着車小蒸気

船にて馬関着▲十六日馬関出發但し馬関より徳山迄汽船、徳山

午後十時五分発列車にて出發▲十七日午後零時三十分大阪梅田

停車場着直に天王寺に入る▲十八日天王寺に於て拝迎会▲十九日京都着但し午前六時卅分天王寺停車場より乗込み同七時四分梅田停車場へ着、同七時三十一分官線列車に乗替へ同日午前八時五十分京都七条停車場着、直に大谷派本願寺へ入興の事、同日午後大谷派本願寺より行列、烏丸通りを北へ五条通を経て大仏妙法院へ仮奉安の事

◎本邦駐劄暹羅公使バアジロングナチエス氏は、仏骨の長崎着を聞くと同時に、神戸まで出張し、同所にて奉迎することゝなれりと。

◎七条停車場より大仏妙法院内仮安置所まで仏骨を奉迎するに用ゐる法輿は蓮形にして琺瑯を付け、全体を黒塗りとし、法鸞は朱塗りにて表面扉の両側は唐草の彫刻をなし、金鍍の金具を付し、頂上の擬宝珠は金箔塗りにて頗る美麗のものなるが、右は各宗本山の仏具用達なる竹内商店にて製造したるものなりと。(五日記)

○仏教の中心東京に移らんとす

説者あり曰く、仏教は古来京都を中央とし各本山事務所多くは京都に在り。近くは夫の暹羅国より迎へんとする仏骨をも京都の地に安置せんとすることなるが、東西両本願寺に於ては近來見る所ありて、仏教の中心も時勢に従ひ之を東京に移さんと企てつゝあり。此両派に属する各学校即ち大谷派の真宗大学、同中学、本派の仏教大学仏教高等、同中学等をも漸次之を東京に移さんとする計画あり。現に本派の仏教高等中学、同中央中学の生徒半数は本年九月より東京高輪泉岳寺付近に移転せしめんことに内定し、大

谷派の真宗大学も同様本年九月より東京下谷区内に移転することに決定し居りて、且下其建物の設計中なり。且大谷派寺務所内に在る教学部をも浅草別院内に移す事に内定せりと。夫の仏骨も東京に安置せんと唱ふるもの漸次多きを加ふるに至り、京都仏教者間に於ける近時の一問題となれり。此趨勢の漸次事実となり行かんには京都の盛衰に関する事尠少にあらざるべしと。蓋し注意すべきの言也。

○南條博士の暹羅談〔明治33年8月15日 第六十五号〕

仏骨奉迎正使大谷光演師に随ひ暹羅へ渡航せる文学博士南條文雄師、人に語りて曰く、仏教の暹羅に入りしことについては、磐谷に滞在中種々取調べしも、何分正確なる歴史なきことゆゑその年代は詳かならぬも、釈迦如来没後弟子の一人同国に來りて布教したりとのことなるべし。其勢力は偉大にして歴代の国王は何れも仏教に帰依し仏門に入らざるもの少し、特に現国王より三代前の国王は二十歳にして出家し、二十七年間緇衣を纏ひ、その後王位に即き、仏教のため大に力を尽しければ、仏教ます興隆し、中流以上の貴族は必ず一度仏門に入るの例となり。而して實際仏門に入らねば政治その他の社会に対するの勢力なきものとなれり、されば磐谷市中の寺院は頗る莊嚴にして、特に宮裡にある寺院の如きは頗る華美を極め、安置せる仏像は宝石を以て作り、装置せる作花は同国北部の殖民地より毎年献納するものにして、金銀を以て作られたるものなり。其他諸種の裝飾品もまた皆珍奇な

らざるはなく、かくて同国の珍宝美術品は悉く王室及同寺院に吸集せらるるといふも敢て過言にあらざるべし。又同国の仏書は皆印度のバアリ語を以て記され、僧侶の一般布教に従事する場合は之を暹羅語に訳して説く者の如し。扱仏骨の暹羅に伝はりし次第は印度のバステイ州に於て去る明治卅年英人ウイリアム、ペツペ、ジョーヂ、ペツペといへる兄弟が発見し、発掘に着手し一時中止せしを、英人スミスの奨励により再び着手し、遂に一の瓶を発掘し、其蓋に記せる文字に就て釈迦如来の遺骨なることを知り、英國政府へ届出しかば、同政府は之を暹羅国王に送りて其内上、ビルマ下ビルマに各一片を配たれんことを依頼したるなり。同国王は本年一月盛式を以て之を各国の奉迎使に渡し、稲垣公使等の尽力に依り好意上その一片をまた我国へ配たる、に至りたるものなり。従来同国に行はる、仏教は所謂小乗教なるが、僧侶の生活は善く積尊の教を守りて規則厳肅なり。王族といへども毎朝必ず跣足にて市中を托鉢し、信徒は道路に跪坐して之に米或は錢を喜捨すれば、僧侶は恰も仏の代身といふ恣にて之を受け、会釈もなさず無言にて行過ぐその見識こそ却て日本僧侶等の想像し及ばざるところなり。又食事は二食にして不可昼食と唱へ、正午迄に二回の食事をなし、午後より翌朝迄は一切食事をなさざるなり。又同国には耶蘇教バラモン教マホメット教なども侵入しをるも、その勢力微弱にして下等社会及び移住民の間に行はる、もの、如く、詮ずるに同国教育の権は今尚仏教徒の手にありて、中流以上のものにて外教に帰依するもの少きが如し云々。

〔禪宗〕における仏骨奉迎の記事について(上)

○仏骨拝受の実況

仏骨奉迎使より仏骨拝受當時の実況を聞くに、奉迎使一行の暹羅国王陛下に謁せしは六月十四日にして、當日は宮内省より美麗なる二頭曳の馬車を差立てられ、宮内大臣の先導にて謁見所に入り、文部大臣は奉迎使を国王に紹介せしが、国王陛下より左の勅語ありたり。

仏世尊の神聖なる遺形の一分を受取らんが爲めに、始めて此国に来れる日本仏教徒の奉迎使を見ることは朕の喜ぶ所なり、且つ日本は暹羅よりは遠隔の国にして制度も習慣も或る場合に於ては異同なきに非ざれども、尚ほ同一宗教を信ずる所の同教国なることを信認することに於て満腔の歓喜と満足の感情とを以て刺撃されたる熱心の程を領解ありたきことなり。朕は仏教の先導者にして保護者なるを承認せられし上は、奉迎使へ神聖なる遺形を分配すべき幸福なる義務を尽すことは甚だ喜ぶ所なり。従前日本仏教徒が此神聖にして真実なる遺形の分配を得ざりしことは、彼等が其一分を得んことを希望すべしとは朕の識認せざりしが故なり。今は此貴重なる宝物の一分を得て日本へ安置し、巡拝者をして其便を得せしめんとする彼等の願を信認せし上は、之を手渡しすること甚だ喜ばし、奉迎使の此国に來りて普通協同の利益のために日本仏教徒が海外教徒を熟知して一層交際を親密にしたる後は、日本仏教の益々隆盛に赴くこと朕の最も切望する所なり。

右の勅語は暹羅語にて仰せられ、文部大臣英訳して之を南條博士

より各奉迎使に伝へたり。次いで正使大谷光演師は左の答辞を捧読せり。

大日本帝国仏教各宗派を代表したる真宗大谷派大谷光演、真宗本願寺派藤島了穩、臨濟宗妙心寺派前田誠節、曹洞宗日置黙仙謹告す。

大暹羅国王陛下、聖徳天の如く高く、仁徳地の如く潤し、爰に優渥なる聖慮を降し、釈迦大覚世尊の遺形を我日本帝国某等仏教者に領与し玉ふに依り、各宗派管長は光演を奉迎正使に、了穩黙仙等を奉迎使に擢用して、遺形奉受の任を囑托せり。光演等此任に膺り聖明に咫尺して主体の清爽なるを拝するを得たり、何の榮か之に加へんや。伏して望む、陛下外護の力を増隆し玉ひ、十善の資を保存し玉はんことを。光演等誠恐誠懼の至りに耐へず。

右捧読するや、南條博士は再び之を英訳して上奏し、国王陛下には各奉迎使に握手の礼を賜はりて非常の歡待ありしといふ。

○大菩提会彙報

▲日本大菩提会にては、規則第三条により覚王殿建築起業に着手せん筈なりし処、去月廿五日、大谷派役員一同より左の建議を提出せり。

大聖の遺形は数千里の遠きより魔事なく着御被為在候事、全く仏天の冥裕と奉感戴候、就は会則第二条に抛り、亟かに覚王殿の奉建に着手し、崇敬の誠を尽すべき所に候へ共、遷後の世態右会則議定の當時に同じからず。遠くは則ち竺乾の凶歳、近く

は則ち北清の擾乱等局面一変、徒に守柱すべからざる時運に向ひ候。乃ち北清に於ける帝国軍隊の成敗利鈍は国威の消長と相関し、又如來降生の聖蹟に於て現出しつゝある飢餓相望み流氓踵を接するの状況は、到底我徒の晏然たるべき所に無之、苟くも四恩の重きを知らば、傍觀すべき所に非ず。宜く御遺形來朝の大方便力に依り、大に我仏徒を鼓舞し、帝国祖宗の御遺訓をして深く国民の心胸に銘剋せしめ、忠君愛国の常経を以て全国民を打して一団とすること至要中の至要此れに過ぎたるものなく、之より急なるものなし。此の大本領を基礎として、大に国に酬ひ世を救ふの事に従ひ度、仏意の在る所亦此に外ならずと存候。依て如來の遺形は當分之を仮殿に奉安し、国家水陸軍士及家族の慰恤と印度飢餓の救済とを先にし、之を実行するの方は新聞に演説に其他諸種の便宜を採り、覚王殿建築の費を転じて之を前陳の二事業の費とし、四恩の重きに感奮し、大慈を實踐躬行せしめ、国民の品性を高尚誠懇ならしめ候はゞ、他日覚王殿を建て仏徳を奉揚することは手に随て行はるべきこと、存候。依て先づ国家人民に対する仏教の本旨を実行するを先とし、覚王殿建築を後とすることに御改め相成度、此段及建議候也。

▲大菩提会にては同廿九日理事会を開き、石川舜台師も出席し、前日提出したる建白書の説明あり。種々討議をなしたるが、理事長村田叙順師は、曾て北清の恤兵及び印度の飢民救済の事に熱衷し、其事を理事会に付議せしめんとせし折柄、恰かも大谷派本願

寺重役の建白ありしを喜び、其旨趣を賛同するのみならず。迅速に之が実行をなし度旨を理事一同に諮詢したるに、同会則は各宗派管長の決議になりたるものなれば理事会に於て容易に変更もなりがたしと説き、また恤兵救済の事に關しては各宗派に於て既に着手しつゝもあり。何ぞ仏殿建築の費をこれに濫用するの理あらんと論ぜしあるも、各宗派区々の救済は各自宗派の私事にして大菩提会の同盟團結としては其資格上より此般の救恤を行はざるべからず。且つや縦令会則は嚴なるも焦眉の急に臨んでは臨機の処分をなし駿敏の救恤をなさざるべからざるにつき、各管長には協議案を呈し置き、迅速に実行せんとのことに決定し、大菩提会より各管長に當て左の協議案を送付したり。

協 議 案

一名管會監各位の中に就て五名の總代を理事長理事より推薦し、時々本会に臨場を乞ひ、会務の拡張を謀る事。

理 由

釈尊御遺形奉迎奉安は首尾克く終了せり。是より後大菩提会の拡張を勉め、予期の事業を完結し、世間出世間の希望を満足せしめざる可からず。之が希望を達するや容易ならざるを以て、特に總代会監を推薦するの必要を認む。

一本会に於て北清事件に係る恤兵及印度飢饉救恤の事を取扱ふの件。

理 由

日本大菩提会組織の目的は既に定りて動かす可からずと雖も、

「禪宗」における仏骨奉迎の記事について(上)

事に緩急あり。先後其宜しきに処せざる可からざるは論を俟たず。今や釈尊降誕の聖蹟にして古今未曾有の飢饉日々数十万の飢餓を生じ、目今六千万の生靈は生死の境に呻吟する悲惨の状態苟も仏子たるもの、一瞬を弛ふす可きの秋ならんや。加之北清の変乱に於ける帝国軍隊の成敗は国威の消長に關する焦眉の急何事かを顧みるの隙あらんや。依之仏教各宗派は既に一心無二の丹誠を凝らし、三世相応第一に我が、

皇室の御威稜益々隆昌ならしめ奉るを祈り、第二に我が軍の勝利從軍者の健全を祈り、第三に我國威の発揚を祈り、第四に東洋の平和克復を祈り、第五に仏蹟飢餓の転禍を禱り、且つ恤兵救済の事に従事せらるゝも、尚ほ忠君愛國の常經に則り、本会に於て會員其他の有志を勧誘し、陸海軍出師及其家族の慰恤に勤め、併せて仏蹟飢餓の悲惨なるを救恤し、大慈悲仏心の本旨に原づき濟世利民の実益を世界に洽からしめんことを冀望す。

右は管長各位会同決議に付すべきものたりと雖も、迅速実行を要し、且つ酷熱の功勞頻を輝り、書を以て御協賛を仰ぎ候也。

○仏陀聖典の發行

仏教図書出版会社にては仏舍利奉迎紀念として仏陀の聖典の印刷に従事せり。右は上中下三編より成り、今回の出版の分は上編即ち小乗部にして、右は一切經中の要点を平易に編集せしもの、由。

◎鳥取仏骨遙拜式大法会〔明治33年9月15日 第六十六号〕

鳥取仏骨遙拜式大法会は野崎鉄文師の発起に由り、去る七月廿二日當市敷片原町三丁目西本願寺別院なる真宗寺に於て、各宗聯合にて壮大なる法要は勤められたり。元來この法要を営むに就ては、浄土及日蓮宗の如きは自己の本山の達令を楯に取り、この協同法要に異議を申立てたるにも拘らず、熱心なる諸師は数回の協議を凝らし、特に運動委員を各地に派遣せしめ、各寺院の意向を確める等オサク、周旋余念なかりしが、卒に其効果虚しからず。最初反抗の態度に出でたる日浄兩宗の如きも自然其非を覺り、協賛を申込み、其他余宗の協同もこゝに纏り、諸般の準備も已に整頓したるを以て、前記の廿二日午後一時より法要を開始することゝはなりぬ。今其大略の模様を記さんに、本堂の正面に於て祭壇を築き、其上の種々の莊嚴を施し、上壇に豎一尺有余の端嚴なる釈迦仏の坐像を安置し奉り、其祭壇の両面には立花供物例に因て供具せられ、正面最近の所には導師始め清衆一百有余名の着席読経の所となし、其左方は地方高等官及優待券持参のもの着席の所に充て、右方は當市設立の婦人美德会々員及新聞記者等の着席の所となし、又本堂の西方には廻らずに幔幕を以てし、門前には六金色の大仏旗いと麗はしく交叉せられ、尚ほ其付近には数百個の紅提灯をつるす等、頗る用意周到せり。尚殊勝に見うけられたるは當寺付近の町家が戸毎に国旗を翻へし、皆家業を休みて参詣する等、當地の奉仏が如何に人氣立つたるかを知るに足る。法要は午後一時より開始せらるゝにも拘らず、午前十時より結縁の道

俗絡繹として群参し、十二時過ぎに到れば本堂の内外は人を以て充滿したり。午後一時用意全く整ひたるを以て、廳で合図の半鐘を打鳴らすや。百有余の清衆は静かに順を追って着席し、廳で曹洞宗の発音にて各宗一齊に普門品の廻り行堂を行ひ、午後三時に及で嚴密なる法会は是にて全く式を終り。其より西派の布教師多田文豹師は登壇「仏教の社会的勢力」を演じ、次に黄檗の青年僧野崎鉄文師「信念砥礪の時機」を演じ、最後に洞門の碩学須和文孝師「仏骨奉迎に対する意見」を演じたるが、孰れも熱心なる態度を以て縷々演じたるに、満堂二千の聴衆は感極つて泣くものありき、講演全く終て解散したるは午後六時、此日参詣人に対し「仏骨遙拜」と書せる菓子一千五百個を配賦したるが如きは、群参の道俗に一層の歡喜を与へたりと同地よりの通信の俛。

○大菩提会彙報〔明治33年9月15日 第六十六号〕

▲大菩提会の諸事業は常任理事十名を置き理事会に於て決行する筈なりしが、更に三十三派管長を名誉会監とし、此の会監中より総代名誉会監五名を推選することとなし、村田理事長より推選状を送りて夫々承諾を得たり。其は大谷派門跡大谷光瑩、真言宗長者長有匡、日蓮宗管長岩村日轟、曹洞宗管長畔上棟仙、妙心寺派管長小林宗輔の五師なり▲明年四月八日より五月十五日まで妙法院に於て拝瞻会を行ふ筈なるが、覚王殿は起工式を此の末日に行ふよし。尤も建築地未定の俛として執行せん筈なりと。

○遠藤龍眠師

曹洞宗中夙に壮年有為の聞えある遠藤龍眠師は、仏教研究の志抑へ難く、去る三十年暹羅に渡航し、盤谷府勅願所サツケツト寺に留りて其研鑽に余念なかりしが、去六月我国より仏骨奉迎使一行の渡暹せられし際は、欣喜雀躍して種々斡旋勞を執られし爲め、同一行も天涯万里の異域に於て其便利を得る事一方ならざりしが、同師は奉迎使の帰朝後間もなく盤谷府を去りて、新嘉坡より印度に旅行し、釈尊の遺跡を洩れなく巡拝して、去る三日無事帰朝せられたり。同師は印度風黄色の僧衣を着し、顔色赭黒なるに、柳風沐雨の艱苦さこそと思ひやられ、一見恰然羅漢の生仏に對する如くなり」と。

○仏骨を暹羅皇帝に贈るの議〔明治33年11月25日 第六十八号〕

今春暹羅国皇帝陛下より分与せられし釈迦如来の分骨を歓迎せしが、然るに我が邦にて鎌倉山円覚寺に安置せる仏牙舍利は、建保年間源実朝卿故在て彼の国より奉迎したる釈迦如来の齒牙にて、其大さ約一寸強なる実に靈驗著しきものなるに由り、老若男女の帰依浅からず。之を宝殿（国宝の殿宇にして建保年間の造営に係る）に安置し、毎年十月十五日を以て嚴かなる仏牙舍利大法会を執行するを常例と為せり。今春同国皇帝陛下より好意を以て仏骨を本邦に分与し玉ひしに付ては、今回は本邦僧侶より前記の仏牙舍利を同皇帝陛下に分贈し奉り、以て仏教国の交情をして益々親厚ならしめんとて、目下稲垣公使を始め貴族院議員児玉淳一郎、法学士鈴木正也、早川千吉郎、法学士大津麟平諸氏等は同国の宮

中に向て交渉中なりと云ふ。

○暹羅皇后御寄贈の經典

暹羅国皇后陛下より今回特に日本仏教団体へ御惠贈せられたる貝多羅抄略三藏經八卷は、稲垣公使の手を経て去月二十七日大日本大菩提会へ到着したるが、同巻の上覆は同陛下の親製にして真珠を鏤め金繡の絹蓋を備へ象牙の題標を付し金糸の裝飾を施したるものなりとぞ。

○仏骨遷座〔明治34年1月20日 第七十号〕

大菩提会にては、明年四月八日より五月十五日まで大仏妙法院供奉安殿に於て仏骨拝瞻会を執行するに付き、東京の仏教徒は右拝瞻会に先だち明年三月東京に於て奉迎会を行ひたしとて、大菩提会東京本部より京都本部へ照会し来りたるに付協議会を開き之れを是認したる由。

○仏骨拝瞻会〔明治34年2月25日 第七十一号〕

大菩提会にては拝瞻会施行方法に關し、協議の結果左記の如く決定し、且つ經費は壹万四千円の予算とし、各委員は各宗派より撰出することとし、又拝瞻会の期日は四月八日より五月十五日迄の予定なりしを四月八日より同廿八日までとし、東京出開帳の日限は三月二十日より四月四日とし、其途中名古屋に於て一日間拝瞻会を行ふことに決したり。尚ほ東京に於ける出開帳の場所は未定なれども、多分大谷派本願寺浅草別院を以て之れに充つるなら

んと云ふ。

拝瞻会施行法

- 一 拝瞻会は本年四月八日より廿八日まで執行する事
- 一 拝瞻会施行の爲め、左記の各部を置き各部に委員を置く事
 - 一 法要部 委員六名 二 供養部 全八名
 - 一 三庶務部 全七名 四 会計部 全七名
 - 一 五協讃部 全九名
- 一 法要部委員は左の事項を主る
 - 一 法要執行に関する諸般の事項
 - 一 式場に関する事項
 - 一 参拝者に関する諸般の事項
- 一 供養部委員は左の事項を主る
 - 一 典供に関する事項
 - 一 法要の出勤者集会所並に饗膳に関する事項
 - 一 参拝者待遇に関する事項
 - 一 諸係員の賄に関する事項
- 一 庶務部委員は左の事項を主る
 - 一 文書の往復拝瞻会記録編纂に関する事項
 - 一 菩提会発会式及起工式に関する事項
 - 一 各部に属せざる都ての事項
- 一 会計部委員は左の事項を主る
 - 一 金穀物品の出納に関する事項
 - 一 拝瞻会に要する金穀収納に関する事項

一式場其他に要する諸般の器具調製及保存に関する事項

一 雇入人に関する事項

一 協讃部委員は左の事項を主る

一 寺院信徒其他団体の協讃に関する事項

一 各本山什宝品展覧に関する事項

一 参拝者に交通便利を与ふる事項

一 各地建札に関する事項

一 各部委員は各宗派委員（現任理事共）抽籤を以て各部属を定むる事

一 各部委員は互選を以て其部の委員長一人を置く事

一 各部委員は各主務の事項に就き調査設計の上更に関係ある各部に合議する事

一 各事項の決定は委員会を経て之を決する事

一 委員会は奉安事務総理及委員長を以て組織する事

一 拝瞻会に関する総ての事項は奉安事務総理の監督に属する事

一 各部の必要に依り成る事項を他人に囑托し、又は書記其他の雇人を置くことを得る事

一 各部委員は別に衣資を給せず、尤も実費を支給するものとす。又は報謝を贈与する事

○大菩提会と稲垣公使

在暹稲垣公使は大菩提会総理村田寂順師に書を寄せ、暹羅国皇帝陛下の意思を洩したるが、同公使が去年九月廿一日陛下御誕辰祝賀の爲め参内謁見の際、陛下は日本に於て盛大なる御遺形奉迎式

を挙行したる状況に付き日本駐劄公使より写真を添へたる報告に接し、日本仏教徒が御遺形を歓迎するの状恰も兒子が慈母を慕ふに等しけれとて非常に満足に見受けられたりと。尚ほ同陛下は仏教に關する図書館を當地に建設せらるべき御計画にて、已に外務、内務、文部等の諸大臣を挙げて其委員とし、印度、緬甸等に於ける古今の仏書并に欧州に於ける仏書に關する著書等を蒐集せられば、日本仏教徒は積尊御遺形分与に對する御札として、日本各宗派の仏書を蒐集して同陛下へ奉呈致されなば、陛下の御満足に止まらず。蓋し仏教の爲め一大慶事ならんと勸告せり。同公使は今後微力の及ぶ限り當方面に尽力致すべき筈なりと云ふ。

覺王殿の建築に就て〔明治34年3月15日 第七十二号〕

松井可樂

記者曰く、本篇所説の適否は読者の判断に一任し、たゞ仏舍利奉安地に關する一説としてこゝに之を紹介するのみ。

客年七月仏舍利奉迎使を暹国に差遣し、暹国皇帝陛下の好意によりて分与せられたる仏舍利を拝受し、奉迎使帰東の日より早く既に半年を経過しぬ。而して仏舍利奉迎の準備とゞもに興りたる日本大菩提会は、夙夜に覺王殿建築のことに焦慮すと聞けり。日本大菩提会の覺王殿建築に焦慮するは當然のことにして、奉迎使の今だ東帰せざる日にありて早く覺王殿を新築し、奉迎使の仏舍利を守護して東帰するや、直ちに覺王殿に安置し奉り、暹国皇帝陛下の聖旨に副ふべかりしを、奉迎使帰東の日より半年を経過する

今日猶ほ覺王殿を造營すること能はざるは、実に千歳の恨事なり。されど余は強ちに之を以て大菩提会を非難するものにあらず。日本現時の形勢として其信仰上より巨万の金額を得んこと甚だ難く、爲めに大菩提会画策は実に容易ならざるに由るものならん。覺王殿新築に要する費用は少くとも五拾万円内外なるべし、五拾万円内外の資金を不生産的なる信仰上の新築に投ずること現時の形勢に於ては蓋し不可能のことなり。斯る形勢の時に當り、敢て此の巨額の資金を集め覺王殿の新築を經營せんとするは、即ち覺王殿新築を夢想に帰すると異ならず。何となれば日本現時の經濟界は恐慌に恐慌を重ね、生産的事業の經營も猶之を爲すを許さざるの今日にして、不生産的信仰上の事業に此巨額の資金を投ずるを許さざればなり。現時の形勢は斯の如く遂に大菩提会をして其抱負を實現せしめず、遺憾ながら荏苒歲月を送り窃かに社会現時の形勢を挽回するを祈り、徐々に其初志を行ふの策を取るより外なき窮境に迫らしめ、其最初に絶叫せし覺王殿起工の聲は轉た大菩提会の悲運と共に銷沈するの止を得ざるに至りしなり。大菩提会が既に斯る境遇に逢著せしと、同時に覺王殿起工の聲の銷沈は勿論建築地の撰択も亦未だ確定するに至らず。遂に社会をして大菩提会の内容に幾多の疑念を起さしめ、時に或は大菩提会の措置を非難し、或は同会の役員諸氏を攻撃するものを生じ、甚しきは大菩提会を目して投機者流と同一視する者さへ生ずるに及べり。是れ実は大菩提会の爲めに悲しむべき現象にして、日本仏教徒の不面目なり。然れども大菩提会の今の境遇は自ら好で作り

たるものにあらず。社会の形勢に駆られて今日の境遇に逢著せしものなれば、余は敢て大菩提会を非難せざるのみならず、大菩提会のために策を献せんと欲するものなり。

日本現時の形勢は覚王殿の新築を歓迎すべきの形勢にあらずと雖も、既に奉迎し来りたる仏舍利をば現状の俛に妙法院に安置し無責任に覚王殿経営のことを放棄すべきにあらず。是非とも覚王殿を新築し仏舍利を奉納し以て日本仏教徒の面目を全ふせざるべからず。仮令現時の形勢日に非なるにもせよ、其俛に為し置くこと能はざるは勿論如何に苦辛惨憺の境遇に接するも、覚王殿は経営せざる可らざる急務の事業なり。是に於て余は大菩提会の諸氏に一策を献するの必要を認めたり。余の献策は大菩提会をして輕易に此の事業を遂げしめ、不生産的消極のものをして生産的積極の方面に向はしめ、永遠に仏舍利の洪徳を実現するにあり。余は決して大菩提会諸氏の画策を非とするものにあらざるも、諸氏の画策は其費す所甚だ多くして其得る所は寧ろ微少に、其目的の達し易からずして而も其所期に反する結果に了らんことを惜む。請ふ且らく余をして献策の概要を言はしめよ。

仏舍利奉安地即ち覚王殿建築地に就ては、未だ確定せし所なきが如しと雖も、西京説、東京説、乃至大阪説の三あるが如し。而して西京説は大菩提会に優勢を占むるの説にして、既に其候補地としては、宇治清閑寺山付近、嵯峨清涼寺付近、又は妙法院境内等ありて、稍や此説に傾きたるもの、如く、而して東京説は蓋し遷都の紀念として大建築をなし、千年の後に其偉業を伝へんと欲す

るにあり。大阪説に至りては余未だ之を詳かにせず。故に其得失を論ずること能はざるも、蓋し其説は強固なる主張の存するにもあらざるべく、随て得失の研究も亦十分ならざるべければ、余は単に東西兩京に就て其得失を講究し、余の所見と比較せん。

覚王殿を西京に建築すること必ずしも不可ならずと雖も、明治昭代の仏教徒が、友邦の暹国皇帝陛下より分与せられたる仏舍利を奉安する覚王殿は、如何なる構造に依て明治昭代の仏教徒が精神を後世に伝へんとするか。西京は現に仏閣の淵藪として天下に誇るに足る其建築の堅、其構造の美、優に全国に冠たり。斯る金碧燦爛たる仏閣の間に介して覚王殿を建築し、是等従来の美觀と拮抗するには、少くとも貳百万円以上の資財を投ぜざる可らず。貳百万円以上の資財を投じて建築するも猶ほ或は従来の建物に比して遜色なきを保せず。而して其資財は何の処に求むるか、貳百万円の資財は一朝にして作るべきにあらず、種々の方便、様々の勧誘、漸くにして貳百万円以上の資財を纏集し得ると仮定するも、其年月は十年若くは二十年の長期ならざるべからず。此長期の歲月を経る間には必ずや種々の情弊を生じ、成功を見る能はずして中途に其事業を廢するの不幸に陥らん。仮令貳百万円の巨額を費さざるも現に大菩提会が設計する所に由るも、猶ほ四拾万円を費すと云ふ。四拾万円の巨額は之を信徒の淨財に求めんとするか、日本仏教徒の頭数より打算したらんには、席上の算勘に於ては儘かに之を募集し得べきも、實際に之を纏集して現金と為すことは甚だ難し。よし四拾万円の巨額は之を纏集し得て現金を備へ得る

と仮定するも、現時の形勢、及び大菩提会の現況に視て、之を熟考する時は三年乃至五年にして之を実現し得ることは優曇華を望むが如し。然れば則ち、五年乃至七年の後を期して覚王殿の起工を為すべきか。如何に大器は晩成なればとて、日本仏教徒の面目を以てして覚王殿の建築を五年乃至七年の後に期待するは、頗る不面目の甚しきものなり。又或は五年乃至七年にして四拾万円を纏集し得るものと定めて、覚王殿の新築に着手し信徒淨財の寄付を担保として、一時他より之を借り入るゝとするも、借り入るゝ者には敢て差支なし。併しながら斯る危険の担保によりて四拾万は儲置き、五万乃至七万の金額も貸し出すものなきを如何せん。斯の如く西京説は一見可なるが如しと雖も、其実に於て不可なるもの三あり。一に曰く明治昭代の仏教徒の事業として、千歳の後に伝ふる覚王殿の建築が、若し従来の仏閣に比して遜色あり、否、粗造不堅固のものなりせば、明治昭代の仏教徒の恥を千歳の後に遺す。二に曰く従来西京に櫛比する仏閣に比して遜色なきものを建築するには、少くも百万以上式百万円以下の資財を要す、而して其資財を得るの道なし。三に曰く其規模を少にして四五拾万円を投じて覚王殿を建築せんとするも、西京にては此資財を得るの道なく、特に大菩提会の現状に視て、式拾万円の資財を得ること難し。要するに西京説は消極にして一も得る所なく、而も失ふ所多々にして、唯だ明治以前の旧思想を繰り返し、平安城の名に眩したる一種の妄想に過ぎざるなり。

東京説に至りては、其主張の帰する所遷都紀念の一事にあり。遷

〔禪宗〕における仏骨奉迎の記事について（上）

都紀念として仏舍利を東京に奉安す、其趣向必しも不可ならずと雖も、東京に覚王殿を建築し、遷都の紀念となし之を千歳の後に遺さんは、西京に覚王殿を建築するよりも、寧ろ難事に属す。苟も遷都の紀念として、日本仏教徒の事業として、東京に覚王殿を建築する、其建築構造の規模は如何にすべきか。東京に於て一万乃至二万坪の敷地を求むるは容易のことにあらず。且つ其位置に於ても之を撰択すること甚だ難し。東京付近即ち東京横浜の間に於て適當の位置を撰むとするも、猶ほ数万金を要す。況や東京市中に之を求めんとするの難きをや。仮令日比谷公園に建築することを得るものとするも、起工までに費すべき費用は莫大にして、起工の設計並びに之に伴ふ一切の費用、其他建築以外の費用のみにして、猶ほ数万金を費ざる可らず。よし此費用を投ずるとするも、其建築の規模亦決して狭少になすべからず。其規模の大ニコライ氏の会堂に及ばざるも、其構造の美且堅なるを期するは勿論、芝上野の徳川氏の廟所に比して遜色なきを要す。芝上野の廟所は今日に於て之を築造せば、一字の堂塔猶ほ数拾万円を費さん、彼れ徳川氏の廟所に比して遜色あるものを築造し、而して遷都紀念を云々するも、亦是れ恥を千歳に伝ふるものなり。遷都紀念として東京に建築するには、少くも参百万円内外の資財を要すべし。参百万円内外の資財を、此の不生産の事業に費し、幾百万の信徒を煩はし、遷都紀念として東京に覚王殿を建築したりとせんに、何程の効能かある。加之遷都紀念と云ふこと甚だ當らざるなり。遷都紀念の称は何より起りたるか、奠都紀念祭さへ終りた

る今日にして、仏教徒が今更の如く遷都紀念を叫ぶは、何の論拠ありて然るか。余は以為らく遷都紀念云々は甚だ不祥なりと。何となれば埃及文明の紀念として存するものは何ぞ。始皇盛時の紀念として存するものは何ぞ、奈翁全盛の紀念として存するものは何ぞ。遷都の當年にありて紀念を云々するは即ち可なり。遷都後三十余年を去りたる今日に於て遷都紀年を主張するは、果して不祥なることなきか。余は断じて之を不祥と謂ふ。遷都紀念の祥不祥は別問題として、東京説を主張する者の理想せるが如き覚王殿を建築することを得べきか。是れ則ち疑問なり。余は東京説を以て単に西京説に拮抗する一種の競争と信ずれば、實際に於ては東京説は寧ろ薄弱なりと思ふ。故に之を細評するの必要を認めず。余を以て之を見るときは、西京説の得なく失多きと同じく、是亦不可行の事に属す。

斯の如く東西兩京の説は共に不可なり。大阪説亦之と伯仲して不可なる者ならん。然れば則ち東西兩京并に大阪を除き、實際に於て何れの地が最も適當なりやと云ふに、余は思ふ、静岡県遠江国浜名郡三方ヶ原こそ仏舍利奉安の最好適地なりと。(未完)

○大菩提会の役員及会則〔明治34年3月15日 第七十二号〕

大菩提会にては副総裁に大谷派本願寺法主、副会長に石川舜台師を推薦したれども、謝絶せられたるを以て正副総裁は追て定むることとし、会長に村田寂順師、副会長に前田誠節、理事長に小栗憲一の諸師就任せり。

又過日の各宗派会に於て決定したる改正会則は左の如し。

大日本菩提会々則

第一章 位置

第一条 本会は日本大菩提会と称し、本部を京都に、出張所を東京に、支部を各府県便宜の地方に置く。

出張所及支部に関する規則は、評議員会の議を経て之を定む。

第二章 目的

第二条 本会は釈尊の遺形を奉安護持し、其聖徳を顕揚し国民の道義を涵養するを以て目的とす。

第三章 事業

第三条 本会の目的を達せんが為め、左に列記する事項を遂行するものとする。

一 覚王殿を建築する事

一 教育及び慈善事業を起す事

第四条 前条に列記せる各種の事項中覚王殿の建築を第一着手とし、其他は費金の増加に随ひ、順次に施設するものとする。

施設に関する方法は、評議員会の議を経て之を定む。

第四章 会員

第五条 会員を以て左の六種とす。

一名 譽会員 名譽会員は評議員の推薦に依る者、又は金百円以上を醸出したる者

一 准名譽会員 准名譽会員は評議員の推薦に依る者、又は五十円以上を醸出したる者

一 特別会員 特別会員は評議員の推薦に依る者、又は十円以上を醸出したる者

一 准特別会員 准特別会員は評議員の推薦に依る者、又は五円以上を醸出したる者

一 正会員 正会員は金一円以上を醸出したる者

一 随喜会員 随喜会員は若干の金品を醸出したる者

一 会員待遇規程は別に之を定む。

第六条 会員には其の名称の区別に随ひ徽章及証票を交付す。

第七条 正会員以上の会員は本会事業の施設に関し、意見あるときは会長に提出することを得。

第五章 総裁副総裁及会監

第八条 本会には総裁副総裁及会監を置く。

一 総裁 皇族を推戴す

一 副総裁 会監の中に就き之を推戴す

一 会監 同盟各宗派管長

第六章 職制

第九条 本会に左之職員を置く。

一 会長 一人

一 副会長 一人

一 理事長 一人

一 理事 一人

一 会長を補佐し会長事故あるときは、会長の事務を行ふ。
一 理事長は会長の旨を享け各部の事務を総括し之を整理す。

一 理事 三人

一 理事は会長又は理事長の指揮に依り、各部の事務を分掌す。

一 会計監査役三人

一 会計監査役は本会収入支出の決算を監査し会長に報告す。

第十条 職員は左の例に依る。

一 会長は各宗派管長又は門跡及本山住職中に就き、会監之を推薦す

一 副会長は各宗派等住職中に就き、会に於て之を定む

一 理事長及理事は評議員会に於て選定し、名誉会監の同意を経て会長之を任免す

一 一書記は理事長之を任免す

一 一書記は理事長之を任免す

一 一會計監査役は各宗派会に於て選定し、会長之れを囑托す

一 一書記は理事長之を任免す

第十一条 職員は任期は三ケ年とす。

一 但し再選を妨げず

第十二条 本会の事務を分て左の三部とす。

一 一勸奨部 一 一司計部 一 一庶務部

第七章 会議

第十三条 本会々議を分て左の三種とす。

一 一各宗派会 一 一評議員会 一 一會監會

一 會議に関する細則は会長之れを定む。

第十四条 會監會は本会々監を以て組織す。

第十五条 會監會は本会事業に関し、重要問題あるときは之を開會す。

第十六条 各宗派会は各宗派選出の委員を以て之れを組織す。

第十七条 各宗派会に付す可き事項左の如し。

一 本会則を改正する事

一 本会評議員を選挙する事

一 本会経費予算を議定し又は其の決算を承認する事

一 本会財産の処分に関する事

一 本会の会計法出納規程に関する事

一 前五項の外会長に於て必要と認むる事

第十八条 各宗派会々員の任期は所属宗派の定むる所による。

第十九条 各宗派会は定期臨時の二種として、定期会は毎年一

回之を開き、臨時会は臨時必要の場合に之を開く。

第廿条 本会に評議員十五名を置く。

第廿一条 評議員は各宗派会に於て選定し会長之を囑托す。

第廿二条 評議員会に付すべき事項左の如し。

一 本会の財産管理に関する事

一 各宗派会より委任を受けたる事

一 前二項の外会長に於て必要と認むる事

○仏舎利拝瞻会事務開始

大菩提会の拝瞻会は、法要、供養、庶務、会計、協賛の五部を置き、各部署を妙法院内に設立し、事務を開始す、委員左の如し。

法要部、名和良精（天台）、宮崎梅芳（相国寺）、林泰嶺（東福寺）、小栗憲一（大谷派）、今井朗明（日蓮宗）◎供養部、岩瀬

靈雲（西山派）、小泉妙徳（真盛派）、田代宗道（大徳寺派）、

森善応（法相宗）、小川真光（真言律派）◎庶務部、大西靈純

（高田派）、井上義洲（南禅寺派）◎会計部、小栗憲一（大谷

派）、河野良心（時宗）、黒田覚妙（融通念仏宗派）、後藤禅提

（妙心寺派）、布施興勝（興正派）、北條周篤（天龍寺派）、有沢

香庵（曹洞宗）◎協賛部、真能義淵（木辺派）、物部長寛（仏

光寺派）、筒井寛聖（華嚴宗）、林梅雪（黄檗宗）、武村誠誓

（日蓮宗）、菅居元賢（天台宗）

尚ほ供養部委員二名、庶務部三名、協賛部三名は未定なるが、会計委員小栗憲一、北條周篤両師の提議に依り、妙法院内に委員の職を執るものは、来賓に対すると雖も一切酒を同院内に入れざることに申合せたる由。

覚王殿の建築に就て（承前）〔明治34年4月15日 第七十三号〕

松井可楽

仏舎利を奉安すべき覚王殿を、東西両京に建築するの不得策なることは既に論じたるが如し。然れども頃日に至り更に南都の大仏に併祀せんとの議あるを聞く。目下経済界の恐慌を来せる時の姑息手段としては、蓋し一応の理なきにあらざるも、余を以て之を見れば、余りに窮策の甚しきに驚くの外なし。成程南都の大仏を修理するには五拾万乃至百万の巨資を要すべく、随て大仏の「ハラゴモリ」として仏舎利を安置したらば、別に覚王殿建築の必要もなく、之に費すべき資金は省かるべきも、折角友邦なる暹国皇

帝の好意によりて贈与せられたる仏舍利を、南都大仏の厄介とすること如何にも腐甲斐なきことにあらずや。如何に今日の仏教徒が資金に乏しければとて、七拾万や百万の資金の爲めに其初志を挫折して、仏舍利を大仏の腹内に奉祀すること、無乃る明治昭代の仏教徒の事業として後世にまで嗤笑を遺すことなきか。余は断じて是の如き弥縫的姑息手段に賛成すること能はざる也。尤も余一人が賛成せざればとて南都説に幾許の影響をも与ふべからざれども、天下の識者は南都説を以て窮策中の窮策となせり。

余は東西兩京并に南都説を、日本大菩提会の爲めに之を排せんとする也。余の謂ゆる遠州説なるものを採用せば、其勞甚だ少にして其効は永遠に伝ふるを得ん。請ふ余をして遠州説を主張する理由の一斑を説かしめよ。

遠州は東海道の中央に位し、而も東西兩京の中央に當り、之を西にして九州に至るも、之を東北にして北海道に至るも、謂ゆる中央の地にして、東西兩京の如きは僅かに七八時間を費せば遠州に達するを得べし。而して東北の北海道、又は西南の九州よりするも、別に高山大沢の道路を障害するものなく、東海道の国道に沿ふて平坦の地なれば、幼童婦女猶ほ詣するを得べし。加之ならず三保ヶ原は其広袤四五里に亘り、西は浜名の湖水を控へ、東は遠州隨一の中郡に臨み、南は曳馬の古城趾を境として浜松に至るは僅かに数百歩のみ。北は奥山半僧坊を三里の内に望み、風光甚だ佳にして往來の便頗る多し。且つや三保ヶ原は天正年間の古戦場なれば、是等陣没の精霊を吊慰する上に於ても、覺王殿を此地に

建築するの寧ろ仏者として適當なる所作なるべきを信す。

其地形風土のことは第二として、覺王殿建築に要する資金の上に於て、遠州説は最も其道を得易きなり。余の調査せし所によれば、遠江一國に於て參拾万円を得るは易々たるのみ。而して東三河に於て優に拾五万を得べく、駿州一円に於て拾万円を得るは、蓋し半年ならずして之を得るなり。若し強て淨財を募集せば、百五拾万円を得ること三年を出でずして期すべきなり。遠州人士が何故に覺王殿新築の爲めに三拾万乃至五拾万の資金を投ずることを惜まざるかと云ふに、広袤五六里の畷原を開拓して繁昌の地とならしむるにあり。広袤五六里の三保ヶ原は頓に變じて一大市街を爲すべければなり。之を彼の信州長野市に視るに、善光寺に依りて開拓せられたる長野市の現況は如何。之を彼の三州豊川に視るに、吒枳尼天により開拓せられたる現況は如何。之を彼の下総成田に視るに、不動尊によりて開拓せられたる現況は如何。讃岐の金刀比羅に於ける、紀州の高野に於ける、甲州の身延に於ける、乃至大和の天理教本部に於ける、みな其奉祭する神仏に開拓せられ優に繁花の地をなせり。仏舍利を奉祀する素より現世利益のことにのみならずと雖も、暹国皇帝の聖旨を稽ふるに巡礼者の礼拝に便せられしこと明かなり。然れば則ち仏舍利奉安地に巡礼者の蝟集するは論なき也。若し余の觀察の如く仏舍利奉安地に巡拓することは、則ち世界悉檀の随一つなるものなるべし。其西京説を主張し、東京乃至南都説を主張するもの、底意は利にあらず

して何ぞや。余は敢て利を言ふを不可とせず、唯だ其利を国家的に社会的に永遠に期せんことを欲するなり。開けたる西京を利し、東京を利し、乃至南朝の遺跡多き南都を利するも、利と云ふに於て敢て差異なきが如くなれども、不毛の曠野を開拓して国家の利を進め、至便の地に市街を作ること社会の経済より打算して、東西両京及南部を利するよりも遙かに効果の多きを見る。而して覚王殿の爲めに曠野の原野を開きたりとせんか。明治時代の仏教徒の事業として後世に伝ふるに足るのみならず、遺身舍利の功德は其市街の開くと共に其光明を放ち、長野市民の夙夜如来の洪恩を礼謝するが如く、千百年を経て愈々其功德の光明をして灼奕たらしむるに足らん。

抑も仏舍利を分与せられたる暹国皇帝の聖旨と、仏舍利を奉迎したる日本仏教徒の意思は那邊に存するか。言ふまでもなく報恩謝徳の信念を以て供養礼拝し、世尊廣大慈悲の功德に浴せんとするにあり。報恩謝徳の信念を以て供養礼拝するは単に瞻仰恭敬のみに止まるか、廣大慈悲の功德に浴せしむるは一に誦経礼懺の方に頼るべきか。瞻仰恭敬は必しも報恩謝徳なるべきも、如来の法身常住より見ば遺法の我等展転して如来の檀度を行じ、以て衆生を利益するこそ真実の報恩謝徳なるべし。誦経礼懺は廣大慈悲の功德に相違なきも、一代応化の聖蹟に見ば、治生産業も亦た布施の檀度なること明かなり。故に余は敢て仏舍利を遠州三保ヶ原に奉安し、曠野の原野を開き永遠に世尊を光被せしめんと欲す。頃日余の耳にする所によれば、遠州の人士は日本大菩提会并に仏舎

利奉迎に与りたる各宗派の管長に交渉し、一は日本大菩提会の事業を助けて覚王殿の建築を遠州人士の一手に引請け、他は則ち仏光に浴して土地を開き、猶ほ進で仏教伝道事業にまで従事せんと尽力しつゝありと。

蓋し遠州人士の仏舍利を歓迎する所以、覚王殿を建築せんと欲する所以の底意は、専ら永遠の利潤にありと雖も、其利潤を方便として直接に遠州人士の仏性を開發せしめ、間接に東海全道の人民をして仏徳を渴仰せしむ。よし遠州人士が利潤の一方にのみ傾くとするも、直接に日本大菩提会の事業を分担せしめ、間接に国家を利するの勝算あり。或は東西両京の如きも斯る形態なきにあらざるも、迺も遠州人士の熱衷するが如き高度の熱を以て仏舍利を歓迎することなきなり。殊に東京の如きに至りては拾万金を得る甚だ難し。西京は或は此の場合に於て東京よりは有力なるべけれども、是亦た不可能の事を敢て遂げんとするものなり。若し夫れ南都に至りては大仏の修繕費を流用し、又は其名を仮りて二三十万金を募集し得るとせんも、其体面の甚だ分明ならざると。事の予想外に出で、内訂を生ずるとの恐あり。而して遠州に至りては此等の憂あることなし。其資金募集の如き一に、遠州人士に依頼せば日本大菩提会は拱手して之を成すを得ん。且つ日本大菩提会の事業は覚王殿建築の一事に止らずして、第二の事業即ち布教伝道の社会的活動として慈善事業のあるあり。慈善事業の如き生命ある事業は京都なり東京なり、都会の地に於て始めて之を成すを得べし。覚王殿建築の如き之を京都若くは東京奈良に於てせん

か。死せる事業のみ、不生産的の事業のみ、余の考案にては此の死せる不生産的の事業を転じて遠州に移さば、則ち其事業は生命ある事業として永遠に仏徳を輝かし衆生を利濟する唯一の方便とならん。要するに、日本大菩提会の雅量は此の一挙兩得の方策を容るゝの余地は綽々として存するならん。希くは野人猷芹の微誠を察し、上来の所論に聴くことあらんことを。余不敏未だ天下の大勢を知らずと雖も此猷策にして容れられなば、敢て犬馬の勞を執るべし。而して此猷策の容否は、独り余の意見の行はるゝと否とにあらずして天下輿衆の幸と不幸とに關し、明治昭代に於ける仏教徒の歴史に美醜の關係を生じ、仏徳の光被に大小広狭の差を生ずるに及ばん。伏て願くは日本大菩提会の諸高德之を再思せよ。

彙報〔明治34年4月15日 第七十三号〕

○大菩提会拝瞻会

本月八日より三週間、大仏妙法院に於て執行する積尊遺形拝瞻会の順序は左の如くなり。

- 一、各宗派法要出仕の僧侶は、日々三十名以上五十名以下にして正午より開始す。
- 一、各宗派大導師及び僧侶の休憩所は大仏妙法院とし、午前九時までに到着すべきこと。
- 一、参拝者は名誉会員、準名誉会員、特別会員、準特別会員、正会員、随喜会員、一般参拝人の七種に分ち、各席にて焼香

〔禪宗〕における仏骨奉迎の記事について（上）

拝礼せしむ。

- 一、僧侶は其宗派の規定正服用の事。
- 一、会員たらんと欲するものは、院内の会員申込所に通告する事。

一、暹羅国王陛下より黄金佛像同王后陛下の貝多羅葉經并に覆絹及同国文部大臣多羅葉經の各寄贈品は、遙拝所の東側普賢堂にて一般参詣人に拝礼せしむ。

一、拝瞻会中は東山に大文字を点火し十夜念仏、六齋念仏、空也堂踊念仏、明暗教会尺八吹奏の仏事法楽を営む。

- 一、拝瞻会各宗派法要日割順は▲八日天台宗及び真盛派▲九日本願寺派木辺派▲十日南禅寺派（東福寺派建仁寺派）▲十一日相国寺大徳寺▲十二日真宗高田派▲十三日天龍寺永源寺派▲十四日黄檗宗及び円覚寺派建長寺派▲十五日妙心寺派▲十六日曹洞宗▲十七日未定▲十八日融通念仏宗及び日本大菩提会発会式▲十九日真宗興正寺派▲二十日真宗仏光寺派▲二十一日未定▲二十二日日蓮宗▲二十三日時宗▲二十四日未定▲二十五日真言律宗▲二十六日華嚴宗法相宗▲二十七日浄土宗
- 西山派▲二十八日真宗大谷派

尚法要中は、毎日午前及び午後の両度に仏教演説会を開き、又十六日妙法院において各宗派の管長同盟懇話会を開く筈なり。尤も西本願寺知恩院は列席せざる趣きなりと。

○金像經卷覆絹の由来

別項記載拝瞻会中、妙法院普賢堂に安置する金像並に貝多羅經同

覆絹は美術上貴重の参考品たる趣にて、其由来は、金像は昨年六月暹羅国王陛下より仏舍利と共に御寄贈あらせられたる者にて、其詔に今を距る凡一千年前我邦の旧都ウイエンチエンサン府に於て鑄造し恭敬供養し奉ること久しかりき、今御遺形に付し大日本帝国仏教各宗派へ譲与す。冀くは永遠に護持瞻礼あるべし云々とありしものにて、尊像の左羽を仰ぎ右掌を覆ひ玉ふは釈迦如来降魔の相にして、其鑄造は暹羅特有の古式に由て鑄製せしものなり。又御経は鈔略三藏經七篇にして、暹羅国王皇后両陛下より御遺形に付し御寄贈あらんとの思召にて、同国ジラスリンドル大僧正に命じ「パーリ」語を以て書写せしめ玉ひたるものなり。其貫綴の糸并覆糸并覆絹（紅錦を地質とし、草花の模様金玉真珠を刺繍す）は皇后陛下の御親製なりと。

○暹国公使の参拝

東京駐劄暹羅国特命全権公使ヒヤ、ロナチエツト、リチロング氏は、积尊拝瞻会執行に付、勅使として同国王皇后両陛下の御備物を奉じ、来る十六日頃東京出發来京する由。

○菩提会（明治35年2月22日 第八十三号）

去月十九日より、洛西妙心寺内龍泉庵に於て大日本菩提会の同盟各宗会を開き、二條秀源師以下管長及委員二十九名出席、本部よりは村田会長以下理事出席し、村田師より昨年来の経過を報告し、第一号議案を配布せしに、夫の覚王殿建設地に就き異論起りしが、遂に七名の交渉委員を設けて協和する事となり、左の諸項

を決議せり。

第一条 御遺形奉安地は京都に仮定す▲第二条 奉安地選定に關する諸般の事件は会長以下本部委員之と取扱ふべし▲第三条 奉安地は京都市及附近郡部の中に就きて第二条の手續に依て之を選定し宗派会を開き決定すべし▲第四条 奉安地は成べく信者の喜捨を受べし▲第五条 奉安地は境域一所にして凡十町方とす但選定の都合に依り本案の町歩を二箇所又は三箇所に分つも妨げなし

第一号議案は交渉委員の調査を否決し、左の如く修正可決したり。

御遺形奉安地選定は七名の委員を挙げて調査し、其結果を来る四月十三日まで聯合各宗派会監會議に報告し協賛を求むる事。

而して七名の委員を選挙するに際し、宗教法案交渉委員渥美契縁師外六名即ち七名の委員に尚二名を増加して九名の委員とし、京都、東京、三方原の三地方につき利害適否の調査を托することとなり。これにて第一号議案の一段落を告げ、夫より左の第二号議案を議せしに異議なく、原案に可決せり。

第二号議案

第一条 法要期日は例年四月十三日より十九日迄一七日間とす。

第二条 法要修行は期日中各別に各宗派管長方御親修あるべし。

第三条 法要修行出席の宗派順次は本部に於て之を定め、當該

宗派の承諾を請ふべし。

第四条 法要修行の経費は本部より之れを支出す。

夫より三、四、五、六、七、八の議案を付議したるが議了したるもの左の如し。

第五号議案 会計法

第六号議案 日本大菩提会本部決算報告

第七号議案 日本大菩提会本部会計歳入歳出予算

第八号議案

会 則

第四章第五條一項より四項迄の各項評議員会とあるを、「本部の推薦に依る」と改む。

同第六條 但隨喜會員には証票のみを交付すと追加。

同第九條 第四項の次へ

一 顧問 若干人

顧問は必要の場合に於て、各部の事務に協商せしむの一項を追加

同第六條第十條第三項の次へ

一 諮問は縉素を論ぜず本会外に就き、本会事業進行の爲め必要の場合之れを托する一項追加同第十一條但書再選を再任と改む。

議長指名の七名委員は左の如くなりし。

日蓮宗 津田日厚 大谷派 渥美契縁 建仁寺派 瑞岳惟陶
曹洞宗 弘津説三 天台宗 彦坂湛照 高田派 日野法雷

〔禪宗〕における仏骨奉迎の記事について（上）

妙心寺派 稲葉元厚

○大菩提会彙報（明治35年3月25日 第八十四号）

鴨東銀行に対する負債は去月廿五日を以て悉皆償却したれば、是れより会務拡張の爲め、各地に於て會員募集に着手する筈なり。

▲同盟各宗派より経文を暹羅国王に贈呈すること、なり。天台宗外二三宗派は既に贈進せしが、其他各宗派は目下調製中にて、来る六月までに悉皆發送する筈なりと。▲覚王殿建設地は此程の名譽會監会に於て、京都、東京、三方原の三地を候補地と爲し、爾來調査委員に於て該候補地の實地を調査中なりしが、此程東京に於て委員總會を開き協議の結果、愈々京都に建設することに決したれば、今後は京都に於て適當の地を選定し名譽會監会に報告する筈なりと。

○覚王殿建設と名古屋市（明治35年4月15日 第八十五号）

今回名古屋市の有志者は、此際覚王殿の位置を東京、京都の中間なる名古屋に設置せんとて、既に徳川侯爵、沖男爵を始め有力者の賛成を得て、同市役所内に御遺形奉安地選定期成同盟会なるものを設け、同地の豪商小栗富次郎氏は目下東上して運動中なるが、近日京都に來り各宗管長に陳情の筈なりと。同会々則は左の如し。

御遺形奉安地選定期成同盟会々則

第一条 本会の目的は、日本仏教徒の円満を図り且つ県内の繁

栄を期する為め、御遺形奉安地を名古屋市付近に選定有らんことを運動するを以て目的とす。

第二条 本会々員たらんとするものは、其住所姓名を記載し本会に申込むべし。

第三条 本会の会員は、第一条の目的を以て賛助し目的以外の事を為すを得ず。

第四条 本会に左の役員を置き、総て事務を処理せしむるものとす。

一 会長一名 一 副会長二名 一 理事若干名

第五条 本会の経費は、総て寄付金を以て之に充つるものとす。

○覚王殿の図面〔明治35年5月15日 第八十六号〕

大菩提会に於ては、曩に覚王殿及び讚仏殿の設計図面調製を名古屋の伊藤満作氏に囑托し、同氏は各地方の寺院を巡視し、仏殿法堂の構造を参照して設計図面を調製し、今回同本部へ送致せしが、覚王殿は三重塔にして桁行梁間六間方、建坪三十六坪、讚仏殿は二十五間に二十間、建坪五百坪、何れも朱塗極彩色にて頗る壯麗なるが、該図面は明年の第五回勸業博覧会に出陳して広く識者の批評を乞ふ筈なりと云ふ。

○仏骨の奉安に就て

遠州浜松町にては夫の仏骨安置場に就き、予て運動する所あり。既に去一月、京都妙心寺の管長会に於て其場所を三箇所とし即京

都、東京及び遠州三方原を候補地とせるに、端なくも今回名古屋にて、既定三方原の分を同市に変更せんとする運動を始めたるに由り、浜松町は全町挙りて反抗の態度を執ること、せるよし。

これに就き名古屋市にては、青山市長は去月中旬より夫の覚王殿期成同盟会委員長の資格にて市内の各宗教取締を市役所へ招き、覚王殿設置並に菩提会員募集に関して懇談する所あり。其後ち市内各町総代を集め懇談し、近日より更に県下各郡に会務拡張に関する演説会をも催す予定なりと。尚大日本菩提会にては、覚王殿建築費として愛知、岐阜、三重、静岡の四県下にて参百万円を募集する筈にて、同会愛知支部にては同盟会と提携して、此際募集に着手する事に決定せり。

▲大菩提会彙報〔明治35年5月15日 第八十六号〕

覚王殿建築設計明細図は既に出来したるも、其建設位置は未だ決定せず。本殿建設位置を定むるは菩提会の死活問題とも云ふべき重要事件なれば、今尚何等の評議をもなさず。追て開くべき各宗管長会議に於て、東京、名古屋、京都の中何れに決定するやを協議する筈なるが、仮令其位置の決定するも、今後両三年を経ざれば工事に着手する運びには至るまじとの事なり。△理事長小栗憲一氏は本会旨趣演説の爲め、特派講師として各地方へ出張する都合なりしも、同師は過般来本山（大谷派）内局紛擾の爲め出発を見合せ居たるが、早や該紛紜も一段落を告げたるに依り、本月上旬岐阜地方へ向け出張したり。

○覺王殿と名古屋市（明治35年7月15日 第八十八号）

既記の如く、名古屋市の仏教徒は覺王殿を同市に建設せんことを希望し、曩に大菩提会本部へ照会し来りしが、同本部にては京都、東京、三方原の三地方の候補地として調査中にて、名古屋の如きは未だ同盟各宗派の会議に上らざることゆへ、何分の返答を為す能はずとて其俛に為り居りしが、名古屋に於ては非常に覺王殿の建設に熱心し、事務所を商業會議所内に設けて頻りに企画しつつあり青山同市長、横山同助役外一名総代として、去月来京し、直に大仏妙法院なる菩提会本部に到り、村田会長に面会して同地方仏教徒の希望を述べしに、同日は副会長を始め理事の内にも不在のものありしを以て、村田師は一個の意見を答へ置き、不日臨時管長會議を開き確答する筈なりと云ふ。又同県下にては愈よ覺王殿を名古屋付近に建設せらるゝに於ては、地所又は金円を寄付せんと申出るもの続々あり。既に本部へ報告ありたる寄付申出金額は三十七万五千円余に及び、総計百万円に上るべき見込なりと。尚ほ寄付申出の地所は左の如しと。

一 東愛知郡田代、広路、弥富の三村合同にて、敷地十万余坪、道路地五万坪、合計十五万余坪、此代金十八万円余、一 東春日井郡小幡村の地所十万余坪。
此寄付者丹羽郡多架村野村茂助

○愛知支部と稲垣公使（明治35年7月15日 第八十八号）

大菩提会本部にては本月下旬、各宗派管長會を開き覺王殿建立地

「禪宗」における仏骨奉迎の記事について（上）

調査委員より京都、東京、三方原の三地方に於ける調査の結果を報告し、且つ愛知県仏教徒より請願せる名古屋付近に建立の件等に付き協議する筈なるが、暹羅國駐劄稲垣公使は此程大菩提會愛知支部へ左の書面を送りたる由。

本年四月廿八日付責翰拜誦陳は、覺王殿建立地の撰提に付ては各宗各派意見を異にし、或は東西兩京の中、或は三方原等各自地方の便利を主眼として其地点を争ひ其弊の及ぶ処、堂々たる各宗管長會議の神聖尊嚴をすら毀傷するに立到り候事は、時々各新聞雜誌上にて承知仕浩歎大息罷在候次第に有之候、生等局外の眼を以て公平に之を觀察するに、斯の如きは和合忍辱を第一とすべき仏教徒不作応の行為なるのみならず、抑も又暹羅國王陛下が積尊の遺骸を日本全国各派仏教徒一統に對して平等に贈与あらせられたる歡慮に背反するものにして、之を一昨年奉迎使渡暹羅の當時、各宗派管長の連署を以て、前略尚又御遺骸奉迎後永遠護持可致旨儀に付ては、暹羅國王陛下の歡慮に背反し、或は閣下の御懇念を空しくするが如き儀は謹て致不申候。

云々と

誓言せられたる真意に照鑑するに、爾後本件に對する各宗各派仏教徒の言動徒らに自為排他を是れ事とし、為めに二星霜の久しきに亘りて土地の撰定すら未だ其目的を達する能はざるが如きは、前記誓言と相容れざるの形跡あるを免れず。是生等が深く以て遺憾としたる処に有之、殊に本年九、十月の交暹羅國皇

太子殿下御来朝の儀も確定し、両国政府にても夫々準備進行中なる時機に當り、翻りて我仏教徒の現情を見れば、実に前述の如き次第なるに付き、生等は窃に苦心焦慮に不堪罷在候折柄、愛知県に於ても有望なる覚王殿建立地選定期成同盟会の一大団体組織せられ、地を東西両京の中央仏教有縁の地なる名古屋市付近に相して釈尊の御遺骸を奉安し、以て内は仏教各宗の融和統合を謀り、外は暹羅国王陛下の歡慮に副はんとするの目的を以て、各位も熱心御尽力の趣にて右御企図の趣旨に賛成可致旨御懇情に預り候処、右は平素宿志と全く一致する御企図にして、此際一日も早く奉安地決定の上、堂塔建立の準備に着手方必要なる折柄、茲に満幅賛成の意を表し申候。又本件御運動の模様逐一陛下へ及奏聞候処、殊の外御満足に被思召候旨の論旨有之候に付き、此段御通知申上候、又陛下より御寄進御予約相成居候件に付、準備整頓次第御通知相成度并復。

○臨時管長會議〔明治35年9月15日 第九十号〕

御遺形奉安地問題につき、去月廿七日より大仏妙法院に開会せられたる管長會議は、京都、名古屋の両派に分れ紛々擾々謂ふに忍びざる醜態を演ぜしが、結局本月三日に至り、議事に先ち京都、名古屋両派の間に交渉協議を始め、午後四時頃漸く本會議に移り、興正寺派管長代理三原俊栄師は両派協議の結果として左の建議案を提出せり。

京都、名古屋両地に於ける候補地に就き、比較調査をなさん為

更に十名の選定委員を選挙する事、其選挙の方法は天台、真言、曹洞、日蓮、妙心寺の各宗派より各一名、臨済宗各派及黄檗より一名、真宗本派、同大谷派各一名、其他真宗各派にて一名、西山時宗奈良各派にて一名とし、本會議は四日より三週間休会し、右調査期限を来二十四日迄とし、二十五日更に各宗派管長會議を開く事。

右建議は読会省略満場一致を以て可決し、今回の管長會議は一段落を告げたり。而して右委員は其宗派に於て至急撰出し菩提会本部に届出ることとし、又調査の費途は前例に依り各宗派の実力(二ケ年間収入金)を標準とし徴収することとし、而して土地比較調査は二十四日を以て了り。翌廿五日を以て復び臨時管長會を開き、其報告を為すことに決し、之に引續きて大菩提會に加盟せざる真宗木辺派及び臨済宗円覚寺派の代表者二名を退場せしめて名譽會監會を開き、左の案を議したり。

覚王殿建設の地所に付ては、菩提會の關係を明かにする事

但し十名の委員中、菩提會同盟宗派より選出せられたる委員之れに當る。

右提出者日置黙仙(曹洞宗) 木村觀順(天台宗) 三原俊栄(興正寺派) 北條周篤(天龍寺派)
異議なく可決し散会せり。

○覚王殿と暹羅國

目下宗教界の一問題となり居る仏骨安置覚王殿建設地の未定は、我国と暹羅との交誼上にまで影響を及ぼすべしとは妙法院に於け

る各宗派管長会に於て曹洞宗の日置、日蓮宗の津田、真言宗の土宜、曹洞宗の弘津等の諸師の口を極めて論弁せし所にして其要を記さんに、先年暹羅国王陛下が稲垣公使を介して仏骨を分与せられし以来既に三年を経るに、未だ覚王殿の建設を見ず。加ふるに菩提会は醜態を出して新聞紙上にも現はれ、稲垣駐暹公使の如きは時々国王陛下より仏骨及び覚王殿建設に就ての御下問に接し復奏の辞に窮したる事あり。殊に陛下は近年我邦へ国交を温めんとて漫遊の思召あり。先づ皇太子をして本年十二月我国に向ひ出発せしめらるゝやの噂もあり。左れば此御来遊に際し、仏骨は矢張り仮殿に奉安し覚王殿の敷地も定らず凶案設計さへなきに於ては自然御不快の感を生ぜしめ、彼我の交誼上にも影響すべし、現に外務當局も本年三月頃弘津説三師を招きて、暹羅と我国とは將來兄弟の交誼を結ぶべき関係あれば、覚王殿の建設に就ても速かに其実行を挙げて彼国王及び国民の感情を融和すべしと説示せられし事もあり。小村外相も大に仏骨安置に対し配慮し居れりとの説もあり。去れば管長会に於ても宜しく此点に意を用ひざる可からず。幸ひ名古屋は市民挙て茲に注意し、覚王殿を同地に建設したしとの事は、既に稲垣公使にも通じ、公使より国王陛下へ奏上に及び建設用材は何時にも送り來らるゝ位の運びとなりあり。然るに今日に至り、尚ほ彼是紛争に時を移すが如き、単り我々宗教家の不面目のみならず公使の信用にも関し、延いて外交上にも影響を起すなきを得ず云々と云ふにありと。

○土地比較調査

「禪宗」における仏骨奉迎の記事について(上)

京都名古屋両候補地に対しては、去る八日調査委員八名の初対面に引続き第一回委員会を開き、調査の次第を協議せしよし。右は何れも三ヶ所にて即ち左の如し。

(京都) 上京区吉田町字神楽岡、畑地山林合計六町五反四畝歩
○宇治郡山科村字蹴上ゲ、十町余歩○愛宕郡修覚院村字松ヶ崎六町余歩

(名古屋) 愛知郡広路村十四万四千六百坪○同郡田代村十万坪

御遺形奉安地に就て〔明治35年10月15日 第九十一号〕

明治卅三年の交、暹羅国皇帝陛下より我国の仏教徒に恩頒を仰ぎたる、大覚世尊の御遺形は奉迎以来、既に三周の星霜を経過するにも拘らず、其奉安の殿堂は勿論、其位置さへも確定せぬと云ふ事は、実に奉迎の當初、各宗各派が非常の熱誠を集注したるより見る時は、今日の状態は実に別人の如き感がある、殊に昨年以來僅少の負債の為に、一事暹羅王室よりの御贈品に対し、法律上の制裁を受けんとしたるが如きは、実に言語道断の失体と云はねばならん、加ふるに本年夏以来、名古屋の有志者は格段なる熱誠を以て同地に奉安せんと盛に運動しつゝありし事は、新聞上に散見したるが、遂に事実となりて、先月來此れが為に管長会議を開会し、為に一時忘れたるが如き京都の有志僧俗も、其反対運動に余念なく、其結果として去月の管長会議には京都、名古屋の両派に分れ、甲論乙駁、同一仏教徒にして而も御遺形の奉安せる妙法院内に於て、互に口角沫を飛ばして忿争したるの状は、恰も往古印

度に於て婆羅門教徒と仏教徒とが宗義上に於て相確執したるの状と同一轍で、誠に御遺形に対して恐惶至極の次第である。

明日より開かる、管長会議には、如何なる土地に確定するか不分明であるが、要するに京都又は名古屋に奉安するのは、一見すれば別に是非する処はない様であるが、之を永遠の上から打算すれば、両地共に不適當であらふと思ふ。

云ふ迄なく京都は千有余年の旧帝城で、桓武天皇の奠都以来、仏教には非常に有縁の土地で、殊に各宗各派の本山は京都に集注し、加ふるに山水は明媚なり、土地は清潔であるから、尊貴なる御遺形を奉安するには如何なる点より見るも、実に恰好の土地で恰も錦上に花を添へたるの趣はある様だが、併し能く々々考へれば、実に雪上に霜を加ふるの感がある、何となれば、京都は仏教に有縁の土地であつて、日本全国中で僧侶なり信徒が集注し来るのは第一であらふが、併し是等は各々其の所屬の本山があり教会があつて信仰上から云ふ日には、別に御遺形が奉安してなくとも少しも痛痒を感じないのである。単に感じないのでみならず、京都の如き神社仏閣の多くある土地に更に御遺形を奉安するのは、所謂頭上に頭を安すると云ふ様な者で或る点から見れば、御遺形を粗略に観過し終る様になる。其は従来京都には神社仏閣が過多にある処へ、更に奉安所が出来たとて一の仏教信徒の見物場所が増したと云斗りて、信仰上には少しも効力を増さない。とても耶蘇の墳墓地たるゼルザレムや馬吟黙のメツカの様な工合に、御遺形の奉安所に対して尊敬と信仰の念を払はないことは実に明瞭であ

る。又名古屋に安置するのも理論上一応は良い様であるが、同地は真宗や曹洞宗の極めて盛んなる土地で、奉安したとて差閭へはない様であるが、永遠の上から論ずる日には土地が比較的の不便で、其上京都に接近して居るから、別段御遺形を奉安せなくとも土地の人民の信仰上には差したる相違を来さぬ事であらふと思ふ。

御遺形を有縁の土地に持て行くと云ふことは大変聞へはよいが、併し可成は繁華な土地で、仏教には比較的縁の薄い土地に奉安して其土地の人民に結縁せしめ、傍ら其殿堂を以て布教の道場に利用する様にしたなれば、大覚世尊の一切衆生皆是吾子の御本懐に合ふのみならず、其末孫たる者が教祖に対する義務の一分を尽すことが出来るであらふと思ふ。

要するに京都は勿論、名古屋も古来より極めて仏教には縁の厚い土地であるから、此上に更に御遺形を奉安したりとて信仰上には格段の効果を及ぼさぬ事は実に明瞭である。故に現今京都や名古屋の有志僧俗が運動して居る精神が実に世尊に報恩の為とか、大法の為とか云ふ一片忠誠の心が万一にもあるならば、虚心平氣に極めて公平の念慮を以て共同一致して、誰が見ても適當の土地であるとと思ふ場所へ、殊に仏教には比較上縁の少ない、而して将来は是非仏教を拡張せねばならん位置を選択することが、目下の急務であらふと思ふ。どこの土地は金を出さぬから奉安せん、此の土地に奉安せねば金は一厘も納めんと云ふ様な量見は、実に小人の淋しい極めて浅墓なる考で、白昼公然と堂々たる其の土地

での有志者として多少の考へある人物の口にすべきことではなからふと思ふ。

然らば、比較的に仏教には縁の少なくして而も、将来是非布教を拡張せねばならん土地は何処であるかと云へば、云ふ迄もなく東京であらふと思ふ。余は一昨年某奉迎使に随行して渡暹したが、其の渡暹の以前に於て或る二三の有力なる青年有志者と、御遺形を奉迎後は是非東京に奉安して、其の紀念として東京の中央に一大紀念の大会堂を建てたならば、布教上には云ふ迄もなく幾分か仏教の中心を東京に移すことが出来るから、是非各管長に建議しよふと云ふ相談をしたが、其後有の志の人々は各々海外に留学して仕舞つた為に其話も一時中絶したが、余は今に尚此の宿論を持して居るのである。殊に近來の様に、此問題に就て紛擾に紛擾を重ねて来ては、尚更に此持論を事実の上に現はしたいのである。云ふ迄もなく東京は、我國の首府であつて殊に政治の中心地たるのみならず、惣ての方面に於て中心となつて居るが、併し仏教だけは今も尚京都が中心地の様である。であるから将来は、是非仏教の中心を東京に移す様に方法を立てねばならん必要がある。其仏教の中心を東京に移すに就ては、各宗に共通して信仰の標的となる物件即ち尊嚴なる御遺形を輦轂の下に奉安して、各宗各派が之を中心として共同事業を起したり布教したならば、其効果は決して京都や名古屋の土地に奉安するの比でないことは実に明々白々である。又東京の土地は京都や名古屋から比較する日には仏教には極めて縁の少い土地で、二三の大刹を除く外は却て新來の

「禪宗」における仏骨奉迎の記事について(上)

耶蘇教徒の殿堂などが巍然として聳へて居て、其布教も却て彼等の方が勢力を占めて居る様に思はれる。現今東京の市内で仏教者が演説とか法話をするに、市の中央に数千人を容るゝに足る殿堂がない為に世俗の公会堂を借らねばならん様な不体裁で、此等は誠に世界に於ける唯一の仏教国の首府として、其の教徒たる者の不面目であらふと思ふ。

然らば如何にして東京に御遺形を奉安するかと云ふに、其の奉安の殿堂は別に壯麗宏壯の建造物を要せぬので、市の中央の位置に奉安殿を建築して、其殿堂と共に奉迎の紀念として少なくとも四五千人を容るゝに足る丈の一大会堂を建設して、少なくとも一月に一回なり乃至二三回も各宗の人々が集合して、其宗の宗旨を發揮し宣揚して布教する場所にしたならば、数百万円の金を費して頭上に頭を安するが如き京都や名古屋の土地に奉安するよりも其の信仰上並に布教上に及ぼす効果は実に千百倍するのみならず、更に一方より考ふれば、各宗派が東京に別院なり出張所を造つて置くと同一の効力が有るであらふと思ふ。

古語にも信は莊嚴より起ると云ふこともあるからして、出来得る限りは美麗宏壯の殿堂を建つると云ふことは決して比議すべき事でないが、矢鱈に設計のみ大にして数十年を経て、事実の上には之を現はす事が出来ん日には画餅と同一一般であるから、寧ろ出来得る範囲内に於て、相當の物を建造して一日も早く各宗各派が合同して布教の実を現はし、仏陀の遺音を宣揚して精神的救済の実を挙ると云ふことは実に目下の最大急務であらふと思ふ。徒らに

坊主政治家を気取り、私利邪曲の念慮を抱蔵して居る日には、百度管長会議を開会したとて始末の終へるものでないのみならず、愈々出で、醜態百出、百鬼夜行の態を世人に示さねばならぬのみならず、一は大覚世尊の御遺形に対し、二には世界に於ける仏教の大檀越として、又御遺形の恩頌主たる暹羅国の皇帝陛下に対して誠に恐れ多き次第である。

余は一昨年親しく渡暹して盛大なる授受の儀式を拝観したる眼を以て、昨年以来現今に涉りて紛々擾々たる御遺形問題を觀察する時は、実に無限の感慨に堪んから、余の宿論の大体を披瀝するに至つたのである。若し万一にも、當局の諸師にして翻然として此説を容るゝの暁に至つたならば、決して余の光榮のみに非ずして、仏教界の前途に一道の光明を發揮するの兆となるであらふと思ふ。(十月一日稿)

研究業績 (2014年1月～12月)

石川雅健

〈学会発表〉

学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(1)―立場の異なる三人の教師の語りから― (共)	日本心理臨床学会第33回秋季大会 (パシフィコ横浜)	2014年 8月	
学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(2)―加害者・被害者双方学校関係者である学校管理下事件に遭遇した校長の事例から― (共)	日本心理臨床学会第33回秋季大会 (パシフィコ横浜)	2014年 8月	
学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(3)―加害者・被害者双方が学校関係者である学校管理下事件に遭遇した養護教諭の事例から― (共)	日本心理臨床学会第33回秋季大会 (パシフィコ横浜)	2014年 8月	
学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(4)―加害者・被害者双方が学校関係者である学校管理下事件に遭遇した生徒支援加配教諭の事例から― (共)	日本心理臨床学会第33回秋季大会 (パシフィコ横浜)	2014年 8月	
学校危機時の養護教諭への支援の在り方をめぐって―種々の学校危機に遭遇した養護教諭の体験の分析を通して― (共)	日本学校心理学会 第16回大会自主シンポジウム (玉川大学)	2014年 9月	
児童の死亡事故を体験した学校への支援の在り方についての検討―複線径路・等至性モデル (TEM) を用いた臨床心理士の語りの分析から― (共)	日本学校心理学会 第16回大会 (玉川大学)	2014年 9月	
学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(5)―校長の自殺に遭遇した支援加配の教師の語りから― (共)	日本教育心理学会 第56回総会 (神戸国際会議場)	2014年 9月	
学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(6)―前担任生徒の学校管理外事故死に遭遇した学年主任の事例から― (共)	日本教育心理学会 第56回総会 (神戸国際会議場)	2014年 9月	
学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究(7)―学校管理外事故に遭遇した教務主任の事例から― (共)	日本教育心理学会 第56回総会 (神戸国際会議場)	2014年 9月	

糸井川修

〈学会発表〉

The Reception of Bertha von Suttner in Japan and the Meaning of Her Thought and Movement for Today (単)	The 8th International Conference of Museums for Peace (No Gun Ri Peace Park, Korea)	2014年 9月19日	
--	---	----------------	--

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈翻訳〉平和運動の発展―ベルタ・フォン・ズットナーの講演 (共)	『愛知学院大学語研紀要』第39巻第1号	2014年 1月	213-223
----------------------------------	---------------------	-------------	---------

〈講演〉ベルタ・フォン・ズットナーの思想と行動—ノーベル平和賞誕生のひとつの背景— 立命館大学国際地域研究所「平和主義研究会」第3回研究会 2014年11月1日

岩佐宣明

〈論文〉

ベーシック・インカムと人間の尊厳—エーリッヒ・フロムのBI論を中心に (単) 名古屋哲学会編『哲学と現代』第29号 2014年2月 77-85

デカルトによる心身区別の証明に関する予備考察 (単) 『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第3号 2014年2月 1-16

ヒト胚と尊厳—ヒト胚の倫理的地位をめぐる日本の議論から (単) 比較思想学会編『比較思想研究』第40号 2014年3月 146-149

〈学会発表〉

ベーシック・インカムと人間の尊厳 (単・ドイツ語同時通訳付) Symposium: Grudeinkommen und Demokratie (ドイツ・アラナス大学) 2014年1月22日

Human Dignity of Non-Human Beings: Japanese Arguments on the Moral Status of Human Embryos (単) Workshop: Zur Aktualität des Würdebegriffs (ドイツ・デュッセルドルフ大学) 2014年3月17日

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈司会〉(単) 2014年度名古屋哲学研究会シンポジウム「なぜ今哲学を研究するのか—若手研究者の視点」(名古屋市立大学) 2014年4月26日

尾崎孝之

〈論文〉

「アンチ=プラトン」解釈の試み (単) 『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号 2014年11月 75-100

河合泰弘

〈論文〉

瑩山伝の変遷—誕生から幼少期— (単) 『東海佛教』第59輯 2014年3月 15

〈学会発表〉

瑩山の女人済度思想について 日本仏教学会 第84回学術大会 (種智院大学) 2014年9月10日

川口高風

〈論文〉

『熱田 白鳥山法持寺史』補遺稿 (単) 『愛知学院大学禅研究所紀要』第42号 2014年3月 119-154

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈監修〉『龍華山神蔵寺史』(単) 神蔵寺 2014年11月 1-205

黄泉無著の「十一世代御朱印改参府日録」について (共)	『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第3号	2014年 2月	1-49
「能仁新報」よりみた名古屋の仏教(六)(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第3号	2014年 2月	51-94
「能仁新報」よりみた名古屋の仏教(七)(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第4号	2014年 3月	15-75
明治期以降曹洞宗人物誌(五)(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第4号	2014年 3月	1-14
曹洞宗の「宗報」における仏骨奉迎の記事について(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号	2014年 11月	1-36
「能仁新報」よりみた名古屋の仏教(八)(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号	2014年 11月	37-76
明治天皇御下命「人物写真帖」よりみた曹洞宗の袈裟姿法(上)(下)(単)	傘松 第844号、第845号	2014年 1月、2月	
道元禅師の廣福寺蔵「二十五条衣」について(上)(下)(単)	傘松 第846号、第847号	2014年 3月、4月	
夢窓疎石の大掛絡と大掛絡の変遷(単)	傘松 第848号	2014年 5月	
如法衣について(上)(中)(下)(単)	傘松 第849号、第850号、第851号	2014年 6月、7月、 8月	
小原智司『三河 風外本高墨蹟集一虚心坦懐』序文(単)	思文閣出版	2014年 6月	
『日本語大事典』項目執筆(単)	朝倉書店	2014年 11月	
〈講演〉袈裟から直綴・改良衣へ	平成26年度谷口法衣店社員研修会	2014年 4月1日	
〈講演〉お袈裟の教えと変遷	平成26年度群馬県曹洞宗寺族研修会	2014年 10月23日	
〈講座〉尾張の禅宗の展開	平成26年度名古屋市北生涯学習センター	2014年 12月8日	

来住準一

〈その他〉(翻訳・資料・その他)			
〈講演〉クイズで学ぶ歯の健康	岡崎市立葵中学校 学校保健委員会	2014年 8月24日	

北村伊都子

〈著書〉			
ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて 糖尿病患者の食事と運動—考え方と進め方 (第3章A) 運動療法の目的、効果、エビデ ンス (共)	中山書店	2014年 3月	168-176

〈論文〉

Six-year longitudinal changes in body composition of middle-aged and elderly Japanese-Age and sex differences in appendicular skeletal muscle mass. (共)
Geriatric and Gerontology International, 14(2) 2014年 354-361
4月

〈学会発表〉

地域在住中高年齢者における「かくれメタボ」に関連する食生活項目の横断的検討 (共)
第35回日本肥満学会 (宮崎) 2014年 10月

喫煙の動脈硬化リスクへの影響には内臓脂肪が関与している
(Effects of smoking habits on risk of arteriosclerosis are dependent on visceral fat accumulation.) (共)
日本肥満学会第19回アディポサイエンス・シンポジウム (大阪) 2014年 8月

小出龍郎

〈論文〉

「学士力」に対する意識の変化—入学時と卒業時のパネルによる検討—
総合政策研究 第16巻(2) 2014年 1-16
3月

本学におけるポートフォリオ、ピアサポートの在り方について (単)
高等教育研究所 平成25年度研究調査報告書 2014年 5-8
3月

河野敏宏

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈事典項目執筆〉『日本語大事典』「小野蘭山」「三才図会」「寺島良安」「本草学」「本草綱目」「本草綱目啓蒙」「本草和名」「本朝食鑑」「康頼本草」「大和本草」「和漢三才図会」の11項 (単)
朝倉書店 2014年 11月6日

〈研究発表〉「日中の本草書・類書・辞書における中医学的・漢方的記述の文献学的研究」 (単)
第26回「東洋医学に関する学術研究報告会」(公益財団法人 東洋医学研究財団) 2014年 7月12日

小村賢二

〈論文〉

Global Warming 2014 (単)
『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号 2014年 7
11月

近藤 浩

〈論文〉

『デイヴィッド・コパフィールド』におけるウィルキンズ・ミコーバーの視線 (単)
『愛知学院大学語研紀要』第39巻第1号 2014年 25-43
1月

佐々木真

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈講演〉「ジャンル、つかえるじゃん! : Right to Write」	第12回 SFL 研究会 (於:上智大学)	2014年 1月25日	
〈ワークショップ〉「ジャンルの言語教育への 応用・分析のまとめ」	第13回 SFL 研究会 (於:上智大学)	2014年 3月8日	

柴田哲雄

〈論文〉

「2人の習近平」像の原点—地方政府在任時期の思想(単)	『中国研究月報』68(3)=793	2014年 3月	14-26
-----------------------------	-------------------	-------------	-------

〈学会発表〉

習仲勲の改革思想	中国現代史研究会2014年研究集会	2014年 3月	
習近平の外交政策の原像	2014年度アジア政経学会西日本大会	2014年 11月	

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈コラム〉中国とどう向き合うか、悲観論に基づく戦略を	『朝日新聞』ウェブサイト(英語版もあり)	2014年 1月	
〈コラム〉靖国参拝、米国の態度変更の背景にパワーシフト	『朝日新聞』ウェブサイト(英語版もあり)	2014年 4月	
〈コラム〉中国に「外交敗北」を喫した安倍政権	『朝日新聞』ウェブサイト(『ハフィントン・ポスト』ウェブサイトに転載)(英語版もあり)	2014年 12月	

清水義和

〈著書〉

『寺山修司百年後の世界』(単)	文化書房博文社	2014年 4月10日	総頁数 255
『寺山修司研究』第7号(共)	文化書房博文社	2014年 4月1日	175-187

〈論文〉

寺山修司と W.シェイクスピアとガルシア・マルケスの映像表現(単)	『愛知学院大学語研紀要』第39巻第1号	2014年 1月	45-81
山田太一と寺山修司—映画とテレビ映画(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第4号	2014年 3月	43-67
俳人・馬場駿吉の迷路—松尾芭蕉とサミュエル・ベケット—瀧口修造に見る短詩形と「余白」の謎(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号	2014年 11月	21-49
アメリカとロシアとに於けるアヴァンギャルド—村上春樹と亀山郁夫の迷路—(単)	『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号	2014年 11月	51-74

〈その他〉(翻訳・資料・その他)			
〈英訳〉Musical “Love and Barefaced Lies” by Yuki Kanome Translated by Yoshikazu Shimizu (単)	『愛知学院大学語研紀要』第39巻第1号	2014年 1月	147-183
〈英訳〉The Death in the Countryside (Cache-Cache pastoral) Part 2 By Shuji Terayama Dramatized by Tengai Amano Translated by Yoshikazu Shimizu (単)	『寺山研究』第7号	2014年 4月	216-256
〈その他〉(翻訳・資料・その他)			
〈口頭発表〉「寺山修司を巡る作家たち—漱石・村上春樹」(単)	国際寺山修司学会第18回春季大会(愛知学院大学)	2014年 5月24日	口頭発表
〈講演〉「村上春樹から漱石・吉行淳之介を読み解く」(単)	毎日文化センター(名古屋)	2014年 4月12日	口頭発表
〈講演〉「芸術文化でナゴヤ学」(単)	毎日文化センター(名古屋)	2014年 10月18日	口頭発表
〈資料〉解説 寺山修司の「狂人教育」草稿 清水義和 (『寺山修司・草稿「狂人教育」』)	資料集 第8輯 青森県近代文学館	2014年 3月14日	67-76
〈批評〉この地域の演劇状況とその中で本賞の果たした役割	統豊かな人間性を育む演劇へ 松原英治・若尾正也演劇賞8年の記録 松原英治・若尾正也演劇賞世話人会発行	2014年 5月10日	55
〈劇評〉『薄桜記』にみる不易流行	月刊『前進座』第750号	2014年 11月1日	2

城 貞晴

〈論文〉			
Effect of solid-state polymerization on crystal morphology of a type of PDA single crystal obtained by PVT technique (共)	Thin Solid Films, Vol. 554	2014年 5月	154-157
Growth process of PEN crystals obtained by PVT technique (共)	Jpn. J. Appl. Phys., Vol. 53	2014年 12月	115506
〈学会発表〉			
輸送気相法で作成された DA 結晶の固相重合に伴う構造変化 (共)	日本物理学会2014年秋季大会	2014年 9月	
Formation of stacking faults of the naphthalene crystal obtained by PVT technique (共)	27th International Microprocesses and Nanotechnology Conference	2014年 11月	

菅さやか

〈学会発表〉			
何を買えば幸せになれるのか?—大学生の消費行動と幸福感— (共)	日本社会心理学会第55回大会(北海道大学)	2014年 7月27日	口頭発表
説明経験が説明対象の実在性認知に与える影響—説明内容を自己生成しない場合の検討— (共)	日本グループ・ダイナミクス学会第61回大会(東洋大学)	2014年 9月6日	ポスター発表

菅原研州

〈論文〉

大内青巒居士評伝（単）	『曹洞宗近代教団史』曹洞宗総合研究センター	2014年 3月31日	136-157
曹洞教会の成立と『修証義』の編纂について（共）	『曹洞宗近代教団史』曹洞宗総合研究センター	2014年 3月31日	157-186
大内青巒居士の研究—その評価について—（単）	『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』第15回	2014年 7月31日	21-26
道元禪師成仏論における成仏の条件について（単）	『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』第15回	2014年 7月31日	33-38

〈学会発表〉

道元禪師成仏論と国土観	第16回 曹洞宗総合研究センター学術大会	2014年 10月22日
江戸時代初期の『正法眼蔵』研究について	第85回 禅学研究会学術大会	2014年 11月29日
鈴木正三と大内青巒の排耶論	比較思想学会 東海地区・2014年度 第2回研究例会	2014年 12月6日

〈その他〉（翻訳・資料・その他）

面山瑞方禪師と栄西禪師（単）	『永福会報』平成26年版	2014年 3月31日	2-5
曹洞宗の靈魂観（単）	大法輪 第81巻11号	2014年 11月1日	88-92
仏教者・研究者・活動者が選ぶ 今年の3冊 2014	週刊仏教タイムス 第2606号	2014年 12月11日	2
〈講演〉曹洞宗の諸喪儀法	曹洞宗福島県宗務所現職研修会	2014年 1月28日	
〈講演〉近代曹洞宗教団史概論	一歩の会（多摩地区曹洞宗青年会）研修会	2014年 2月24日	
〈講演〉『正法眼蔵』に親しむために	一歩の会 研修会	2014年 2月24日	
〈講演〉眼蔵会（『正法眼蔵』「安居」巻）	茨城県有道会祖門会合同研修会	2014年 6月25日	
〈講演〉続「四大綱領」を学ぶ	曹洞宗岐阜県宗務所現職研修会	2014年 9月5日	
〈講演〉続「四大綱領」を学ぶ	曹洞宗兵庫県第二宗務所現職研修会	2014年 9月12日	
〈講演〉続「四大綱領」を学ぶ	曹洞宗徳島県宗務所現職研修会	2014年 9月13日	
〈講演〉曹洞宗の「破壊的カルト」への対策について	曹洞宗静岡県第三宗務所現職研修会	2014年 11月4日	
〈講演〉『正法義』「第二章」について	大成会 平成26年度研修会	2014年 11月16日	

〈講演〉坐禅を中心にした『修証義』について	曹洞宗有道会愛知県支部研修会	2014年 11月25日
〈講演〉続「四大綱領」を学ぶ	曹洞宗東京都宗務所現職研修会	2014年 11月26日

清 忠師

〈学会発表〉

気相成長する氷結晶の疑似液体層と表面融解	大阪電気通信大学 エレクトロニクス基礎研究所ワーク ショップ 「氷の準液体相と不凍現象」	2014年 11月14日、 15日
----------------------	---	-------------------------

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈招待講演〉氷の渦巻き成長の発見—世界初のビデオ映像—	中谷宇吉郎雪の科学館	2014年 3月9日	45分間
-----------------------------	------------	---------------	------

田中泰賢

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈翻訳〉ジェームズ・フリーマン・クラーク「仏教；言い換えれば東洋のプロテスタンティズム」(単)	『愛知学院大学禅研究所紀要』第42号	2014年 3月	1-27
---	--------------------	-------------	------

ダニエル・ダンクリー (Daniel Dunkley)

〈論文〉

Validating Tests of English for Academic Purposes (単)	『愛知学院大学語研紀要』第39巻第1号	2014年 1月30日	101-109
---	---------------------	----------------	---------

Thirty Years of Task-Based Language Teaching (単)	『愛知学院大学教養部紀要』第62号第1・2合併号	2014年 11月28日	117-129
--	--------------------------	-----------------	---------

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈資料〉Testing at CAL (The Center for Applied Linguistics, Washington D.C.) An interview with Dr. Meg Malone (単)	<i>Shiken (JALT Evaluation and Testing N-SIG Newsletter) 18, 1</i>	2014年 8月1日	25-28
--	--	---------------	-------

〈資料〉Britain's new Language testing powerhouse: an interview with Professor Tony Green, University of Bedfordshire. (単)	<i>The Language Teacher 38, (2014)</i>	2014年 9月1日	46-48
--	--	---------------	-------

都築正喜

〈論文〉

W. S. Allen の英語音調表記と応用システム論 (Part III) (単)	日本英語音声学会中部支部論文集第3号	2014年 8月	155-167
--	--------------------	-------------	---------

パラトグラムによる Palatalness & Retroflexion 研究 (Part I) (単)	日本英語音声学会『英語音声学』第19号	2014年 11月	225-237
--	---------------------	--------------	---------

中村 綾

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈研究発表〉『『雨月物語』「夢応の鯉魚」と『御前於伽』卷六の二』(単)	東海近世文学会	2014年 4月12日
-------------------------------------	---------	----------------

〈研究発表〉『『通俗赤繩奇縁』 翻訳者西田維則について』(単) 京都近世小説研究会 2014年
7月12日

藤田淳志

〈学会発表〉

Can a Broadway Musical Be Thematically Global?: *The Book of Mormon and Avenue Q* American Literature/Culture in a Global Context (名古屋大学) 2014年
3月

August: Osage County に見る家族崩壊の再演—新しい家族と家族劇 日本アメリカ演劇学会第4回大会 シンポジウム 司会兼パネリスト (ルブラ王山) 2014年
9月

堀田敏幸

〈論文〉

ベケット、明日なき真実 (単) 『愛知学院大学語研紀要』第39巻第1号 2014年
1月 3-24

ベケット、殺害への意志 (単) 『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第3号 2014年
2月 17-33

ベケット、放浪の魂 (単) 『愛知学院大学教養部紀要』第62巻第1・2合併号 2014年
11月 1-20

文 嬉眞

〈論文〉

日本の大学機関における「韓国語学習」—愛知学院大学「韓国語」選択必修科目に関するアンケート結果とその分析(1) (共) 『愛知学院大学教養部紀要』第61巻第4号 2014年
3月 69-84

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈講演〉—今だから、「日韓文化」を読み解く— (単) 教養教育研究会講演会 (愛知学院大学) 2014年
12月8日

山口拓史

〈著書〉

ハンディ教育六法2014年版 (共) 北樹出版 2014年
4月 139-246

〈論文〉

愛知学院大学におけるポートフォリオ活動に向けて—簡易版ラーニング・ポートフォリオの試み— (単) 愛知学院大学高等教育研究所 平成25年度研究調査報告書 2014年
3月 13-16

〈学会発表〉

愛知医科大学における図書館・アーカイブズ連携の試み (共) 第31回医学情報サービス研究大会 2014年
7月

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈稿本〉再生を目指した教育行政 (単) 名古屋教育史III 2014年
5月 第2章
第6節
(20p.)

〈稿本〉 経済成長期の教員 (単)	名古屋教育史Ⅲ	2014年 9月	第3章 第4節 (10p.)
〈稿本〉 経済成長期の教育行政 (単)	名古屋教育史Ⅲ	2014年 9月	第3章 第8節 (20p.)
〈稿本〉 社会に求められる教員 (単)	名古屋教育史Ⅲ	2014年 9月	第4章 第4節 (10p.)

山口 均

〈その他〉 (翻訳・資料・その他)			
〈口頭発表〉 TSE@IAS —物理学者に囲まれたエリオット	日本 T. S. エリオット協会第27回大会 (神奈川大学)	2014年 11月9日	

吉田道興

〈著書〉			
『道元禅師伝記史料集成』 編著	あるむ	2014年 1月26日	総頁 903
〈論文〉			
『修証義』 成立後の諸問題	曹洞宗総合研究センター 学術大会紀要	2014年 7月31日	27-32
〈その他〉 (翻訳・資料・その他)			
〈講演〉 禅の流れと両祖の教え	寺族通信教育スクーリング (曹洞宗檀信徒会館)	2014年 1月23日	
〈雑誌連載〉 現代語訳・注『訂補 建徳記』 道元禅師の伝記を読む〈二一〉 法堂開堂、木犀樹到来、僧堂上棟、天華乱 墜、永平寺の称	大法輪 2月号連載	2014年 1月	48-54
〈雑誌連載〉 道元禅師の伝記を読む〈二二〉 示庫院文、方丈不思議日記事、懐契証文、 立春大吉書	大法輪 3月号連載	2014年 2月	40-48
〈雑誌連載〉 道元禅師の伝記を読む〈二三〉 鎌倉下向、時頼に菩薩戒授与、蘭溪和尚と の交信	大法輪 4月号連載	2014年 3月	34-41
〈雑誌連載〉 道元禅師の伝記を読む〈二四〉 鎌倉白衣舎傷、帰山上堂、玄明頻出、僧堂 異香、庫院告示	大法輪 5月号連載	2014年 4月	48-55
〈雑誌連載〉 道元禅師の伝記を読む〈二五〉 羅漢供養法会、衆寮箴規、尽未来際不離 永平寺、中秋翫月、住侶制規	大法輪 6月号連載	2014年 5月	36-43
〈雑誌連載〉 道元禅師の伝記を読む〈二六〉 義重一切経写、山居頌十五首、後嵯峨院 紫衣下賜、不思議鐘声等三箇靈瑞	大法輪 7月号連載	2014年 6月	42-48

〈雑誌連載〉道元禅師の伝記を読む〈二七〉 微疾発症、八大人覺の教示、眼蔵百卷構 想、懷奘の本山入院、禅師自縫の袈裟	大法輪 8月号連載	2014年 7月	42-49
〈雑誌連載〉道元禅師の伝記を読む〈二八〉 上洛療養、頌歌、覚念邸止宿、法華経唱 誦、遺偈、示寂、茶毘、帰山入滅式	大法輪 9月号連載	2014年 8月	34-41
〈雑誌連載〉道元禅師の伝記を読む〈二九〉 付録（祖席旧参、教家の古参、血脈度霊）	大法輪10月号連載	2014年 9月	42-47

吉村正宏

〈論文〉

Recent Topics in Catalytic Asymmetric Hydrogenation of Ketones (共)	Tetrahedron Letters, Vol. 55, No. 27	2014年 5月	3635- 3640
---	--------------------------------------	-------------	---------------

〈学会発表〉

Mechanistic Study of the Asymmetric Hydrogenation of Aromatic Ketones Using Ph-BINAN-H-Py-Ru Complexes (共)	18th Malaysian International Chemical Congress	2014年 11月	口頭発 表
--	---	--------------	----------

ジェーン・ライトバーン (Jane A. Lightburn)

〈論文〉

Beauty and the Beast: Hayao Miyazaki and the Illustrated Fairytale	<i>Foreign Languages & Literature</i> Vol. 39, No. 1	2014年 1月	131-145
---	---	-------------	---------

『教養部紀要』第62巻総目次

第1・2合併号（通巻第182号）平成26年11月発行

〈論文〉

- 堀田 敏 幸：ベケット、放浪の魂…………… (1)
Toshiyuki HOTTA : Beckett, âme du vagabondage
- 清 水 義 和：俳人・馬場駿吉の迷路——松尾芭蕉とサミュエル・ベケット——
瀧口修造に見る短詩形と「余白」の謎…………… (21)
Yoshikazu SHIMIZU : Haiku Poet・Syunkichi Baba's Maze—Matsuo Basho & Samuel Beckett—
Short Versification's Mystery of & *Blank* in Shuzo Takiguchi
- 清 水 義 和：アメリカとロシアとに於けるアヴァンギャルド——村上春樹と亀山郁夫の迷路——… (51)
Yoshikazu SHIMIZU : Maze of Haruki Murakami & Ikuo Kameyama On Avant-Garde in the United States and Russia
- 尾 崎 孝 之：「アンチ=プラトン」解釈の試み…………… (75)
Takayuki OZAKI : Essai de lecture d'« Anti-Platon »
- Daniel DUNKLEY : Thirty Years of Task-Based Language Teaching…………… (101)
- 小 村 賢 二：Global Warming 2014……………(111)
Kenji KOMURA : Global Warming 2014

〈資料〉

- 川 口 高 風：曹洞宗の「宗報」における仏骨奉迎の記事について…………… (194)
Kôhû KAWAGUCHI : On the Sôtô Sect Journal Article Related to Welcoming Buddha's Remains
- 川 口 高 風：「能仁新報」よりみた名古屋の仏教(Ⅷ)
——明治三十三年一月～明治三十三年四月——…………… (158)
Kôhû KAWAGUCHI : Buddhism in Nagoya as Seen in the *Nounin Simpou* (8)

第3号（通巻第183号）平成27年2月発行

〈論文〉

- 堀田 敏 幸：ベケット、不在への挑戦…………… (1)
Toshiyuki HOTTA : Beckett, tentative d'absence
- 文 嬉 眞・金 美 淑：日本の大学機関における「韓国語学習」
——愛知学院大学の「韓国語」選択必修科目に関する
アンケート結果とその分析(2)——…………… (19)
Hi Jin MOON and Mi Sook KIM : Korean Language Learning in Japanese University
——Questionnaire Results and Analyses about Required Subject “Korean Language”
in Aichi Gakuin University (2)——
- 清 水 義 和：夏目漱石のラファエロ前派と村上春樹訳 R. チャンドラー作『ロング・グッドバイ』の迷路
…………… (45)
Yoshikazu SHIMIZU : Labyrinth of Pre-Raphaelite Brotherhood by Soseki Natsume
and Haruki Murakami's Translation of R. Chandler's “Long Good-By”
- Jane LIGHTBURN : Hayao Miyazaki's *The Wind Rises*:
Oneiric Aspects of Character Development through Narrative Dream Sequence…………… (73)

〈資料〉

- 川 口 高 風：名古屋の寺院に関する木版資料について(Ⅵ)…………… (168)
Kôhû KAWAGUCHI : A Study of Wood Engraving Materials in Respect of Temples in Nagoya (13)
- 川 口 高 風：「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（九・完）
——明治三十三年五月～明治三十三年六月——…………… (130)
Kôhû KAWAGUCHI : Buddhism in Nagoya as Seen in the *Nounin Simpou* (9・Completed)

第4号(通巻第184号)平成27年3月発行

〈論文〉

- 堀田 敏 幸：ベケット、夜のねぐら…………… (1)
Toshiyuki HOTTA : Beckett, logement pour la nuit
- 清水 義 和：名古屋のメディア・アート…………… (19)
Yoshikazu SHIMIZU : Nagoya's Medea Arts
- 青山 健 太：日本におけるサッカー審判員育成システムに関する研究
——関東大学サッカー連盟の学生審判員育成に着目して——…………… (43)
Kenta AOYAMA : The Research on the Education System in Japan for Future Soccer Referees: Focused on the Approach
by Kanto university football association
- 北田 豊 治・辻内 智 樹：NCAA Division Iにおけるバレーボールゲームに関する研究…………… (63)
Toyoharu KITADA and Tomoki TSUJIUCHI : A Study on the Team Performance of the Volleyball Games
in NCAA Division I

〈資料〉

- 川 口 高 風：「禅宗」における仏骨奉迎の記事について(上)…………… (152)
Kōhū KAWAGUCHI : On the Zenshu Journal Article Related to Welcoming Buddha's Remains (1)
- 川 口 高 風：明治期以降曹洞宗人物誌(六)…………… (114)
Kōhū KAWAGUCHI : On Sōtō Sect Priests' Lives and Works After the Meiji Era (6)

〈公開講座記録〉

- 田 中 泰 賢：現代社会に生きる道元禅師(1200年-1253年)の教え…………… (69)
TANAKA Hiroyoshi : Teaching of Zen Master Dōgen (1200-1253) in the Present-day Life

執筆者紹介

堀田 敏 幸 (本学教授…………… フランス語)
HOTTA Toshiyuki

清 水 義 和 (本学教授…………… 英 語)
SHIMIZU Yoshikazu

青 山 健 太 (本学講師…………… 健康総合科学)
AOYAMA Kenta

北 田 豊 治 (本学准教授…………… 健康総合科学)
KITADA Toyoharu

辻 内 智 樹 (本学非常勤講師…………… 健康総合科学)
TSUJIUCHI Tomoki

川 口 高 風 (本学教授…………… 宗 教 学)
KAWAGUCHI Kōhū

田 中 泰 賢 (本学教授…………… 英 語)
TANAKA Hiroyoshi

教 養 教 育 研 究 会 委 員

(会長) 福 山 悟 (副会長) 山 野 明 男

(会計)※高 田 正 義

石 川 雅 健 北 村 伊 都 子 澤 田 真 由 美

清 水 義 和 菅 さ や か ※清 忠 師

中 村 綾 文 嬉 眞 安 富 眞 澄

※山 口 拓 史

※本号編集委員

編 集 後 記

本年度の最終号となる『教養部紀要』第62巻第4号をお届けいたします。

本号には、論文4編、資料2編、公開講座記録1編の合計7編を掲載することができました。また、慣例に従って本号には、教員各位の研究業績（2014年1月～12月）ならびに第62巻総目次を掲載いたしました。なにかと慌ただしい年末年始にご寄稿いただきました諸先生には、編集委員一同、心よりお礼を申し上げます。

戦後70年を迎え、「戦後教育の総決算」が語られる時勢に対して大学の存在意義を顕示するためにも、本紀要が教育研究成果の発表の場として今後さらに充実・発展することを祈念いたします。(山口記)

平成27年3月18日 印刷
平成27年3月28日 発行

(非売品)

愛知学院大学論叢
教養部紀要第62巻
第4号 (通巻第184号)

編集責任者
福 山 悟

発行者 愛知学院大学
教養教育研究会
〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12

電話 〈0561〉 (73) 1111 (代表)

印刷所 株式会社 あるむ
電話 〈052〉 (332) 0861

THE JOURNAL OF AICHI GAKUIN UNIVERSITY

Humanities & Sciences

Vol.62 No.4
(Whole Number 184)

CONTENTS

Articles

- Toshiyuki HOTTA : Beckett, logement pour la nuit..... (1)
- Yoshikazu SHIMIZU : Nagoya's Medea Arts (19)
- Kenta AOYAMA : The Research on the Education System in Japan for Future Soccer Referees:
Focused on the Approach by Kanto university football association (43)
- Toyoharu KITADA and Tomoki TSUJIUCHI : A Study on the Team Performance of the Volleyball Games
in NCAA Division I (63)

Materials

- Kōhū KAWAGUCHI : On the Zenshu Journal Article Related to Welcoming Buddha's Remains (1) (152)
- Kōhū KAWAGUCHI : On Sōtō Sect Priests' Lives and Works After the Meiji Era (6) (114)

Records of Extension Course

- TANAKA Hiroyoshi : Teaching of Zen Master Dōgen (1200–1253) in the Present-day Life..... (69)

- Achievements (2014) (153)
- Vol. 62 The Total Contents..... (165)

Published
by

Aichi Gakuin University
Nagoya, Japan
2015